応用言語学

210013N0J
大学
人間文化研究科 ＞ 応用英語専攻
2単位　前期
月曜 3限
ー
60
米崎　啓和

〔科目の教育目標（Course Description）〕
本授業では、応用言語学の諸領域に関する論文・文献の購読を通じて、応用言語学で扱われる種々の分野を総論的に扱う。社会言語学で扱われる諸問題より始め、言語習得にまつわる問題、言語と脳の問題、外国語教授法などの諸分野を俯瞰し、現在の日本の教育現場において英語教育実践を考える際に必要な専門的知識の習得を目標とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
本授業では，応用言語学の諸領域に関する論文購読を通じて、以下の諸点についての理解を深める
１．言語と文化、言語と社会、言語とジェンダーなどの社会言語学的観点
２．母語習得と第二言語習得
３．言語と脳
４．外国語教授法
５．日本の初等・中等教育における英語教育の現状と課題

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　授業方法についての説明と応用言語学についての導入
第 2 回　World Englishes（ENL・ESL・EFL）について
第 3 回　言語と思考
第 4 回　言語政策と国家権力
第 5 回　言語と社会
第 6 回　言語と文化
第 7 回　世界の言語と消滅危機言語について
第 8 回　英語帝国主義と英語の未来
第 9 回　世界の外国語教育
第 10 回　母語習得と第二言語習得
第 11 回　外国語教授法ー文法訳読法・オーディオリンガル・メソッド・コミュニカティブ・アプローチー
第 12 回　言語と脳
第 13 回　小学校における英語教育
第 14 回　バイリンガル教育、イマージョン、CBI、及びCLILについて
第 15 回　日本の初等・中等教育における英語教育の現状と課題

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
本授業は，テキスト以外にも「応用言語学と英語教育」に関連した文献（プリント配布）の講読を中心として進める。教員がテーマを導入し，解説を加える。受講生は輪番で課題文献の要約を発表し，全員で討議する。また、受講生は指示された内容について、レポートの提出が個別に求められる。これらの課題・レポートに関しては、最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
各授業の準備段階においては、課題論文を熟読し内容をよく理解した上で授業に臨むことが求められる。また、授業で扱われる各テーマに関して自分なりの問題意識と自らの研究テーマにどのように生かしていくのかを考えたうえで出席すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
授業参加及び平常レポート 60%，期末レポート課題 40%

〔留意事項（Other Information）〕
受講者のニーズ、人数などにより、受講者と相談の上、授業予定を変更することがある。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
『言語教育学入門ー応用言語学を言語教育に活かすー』/山内進（編著）/大修館書店/2003/9784469244892/学内販売有り
必要に応じて別途課題プリントを配布予定

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
『The Routledge Applied Linguistics Reader』/Li Wei (Ed.)/Routledge/2011/9780415566209
『Longman Dictionary of Language Teaching and Applied Linguistics 4th Edition』/Jack C. Richards & Richard Schmidt/Routledge/2010/9781408204603
『Approaches and Methods in Language Teaching』/J. C. Richards & T. S. Rodgers/Cambridge University Press/2015/9781316617977
ハンドアウト、雑誌・論文など必要に応じてその都度配布予定

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語プレゼンテーション

210016N0E
大学
人間文化研究科 ＞ 応用英語専攻
2単位　後期
火曜 3限
ー
60
必修
York　Weatherford

〔科目の教育目標（Course Description）〕
The goal of this course is to introduce you to the basic theories and practice of public speaking focusing on general academic presentations and help you improve your speech/presentation skills in English with technology while enhancing critical thinking skills. You will learn how to formulate specific purpose statements, how to analyze and adapt to audiences, how to organize ideas and construct outlines, how to assess evidence and reasoning, how to use language effectively, etc.
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
・ Attend classes regularly.
・ Read the weekly reading assignment and complete the assigned homework.
〔授業計画〕
第 1 回　Introduction, Including Assessing Your Presentation Skills
第 2 回　Presentation #1 on Self-Introduction & Chapter 1: Speaking in Public
第 3 回　PowerPoint Workshop & Chapter 2: Ethics and Public Speaking
第 4 回　Chapter 3: Listening
第 5 回　Chapter 4: Giving Your First Speech
第 6 回　Chapter 5: Selecting a Topic and a Purpose
第 7 回　Chapter 6: Analyzing the Audience
第 8 回　Chapter 7: Gathering Materials
第 9 回　Presentation #2: Individual/Small Group Presentation and Peer Evaluation & Chapter 8: Supporting Your Ideas
第 10 回　Chapter 9: Organizing the Body of the Speech
第 11 回　Chapter 10: Beginning and Ending the Speech
第 12 回　Chapter 11: Outlining the Speech
第 13 回　Chapter 12: Using Language
第 14 回　Chapter 13: Delivery
第 15 回　Presentation #3: Individual/Small Group Presentation and Peer Evaluation & Chapter 14: Using Visual Aids
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
The lecturer will provide a blended teaching/autonomous learning style to cover the content in class and beyond the class. Students are expected to complete the weekly reading assignment and homework while being ready for planned presentations after doing research on a chosen topic.

Feedback methods:
Students will receive oral commentary from the instructor in class after each presentation. In addition, students will receive written evaluations for each presentation.
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
1. Read the assigned textbook chapters
2. Complete critical reading assignments
3. Prepare speeches/presentations
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
Assignments (35%)
Individual/Small Group Presentations (15% x 3 = 45%)
PowerPoint files (20% x 1 = 20%)
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
『The Art of Public Speaking, 12th Edition』/Lucas, Stephen E./McGraw Hill/2014/学内販売予定
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ｱｶﾃﾞﾐｯｸﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞ&ﾗｲﾃｨﾝｸﾞ

210019N0E
大学
人間文化研究科 ＞ 応用英語専攻
2単位　後期
木曜 4限
ー
60
必修
Robert　Kritzer

〔科目の教育目標（Course Description）〕
This course is designed to help students efficiently read academic English prose and produce academic research papers in English.
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
Emphasis will be placed on logical and effective presentation of information in support of an argument. Students will learn the conventions of English academic writing, particularly with regard to the citation and listing of sources.
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　Introductory class
第 2 回　Outlining:outline of the first article
第 3 回　Summarizing: summary of the first article
第 4 回　Outlining: outline of the second article
第 5 回　Summarizing: summary of the second article
第 6 回　Outlining: outline of the third article
第 7 回　Summarizing: summary of the third article
第 8 回　Introduction to MLA style， Outline for Paper I
第 9 回　Revision of first draft of Paper I
第 10 回　Peer critique of second draft of Paper I
第 11 回　Teacher conferences on Paper I
第 12 回　Paper I due， Outline for Paper II
第 13 回　Revision of first draft of Paper II
第 14 回　Peer critique of second draft of Paper II
第 15 回　Teacher conferences on Paper II (Paper II due the following week)
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
Students will read， outline， and summarize scholarly articles of their choice in the area of their concentration. After having written and revised several drafts， they will also submit two 5-page papers on an academic topic in their area. Students will read and critique the writing of their partners.
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
Students must do all the homework for the course, including all the drafts of the two papers
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
Classroom performance, summaries, outlines 30% Papers 70%
〔留意事項（Other Information)〕
Class will be conducted in English. Students must attend regularly.
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
『MLA 英語論文作成ガイド』/////学内販売予定
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

応用英語研究方法論

210020N0J
大学
人間文化研究科 ＞ 応用英語専攻
2単位　前期
火曜 5限
ー
60
必修
小山　哲春　大川　淳　橘堂　弘文　Robert Kritzer　須川　いずみ　杉村　美奈　東郷　多津　米崎　啓和　York　Weatherford　Steven　Herder

〔科目の教育目標（Course Description)〕
本授業は、応用英語専攻修士１回生を対象に、大学院レベルでの研究・学問の基礎的な方法論を教授することを目的とする。受講者は、大学院レベルで期待される研究の質を理解し、その達成のために必要とされる履修計画、研究計画、研究方法論、時間管理能力などを習得する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
具体的な個別課題として、以下の四つを掲げる：
(1)大学院での研究の目的、意義、および期待される質を理解する
(2)大学院での研究を計画し、遂行するための能力を養成する
(3)大学院レベルでの一般的な研究方法論を理解し、習得する
(4)各学問領域における特定の研究方法論を概観する
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　大学院における研究の質と意義、心構え／ 研究の具体的な進め方（共通）
第 2 回　文学・文化研究方法論 総論（共通）
第 3 回　社会科学研究方法論 総説（共通）
第 4 回　Academic Integrity（共通）
第 5 回　Methods of Reading Academic Articles（共通）
第 6 回　イギリス文学　研究方法論総説／英語教育学（第二言語習得論の目標と分析対象）
第 7 回　イギリス文学　Flannery O'Connor 作品講読／英語教育学（教育工学研究方法論）
第 8 回　イギリス文学　Flannery O'Connor 作品分析／英語教育学 （教授法研究の目標と分析対象）
第 9 回　イギリス文化論 / 英語教育学（教授法研究方法論）
第 10 回　アメリカ文学　研究方法論総説／英語教育学（応用言語学の目標と分析対象）
第 11 回　アメリカ文学　Nathaniel Hawthorn 作品講読／英語教育学（応用言語学研究方法論）
第 12 回　アメリカ文学　Nathaniel Hawthorn 作品分析／言語学 （理論言語学の目標と分析対象）
第 13 回　アメリカ文化論／言語学（研究方法論）
第 14 回　Academic Paper & Academic Presentation（共通）

第 15 回　研究計画書執筆に向けて（総括）（共通）
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
本授業は、主に以下のような構成となる：
第１～４週 一般的な研究方法論に関する講義
第４～14週 Reading assignmentに基づく講義、解説、討論
第15週 全体のまとめ、および質疑応答
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
Reading Assignment
第4～14週の授業に際しては、受講者は、前もって課されたReading Assignment （各授業につき、Journal article, Book chapter, etc.）を熟読し、授業中の討論に参加する。

Short Paper:
第4～14週の授業では各教員が指定するトピックでのShort Paper (500 words～)が課され、これを指定の期日までに提出する。

Proposal
最終課題として、各種方法論を学習した上での「研究計画書（Proposal）」を執筆する。

各種課題の詳細については授業中に指示する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
Short Paper 60%
Proposal 40%
〔留意事項（Other Information）〕
本科目は原則として、文学・文化領域、英語教育・コミュニケーション・言語学領域の２クラスに分かれて授業を行う。なお、領域共通の授業回に関しては合同のクラスで授業を行う。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
『研究法ハンドブック』/高橋順一・渡辺文夫・大渕憲一 編著/ナカニシヤ出版///学内販売予定
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
適宜指示
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

言語研究デザインと統計

210047N0J
大学
人間文化研究科 ＞ 応用英語専攻
2単位　前期
水曜 1限
ー
60
小山　哲春

〔科目の教育目標（Course Description）〕
本科目では社会科学的方法論に基づいた言語研究のデザインと基礎的な統計分析を扱う。ただし、ここでいう「言語研究」は狭い範囲での言語現象のみを扱った研究を指すのではなく、人間の言語活動に関わる広範囲の現象を扱った研究（例えば英語学・英語教育学・コミュニケーション学・言語人類学等）を含む。 本コース終了時に以下の３つの能力を習得していることが目標となる。 (1)他の研究者が行った言語研究の報告を読み、理解し、かつ適切に評価する能力　(2)自らの言語研究を計画し遂行する能力　(3)質的・量的な言語データを適切に分析し、その分析結果を他人に報告する能力
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
(1) 社会科学（言語研究を含む）の定義、科学哲学、認識論
(2) 社会科学的研究の方法論
(3) 実験研究・調査研究・フィールド研究の基礎的デザイン
(4) 記述統計
(5) 推論統計の基礎
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　Introduction / Philosophy of Science
第 2 回　Scientific Reasoning / Hypothesis Testing
第 3 回　Research Elements
第 4 回　Measurement (1): Scale Development
第 5 回　Measurement (2): Validity and Reliability / Sampling
第 6 回　Research Design
第 7 回　Review & Midterm Exam
第 8 回　Descriptive Statistics (1): Central Tendency
第 9 回　Descriptive Statistics (2): Variance and Standard Error
第 10 回　Logic of Inferential Statistics & Hypothesis Testing
第 11 回　Comparing Means (t-test)
第 12 回　Analysis of Variance (1): One-way ANOVA
第 13 回　Analysis of Variance (2): Factorial ANOVA
第 14 回　Correlation / Simple Regression
第 15 回　Comparing Proportions (chi-square)

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
課題(1)～(3)に関してはテキスト、資料、参考文献に基づいた講義・ディスカッションを行う。また、ここで得た理解・知識を基に、修士論文の研究計画作成の練習を行う。課題(4)～(5)に関しては、テキスト、資料基づいた講義を行い、さらに実際のデータを扱った演習を行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
指摘テキストの精読、統計データの事前分析、等
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
(1)試験（２回を予定）50％　(2)（模擬）研究計画　30％
(3)統計分析の演習　20％
〔留意事項（Other Information)〕
いたって入門的・基礎的な内容を予定しているので、履修時点で基礎的な統計の知識や高度な数学の知識を有している必要はない（四則計算ができれば十分！）。ただし、英語での専門用語に習熟するため、そして個々の英語力の鍛錬のため、多数の英語文献を使用する。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
『Research Methods for the Behavioral Sciences』/Stangor, C/Houghton　Mifflin/1998//学内販売予定
『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』/森敏昭・吉田寿夫/北大路書房/1990//学内販売予定
『英語教師のための教育データ分析入門』/三浦省吾　監修/大修館書店/2004//学内販売予定
『SPSSとAMOSによる心理･調査データ解析』/小塩真司/東京図書/2004//学内販売予定
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
授業用HP
http://www.notredame.ac.jp/~tkoyama/Design/

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習

210091A0J
大学
人間文化研究科 ＞ 応用英語専攻
2単位　後期集中
その他
ー
60
必修
大川　淳

〔科目の教育目標（Course Description)〕
１９世紀アメリカ文学を代表する作家の一人Herman Melvilleの作品を読む。テクストの難解さは、Melville作品の特徴の一つであるが、それは複雑な英語の構造だけではなく、哲学的領域を含めた考察を読者に求める作風に起因している。そこで、本科目の教育目標として、英語を読む力を養うとともに、テクストの分析力を向上させることも目標とする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
Herman Melvilleの作品の”Benito Cereno”を取り上げ、精読と分析を行う。テクストの細部にこだわりながら一語一句分析し、多角的な視点から考察することが課題となる。また、１９世紀の時代背景や、文化的知識などの涵養も必須であり文献研究も多岐にわたる必要がある。本科目を通じて、分析する上での独自の切り口を修得し、修士論文で扱う主題の基礎を築くことも課題となる。

学期の最後にPaperの提出を課すが、そこでは自身の分析に加え、先行研究の把握、論文の構成力が課題となる。そのため、授業時間外の十分な学習時間の確保も受講者に求められるところである。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション：Herman Melvilleの紹介、授業の進め方
第 2 回　”Benito Cereno”の精読(pp.46-51)
第 3 回　”Benito Cereno”の精読(pp.52-57)
第 4 回　”Benito Cereno”の精読(pp.58-63)
第 5 回　”Benito Cereno”の精読(pp.64-69)
第 6 回　”Benito Cereno”rの精読(pp.70-75)
第 7 回　”Benito Cereno”の精読(pp.76-81)
第 8 回　”Benito Cereno”の精読(pp.82-87)
第 9 回　”Benito Cereno”の精読(pp.88-93)
第 10 回　”Benito Cereno”の精読(pp.94-99)
第 11 回　”Benito Cereno”の精読(pp.100-105)
第 12 回　”Benito Cereno”の精読(pp.106-11)
第 13 回　”Benito Cereno”の精読(pp.112-117)
第 14 回　Review,　文献研究, Final Paperの準備

第 15 回　Review,　文献研究, Final Paperの準備
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
毎回の授業で指定された範囲のテクストの精読を行う。
重要だと思われる箇所に関して、コメントを求めることもある。
学期の最後に、Final Paperの提出を課す。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
毎回、指定された範囲の精読を課す。精読の方法としては以下の点を留意すること
１）テクスト内の文法構造を理解すること
２）テクスト内の固有名詞などをリサーチすること
３）２）で調べた固有名詞が、なぜ言及されているかを考察すること
４）テクストを分析し、重要な箇所についてコメントする準備をしておくこと
５）以上に関して、理解できなかった箇所を授業で確認できるよう明確にしておくこと
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
平常点 (予習等)４０％
Final Paper ６０％
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
”The Piazza Tales” / Herman Melville / The Northwestern UP / 2000 / 0-8101-1467-4 / 学内販売無し
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習

210091D0J
大学
人間文化研究科 ＞ 応用英語専攻
2単位　後期集中
その他
ー
60
必修
小山　哲春

〔科目の教育目標（Course Description)〕
　コミュニケーションとは、言語・文化・認知など様々な要素が複雑に絡み合って織り成す相互的な人間行動である。本演習では、各要素が特に異文化間でのメッセージの産出や解釈にどのような影響を与えるかを先行研究を通して考察し、それらを土台として独自の研究(修士論文）を行うための能力を養成する。具体的に対象とするトピックは、対人コミュニケーション、異文化コミュニケーション、語用論、コミュニケーション能力研究、等となる。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
１．関連領域の基盤的知識（語用論、対人コミュニケーション論、社会心理学等）の獲得 ２．先行研究の概観と課題の探索 ３．修士論文のテーマ(研究課題）の絞込み ４．修士論文のProposal：最初の数章（先行研究、研究課題／研究仮説の特定、方法論）の完成
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　Orientation
第 2 回　Report & Discussion on the Reading Assignment #01 (on Definitions of Communication)
第 3 回　Report & Discussion on the Reading Assignment #02 (on Code Model of Communication)
第 4 回　Report & Discussion on the Reading Assignment #03 (on Inference Model of Communication)
第 5 回　Report & Discussion on the Reading Assignment #04 (on Message Effects)
第 6 回　Report & Discussion on the Reading Assignment #05 (Cognition and Communication)
第 7 回　Interim Report
第 8 回　Report & Discussion on the Reading Assignment #06 (on Interpersonal Communication)
第 9 回　Report & Discussion on the Reading Assignment #07 (on Message Design Logic)
第 10 回　Report & Discussion on the Reading Assignment #08 (on Cognitive Complexity and Communication)
第 11 回　Report & Discussion on the Reading Assignment #09 (on Empathy and Perspective Taking)
第 12 回　Report & Discussion on the Reading Assignment #10 (on Persuasive Communication)
第 13 回　Report & Discussion on the Reading Assignment #11 (on Intercultural Communication)
第 14 回　Report & Discussion on the Reading Assignment #12 (on Communication Competence)
第 15 回　Proposal Meeting
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
１．各授業は、各週のReading Assignmentについての(1)院生からの批判的報告、(2)担当教員からの解説、(3)担当教員と院生とのディスカッション、によって構成される。15週間という限られた時間内に関連領域の知識をつけ、また修士論文のテーマを絞り込む必要性から、各週のReading Assignmentsを深く読み込んでいくことが重要となる。
２．学期末までに、修士論文のProposalを完成する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
各週のReading Assignmentを精読し、ディスカッションの準備を行う。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
１．各週のReading Assignmentsの批判的報告およびディスカッション （50%） ２．修士論文Proposal （50%）
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
なし
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
修士論文のトピック等を考慮し、１週間に１～２本程度の論文／Book ChapterをReading Assignmentsとする。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習

210091E0J
大学
人間文化研究科 ＞ 応用英語専攻
2単位　後期集中
その他
ー
60
必修
須川　いずみ

〔科目の教育目標（Course Description）〕
　文学で修士論文を書こうと思っている院生が自分で作品を読みこなし、研究書をどう扱うのかを教えるクラスである。わたしの専門がジェイムズ・ジョイスなので、専門演習では好むと好まざるにかかわらず『ユリシーズ』の一部を読む。またそれ以外のジョイスの作品やその他その周辺のアイルランドの文学、イギリスの小説、カルチュラル・スタディーズなど受講者の希望によって内容を変更し、個人指導をする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
（１）修士論文を書くに当たっての研究方法の習得
（２）原作及び資料、批評書を読むための英語力の向上
（３）原作の精読の習得
（４）先行論文の把握
（５）研究テーマの確定
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　今までの研究課題発表
第 3 回　ジョイスの”The Boarding House”前半２分の１までの精読
第 4 回　ジョイスの”The Boarding House”前半までの精読
第 5 回　ジョイスの”The Boarding House”後半２分の１までの精読
第 6 回　ジョイスの”The Boarding House”最後までの精読
第 7 回　クリティシズムの紹介とディスカッション
第 8 回　Ulysses第１挿話を読む
第 9 回　Ulysses第３挿話を読む
第 10 回　Ulysses第８挿話を読む
第 11 回　Ulysses第13挿話を読む
第 12 回　Ulysses第15挿話を読む
第 13 回　Ulyssesのビデオ鑑賞
第 14 回　クリティシズムの紹介とディスカッション
第 15 回　まとめとその他
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
（１）文学･映画テキストの精読
（２）先行論文の紹介
（３）研究テーマの紹介
（４）ディスカッション
（５）レポート提出
（６）発表
（７）授業中の発問と学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
大変少人数で行うクラスであるので、それぞれが課題教材をしっかり読んでまとめてくる必要がある。必ず指定の参考書や資料も読み、担当箇所の配布資料を準備してくることが求められている。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
平常点（５０％）、提出物（３０％）、発表（２０％）で総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
各の学生の研究テーマによって内容を変更する。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
プリント
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
『Ulysses Annotated』/Don Gifford/Univ.of Califorrnia Press /1974年/9.780520253971E12
『James Joyce’s Ulysses』/Harold Bloom/Chelses House/1987年/1555460216
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習

210091F0J
大学
人間文化研究科 ＞ 応用英語専攻
2単位　後期集中
その他
ー
60
必修
杉村　美奈

〔科目の教育目標（Course Description）〕
言語理論研究における意義、及び、方法論について学んでいくことを目標とする。具体的には、言語現象の観察から一般化を導き、その一般化に対する仮説を立て、さらには仮説の検証及び理論的帰結を導くまでの一連の流れを身につけていく。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．言語理論研究の基盤的知識を身につける。
２．自らの設定した研究課題に関連する先行研究を概観し、批判的評価をする。
３．２の批判的評価を受け、新たな提案・分析を行い、理論的帰結を導く。
４．２、３のプロセスを基に、修士論文のプロポーザル・アウトラインの作成を行う。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　言語研究理論の方法論
第 2 回　理論言語学の概観
第 3 回　トピック選定と関連文献の収集
第 4 回　関連文献１の批判的分析
　　トピックの背景知識についての解説
第 5 回　関連文献２の批判的分析
　　データ観察から一般化を導く
第 6 回　関連文献３の批判的分析
　　一般化から仮説を立てる
第 7 回　関連文献４の批判的分析
　　仮説の検証をする
第 8 回　関連文献５の批判的分析
　　分析・提案の帰結を探す
第 9 回　これまでのまとめ
第 10 回　修士論文作成に向けて
　　アウトライン作成
第 11 回　修士論文の作成に向けて
　　データの観察から一般化を導く
第 12 回　修士論文の作成に向けて
　　一般化から仮説を立てる
第 13 回　修士論文の作成に向けて
　　仮説の検証をする
第 14 回　修士論文の作成に向けて
　　分析・提案の帰結を探す
第 15 回　修士論文の作成に向けて
　　プロポーザル作成
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
各回に１本、研究課題に関連する文献を読み進めていく。各文献における言語事実および分析の妥当性の検証（批判的評価）をディスカッションを通して行い、院生の修士論文におけるプロポーザルに結びつけていく。
プロポーザルは複数回草稿を提出し、担当教員からのフィードバックを受けながら最終稿へと繋げる。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
院生自らが収集した修士論文のトピックに関連する文献と、補足的リーディングとして担当教員が指定する文献を交互に各回のクラスで１本ずつ読み進めていくため、授業時までに批判的レビューを行い、問題点を明らかにしておくことが期待される。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
リーディングの批判的レビュー及び問題設定等のディスカッション 50%
修士論文のプロポーザル 50%
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
修士論文のトピックに関連した文献を、各回クラスに１本のペースで読み進めていく。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習

210091G0J
大学
人間文化研究科 ＞ 応用英語専攻
2単位　後期集中
その他
ー
60
必修
米崎　啓和

〔科目の教育目標（Course Description）〕
受講生各自が選んだ研究テーマについて、それを深化・発展させて、修士論文につなげていくための個別指導を行う。応用言語学・英語教育分野の中でも4技能の指導法に関して理論領域と実践領域の有機的つながりを意識することで院

生各自の研究課題が修士論文へとつながることを期待したい。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．応用言語学、英語教育学関連の基盤的知識の獲得
２．研究テーマに関連する先行研究の整理と読解
３．研究テーマの絞り込み
４．研究仮説又は研究上の問い（Research Questions）の設定
５．研究計画（Research Proposal）の作成
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　授業の進め方等の説明
第 2 回　関連テーマに関する概論的講義
第 3 回　関連テーマに関する資料の収集方法
第 4 回　関連テーマに関する資料の読解方法
第 5 回　関連テーマに関する資料の読解演習
第 6 回　関連テーマに関する資料の整理
第 7 回　研究テーマを絞り込むための先行研究の整理
第 8 回　研究テーマを絞り込むための先行研究の選択
第 9 回　研究テーマを絞り込むための先行研究の考察
第 10 回　研究テーマの絞り込み
第 11 回　研究仮説又は研究上の問い（Research Questions）の設定
第 12 回　研究仮説又は研究上の問い（Research Questions）に対する検証
第 13 回　修士論文のアウトライン
第 14 回　修士論文の研究計画（Research Proposal）の作成
第 15 回　修士論文の研究計画（Research Proposal）の見直しと修正
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
各回の授業において、研究課題に関連する文献を１本の割合で読み進めていく。
基本的には院生が各文献の批判的レビューを行い、担当教員が補足的説明を行う。批判的分析を院生と担当教員との間でディスカッションを通して行い、院生の修士論文におけるプロポーザルに結びつけていく。 また、提出された課題については、その都度コメントを付して返却し、次の課題へつなげる形で、フィードバックを行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
院生自らが選んだ研究論文と教員から与える文献を精読したうえで、授業に臨むことが求められる
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
発表や討論・報告などの授業参加度 50%、修士論文プロポーザル 50%
〔留意事項（Other Information）〕
研究会・学会への積極的参加を奨励する
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
必要な文献・論文等はこちらから配布する
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
その都度通知する
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習

210091H0J
大学
人間文化研究科 ＞ 応用英語専攻
2単位　後期集中
その他
ー
60
必修
東郷　多津

〔科目の教育目標（Course Description）〕
受講生各自が選んだ研究テーマについて、それを深化・発展させて、修士論文につなげていくための個別指導を行う。本授業で扱う英語教育の領域は、シラバス・教材開発、授業設計、授業分析のほか、自律学習、協調学習、DBR(Design-based Research)といったテーマについても指導する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．研究テーマに関連する先行研究の読解と整理
２．研究テーマの絞り込み
３．研究仮説 / Research Questionsの設定
４．研究計画（Research Proposal）作成
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　関連テーマについての概論的講義
第 2 回　関連テーマについての資料の収集方法
第 3 回　関連テーマについての資料の読解方法
第 4 回　関連テーマについての資料の読解演習
第 5 回　関連テーマについての資料の読解と整理
第 6 回　研究テーマを絞り込むための先行研究の整理
第 7 回　研究テーマを絞り込むための先行研究の選択
第 8 回　研究テーマを絞り込むための先行研究の考察
第 9 回　研究テーマを絞り込むための先行研究の再整理
第 10 回　研究テーマを絞り込むための追加資料の収集
第 11 回　研究テーマを絞り込むための追加資料の整理
第 12 回　研究テーマを絞り込むための追加資料の考察
第 13 回　修士論文の構成
第 14 回　研究計画の作成

第 15 回　修士論文の研究計画書（Research Proposal）の作成
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
１．授業方法
(1) 研究論文や実践報告書の講読と演習
(2) 研究テーマや研究計画の発表とそれに対する助言
２．研究方法
(1) 研究テーマに関係する先行研究の把握
(2) 研究仮説の検討
(3) 研究計画の作成
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
授業予定を把握し、資料をあらかじめ準備する。そのうえで、必ず授業までに資料を読んで、授業に臨む。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
50
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
発表や報告に基づく授業参加点（40％）と修士論文プロポーザル（60％）に基づき総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
毎回与えられる課題を必ずこなして，修士論文執筆の基礎固めを確実に達成すること。
関連学会への参加、出席を奨励する。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
John Furlong and Alis Oancea (2005) ”Assessing Quality in Applied and Practice-based Educational Research : A Framework for Discussion”
The Design-Based Research Collective (2003) ”Design-Based Research: An Emerging Paradigm for Educational Inquiry”
教員が準備したプリント
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
『ロングマン応用言語学辞典』//南雲堂//
『英語教育用語辞典』//大修館/最新刊/
『Longman Dictionary of Applied Linguistics and Language Teaching』/Richards, J. and R. Schmidt/Longman/2010/
『英語教育学大系 第1巻 大学英語教育学』/森住衛編さん/大修館書店/2010/
『英語教育学大系 第11巻 英語授業デザイン―学習空間づくりの教授法と実践』/山岸信義, 鈴木 政浩, 高橋 貞雄 (編)/大修館書店/2010/
海外学術雑誌（Applied Linguistics. TESOL Quarterly, ELT Journalなど）と国内学会紀要（ARELE, JACET Journal, SELTなど），研究書などからの関連論考
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習

210091I0J
大学
人間文化研究科 ＞ 応用英語専攻
2単位　後期集中
その他
ー
60
必修
York　Weatherford

〔科目の教育目標（Course Description)〕
The course will focus on second language acquisition (SLA) and how languages are learned and taught. Students will also gain an understanding of how second language learning compares to first language acquisition. The course will help students better understand the processes and strategies involved in learning an additional language and the methods employed in teaching second-language learners. Students will also develop the ability to do original research for a master’s thesis in the area of second language learning and teaching.
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
1. Acquisition of basic knowledge of second language acquisition and teaching
2. Overview of previous research and issues
3. Narrow down the topic of the master’s thesis
4. Master’s thesis proposal: Completion of the first few chapters (previous research, research subject /research hypothesis, and methodology)
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　Introduction to Second Language Acquisition
第 2 回　Native Language Influences
第 3 回　The Linguistic Environment
第 4 回　Universal Grammar
第 5 回　Cognition
第 6 回　Intelligence and Aptitude
第 7 回　Motivation and Attitudes
第 8 回　Personality
第 9 回　Learning Styles and Strategies
第 10 回　Age and the Critical Period
第 11 回　Learner Language
第 12 回　Social Dimensions
第 13 回　Second Language Teaching
第 14 回　Teacher-Student Interactions
第 15 回　Classroom Research and Teaching
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
1. Each lesson consists of (1) a critical review of the week's reading assignments by the student (2) commentary from the instructor, and (3) a discussion between the instructor and the student about the reading assignments. It is important to read each week's assignments thoroughly in order to narrow down the topic of the master's thesis within the limited time of 15 weeks.
2. By the end of the term, complete the master's thesis proposal.

Feedback methods:
1. For in-class reports, students will receive feedback in class in the form of oral commentary.
2. For written reports, students will receive written feedback within one week of submission.
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
1. Read the assigned materials.
2. Prepare a critical review of the assigned reading.
3. Send e-mail to the instructor in case of questions.
4. Write a thesis proposal.
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total))〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
1. Critical review and discussion of each week's reading assignments (50%)
2. Master's thesis proposal (50%)
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
References to current research and practices will be provided.
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
Weekly reading assignments will include one or two articles based on the topic of the master's thesis.
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

インターンシップ

210092N0J
大学
人間文化研究科 ＞ 応用英語専攻
2単位　集中
その他
ー
60
橘堂　弘文

〔科目の教育目標（Course Description)〕
英語の授業実践なので、TOEIC５００点以上が望ましい、「子どものための英語教育」か「児童英語教育」を履修済みの事が望ましい。教職課程/塾講師希望の3回生以上の学生の履修が望ましいが、2回生の履修も積極的なインターンシップ参加希望ならば問題はない。
公立小学校で教える「外国語活動」、総合的な学習の時間の中であつかう英語活動、私立小学校や（特区指定や研究指定校の）公立小学校における教科としての英語を指導するための必要な知識と技能を身につける。特に公立小学校での「外国語活動」の望ましい指導法をその教材作成を通して、考案・実践できるように演習を行う。その教材作成には、従来の副教材作成以外に、パワーポイント等を利用した電子黒板を利用したICT教材の作成と利用も含む。 1.2011年完全実施の学習指導要領における「外国語活動」とそれ以外の英語教育のねらいと指導実践の方法を理解し、その指導案を書くことができる。 ２.「外国語活動」の模擬授業あるいはインターンシッププログラムで実際に授業ができる。 ３.小学校英語指導のために必要な、正確な英語の音素の発音、クラスルームイングリッシュ、小学校英語活動・教育の中で扱う英語表現やダイアローグを習得する。 ４.小学校英語授業で使われる教材とそれを使った授業を見たとき、その善し悪しが判断でき、改善案を作ることができる。 ５．英語ノートに沿った教材あるいは先進的な私立小学校で開発されたデジタル教材のその作成における理論を学ぶ。 理論編では、学習指導要領の小学校の外国語活動の内容を踏まえて、授業実践を進める上で必要となる、指導目標と関連した指導内容、カリキュラムの組み方、指導案の事例研究と教材作成の基礎理論を学ぶ。 次に、小学校の英語活動や外国語活動で使用する英語教育の授業で使用する副教材の作成をし、模擬授業の訓練をした上で、その作成教材を利用して、公立/私立の小学校で実際の授業実践に生かす経験をする事を目指す。 この授業で作成した教材や指導実践したアクティビティーは、中学校の教育実践にも生かせるものとしたい。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
小学校の英語活動の以下の教材作成とその活用が中心になる。 ①ストーリーテリング出来る紙芝居やピクチャーブック、エプロンシアター、英語の歌を利用した教材、チャンツ、ライム、フォニックス、様々なオーディオビジュアルエイズやカードなど。 ②個人/グループで作成した教材は、模擬授業をした上で、実際の小学校などの指導の経験に生かす。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　１．理論編：小学校の英語活動を進める上で必要となる、指導目標と関連した指導内容、カリキュラムの組み方、指導案の事例研究と基礎理論（橘堂担当）テキストや資料利用 、教材作成演習
学習指導要領　総合学習　英語活動 小中高の外国語
第 2 回　２学習指導用要領　英語活動と外国語活動の相違と実践
第 3 回

３.土曜日：外国語活動ワークショップ：フォニックス：大阪市立関目東小学校（ユネスコスクール）山本吉彦教諭
第 4 回　４．土曜日：外国語活動ワークショップ：チャンツやライム：大阪市立関目東小学校（ユネスコスクール）山本吉彦教諭
第 5 回　５.実践編：個人/グループの教材作成：インターンシップの指導計画
第 6 回　６.インターンシップ実施大阪市立関目東小学校の外国語活動授業見学
第 7 回　７.インターンシップの1時間目の指導案作成
第 8 回　８.インターンシップの2時間目の指導案作成
第 9 回　９.ピクチャーカードの作成
第 10 回　１０.ICT教材の作成
第 11 回　１１．インターンシップの授業のリハーサル
第 12 回　１２.大阪市立関目東小学校（ユネスコスクール）１回目のインターンシップ実施
第 13 回　インターンシップ授業実践の事後の評価と反省、2回目ののインターンシップへのフィードバックと2時間目の準備
第 14 回　１４.大阪市立関目東小学校（ユネスコスクール)2回目のインターンシップの実施
第 15 回　１５まとめと振り返り：インターンシップの授業実践の評価と反省会合評会で、この演習のフィードバックを実施する。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
①理論編：小学校の英語活動を進める上で必要となる、指導目標と関連した指導内容、カリキュラムの組み方、指導案の事例研究と基礎理論を学ぶ。 ②指導方法の理解と模擬授業 ③実践編：個人/グループの教材作成。 ④実践編：公立/私立の小学校で実際の授業実践 1. この授業のねらいと進め方、学習指導要領における英語活動の目的、指導案例 自己紹介（名前、挨拶、出身、誕生日）およびフォニックスジングルの指導の体験と英語練習 自己紹介（既習のことに加えて、好きなこと、もの、趣味など）の指導の単元構成、復習の仕方 およびチャンツと歌の活用について体験と英語練習 2.数、形、色、朝食（昼食）のメニュー、文化比較や自己表現と絡めて このトピックと指導に必要な英語表現の練習、教材の収集と加工 3.絵本の活用と実習、教材の作成と提示 これまでにでてきた、指導方法の実習、指導に必要な英語の練習 4.1時間の指導の組み立て方、指導者と指導形態、マルチメディア教材およびICTの活用法 5.指導に必要な教案作成、模擬授業準備 6.サンプル授業視聴、模擬授業準備　色やそれにからめたもの（動物、食べ物，衣服他）の学習を含む授業 模擬授業　朝食もしくは昼食のメニューについての学習を含む授業 模擬授業　読みきかせの学習を含む授業 模擬授業　時刻やスケジュールの学習を含む授業 模擬授業　動作動詞（スポーツ、お手伝い、一日の行動）の学習を含む授業 模擬授業　数字や方向の学習を含む授業 模擬授業　季節と季節の行事の学習を含む授業 模擬授業　文字の指導とフォニックスの学習を含む授業 まとめと課題ディスカッション、
〇スクールインターンシップ授業終了後に、反省会合評会で、模擬授業実施学生と公立小学校の担当教員を交えて実施して、演習のフィードバックとする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
毎回の授業における教材の作成＋指導案＋模擬授業の準備等
公立小学校スクールインターンシップは、相手先の小学校のスケジュール等で授業計画通りに進まない場合が有る。外国語活動のワークショップを土曜日や日曜日に実施し（出席を要する。）インターンシップの授業準備に充てる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total))〕
30

〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
TOEIC５００点以上が望ましい、前提科目として「子供の為の英語教育」か「児童英語教育」を履修済みの事。
１．積極的な授業への参加（１０％）
２．教材の作成＋指導案＋模擬授業（３０％）　４．公立/私立の小学校で実際の授業実践と事後の評価と反省３０％）
５.教材作成や授業実践に対する積極的な態度（３０％）などの総合評価

〔留意事項（Other Information)〕
特に、作成教材を利用した公立/私立の小学校での授業実践の際には、ご迷惑の無いようにしながら、教材作成、模擬授業、特に授業実践では、楽しみながら真剣に取り組んで欲しい。給食を児童とる場合は、給食代金300円程度必要になる、(学生課で傷害保険500円程度加入必要：教育実習、介護等体験、総合演習等で既に加入している場合は不必要）橘堂の関わるNPO法人JAE主催の産学連携「ドリカムスクール」インターンシップや、特に教育委員会主催のスクールインターンシップにも、積極的に参加して、教育現場を説教的に経験してもらいたいと思っています。 他にも、以下の英文学科の英語教育領域の開講科目： 公立小学校の英語活動科目：「子どものための英語」や塾やホームティーチャー用の「児童英語教育」も履修することが望ましい。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
『 小学校英語活動アイデアバンクーゲーム・ソング集ー　』/樋口編著、橘堂、金山/教育出版//
『ONE WORLD Kids，アントコース，バードコース』/樋口編著、橘堂/、教育出版//
『 小学校英語活動実践の手引き』//文部科学省：開隆堂//
『小学校からの外国語教育 』/樋口編著/研究社//
『英語教育のフロンティア』/青木昭六編著、橘堂/保育出版社//
Hi, Friends!Ⅰ・Ⅱ, 英語ノートⅠ・Ⅱ、小学校からの外国語教育（研究社）小学校英語活動実践の手引き（文部科学省：開隆堂） 小学校英語活動アイデアバンクーゲーム・ソング

集ー （教育出版） 小学校英語活動アイデアバンクーゲーム・ソング集ー （教育出版） 実践編：ONE WORLD Kids，アントコース，バードコース、（教育出版）小学校英語教育の進め方 岡秀夫・金森強（成美堂）
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ｲﾝﾃﾞｨﾍﾟﾝﾃﾞﾝﾄｽﾀﾃﾞｨｰｽﾞ

210101A0J
大学
人間文化研究科 ＞ 応用英語専攻
8単位　集中
その他
ー
-
必修
大川　淳

〔科目の教育目標（Course Description)〕
「専門演習」で習得した専門的知識を基盤に、研究計画書（M1後期提出）に従って研究を遂行し、修士論文を執筆する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
・研究計画書(Proposal)に従い、適切な方法論を用いて研究（分析）を遂行する。
・研究計画の問題点を適宜修正し、また、必要に応じて新たな課題を追加して研究を遂行する。
・適切なAcademic Englishによる修士論文の執筆を行う。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
研究指導教員の指導による。指導教員のガイダンスに従い、研究遂行と論文執筆に必要な講義、演習、個人指導、その他の形式での指導を受けること。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
詳細は授業中に指示する。指導教員の指示に従うこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
ー
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
研究指導教員（主査）と２名の研究副指導教員（副査）による論文審査・口頭試問を行う。修士論文の評価基準については、応用英語専攻発行の修士論文執筆の手引きを参照のこと。
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ｲﾝﾃﾞｨﾍﾟﾝﾃﾞﾝﾄｽﾀﾃﾞｨｰｽﾞ

210101B0J
大学
人間文化研究科 ＞ 応用英語専攻
8単位　集中
その他
ー
-
必修
小山　哲春

〔科目の教育目標（Course Description)〕
「専門演習」で習得した専門的知識を基盤に、研究計画書（M1後期提出）に従って研究を遂行し、修士論文を執筆する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
・研究計画書(Proposal)に従い、適切な方法論を用いて研究（分析）を遂行する。
・研究計画の問題点を適宜修正し、また、必要に応じて新たな課題を追加して研究を遂行する。
・適切なAcademic Englishによる修士論文の執筆を行う。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
研究指導教員の指導による。指導教員のガイダンスに従い、研究遂行と論文執筆に必要な講義、演習、個人指導、その他の形式での指導を受けること。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
詳細は授業中に指示する。指導教員の指示に従うこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
ー
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
研究指導教員（主査）と２名の研究副指導教員（副査）による論文審査・口頭試問を行う。修士論文の評価基準については、応用英語専攻発行の修士論文執筆の手引きを参照のこと。
〔留意事項（Other Information)〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ｲﾝﾃﾞｨﾍﾟﾝﾃﾞﾝﾄｽﾀﾃﾞｨｰｽﾞ

210101C0J
大学
人間文化研究科 ＞ 応用英語専攻
8単位　集中
その他
ー
-
必修
須川　いずみ

〔科目の教育目標（Course Description)〕
「専門演習」で習得した専門的知識を基盤に、研究計画書（M1後期提出）に従って研究を遂行し、修士論文を執筆する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
・研究計画書(Proposal)に従い、適切な方法論を用いて研究（分析）を遂行する。
・研究計画の問題点を適宜修正し、また、必要に応じて新たな課題を追加して研究を遂行する。
・適切なAcademic Englishによる修士論文の執筆を行う。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
研究指導教員の指導による。指導教員のガイダンスに従い、研究遂行と論文執筆に必要な講義、演習、個人指導、その他の形式での指導を受けること。授業中の発問と学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
詳細は授業中に指示する。指導教員の指示に従うこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
ー
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
研究指導教員（主査）と２名の研究副指導教員（副査）による論文審査・口頭試問を行う。修士論文の評価基準については、応用英語専攻発行の修士論文執筆の手引きを参照のこと。

〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ｲﾝﾃﾞｨﾍﾟﾝﾃﾞﾝﾄｽﾀﾃﾞｨｰｽﾞ

210101D0J
大学
人間文化研究科 ＞ 応用英語専攻
8単位　集中
その他
ー
-
必修
杉村　美奈

〔科目の教育目標（Course Description)〕
「専門演習」で習得した専門的知識を基盤に、研究計画書（M1後期提出）に従って研究を遂行し、修士論文を執筆する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
・研究計画書(Proposal)に従い、適切な方法論を用いて研究（分析）を遂行する。
・研究計画の問題点を適宜修正し、また、必要に応じて新たな課題を追加して研究を遂行する。
・適切なAcademic Englishによる修士論文の執筆を行う。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
研究指導教員の指導による。指導教員のガイダンスに従い、研究遂行と論文執筆に必要な講義、演習、個人指導、その他の形式での指導を受けること。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
詳細は授業中に指示する。指導教員の指示に従うこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
ー
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
研究指導教員（主査）と２名の研究副指導教員（副査）による論文審査・口頭試問を行う。修士論文の評価基準については、応用英語専攻発行の修士論文執筆の手引きを参照のこと。

〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ｲﾝﾃﾞｨﾍﾟﾝﾃﾞﾝﾄｽﾀﾃﾞｨｰｽﾞ

210101E0J
大学
人間文化研究科 ＞ 応用英語専攻
8単位　集中
その他
ー
-
必修
米崎　啓和

〔科目の教育目標（Course Description）〕
「専門演習」で習得した専門的知識を基盤に、研究計画書（M1後期提出）に従って研究を遂行し、修士論文を執筆する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
・研究計画書(Proposal)に従い、適切な方法論を用いて研究（分析）を遂行する。
・研究計画の問題点を適宜修正し、また、必要に応じて新たな課題を追加して研究を遂行する。
・適切なAcademic Englishによる修士論文の執筆を行う。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
研究指導教員の指導による。指導教員のガイダンスに従い、研究遂行と論文執筆に必要な講義、演習、個人指導、その他の形式での指導を受けること。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
詳細は授業中に指示する。指導教員の指示に従うこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
ー
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究指導教員（主査）と２名の研究副指導教員（副査）による論文審査・口頭試問を行う。修士論文の評価基準については、応用英語専攻発行の修士論文執筆の手引きを参照のこと。

〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ｲﾝﾃﾞｨﾍﾟﾝﾃﾞﾝﾄｽﾀﾃﾞｨｰｽﾞ

210101F0J
大学
人間文化研究科 ＞ 応用英語専攻
8単位　集中
その他
ー
-
必修
東郷　多津

〔科目の教育目標（Course Description）〕
「専門演習」で習得した専門的知識を基盤に、研究計画書（M1後期提出）に従って研究を遂行し、修士論文を執筆する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
・研究計画書(Proposal)に従い、適切な方法論を用いて研究（分析）を遂行する。
・研究計画の問題点を適宜修正し、また、必要に応じて新たな課題を追加して研究を遂行する。
・適切なAcademic Englishによる修士論文の執筆を行う。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
研究指導教員の指導による。指導教員のガイダンスに従い、研究遂行と論文執筆に必要な講義、演習、個人指導、その他の形式での指導を受けること。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
詳細は授業中に指示する。指導教員の指示に従うこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
ー
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究指導教員（主査）と２名の研究副指導教員（副査）による論文審査・口頭試問を行う。修士論文の評価基準については、応用英語専攻発行の修士論文執筆の手引きを参照のこと。

〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

第二言語習得

210232N0J
大学
人間文化研究科 ＞ 応用英語専攻
2単位　集中
その他
ー
60
隔年開講2
湯川　笑子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
第二言語習得理論の主なものを理解し、そうした知見と第二言語指導との接点についても理解し、考察できる。さらに、基礎的な第二言語習得研究の方法についても理解する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１）第二言語習得理論の主なものについて理解する
２）第二言語習得理論と実際の第二言語指導との接点について理解を深め、理論に裏付けられた第二言語指導とは何かを考察できる
３）第二言語習得について研究する手法、データ、分析の仕方について理解する
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　Introduction to the course,The role of L1 in SLA
第 2 回　age and SLA
第 3 回　crosslinguistic influences
第 4 回　the linguistic environment
第 5 回　cognition
第 6 回　development of learner language
第 7 回　foreign language aptitude
第 8 回　motivation and SLA
第 9 回　affect and individual differences
第 10 回　social dimensions of L2 learning
第 11 回　language teaching and effect studies 1:Development of linguistic abilities
第 12 回　language teaching and effect studies 2:Development of attitudes and motivation
第 13 回　Participant’s interest area and discussion
第 14 回　various English teaching situations in Japan and their products
第 15 回　Summary
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
多くの理論が提案され、実証研究が積み重ねられている分野なので、専門用語や専門的な概念が多く出てきます。また、それを集中講義として行うため、不消化になる危険性があります。混乱を避け、効率的に全貌をつかむためには、まず、優しく書きおろされた日本語で書かれた指定の新署を自分で読み予備知識として下さい。その後で、教科書を、集中講義の１カ月前位からできるだけ読んでおくことをお勧めします。
授業では、テーマごとに対応する教科書の章をあらかじめ予習として読んできて臨みます。授業では不明点を解消するための追加説明、質疑応答、日本のコンテクストに当てはめてどうとらえるかの討論を行います。最終的に、自分の興味のある分野の習得研究を掘り下げるために、自分で選んだ文献を数点レビューしてもらうことを課題とします。文献レビュー課題についてのフィードバックは提出後採点終了後にメールでフィードバックを送ります。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
指定した教科書の各章を事前に読んで，不明点，質問点を明らかにしてから，授業ののぞむようにしてください。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
授業参加と討論への積極的な参加（50％）、文献レビュー（50％）を評価の対象とする。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
『Understanding Second Language Acquisition 2nd edition』/Lourdes, Ortega/2014/Routledge//学内販売予定
『外国語学習の科学』/白井恭弘/岩波新書/2008//
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
『Introducing Second Language Acquisition』/ Saville-Troike, et al./Cambridge University Press/2016/
『英語学習は早いほど良いのか』/バトラー後藤裕子/岩波新書/2015/
『Second language acquisition: an introductory course, Third edition』/Susan M. Gass and Larry Selinker/Routledge/2008/
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語教育学特論 II (Assessment and Testing)

210235N0J
大学
人間文化研究科 ＞ 応用英語専攻
2単位　前期
火曜 4限
ー
60
橘堂　弘文

〔科目の教育目標（Course Description）〕
本特論では、”Principles of Language Learning and Teaching” H. Douglas Brownのテキストをベースに、英語教育学の基礎になる理論や教育学の基礎を学んだ後、児童/生徒に合わせた個別対応型教育の評価を学びたい。また学んだ理論を教育現場にどう生かすかについて、中・高校における英語教育の実践例をもとに、演習形式で考察したい。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
　特に最終段階では、英語教育関連のレポートか、小・中・高校における英語教育の事例や各自の課題等を、量的に、質的に、あるいはアクション・リサーチの手法を用いて、どう教育実践の改善に応用するかを考察したい。 以下のテキストは、皆で読み進めたい。
　①「英語教育研究入門」（大修館）
　②「アクション・リサーチのすすめ　－新しい英語授業研究－」 佐野正之（大修館）
　③「Principles of Language Learning and Teaching」 H. Douglas Brown (Prentice Hall Regents)
その他プリント等を利用する。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　英語教育学を基礎に、それを教育実践の改善にいかに応用するかの考察とオリエンテーション
第 2 回　基礎理論の概論
第 3 回　英語教育学の基礎
第 4 回　量的・質的研究
第 5 回　マスタリーラーニングとアクションリサーチ
第 6 回　マスタリーラーニングの評価：形成評価
第 7 回　様々な教育評価
第 8 回　客観と主観評価
第 9 回　評価について議論
第 10 回　先行研究について
第 11 回　Principles of Language Learning and Teachingから評価について考察
第 12 回　第二言語習得：Principles of Language Learning and Teaching
第 13 回　中間言語：Principles of Language Learning and Teaching
第 14 回　学習者要因：Principles of Language Learning and Teaching
第 15 回　まとめと振り返り、課題のフィードバックの実施
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
本特論では、”Principles of Language Learning and Teaching” H. Douglas Brownのテキストをベースに、英語教育学の基礎になる理論や教育学の基礎からマスタリーラーニング等の評価論を学び、それを基礎に、量的研究、質的研究、授業研究法（アクション・リサーチ）についての参加者の発表形式で文献研究していく。その中で教育実践への応用を考えたい。必要な資料は、原則的にプリントして配付する。課題のフィードバックは最終授業で行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
基本文献を読み進めながら，参加者による発表形式で議論考察するので、その準備を整える。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
　課題発表、レポート：７０％
　授業中の積極的態度など：３０％
〔留意事項（Other Information）〕
　演習のテーマに関連する以下の研究会/学会への参加を奨励する。文部省研究指定校：「小学校における教科としての英語教育」 指導実施実験校、英語授業の実践に関連する研究会、学会（日本児童英語教育学会 （JASTEC）， 英語授業研究学会等）への参加と、小学校の英語活動・外国語活動を目指すものは、学部のスクールインターンシップを伴う「英語教材作成演習」の履修を推奨する。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
『英語教育研究入門』//大修館///学内販売予定
『アクション・リサーチのすすめ－新しい英語授業研究－』/佐野正之/大修館///学内販売予定
『Principles of Language Learning and Teaching』/H. Douglas Brown/Prentice Hall Regents///学内販売予定
『DICTIONARY OF LANGUAGE TEACHING & APPLIED LINGUISTICS』//LONGMAN///学内販売予定
『英語教育のフロンティア』/青木昭六編著、橘堂/保育出版社///学内販売予定
その他プリント資料配布
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
『英語教育のアクション・リサーチ』//研究社//
『第二言語習得研究の現在』/小池生夫、他/大修館//
『リフレクティブ・アプローチによる英語教師の養成』//金星堂//
『はじめてのアクションリサーチ』/佐野正之/大修館//

各分野の文献リストを配布するので、各自の研究の際、利用して欲しい。
①TESOL Quarterly, Applied Linguistics, Language Learning 等の専門誌
②ロングマン応用言語学辞典（南雲堂）
③英語教育用語辞典（大修館）
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語教育学特論Ⅲ(Classroom Research)

210236N0J
大学
人間文化研究科 ＞ 応用英語専攻
2単位　後期
金曜 4限
ー
60
東郷　多津

〔科目の教育目標（Course Description)〕
授業は学習者を含めた相互行為の結果でもある。したがって、同じ授業者が、同じ教材、同じ授業法を使用しても再現できない現象である。本科目では，授業実践者が自らの実践を研究する授業実践研究に立脚し、授業分析研究の視点を踏まえながら，「よい授業とは？」への回答を追求してみたい。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
1. 授業実践研究についての知識・理解を深める
2. 授業分析についての知識・理解を深める
3. 授業分析結果を授業改善へと繋げる方途を検討する
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	授業実践研究について全く説明できない。	テキストを参照しながらだと、授業実践研究が何かを説明できる。	テキストを見ずに、授業実践研究が何か自分の言葉で説明することができる。	授業実践研究が何かを自分の言葉で説明することができ、自身の研究について研究法を適用できる。

〔授業計画〕
第 1 回　授業実践研究と授業分析研究についてのオリエンテーション
第 2 回　2: Introduction to Part One: The Historical and Conceptual Background to Researching Practice
第 3 回　3: From Research to Practitioner Research: Setting Exploratory Practice in Context.
第 4 回　4: Perspectives on the ‘Family’ of Practitioner Research.- Chapter
第 5 回　5: The Evolution of the Exploratory Practice Framework
第 6 回　6: Puzzles, Puzzling and Puzzlement.- PART II
第 7 回　7: Introduction to Part Two: Developing Understanding from Practice
第 8 回　8: Understanding from Practice: Integrating Research and Pedagogy
第 9 回　9: Understanding from Practice: Collegial Working
第 10 回　10: Understanding from Practice: Continuing Personal and Professional Development.- PART III
第 11 回　11: Introduction to Part Three: Understanding for Practice
第 12 回　12: Understanding for Practice: Puzzles, Puzzling and Trust
第 13 回　13: Understanding for Practice: PEPAs, Culture and Identit
第 14 回　14: Conclusions.- PART IV: Resources.
事例研究：観察と評価（３）
第 15 回　授業実践研究まとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施する
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
１．授業方法
(1) テキストを中心とした主要文献の講読と演習
(2) 実際の授業（またはビデオの視聴）の分析方法についての演習
２．研究方法
(1) 授業実践研究関連の文献読解
(2) 授業分析方法の習得
(3) 授業分析結果の授業改善・改革への応用
レポートに関するフィードバックは、必要に応じて、直接またはweb上で、個人または全体に対して行います。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
課題がある場合は、授業前に必ず文献を読んで授業に臨むこと。
また、授業内に質問やディスカッションができるよう、あらかじめ、関連する情報について調べておくこと。
必要であれば、指定箇所以外の箇所も積極的に取り組む姿勢が求められる。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
25
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
評価は，平常点（授業内ディスカッション）50% とレポート（課題とまとめ）50% により，総合的に行う。
〔留意事項（Other Information)〕
受講生の経験やニーズにより、進度、内容の優先度および順番が換わる可能性がある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
Exploratory Practice in Language Teaching: Puzzling About Principles and Practices (Research and Practice in Applied Linguistics) / Judith Hanks/ Palgrave Macmillan/ 2017/ 978-1137457110/

その他、必要に応じてプリントを配布する。
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
学習開発研究所『「教える」から「学ぶ」への変革：学習投資への道　学習開発シリーズ』[Kindle版], 2014
金田道和編『英語の授業分析』大修館書店．1986.
高梨庸雄『英語の「授業力」を高めるために』三省堂，2005.
Lynch, T. Communication in the Language Classroom. Oxford U.P.
1996.
Tajino, A, Stewart, T, Dalsky, D(ed.) Team Teaching and Team Learning in the Language Classroom: Collaboration for innovation in ELT. Routledge.2015
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英米文学作品研究ａ

210241N0J
大学
人間文化研究科 ＞ 応用英語専攻
2単位　前期
月曜 5限
ー
60
大川　淳

〔科目の教育目標（Course Description)〕
Nathaniel Hawthorneの作品を読み、文学における英語表現を正確に精読し、考察することを目標とする。アメリカン・ルネッサンス期の時代背景やHawthorneの伝記的背景を理解し、批評する能力を涵養することも目的とする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
難解なHawthorne文学を読むにあたって、一語一句分析する姿勢を身につける必要がある。
また、文学批評を行うにあたって、作品の先行研究などを渉猟することも求められる。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーションおよびHawthorne文学について
第 2 回　”Rappaccini’s Daughter” の精読および分析（pp.91-94）
第 3 回　”Rappaccini’s Daughter” の精読および分析（pp.94-97）
第 4 回　”Rappaccini’s Daughter” の精読および分析（pp.98-101）
第 5 回　”Rappaccini’s Daughter” の精読および分析（pp.102-105）
第 6 回　”Rappaccini’s Daughter” の精読および分析（pp.106-09）
第 7 回　”Rappaccini’s Daughter” の精読および分析（pp.110-13）
第 8 回　”Rappaccini’s Daughter” の精読および分析（pp.114-18）
第 9 回　”Rappaccini’s Daughter” の精読および分析（pp.119-23）
第 10 回　”Rappaccini’s Daughter” の精読および分析（pp.124-128）
第 11 回　”Ethan Brand” の精読および分析（pp. 83-84)
第 12 回　”Ethan Brand” の精読および分析（pp. 85-89)
第 13 回　”Ethan Brand” の精読および分析（pp. 90-94)
第 14 回　”Ethan Brand” の精読および分析（pp. 95-99)
第 15 回　”Ethan Brand” の精読および分析（pp. 100-02)
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
・テクストの精読（辞書を引き、表面的な意味にとらわれず多角的な視点からに読むこと）
・テクスト分析（受動的に読むのではなく、能動的にテクストに意味を見出すこと）
・リサーチ（先行研究を把握すること）
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
準備学習としてテクストの精読を求める。その際、不明な箇所や、解釈に関するコメントを事前に明確にしておくこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
平常点　４０％（準備学習および授業でのコメントの評価）
レポート　６０％
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
配布プリント
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英米文学作品研究ｂ

210242N0J
大学
人間文化研究科 ＞ 応用英語専攻
2単位　後期
金曜 2限
ー
60
須川　いずみ

〔科目の教育目標（Course Description）〕
本コースは英語圏文学を取り上げ、テキストをどのように読むかを実践学習する。英語のテキストの中でも文学作品は最も高度なものであり、イブリン・ウオーのような作家の作品を読むことは、高い英語読解能力とテキスト解析能力を養うことになる。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
（１）原作を読む英語力の向上
（２）テキスト分析能力の養成
（３）クリティシズムの理解
（４）作家の世界観の把握
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　院生の研究報告と課題設定
第 3 回　イブリン・ウオーの”Mr.Loveday’s Little Outing”前半半分の前半部分の精読
第 4 回　イブリン・ウオーの”Mr.Loveday’s Little Outing前半半分の後半部分の”精読
第 5 回　イブリン・ウオーの”Mr.Loveday’s Little Outing後半半分の前半部分の”精読
第 6 回　イブリン・ウオーの”Mr.Loveday’s Little Outing後半半分の後半部分の”精読
第 7 回　イブリン・ウオーの”Mr.Loveday’s Little Outingの解釈論
第 8 回　ディスカッション
第 9 回　イブリン・ウオーの*A Handful Dust*の一部精読
第 10 回　イブリン・ウオーの*A Handful Dust*の1章の一部精読
第 11 回　イブリン・ウオーの*A Handful Dust*の2章の一部精読
第 12 回　イブリン・ウオーの*A Handful Dust*の3章の一部精読
第 13 回　イブリン・ウオーの*A Handful Dust*のの4章の一部精読
第 14 回　ビデオ鑑賞
第 15 回　発表と総括
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
なし
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
（１）テキストの精読
（２）文献検索
（３）レポート作成
（４）ビデオ鑑賞もある
（５）フィードバックは授業中の発問と学生の解答に対して適宜口頭で行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
テキストの精読とアノテーションによるノート作成
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
平常点50％、提出物30％、発表20％
〔留意事項（Other Information）〕
対象の院生の専門によって中身を変える可能性がある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
プリント
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

日英語比較分析ｂ

210252N0J
大学
人間文化研究科 ＞ 応用英語専攻
2単位　後期
火曜 5限
ー
60
杉村　美奈

〔科目の教育目標（Course Description）〕
日本語と英語との二言語間に見られる差異／類似点を探り、それらの言語現象に対する理論的説明を試みる。理論的枠組みは生成文法理論における分散形態論（Distributed Morphology）を前提とし、統語論と形態論のインターフェース現象に焦点をあて、様々な言語現象を扱っていく。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．言語現象を観察、分析し、一般化を導く。
２．導いた一般化を元に仮説を立てる。
３．更なるデータを分析し、仮説の検証、修正をする。
４．分析から更なる帰結を導きだす。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

第 1 回　The Goal of Theoretical Linguistics
Architecture of Grammar: Lexicon, Syntax, Phonological Form (PF) & Logical Form (LF)

第 2 回　Framework Introduction: Distributed Morphology 1
Development of the Architecture of Grammar

第 3 回　Framework Introduction: Distributed Morphology 2
Vocabulary Insertion

第 4 回　Framework Introduction: Distributed Morphology 3
Vocabulary Insertion and Word-internal Domains

第 5 回　Operations in Distributed Morphology 1
Operations after Syntax

第 6 回　Operations in Distributed Morphology 2
Morphological Merger

第 7 回　Operations in Distributed Morphology 3
Lowering and Local Dislocation

第 8 回　Interim Summary

第 9 回　Case Studies 1
Japanese Causatives: Syntactic Causatives and Lexical Causatives

第 10 回　Case Studies 1
Japanese Causatives: Syntax-Morphology Mismatches

第 11 回　Case Studies 1
Japanese Causatives: DM Approach to Japanese Causatives

第 12 回　Case Studies 2
English One-Substitution: Basic Facts on One-Substitution

第 13 回　Case Studies 2
English One-Substitution: The Unaccusative Hypothesis

第 14 回　Case Studies 2
English One-Substitution: DM Approach to One-Substitution

第 15 回　Summary

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

リーディングは適宜指示する。分散形態論を理論的枠組みとした日英語の言語現象を扱った論文を読み、言語データと先行研究の整理をまず行う。
次に、先行研究で提示されている分析についての検証を行い、データ及び理論的不備の有無について慎重に観察する。
最終的には、理論的不備の修正及び新たなデータを提示し、そこから新たな理論的帰結を導く。
提出課題は適宜、授業内で内容を確認し、理解の定着を図る。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

授業時までに与えられたリーディングアサインメントを必ず読み、内容を理解した上で、新たな疑問点を明らかにしてくることを準備学習とする。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

Participation (presentation, discussion, comments): 30 %
Assignments (problem sets, exercises) 30 %
Critical Paper 40%

〔留意事項（Other Information）〕

理論言語学全般の知識を前提とする。特に、統語論と形態論の基礎的な知識については必須とする。
授業で扱うリーディングは全て英語で書かれたものを読み進める。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕

Embick, David & Rolf Noyer. 2007. Distributed Morphology and the Syntax/Morphology Interface, in G. Ramchand & C. Reiss (eds.) The Oxford Handbook of Linguistic Interfaces. Oxford University Press. Part II, Chapter 9. pp. 289-324.

Harley, Heidi & Rolf Noyer. 1999. State-of-the-Article: Distributed Morphology. Glot International, Volume 4, Issue 4. pp 3-9.

Harley Heidi. 2008. On the Causative Construction, in S. Miyagawa & M. Saito (eds.) The Oxford Handbook of Japanese Linguistics. Oxford University Press. Chapter 2. pp. 20-53.

Harley Heidi. 2005. One-replacement, unaccusativity, acategorical roots and Bare Phrase Structure, in Harvard Working Papers on Linguistics 11, pp. 59-78.

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

言語コミュニケーション

210253N0J
大学
人間文化研究科 ＞ 応用英語専攻
2単位　後期
水曜 2限
ー
60
小山　哲春

〔科目の教育目標（Course Description）〕

本講義の目標は、言語による発話意図伝達の仕組みを理論的に理解し、実際に言語データを分析する手法を習得することである。具体的な目的は以下の２点：

(1) 語用論（Pragmatics）のうち特に会話の含意／推論を扱った諸理論を理解し、これらを用いて言語現象の分析を行う技術を習得すること
(2) 言語メッセージが持つ対人効果を検証する研究方法論（実験デザインと計測法）を習得すること
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
(1) 会話におけるNon-Literal / Non-Directな意味とその伝達に関する理論的モデルの批判的概観
(2) 具体的な言語データ分析手法の習得
(3) 言語メッセージの対人的影響計測方法の習得
(4) 実験デザインの理解と遂行技術の獲得
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　Oirgins and Domains of Pragmatics
第 2 回　Presupposition and Entailment
第 3 回　Speech Act Theory
第 4 回　Literal, Non-Literal, Direct, and Indirect Meanings
第 5 回　Conversational Implicature (1): Gricean Theory
第 6 回　Conversational Implicature (2): Neo-Gricean Theory
第 7 回　Conversational Implicature (3): Relevance Theory
第 8 回　Conversational Implicature (4): Socio-Cognitive Model
第 9 回　Facework & Politeness
第 10 回　Cross-cultural Pragmatics
第 11 回　Utterance Meaning & Message Effect
第 12 回　Message Effect Research Methods (1): Design
第 13 回　Message Effect Research Methods (2): Measurement
第 14 回　Message Effect Research Methods (3): Reporeting the Results
第 15 回　Review & Presentation of a Mini Research Project
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
(1) 本科目は主に講義及びディスカッションで構成され、それぞれ事前に課されるリーディングを基に行われる。
(2) 授業内または外の課題として実際に言語データを分析する演習を行い、理論的な理解の確認と増強を行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
事前に課されるReading Materialsを批判的に読んだ上で講義、ディスカッションに望むこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
(1) 授業内演習（ディスカッション、データ分析演習、他）: 30%
(2) 理論に関するプレゼンテーション（２回）:　30%
(3) Final Paper： 40%
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
『The Oxford Handbook of Pragmatics』/Huang, Y. (Ed.)/Oxford U.P./2017/9780199697960
『Pragmatics: A Multidisciplinary Perspective』/Cummings, Louise/Edinburgh U.P./2005/0748616829
『Origins of Human Communication』/Tomasello, Michael/A Bradford Book/2010/0262515202
〔参考URL(URL for Reference)〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ｲﾝﾃﾞｨﾍﾟﾝﾃﾞﾝﾄｽﾀﾃﾞｨｰｽﾞ

210101G0J
大学
人間文化研究科 ＞ 応用英語専攻
8単位　集中
その他
ー
必修
Steven　Herder

〔科目の教育目標（Course Description）〕
「専門演習」で習得した専門的知識を基盤に、研究計画書（M1後期提出）に従って研究を遂行し、修士論文を執筆する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
・研究計画書(Proposal)に従い、適切な方法論を用いて研究（分析）を遂行する。
・研究計画の問題点を適宜修正し、また、必要に応じて新たな課題を追加して研究を遂行する。
・適切なAcademic Englishによる修士論文の執筆を行う。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
研究指導教員の指導による。指導教員のガイダンスに従い、研究遂行と論文執筆に必要な講義、演習、個人指導、その他の形式での指導を受けること。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
詳細は授業中に指示する。指導教員の指示に従うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
ー
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究指導教員（主査）と２名の研究副指導教員（副査）による論文審査・口頭試問を行う。修士論文の評価基準については、応用英語専攻発行の修士論文執筆の手引きを参照のこと。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習

210091B0J
大学
人間文化研究科 ＞ 応用英語専攻
2単位　後期集中
その他
ー
60
必修
Steven　Herder

〔科目の教育目標（Course Description）〕
This course will explore a core set of topics related to the theory and practice of teaching and learning within the EFL context. Within the framework of ongoing professional development, these topics all relate closely to how teachers teach and how students learn best and can be explored and developed over a long career. There are a myriad of skills and strategies that effective teachers carry with them at all times. This course will introduce some of the most important issues to begin to focus on.
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
1. Address important issues in teaching and learning English.
2. Identify personal opinions about critical issues in the English classroom.
3. Develop a voice in expressing and debating issues related to teaching and learning.
4. Master's thesis proposal - Choose a narrow topic, outline a dissertation, and begin to work on selected parts of the thesis.
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回　Course Introduction
Discuss options for interacting with the material from presentations, discussions, debates to written summaries, mind maps, and essays.
第 2 回　Teacher-centered, Student-centered, and Learning centered
Understand the differences and choose an approach for specific contexts.
第 3 回　Complexity, Accuracy, and Fluency (CAF)
Explore these three constructs by which learning gains can be measured. Understand the place they occupy in any classroom.
第 4 回　The Balance of Input and Output
Create a framework for input and output based on the level of the learning community as well as the context within which learners will work.
第 5 回　Grammar vs. Meaning
What is the role of grammar in the learning process? How does it interact with meaning?
第 6 回　Vocabulary Acquisition
What does it mean to know a word? How is vocabulary best learned. Is all vocabulary equal?
第 7 回　Extensive Reading, Writing, Listening, and Speaking
An extensive approach to the four skills has grown in popularity within EFL contexts. Why is this and how do ESL and EFL differences support extensive learning.
第 8 回　Interim Report
An Interim Report will be made through a pre-chosen method.
第 9 回　Context, Level, and Group Dynamics
Not only are students different, but each and every class can be different based on level, context, and group dynamics
第 10 回　Classroom Management and Interaction
What are the five types of interaction that occur in the classroom? What classroom management skills are needed to not only survive but to also thrive?
第 11 回　Motivational Strategies
What does Dornyei teach us about motivational strategies in the classroom? How important is motivation in your approach?
第 12 回　Motivation 3.0

The latest in motivational theory claims that "the carrot and the stick" is ineffective. A new approach based on autonomy, relatedness, and mastery will be explored.

第 13 回　Action Research
The Action Research model is an effective way to pursue ongoing professional development. Why is that, and how can one best employ action research?

第 14 回　Reflective Teaching
The reflective teaching model is an exceptional way to improve teaching in a significant way. The goal is to attain ongoing, incremental gains.

第 15 回　Proposal Meeting
A dissertation project will have been chosen and this session will review all that has been completed, as well as refining further steps in the process.

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
1. Each lesson consists of (1) a critical review of the week's reading assignments by the student (2) commentary from the instructor, and (3) a discussion between the instructor and the student about the reading assignments. It is important to read each week's assignments thoroughly in order to narrow down the topic of the master's thesis within the limited time of 15 weeks.
2. By the end of the term, complete the master's thesis proposal.

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
1. Read the assigned materials.
2. Prepare a critical review of the assigned reading.
3. Use LINE or e-mail to communicate with the instructor in case of questions.
4. Write a thesis proposal.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total))〕
60

〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
1. Critical review and discussion of each week's reading assignments (50%)
2. Master's thesis proposal (50%)

〔留意事項（Other Information)〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
No assigned textbooks

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
PDF handouts will be used

〔参考URL(URL for Reference) 〕
Online readings will be available as well

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

研究方法論

260010N0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
1単位　通年
金曜 6限
ー
30
必修

竹原　広実　萩原　暢子　加藤　佐千子　中村　久美　酒井　久美子　佐藤　純　畠山　寛　石井　浩子　三好　明夫　牛田　好美　矢島　雅子　植田　恵理子　藤原　智子　青木　加奈子　安川　涼子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
生活科学、健康科学、生活文化、社会福祉など生活関連領域における研究を進めていく上で必要な基礎となる研究方法論を学ぶものである。これらの領域において用いられる代表的な研究手法について、前半は各手法を常用する教員から講義を受ける。後半は実際に行われた研究事例を取り上げ、より実践的に研究手法を体験し学ぶ機会を提供する。以上を通じて研究課題の定め方、研究計画の立て方、研究手法の選び方、分析方法などについての学びを深めることを目的としている。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
生活科学、健康科学、生活文化、社会福祉の領域における研究手法について理解を深める。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション 竹原
第 2 回　量的研究法　加藤
第 3 回　質的研究法　　佐藤
第 4 回　関連分野における研究動向・研究方法論　　藤原
第 5 回　関連分野における研究動向・研究方法論　　中村
第 6 回　関連分野における研究動向・研究方法論　　牛田
第 7 回　関連分野における研究動向・研究方法論　　三好
第 8 回　関連分野における研究動向・研究方法論　　石井
第 9 回
第 10 回
第 11 回
第 12 回
第 13 回
第 14 回
第 15 回

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
複数教員によるオムニバス形式で行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
各回でとりあげる研究動向、研究手法について、事前に図書館の文献などで予習し知識を持っておくこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
授業への参加度を軸とし講義担当教員が評価する
〔留意事項（Other Information)〕
いずれかの回で、外部講師を招き特別講義を実施する。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
各回授業で適宜資料を配布する
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

生活文化学特論

260011N0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期
木曜 2限
ー
60
中村　久美　牛田　好美　藤原　智子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
生活に関わる文化をヒトとモノ、コトとの相互関係の構築ととらえ、それを歴史や風土、社会的背景の追求から解明することで、よりよい人間の生活のあり方を考えていくものである。本特論ではこの生活文化の諸相を衣生活、食生活、住生活の各側面から明らかにする。現代の衣食住の生活側面を文化の視点で評価し、よりよいあり方について論じることができることを目標とする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
・ 洋服が日本に導入されて以降の、衣文化について考察する。(牛田）
・ 米をテーマに日本型食生活と食文化について考察する。（藤原）
・ 住様式を歴史的、あるいは比較文化の視点から考える。（中村）
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回　衣からみた生活文化論　牛田
第 2 回　衣における日本文化と西洋文化の比較　牛田
第 3 回　20世紀の日本のファッション史　牛田
第 4 回　制服と日本文化　牛田
第 5 回　コスプレと日本文化　牛田
第 6 回　食からみた生活文化論　　藤原
第 7 回　米の歴史　　藤原
第 8 回　米の栄養と調理性　　藤原
第 9 回　飯と食文化　　藤原
第 10 回　酒と食文化　　藤原
第 11 回　住からみた生活文化論　　中村
第 12 回　風土性から読み解く空間論、建築論　　中村
第 13 回　歴史性から読み解く空間論、建築論　　中村
第 14 回　日本の風土と生活様式、住様式　　中村
第 15 回　文化的視点からみた生活様式、住様式　　中村
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
・ゼミ形式で、資料をもとに課題を設定し議論をする。(牛田）
・主に講義形式を取るが、授業の中で予め提示した課題についてはゼミ方式で行う。　（藤原）
・ゼミ形式でテーマにそって資料を読み解きながら議論をする。（中村）
なお、各担当教員からの課題レポートについては評価後、担当者より講評を通知する。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
事前配布の資料や文献指定ページなどには必ず目を通すこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
・授業参加度（50％)、レポート(50％）に基づいて総合的に行う。（牛田）　・授業参加度(40％)、レポート(60％)に基づいて総合的に行う（藤原）　・議論への参加の様子(50％)、レポート(50％)に基づいて総合的に行う（中村）　・ 担当教員３名の評価の平均によって決定する。
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
適宜、授業で資料等、配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

健康生活科学特論

260013N0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期
火曜 3限
ー
60
萩原　暢子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
現代生活に潜む様々な健康関連の問題を取り上げ、専門的な講義や、DVDからの問題点の抽出とディスカッション、レポート発表などで、生活に密着した『健康』への認識を深める。
長寿社会での寝たきり防止のために、骨の健康について詳述する。また、「食」が健康の中心的な位置を占めており、健康食品に潜む危険性についても述べる。最近話題になっている人獣共通感染症や、ヒトが日常的に受ける環境ホルモン、電磁波、放射線などの外的要因を取り上げ、人体への影響について言及する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
１）健康の概念
２）骨と健康
３）食と健康
４）人獣共通感染症
５）環境と健康
６）女性と健康
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	身辺の健康関連の事象に興味がない	身辺の健康関連の事象に興味がある	身辺の健康関連の事象をより深く学ぼうとする	レベル3に加えて学んだ事柄を周囲に発表できる。
知識・理解力	身辺の健康関連の事象を理解できない	身辺の健康関連の事象を理解できる	身辺の健康関連の事象をより深く理解できる	レベル3に加えて理解した内容を広く周囲に発表できる
言語力	身辺の健康関連の事象に使用する言語が理解できない	身辺の健康関連の事象に使用する言語が理解できる	身辺の健康関連の事象に使用する言語をより深く理解できる	レベル3に加えて周辺で必要となる言語も含めて幅広く使用できる
思考・解決力	教えられたこと以上は考えようとしていない	現実の状況に当てはめて考えようとする	現実で起こりうる健康問題を解決できる	現実から発展させて起こりうる健康問題を解決できる
共生・協働する力	他者の意見を参考にしない	他者の意見をしっかり聞いて考える	考えた結果を周囲の人たちと共有する	レベル3に加えて自分の考えを深めようとする
創造・発信力	自分勝手な考えを発信する	自ら周囲の状況を踏まえて自分の考えを発信できる	健康関連の問題を自分で考えそれを発信できる	情報モラルを加味しながら健康関連の問題を自分で考えそれを発信できる

〔授業計画〕
第 1 回　(オリエンテーション、「健康の概念」、「ソーシャルキャピタルについて」)
オリエンテーションを行う。「健康の概念」、「ソーシャルキャピタル」を取り上げて詳述する。
現在の医療体制全般に対する問題点を抽出する。
第 2 回　(前回の問題点発表とディスカッション、骨と健康 Ⅰ)
前回の医療体制全般に対する問題点を発表し、ディスカッションする。また、レポートを提出する。
骨について基本的な知識を詳述する。
第 3 回　(骨と健康 Ⅱ)
骨の測定法、カルシウムの話、骨粗鬆症の話、骨粗鬆症予防の栄養面について詳述する。
第 4 回　(骨と健康 Ⅲ、高齢者と骨折、女性と骨粗鬆症１)
骨粗鬆症予防の運動面、生活環境面について述べる。
高齢者の骨折と、女性の骨粗鬆症について詳述する。
第 5 回　(骨と健康 Ⅳ、女性と骨粗鬆症２、骨粗鬆症の治療と最近のトピックス)
女性の骨粗鬆症について詳述する。骨粗鬆症の治療と最近のトピックスについて詳述する。
第 6 回　(食と健康 Ⅰ)
健康食品について詳述する。また、保健機能食品制度につ述べる。
第 7 回　(食と健康 Ⅱ)
骨粗鬆症と機能性食品との関係について述べる。
アンチエイジングと食について詳述する。
第 8 回　(食と健康 Ⅲ)
「やさしい栄養学」のDVDを見て食の問題点を抽出し、これについてレポートを作成する。
第 9 回　(食と健康 Ⅳ、人獣共通感染症 Ⅰ)
食の問題点を発表し、これについてディスカッションする。発表後レポートを提出する。

人獣共通感染症について総論を述べ、エキノコックス、インフルエンザについて詳述する。
第 10 回　(人獣共通感染症 Ⅱ)
狂牛病、クロイツフェルト・ヤコブ病、クールーについて詳述する。
生物テロでの感染症について述べる。
第 11 回　(内分泌攪乱化学物質 Ⅰ)
内分泌攪乱化学物質の総論を述べる。
合成女性ホルモン、プラスチックの原料や添加物について詳述する。
第 12 回　(内分泌攪乱化学物質 Ⅱ)
界面活性剤の原料と分解生成物、残留有機塩素化合物、船底塗料の活性成分、植物エストロゲンについて詳述する。
第 13 回　(内分泌攪乱化学物質 Ⅲ、放射線と健康)
ダイオキシンの話､「ベトナム戦争　枯葉剤被害 “いまだ癒されない傷あと”」のDVDを鑑賞する。
放射線と健康について詳述する。
第 14 回　(課題発表のための準備)
課題発表のために資料作成などをおこない、最終レポートを作成する。
第 15 回　(課題発表会)
各自が興味のあるテーマを選択し、PCなどを用いて発表する。
それぞれの発表内容について質問し、テーマについてのフィードバックを行う。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
授業は講義形式であるが、問題提起をし意見を求めディスカッションを行う。必要に応じてパワーポイント、DVD、ビデオなど適宜使用して学習効果を高める。
それぞれの発表内容について質問し、解答の根拠など、学生に考えさせることで、テーマについてのフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
授業テーマに関連するテキストや記事を調べて、予備知識を得ておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
40

〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
授業参加度（30%)、提出物・課題のレポート点（70%）

〔留意事項（Other Information)〕
・日常生活の中で環境からの健康被害などへの問題意識を持つ。
・授業でのディスカッションには、積極的に参加すること。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　医師として病院等での診療経験あり。

食生活文化特論

260031N0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期
月曜 3限
ー
60
藤原　智子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
人類は何を食べてきたか、食事にどのような意義を見いだしてきたかを知り、世界の食文化との相対的比較の中で日本人の伝統的な食文化である「和食」の特徴を合理的に説明することができる。また、和食文化が果たしてきた役割を民族学的視点から論じることができる。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
1. 世界各地の食文化を風土や地理、社会や宗教的な背景から考察する。
2. 日本の伝統的な食文化である和食の成り立ちを歴史的に捉え、和食の特徴を日本の風俗・風習とともに理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　世界の食文化（風土・地理と食生活）
第 2 回　世界の食文化（社会・宗教と食生活）
第 3 回　日本の食文化（和食の成り立ちと日本の歴史）
第 4 回　日本の風土と食の思想
第 5 回　年中行事と食
第 6 回　儀式・祭礼と食
第 7 回　和食のしつらえ（食具）
第 8 回　和食のしつらえ（空間）
第 9 回　和食のマナー
第 10 回　日本各地の郷土食（北）
第 11 回　日本各地の郷土食（東）
第 12 回　日本各地の郷土食（西）
第 13 回　日本各地の郷土食（南）
第 14 回　京都の和食文化
第 15 回　世界の食と和食

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
主に講義形式を取るが、授業の中で予め提示した課題についてはゼミ形式で行い、各テーマごとにレポートを課す。さらにレポートをもとにした質疑応答によって理解度を確認する。
参考文献や資料は授業の中で提示、あるいは配付する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
各授業の終わりに次回までに調べてくる課題を与える。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
評価は、授業参加度（30%）、レポート（70%）に基づいて総合的に行う。
〔留意事項（Other Information）〕
授業内で適宜資料を配付し、参考図書を紹介する。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

高齢者食生活特論

260032N0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期
火曜 6限
ー
60
加藤　佐千子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
現代の日本では、高齢化が急速に進んでいる。いかに、健康寿命を保ち、高齢期を充実させるかが国民全体の課題である。そのような中で、高齢者の心身の健康に及ぼす食の影響は大変大きいといえる。そこで、本講義では、高齢期の食生活の在り方が心身に及ぼす影響や生活機能およびQOLとの関連について理解を深めることを目的とする。.
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
・高齢者を正しく理解する。
・高齢者の食生活に関する先行研究を読み、研究のまとめと発表ができる。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	高齢者の食生活に関する知識を理解しようとしない	高齢者の食生活の知識に関心があり、文献をもとに理解している	文献をもとに知識を身につけ、周辺論文も整理できている	欧文論文をもとに知識をつけ、理解を深めている
言語力	与えられた課題をまとめられず、発表もできない	与えられた課題をプレゼンテーションすることができる	課題をさらに発展させて記述し、発表でき、意見も述べることができる。	高齢者の食生活の課題解決に向けて様々な観点から意見を述べられる
思考・解決力	高齢者の食生活について関心がない	高齢者の食に関する問題について考え、解決策を見つけようとしている	高齢者の食に影響を及ぼす要因を整理し、調査計画が立てられる	整理された影響要因をもとに、自身の研究課題に取り組み、解決できる

〔授業計画〕
第 1 回　年をとると何が変わるのか。老化モデルについて
第 2 回　日本型「生きがい」とは何か
第 3 回　元気な高齢者は増加しているのか　高齢者の食パタン，栄養
第 4 回　食事と老化や長寿は関係しているのか
第 5 回　体の変化と生活習慣
第 6 回　食と栄養の生活の質への関連（生活機能）
第 7 回　食と栄養の生活の質への関連（精神機能）
第 8 回　食と栄養の生活の質への関連（共食・外食）
第 9 回　栄養摂取（エネルギー、タンパク質、脂肪、ビタミン、無機質)
食生活指針、食事バランスガイド
第 10 回　発表と討論（身体的要因と食事との関連研究）
第 11 回　発表と討論（精神的要因と食事との関連研究）
第 12 回　発表と討論（社会的要因と食事との関連研究）
第 13 回　高齢者の食物選択動機について
第 14 回　野菜の選択と関連する要因
第 15 回　総合討論
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
・各講義にレポーターを指名する。
・テキストを分担で購読し、発表、議論する。また、収集した関連資料をもとに発表や討論により進める。
・提出レポートはコメント、評価をつけて個々に返却するので、それをもとにさらに学習を深める。
・発表については他の学習者や教員からコメントを行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
指定テキストおよび文献をよく読みまとめてくること。
プレゼンテーションできるようにまとめておくこと
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
評価基準...テキストおよび関連資料をもとに理解を深め、発表できたか。
議論に積極的に参加できたか。

評価方法…レポーターとしての発表50％、レポート40％、議論への参加度10％。
〔留意事項（Other Information）〕
受講者の状況に合わせて、発表日を変更することがある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
『超高齢社会を生きる-老いに寄り添う心理学』/日本心理学会監修/誠心書房/2017/9.784414311181E12/
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
『8割以上の老人は自立している』/柴田博/ビジネス社/2002/4.828409645E9
『食と味嗅覚の人間科学１．食行動の科学』/斉藤幸子・今田純雄監修/朝倉書店/2017/
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

生活デザイン論特論

260036N0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期
木曜 4限
ー
60
中村　久美

〔科目の教育目標（Course Description）〕
　衣食住の諸相や経営、その根底を支える生活思想や精神性、さらには家族や社会との関係性、それらの総体として生活デザインを考える。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
風土や歴史を背景とした住様式の視点から、ヒト、モノ、空間の相互関係を検証することにより、人間生活の基盤となる住生活のあり方、生活デザインの再構築を検討していく。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回　地球環境問題と生活デザインー生活の枠組としての地球環境問題
第 2 回　〃　ー自然との応答性ある住まいと住み方
第 3 回　〃　ー住まいの寿命と生活管理
第 4 回　〃　ーモノの保有と管理
第 5 回　家族のあり方と生活デザインー近代家族の成立と家庭生活
第 6 回　〃　ー家族関係と住生活の問題
第 7 回　〃　ーライフサイクルの変化と住まい
第 8 回　〃　ー世帯の変化と新しい居住のあり方
第 9 回　社会、地域と生活デザインー住環境と地域・生活
第 10 回　〃　ー地域生活とコミュニティ
第 11 回　〃　ー集合住宅の住生活
第 12 回　〃　ー住民参加とまちづくり
第 13 回　福祉文化と生活デザインー居住福祉の考え方
第 14 回　〃　ー地域で描く居住福祉デザイン
第 15 回　〃　ー現代の「生活デザイン」
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
講義とゼミ形式を適宜組み合わせて授業を行う.
課題レポートは最終回までに締め切り、最終回でその講評と課題の解説を行う
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
事前配布の論文、資料を読み込んでくること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
授業参加状況（20％）と課題レポート（80％）で評価する
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
毎回授業で資料等、配布する
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

生活環境学特論

260052N0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期
木曜 3限 木曜 4限
ー
60
竹原　広実

〔科目の教育目標（Course Description）〕
環境心理、環境生理、知覚心理、感性デザインなどの領域を包括した環境工学の見地から、その概念を理解し、基礎知識を習得し、実践的に演習を行うことにより、よりよい空間デザインのありかたについて考察する技法を学ぶ。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
住環境に対する空間評価を環境工学的視点からアプローチする概念、技法を身につける。授業ではまず、熱、光、音、空気などの物理環境要素と人間の感覚、知覚心理との関連についての知識を習得し、データ解析演習を通してその関連性について考察する。
並びに、関連する研究論文を収集し自ら学ぶことを求める。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス
第 2 回　温熱環境の基礎（テキスト購読、発表）
第 3 回　温熱環境に対する生理的反応（テキスト講読、発表）
第 4 回　対象空間に関する講義
第 5 回　温熱環境に関する先行研究（テキスト講読、発表）
第 6 回　温熱環境に関する演習 春調査
第 7 回　温熱環境に関する演習 初夏調査
第 8 回　温熱環境に関する演習 盛夏調査
第 9 回　温熱環境に関する演習 補足追加調査
第 10 回　データ分析演習の概要
第 11 回　データ分析演習（測定データ）
第 12 回　データ分析演習（インタビューデータ）
第 13 回　結果と考察の筋道をたてる
第 14 回　結果と考察の完成
第 15 回　まとめ、発表
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
温熱環境、音環境、光環境、空気環境、色彩環境について理解を深め、それぞれの生理的評価、心理的評価、デザイン展開、基準値・指標について学ぶ。その後、実際の調査データを用いて、データ解析を行うなどの実践的演習を実施し、環境の物理量と人間の感覚心理量との関連について考察を行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
必ず事前知識をえておくこと
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
20
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
授業参加度（３０％）と課題レポート（７０％）
〔留意事項（Other Information）〕
授業は２時間連続で実施する。詳細はガイダンスで説明するので注意するようにしてください。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
『図解住居学５　住まいの環境』//彰国社//
『温熱生理学』//理工社//
『人工環境デザインハンドブック』//丸善株式会社//
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

社会福祉運営管理特論

260054N0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期
火曜 7限
ー
60
三好　明夫

〔科目の教育目標（Course Description）〕
社会福祉運営管理はソーシャル・アドミニストレーションと呼ばれる。社会福祉を合理的かつ効率的に運営、管理するために行われる方法で、サービス提供を行う組織を単位として、運営管理を推し進める援助活動技術である。領域は社会福祉活動領域全般に及ぶが、社会福祉法人と特定非営利活動法人の実践活動を中心に関連援助技術の理解とともに考えていく。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
①社会福祉組織の運営を考察する基本視点を明確にする。②社会福祉組織の特性を理解する。③専門職員の労働意欲の向上について学ぶ。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	社会福祉運営管理を意識できない	社会福祉現場の運営と管理について考える	福祉現場での運営と管理とはどのようなものかと考える	福祉現場の将来を考えるうえでの運営管理を考える

知識・理解力	運営と管理の区別理解ができない	福祉現場での運営と管理の仕組みについて理解できる	運営と管理ついて理解し、経営戦略などについても考えられる	運営管理を理解したうえで今日の福祉現場に必要な経営実践の問題提起ができる
言語力	運営管理における専門用語の理解を行なえない	運営管理を展開するうえでの専門用語を理解する	簡単な運営管理と経営について説明できる	複雑な運営管理と経営について決算などが理解できる
思考・解決力	教えられたこと以上は理解しようとしない	運営管理は民間企業でも必須であることを理解する	社会福祉法人と民間企業が経営する運営管理の違いを説明できる	社会福祉法人と民間企業が経営する運営管理の長所、短所を説明できる
共生・協働する力	他者の意見を参考にせず各種文献も参考にしない	各種文献をもとに運営管理について考えようとする	考えた結果を周囲と共有し、自身も考えを深めていく	レベル3に加えて、運営管理の実践方法を管理者の立場で考える
創造・発信力	自分で勝手に想像した発信を行う	周囲の状況も勘案し自らの考えをふりかえる	近年の福祉現場の運営管理の状況から経営戦略を考える	レベル3に加えて、対人援助技術として成立する要件を整理できる

〔授業計画〕

第 1 回　社会福祉の運営管理1
　　社会福祉運営管理とは何か
第 2 回　社会福祉の運営管理2
　　社会福祉組織の理解
第 3 回　社会福祉の運営管理3
　　社会福祉組織の特性
第 4 回　社会福祉の運営管理4
　　社会福祉組織の専門職
第 5 回　社会福祉の運営管理5
　　社会福祉組織の労働特性
第 6 回　社会福祉の運営管理6
　　社会福祉組織の課題と展望
第 7 回　社会福祉の運営管理7
　　労務管理論、人事管理
第 8 回　社会福祉の運営管理8
　　労務管理論、会計経理
第 9 回　社会福祉の運営管理9
　　労務管理論、労務関係法規
第 10 回　社会福祉の運営管理10
　　ソーシャルワーク・スーパービジョン①　意味
第 11 回　社会福祉の運営管理11
　　ソーシャルワーク・スーパービジョン②　役割
第 12 回　社会福祉の運営管理12
　　ソーシャルワーク・スーパービジョン③　方法
第 13 回　社会福祉の運営管理13
　　コンサルテーション①　意味
第 14 回　社会福祉の運営管理14
　　コンサルテーション②　方法
第 15 回　社会福祉運営管理の総括
　　まとめ　課題と展望

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕

社会福祉運営管理の概念整理を行い、社会福祉機関の現場で出現している課題について議論していく。その後、組織運営の立場で考えながら職員の労働意欲向上について議論していきたい。

課題発表、レポート作成については受講生に十分な説明を行い、レポートの内容についてはフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕

受講希望者は各種社会福祉施設の管理および運営の実際について学んでいくので予備学習として関連する新聞記事や近隣の福祉施設に見学に出かけるなどしておくとよい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total))〕

20

〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕

出席および参加度５０％、課題発表およびレポート提出５０％で総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information)〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

テキストとして必要な書類等は印刷して配布する

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

必要な文献は適宜紹介していく

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ウェルビーイング研究特論

260059N0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
60
鈴木　七美

〔科目の教育目標（Course Description)〕

少子高齢化、格差拡大、グローバル化が進行する現代社会において、人々が関わり合い支え合って生きてゆくうえで、「ウェルビーイング」という言葉が、ますます注目を集

めている。本特論では、「ウェルビーイング」について考えることがどのような意味をもつのか、またいかなる実践に展開する可能性があるのかについて、検討する。ウェルビーイングという語の意味と使われ方の歴史、様々な文化において表現されるウェルビーイング、ウェルビーイングに関わる葛藤を、資料に基づき辿る。これらをとおして、変化の中で、多様なウェルビーイングを志向する人々が、生き方（ウェイ・オブ・ライフ）や生活の質（クォリティ・オブ・ライフ）を問い直し、共生する実践について、考察を深める。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

１．人と社会におけるウェルビーイングの探求
２．ウェルフェアとウェルビーイング
３．文化とウェルビーイング
４．ウェルビーイングと葛藤
５．多様なウェルビーイングと共生

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

第 1 回　イントロダクション—現代社会におけるウェルビーイング
第 2 回　ウェルビーイングの系譜
第 3 回　多様な文化におけるウェルビーイング
第 4 回　ウェルビーイングとケア・癒し
第 5 回　女性のライフコースとウェルビーイング
第 6 回　家族とウェルビーイング
第 7 回　教育とウェルビーイング
第 8 回　ワーク・ライフ・バランスとウェルビーイング
第 9 回　ウェルビーイングとウェルフェア
第 10 回　高齢化する社会におけるウェルビーイング
第 11 回　エイジング・イン・プレイスの探求——心地よい暮らしと「ホーム」
第 12 回　すべての世代を包摂するエイジングフレンドリー・コミュニティ
第 13 回　変化するウェルビーイングを生かす実践
第 14 回　研究発表と討議1
第 15 回　研究発表と討議2

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

講義、発表と討議を組み合わせた授業を行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

授業中に指示する内容（資料確認　発表準備、調査等）について、事前に行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価はレポート、授業中の発表や討議の内容などを加味して総合的に行う。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

『超高齢社会のエイジングフレンドリー・コミュニティ』/鈴木七美/新曜社/2019年/学内販売予定
『高齢者のウェルビーイングとライフデザインの協働』/鈴木七美他編/御茶の水書房/2010年/9784275009029/学内販売予定
『「生活大国」デンマークの福祉政策』/野村武夫/ミネルヴァ書房/2010年/9784623057894/学内販売予定
テキストは、講義中の指示に従い、参照すること。

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕

『The Anthropology of Aging and Well-being』/Suzuki Nanami ed./National Museum of Ethnology/2013/9.784901906982E12
『The Anthropology of Care and Education for Life』/Suzuki Nanami ed./National Museum of Ethnology/2014/9.784906962167E12
『「障害のない社会」にむけて—ウェルビーイングへの問いとノーマライゼーションの実践』/鈴木七美編著/国立民族学博物館/2012/9.784901906883E12
『アーミッシュたちの生き方—エイジ・フレンドリー・コミュニティの探求』/鈴木七美/国立民族学博物館/2017/9.784906962549 C3036
参考文献は、講義中の指示に従い、ダウンロードすること。

〔参考URL(URL for Reference) 〕

アーミッシュたちの生き方
http://doi.org/10.15021/00008452, http://hdl.handle.net/10502/00008451
みんぱくリポジトリからダウンロード可
デンマークにおける「障害のない社会」構想とノーマライゼーション
http://hdl.handle.net/10502/4657
みんぱくリポジトリからダウンロード可
The Anthropology of Aging and Well-being
http://hdl.handle.net/10502/4959
みんぱくリポジトリからダウンロード可
The Anthropology of Care and Education for Life
http://hdl.handle.net/10502/5280
みんぱくリポジトリからダウンロード可

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ソーシャルワーク思想特論

260060N0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期
水曜 3限
ー
60
室田　保夫

〔科目の教育目標（Course Description）〕
１．現代のソーシャルワーク（社会福祉実践）の基盤となっている理念について、その根底にある思想、価値観、歴史的意義などについて理解する。
２．社会福祉事業の思想的意義、歴史的背景や、社会福祉の先覚者の思想についても理解を働きやについても検討し、現状の社会福祉の目指すべき方向やあり方を展望する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．社会福祉思想の歴史的背景、その成立過程
２．現代のソーシャルワーク実践理念の思想的背景について
３．社会福祉の先覚者たちの事業と実践思想
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　授業のオリエンテーション(授業のねらい、授業方法など)
第 2 回　近代日本社会福祉思想の歴史
第 3 回　キリスト教と福祉思想の関係
第 4 回　日本における社会福祉思想の歴史的変遷
第 5 回　石井十次について
第 6 回　石井十次と岡山孤児院
第 7 回　石井十次の実践と思想
第 8 回　留岡幸助について
第 9 回　留岡幸助とキリスト教
第 10 回　留岡幸助と監獄改良運動
第 11 回　留岡幸助と北海道バンド
第 12 回　留岡幸助と家庭学校
第 13 回　留岡幸助と地方改良運動
第 14 回　石井十次と留岡幸助の実践と思想
第 15 回　まとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
１．担当教員の講義によるソーシャルワーク実践思想の理解を深める。
２．各自の研究や実践思想に関する発表とそれにもとづく討議を中心に進める。
３．レポート提出後に適宜指導を行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
関心のある分野で、人間観、社会観、世界観を深く問うように心がけて、世界の思想家の書物に挑戦してください。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
評価は主としてレポートによって行うが、発表や討議の内容を加味して総合的に行う。
〔留意事項（Other Information）〕
１．授業の曜日や時間は履修登録者と担当教員の協議により変更する場合がある。
２．履修登録者数によって各自の発表回数や授業の運営の仕方を変更する場合がある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
授業中に適宜指示する。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業中に適宜指示する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

地域生活支援特論

260061N0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期
木曜 2限
ー
60
酒井　久美子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
社会福祉法の改正により、「地域共生社会の実現」が求められ、改めて地域における助け合いの活動が重視されている。地域における多様な課題解決に向けて、住民同士の助け合い、社会福祉協議会、NPO法人、ボランティア団体等民間組織・団体の活動、公私協働、ソーシャルサポートネットワークの重要性が唱えられ、地域福祉を推進することがこれまで以上に問われている。
そこで本科目では、地域福祉の本来の意義と目的を改めて問い直し、近年の社会福祉政策における地域福祉の位置づけ、地域福祉の実践活動について検討し、誰もが安全に安心して暮らせる地域づくりについて何が必要なのか議論する。
以上を通して、地域福祉の本質の理解と、地域生活を支援する専門職に求められる専門的視点の修得を目指す。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．地域福祉の理念、理論、歴史的変遷について理解する。
２．地域福祉の概要、意義を理解する。
３．地域活動、地域支援の現状を知り、今後さらに求められる地域活動、地域支援について議論する。

４．地域活動を発展させるために必要な専門的支援について検討する。
５．現代社会における公私協働のあり方について検討する。
６．授業最終日に、フィードバックをおこなう。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　地域福祉とは何か・何故「地域福祉」が必要か
第 3 回　地域福祉の理念
第 4 回　地域福祉の理論
第 5 回　諸外国における地域福祉の歴史的変遷１－イギリス－
第 6 回　諸外国における地域福祉の歴史的変遷２－アメリカ及びその他の国々－
第 7 回　日本における地域福祉の歴史的変遷１－戦前～1960年代－
第 8 回　日本における地域福祉の歴史的変遷２－1970年代～現在－
第 9 回　地域における多様な生活、福祉課題について
第 10 回　地域支援の現状と課題について
第 11 回　社会福祉協議会の事業内容について
第 12 回　社会福祉協議会の現状と課題について
第 13 回　日常生活自立支援事業の特徴と実態
第 14 回　安全、安心の地域づくりについて
第 15 回　総括
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
１．地域福祉に関する基礎的な理論、各種法制度の変遷等の基本事項について、資料や文献講読によって理解する。
２．授業計画のテーマに応じて、発表とディスカッションをおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
地域に暮らす多様な人々がどのような生活問題、福祉課題を抱えて暮らしているのか、また、その解決に向けてどのような取り組みがあるのかなどについて、情報収集しておくこと。
児童、高齢、障がい、生活困窮者等さまざまな福祉領域に関する著書、論文を読み、専門的知識について理解しておくこと。
地域福祉推進の中核組織である社会福祉協議会について理解しておくこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
15
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
　授業での報告内容、ディスカッションへの貢献度、最後に課すレポート課題で総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫
自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画（活動計画）策定委員等の経験あり

精神保健福祉特論

260063N0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期
月曜 6限
ー
60
佐藤　純

〔科目の教育目標（Course Description)〕
　精神の「障害」は、病状等に伴い変動しやすく、しかも支援サービスの不足や周囲の誤解や偏見により、地域であたりまえの生活を送ることを困難にさせる。そしてその支援には、様々な分野の専門職と協働するチームアプローチが必要となる。
　この科目では、精神に「障害」のある人たちやその家族への支援技術やその技術の基盤となる理念や価値、そしてその技術について考えていく。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
精神に「障害」のある人への生活支援のあり方を理解し、実践する力をつける
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション・精神保健福祉とは
第 2 回　精神「障害」論 精神疾患とは
第 3 回　精神「障害」論 疾患と障害
第 4 回　精神「障害」論 リハビリテーション
第 5 回　精神保健福祉面接技術　面接とは何か
第 6 回　精神保健福祉面接技術　解決志向アプローチ工夫と例外
第 7 回　精神保健福祉面接技術　解決志向アプローチスケーリングクエスチョン
第 8 回　精神保健福祉面接技術　解決志向アプローチ目標の共有
第 9 回　精神障害者家族の理解と対応 これまでの家族支援
第 10 回　精神障害者家族の理解と対応　家族をどうとらえるか

第 11 回　精神障害者家族の理解と対応　何をすることが家族の支援になるのか
第 12 回　精神障害者家族の理解と対応　家族の人生を支援する
第 13 回　我が国の精神保健医療福祉の課題 未治療・医療中断へのアプローチ
第 14 回　我が国の精神保健医療福祉の課題 重い精神障害のある人への支援
第 15 回　まとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
講義及び演習。授業中口頭で適宜フィートバックをする。レポートは採点し、返却して、適宜指導する。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
事前に前の授業で示された文献・書籍等を読み、自分なりの考えをまとめておくこと
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
授業参加度50点、最終レポート50点
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
なし
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業中に紹介する
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　精神保健福祉士として行政での勤務経験あり。

老年健康学特論

260114N0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期
水曜 7限
ー
60
新屋　久幸

〔科目の教育目標（Course Description）〕
私たちは今日も成長し、老化し、老年に向かっている。老年期にいたるまでの経過、老化にともなう健康上の問題、終末期を含む社会的な諸問題について、ともに学修し、考えていきたい。
1.老年期にいたるまでの発達や老化の問題・課題について理解し、生活や福祉分野での活動に応用できる
2.老化にともなう心身の変化の特徴と対応を理解し対応できる
3.高齢者に多い症状や疾病の特徴を理解し、支援、援助や問題解決への対応ができる
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
自分が経験してきた成長・老化、身近な高齢者などを念頭に、自分の問題としても、自分が老年になったつもりで想像力を働かせ、理解を深め、考えていきたい。予習必須、資料等の充分な読み込みを前提に、受講者主導のかたちで進めていきたい。
1.老年期にいたるまでの発達と老化について
2.高齢者の身体的・心理的・社会的特徴について
3.高齢者と社会システム、医療保険制度、介護保険制度、保健医療福祉施設
4.高齢者とその家族の抱える問題や課題
5.高齢者のQOLと倫理的課題
6.終末期医療・介護とケア
7.健康寿命の延伸と老化予防
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　はじめに ～ 発達と老化
第 2 回　高齢者とは ～ 特徴と理解
第 3 回　高齢者にとっての健康
第 4 回　高齢者をとりまく社会 ～ 生活と家族
第 5 回　高齢者をとりまく社会 ～ 支える制度
第 6 回　高齢者をとりまく社会 ～ 地域包括ケア
第 7 回　長期療養施設と在宅療養
第 8 回　高齢者医療・看護・介護の基本 ～ 社会資源
第 9 回　高齢者医療・看護・介護の基本 ～ 倫理
第 10 回　高齢者医療・看護・介護の基本 ～ よくみられる疾患とリスクマネジメント
第 11 回　高齢者のヘルスプロモーション ～ 健康づくり
第 12 回　高齢者のヘルスプロモーション ～ 疾病の予防と運動器の機能向上
第 13 回　高齢者の生活を支える ～ コミュニケーション、衣食住
第 14 回　高齢者の生活を支える ～ 社会参加
第 15 回　終末期医療・療養とケア
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
講義中に提示する課題に対し、レポートの提出をお願いします
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
毎回のテーマに対して以下のように展開する。予習を前提に、能動的、相互的な展開を志向する。
1.講義と解説、ディスカッション
2.テーマに対して受講生のプレゼンテーション・質疑 ～ ディスカッション
3.プレゼンテーションまたは事例検討に対するディスカッション、グループワーク

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
予習、プレゼンテーションの場合は資料作成、前回の復習。課題レポートがある場合は論考、論述。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
成績評価の割合は、授業参加度・態度、受講生間の相互評価を50%、課題レポートを50%と按分し、合算し評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
授業予定・内容の変更の可能性もあります。授業に対する問い合わせは、研究室または電子メールにて。参考文献、URL、参考資料等も、必要に応じ授業内で紹介、配布いたします。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
『老年看護学①　高齢者の健康と障害』/堀内ふき、他/メディカ出版/2016/9.78484045379E12/学内販売予定
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
『家族のためのユマニチュード』/本田美和子/誠文堂新光社/2018/4416518730
『いつか罹る病気に備える本』/塚崎朝子/講談社/2012/9.784062577946E12
『老年医学テキスト』/日本老年医学会編/メジカルビュー社/2008/9.784758304757E12
『老年学に学ぶ』/山本思外里/角川学芸出版/2008/9.78404621261E12
『超高齢社会の基礎知識』/鈴木隆雄/講談社/2012/9.784062881388E12
『高齢者医療の倫理』/橋本　肇/中央法規/2000/4.805819596E9

〔参考URL(URL for Reference) 〕
生命科学教育シェアリンググループ
http://physiology1.org/
人体の解剖生理学について

〔実務経験のある教員による実践的科目〕
医師として行政職や病院運営、医療の経験をもち、現在も地域保健・福祉・医療の実践中。

地域居住学特論

260117N0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　集中
その他
ー
60
中山　徹

〔科目の教育目標（Course Description）〕
地域居住学では、日本のまちづくりについての全般的な理論、現実を学ぶ。また、海外事例の学び、日本の現状を相対的にとらえる。後半は現地見学に行き、授業で紹介した事例を実際に見るとこで理解を深める。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
（1）まちづくりを社会的な視点からとらえるようにする。（2）日本の状況だけでなく、海外の傾向も理解できる。（3）これからのまちづくりを考える上で、典型的な地域を訪問し、今後のあり方を具体的に考えることができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　まちづくりの基本方向
第 2 回　日本のまちづくりの特徴と問題点
第 3 回　人口減少時代のまちづくり
第 4 回　少子高齢化時代のまちづくり
第 5 回　ヨーロッパのまちづくり
第 6 回　アメリカのまちづくり
第 7 回　アジアのまちづくり
第 8 回　国際的に見たまちづくりの傾向
第 9 回　現地見学会(大阪市内、空堀地区、町家再生地区)
第 10 回　現地見学会(大阪市内、鶴橋地区、鶴橋商店街地区)
第 11 回　現地見学会(大阪市内、東成地区、戦前長屋地区)
第 12 回　現地見学会(大阪市内、浪速地区、伝統的商業地区)
第 13 回　現地見学会(奈良県、今井町、伝統的建造物群保存地区)
第 14 回　現地見学会(奈良県、ならまち、景観形成地区)
第 15 回　現地見学会(奈良県、奈良中心市街地活性化地区)
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
集中講義で行う。前半の2日間は講義である(4コマ×2日)。パワーポイントなどを使って授業を進める。後半の2日間は現地見学会とする(4コマ×2日)。見学先は、大阪市内と奈良県を予定している。ただし、受講生と相談し、講義を1日・

見学を3日、もしくは講義を3日・見学を1日など、受講生の希望に対応する。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
1日目の講義終了時に、見学先の具体的な情報を提供する。その上で、Webサイトなどを活用して、①その地域の状況、②歴史的な経緯、③現在抱えている課題、④今後の展望などをあらかじめ調べておく。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
15
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
　講義中の発言に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
夏休み期間の4日間で集中講義を行う
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
特になし
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業中に紹介する
〔参考URL(URL for Reference) 〕

シラバスPDF
http://www.tamekuni.co.jp/notredame/h22/26011771.pdf
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ実習

260119A0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期
金曜 5限
ー
30
佐藤　純　石井　浩子　三好　明夫

〔科目の教育目標（Course Description）〕
本実習では、ソーシャルワーク特論等において習得した知識・技術・価値観を実際の場面で深め、より高度な専門的援助の展開を可能にすることを目標とする。各学生は実習先、実習テーマを含めた実習計画を教員と相談の上事前に決定する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
本実習では、下記のことを実習を通じて習得する。
１．各自が選択した分野におけるソーシャルワークの実際についての理解
２．各自が選択した現場の仕事内容・職員構成・連携についての理解
３．援助者としての自己覚知に関する理解
４．高度な専門的直接援助・間接援助技術の理解
５．利用者へのサービスの有効性に関する評価方法の理解
６．実習生自身の高度な専門的訓練
７．援助者の倫理に関する理解
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
各学生は実習先、実習テーマを含めた実習計画を教員と相談の上事前に実習先を決定する。学生の希望する実習先に応じて担当する教員が異なる。担当する教員は実習指導の事前指導・実習中指導・実習事後指導のすべてを担当指導する。
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
実習の前に事前指導を行う。実習生は実習期間中に現場指導担当職員と教員からのスーパービジョンを、また教員から事後指導を受ける。適宜口頭で指導する。実習報告レポートについては返却し、授業中に適宜フィードバックを行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
授業・実習先で示された文献・書籍等を熟読し、実習に臨むこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
成績評価は、実習施設の実習担当指導者と本実習担当教員の連携指導のもとに、総合評価する。その内訳は以下の通りである：
１実習受け入れ先のスーパーバイザーによる評価基準に基づく評価40％
②担当教員による事前・事後指導および実習中のスーパービジョンにおける評価40％
③実習報告レポート20％
〔留意事項（Other Information）〕
本実習科目を履修する条件は以下のとおりである：
１）原則として、学部等で、社会福祉士、精神保健福祉士、あるいは保育士の現場実習を履修した者
２）社会福祉運営管理特論、子どもの健康福祉特論、精神保健福祉特論の何れかを受講していること（もちろんソーシャルワーク実習と同時に履修することも可能）
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
なし
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業中に示す。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
授業中に示す。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫三好明夫：実務経験あり　社会福祉士として高齢者福祉施設での勤務経験あり
佐藤純　　精神保健福祉士として行政での勤務経験あり。
石井浩子：　有資格者として保育園での勤務経験あり

児童問題特論

260121N0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期
金曜 5限
ー
60
桐野　由美子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
本科目ではまず、昨今の多々の児童問題について分析する。その過程で児童家庭ソーシャルワーカーの立場から、子どもと家族のダイナミクス・他専門職の治療計画への貢献・ケースマネジメント／アドボカシーの重要性を理解する。また、ソーシャルワーカーの、家族のモーティベーター・評価者・政策実施者・ケースマネージャー・地域ネットワーカー・法律関係連絡係としての役割を理解し、現場での応用策を考察する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
(1) 日本・諸外国における昨今の児童問題の理解
(2) 児童問題に対するソーシャルワークの理解
(3) 児童家庭ソーシャルワーカーの役割の分析
(4) 児童問題に関する事例検討
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　子どもと家族のウェルビーイングの定義
第 3 回　エコロジカルアプローチ
第 4 回　エンパワメントとストレングス
第 5 回　パーマネンシープランニング
第 6 回　子育て不安を抱える家族への支援
第 7 回　児童虐待のダイナミックス
第 8 回　児童虐待の問題を抱える家族への第２次予防
第 9 回　児童虐待の問題を抱える家族への第３次予防
第 10 回　ドメスティックバイオレンスの問題を抱える家族と子どもへの援助方法
第 11 回　いじめ・不登校・ひきこもりの問題を抱える子どもと家族への援助方法
第 12 回　非行の問題を抱える子どもと家族への援助方法
第 13 回　障がいを持つ子どもと家族の抱える問題の分析と援助方法
第 14 回　今後の子どもと家族へのソーシャルワークの展望
第 15 回　各学生が自らのテーマで書き上げたペーパー発表とクラス・ディスカッション
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
(1) 授業方法：
講義と演習を組み合わせた形式で授業を進める。授業終了時に受講生は各自の関心に合わせて最終ペーパー（3000～4000字程度）を完成する。フィードバックとして最終ペーパーを返却し解説する。
(2) 学習方法：
① 事前に用意された参考文献に関して、授業予定に従って学習を行い、授業での議論に備えておく。
② 現場での対応策を自ら試みるため、ロールプレイを行う。
③ 授業に平行して、担当教員と相談しながら、自分で選んだ児童問題のテーマに関する参考文献を選び、最終ペーパーの用意を主体的に行う。
(3) 教材：
議論の具体的課題を含む参考文献は必要に応じてプリント教材として配布する。ビデオ教材も適宜使用する。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
準備学習の詳細は授業中に説明するが、与えられたテーマに関する文献収集・分析をし、そのテーマに関する自らの考えをまとめる作業をする。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
40
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
①授業参加度と課題発表 (60%)、②最終ペーパー(40%)を総合評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
『The Child Welfare Challenge: Policy, Practice, and Research　Third Edition』/Peter J. Pecora, et.al./Aldine Transaction/2010/9.780202363141E12
授業時に適宜指示
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫児童問題特論などの科目について

子どもと家族のソーシャルワーカーとして米国公的機関での勤務経験あり。

子どもの発達心理学特論

260134N0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期
火曜 5限
ー
60
畠山　寛

〔科目の教育目標（Course Description）〕
発達に関する基礎的理解をもとに，身体機能，精神機能の諸領域の発達の過程について理解する。さらに，発達に関する諸問題や発達支援の在り方など，文献や資料をもとに理解する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．発達心理学の基礎的理論について理解する
２．定型発達の過程について理解する。
３．発達に関する諸問題について理解する。
４．発達支援の在り方について理解する。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　こどもの発達心理学特論とは？：発達心理学について
第 2 回　発達に関する基礎的理解
第 3 回　身体・運動発達
第 4 回　認知の発達
第 5 回　言葉の発達
第 6 回　愛着の発達
第 7 回　自己の発達
第 8 回　社会性の発達
第 9 回　道徳性の発達
第 10 回　青年期の発達
第 11 回　最近の研究の紹介①：認知系の研究
第 12 回　最近の研究の紹介②：社会性に関する研究
第 13 回　最近の研究の紹介③：
第 14 回　発達支援について①
第 15 回　発達支援について②
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
発達心理学の基礎的理論，発達の過程，発達に関する諸問題，発達支援の在り方について，資料や文献購読を行いながら理解する。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
各授業の終わりにおいて，「次週に向けての課題」を告知する。その課題を行うことで，準備学習とする。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
レポート70％，及び，各授業で求める課題等30％として評価を行う。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
・特になし
・適宜，プリントを配布する
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
・授業内で適宜紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

プロジェクト課題研究

260152N0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
6単位　集中
その他
ー
180
必修
萩原　暢子　加藤　佐千子　中村　久美　酒井　久美子　竹原　広実　佐藤　純　畠山　寛　石井　浩子　三好　明夫　牛田　好美　矢島　雅子　植田　恵理子　藤原　智子　青木　加奈子　安川　涼子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
この科目は、学生が生活福祉文化学の各領域の枠を払ったいくつかの 「プロジェクトチーム」 のひとつに参加してプロジェクト学習方式(Project Based Learning)を学ぶ演習科目である。これにより学生と教員の関心が実践的な課題によって結ばれ、学生のより主体的な学修を促すことができる。生活福祉文化学という実践科学は現場の問題解決志向性とその理論的・方法的基礎づけという２方向により成り立つ。この２方向の志向性を現実化するのが 「プロジェクト課題研究」 である。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
(1) プロジェクト課題研究の意義と目的 (2) プロジェクト課題研究の方法
(3) プロジェクト課題研究の課題設定 (4) 研究チームの結成
(5) 研究の進行管理 (6) 研究報告
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	プロジェクト課題研究がイメージできない	プロジェクト課題研究がイメージできる	プロジェクト課題研究をより深くイメージして現実に当	L3に加えて研究結果を周囲に発表できる

			てはめられる	
知識・理解力	プロジェクト課題研究の意味が理解できない	プロジェクト課題研究の意味が理解できる	プロジェクト課題研究でさらに知識を伸ばし、より深く理解し、積極的に広く興味がわいてくる	L3に加えて研究に関する知識を広く理解し発展させようとする
言語力	プロジェクト課題研究の意味や使用言語が理解できない	プロジェクト課題研究の意味が理解できる	現状に当てはめより深く掘り下げて考えようとする	L3に加えてプロジェクト課題研究の周辺で使用される言語も含めて広く知識を広めようとする
思考・解決力	教えられたこと以上は考えようとしない	現実の状況に当てはめて考えようとする	プロジェクト課題研究と周辺領域の使用言語を理解できる	L3に加えて関連用語を駆使し研究を発表できる
共生・協働する力	他者の意見を参考にしない	他者の意見をしっかり聞いて考える	考えた結果を周囲の人達と共有する	L3に加えて得られた結果についてさらに自分の考えを深めようとする
創造・発信力	自分勝手な考えを発信する	自ら周囲の状況を踏まえて自分の考えを発信できる	新しいアイデアを組み込んで研究を進めることができる	L3に加えて研究を進めて周囲に発信できる

〔授業計画〕

第 1 回 (履修登録、科目の説明)
履修登録および科目の説明を行う（担当：萩原）

第 2 回 (プロジェクト課題研究の意義と目的)
プロジェクト課題研究の意義と目的について詳述する。（担当：萩原）

第 3 回 (研究倫理について)
研究倫理については、例年、研究倫理委員会主催で、大学院生・教員向けの講座が開かれるので、院生が授業の一環として参加する。(担当：佐藤)

第 4 回 (プロジェクト課題研究の方法①研究課題の決定)
各自の興味関心を探る（担当：萩原）

第 5 回 (プロジェクト課題研究の方法②研究課題の決定)
共通するテーマを見つける（担当：萩原）

第 6 回 (プロジェクト課題研究の課題設定)
プロジェクト課題研究の課題を設定する（担当：萩原）

第 7 回 (発表および質疑応答の方法)
発表および質疑応答の方法を学ぶ（担当：全員）

第 8 回 (プロジェクト課題研究の構想発表とチームの結成)
プロジェクト課題研究の構想発表とチームの結成を行う（担当：全員）

第 9 回 (プロジェクトチームによる検討会①)
テーマ・研究方法について検討する（担当：チームに選抜された教員）

第 10 回 (プロジェクト課題研究中間発表会)
プロジェクト課題研究中間発表会を行う（担当：全員）

第 11 回 (プロジェクトチームによる検討会②)
具体的な内容に踏み込んで対策を検討する（担当：チームに選抜された教員）

第 12 回 (プロジェクトチームによる検討会③)
結果について検討する（担当：チームに選抜された教員）

第 13 回 (プロジェクトチームによる検討会④)
最終発表の準備をする（担当：チームに選抜された教員）

第 14 回 (プロジェクト課題研究発表会)
プロジェクト課題研究発表会を行う（担当：全員）

第 15 回 (研究およびプレゼンテーションの省察)
研究およびプレゼンテーションの省察を行う（担当：全員）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕

(1) 学生が研究課題に取り組むチームを立ち上げる。 (2) 各チームに指導担当教員を置く。
(3) 前期は主として課題設定、後期は課題研究を行う。
(4) 前期１回、後期２回 研究集会を開催し、課題の紹介、中間発表、研究発表等を行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕

毎回、授業の中で行われるディスカッションに注目し、話題となっている内容について、把握するように努めること。具体的には、関連著書や論文、インターネットなどを駆使し、新しい情報を得るようにする。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

90

〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕

研究発表の状況及び研究終了後に提出するプロジェクト課題レポートにより評価する。
1.3回の発表について：内容、質疑応答について （各10%、合計30%）
2.課題レポートの評価基準：内容（構成を含む)、論述の仕方、引用文献の取り扱い方 （60%）
3.態度・取り組み度・成長度について （10%）

〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫
社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員のオムニバスで運営している。

特別研究Ⅰ

260155A0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
60
必修
青木　加奈子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解する。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究Ⅰ

260155B0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
60
必修
石井　浩子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

修士論文作成に向けて、以下の観点について理解する。

(1) 研究の社会的意義の明確化

(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方

(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方

(4) 研究における倫理的配慮

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

45

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究Ⅰ

260155C0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
60
必修
植田　恵理子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

修士論文作成に向けて、以下の観点について理解する。

(1) 研究の社会的意義の明確化

(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方

(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方

(4) 研究における倫理的配慮

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫

特別研究Ⅰ

260155D0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
60
必修
牛田　好美

〔科目の教育目標（Course Description）〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解する。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究Ⅰ

260155E0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
60
必修
加藤　佐千子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解する。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究Ⅰ

260155G0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
60
必修
酒井　久美子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解する。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究Ⅰ

260155H0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
60
必修
佐藤　純

〔科目の教育目標（Course Description)〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解する。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　精神保健福祉士として行政での勤務経験あり。

特別研究Ⅰ

260155I0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
60
必修
竹原　広実

〔科目の教育目標（Course Description)〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解する。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究Ⅰ

260155J0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
60
必修
中村　久美

〔科目の教育目標（Course Description)〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合

的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解する。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究Ⅰ

260155K0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
60
必修
萩原　暢子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解する。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total))〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　医師として病院等での診療経験あり。

特別研究Ⅰ

260155L0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
60
必修
畠山　寛

〔科目の教育目標（Course Description)〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解する。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total))〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究Ⅰ

260155M0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
60
必修
藤原　智子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解する。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究Ⅰ

260155N0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
60
必修
三好　明夫

〔科目の教育目標（Course Description）〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解する。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮

〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究Ⅰ

260155O0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
60
必修
矢島　雅子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解する。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究 I

260155P0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
60
必修
安川　涼子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解する。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究 II

260156A0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
60
必修
青木　加奈子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専

門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深める。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference)〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究Ⅱ

260156B0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
60
必修
石井　浩子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深める。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
　研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究 II

260156C0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
60
必修
植田　恵理子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
　生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
　そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深める。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
　本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
　研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
　指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
　２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
　研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
　研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫

特別研究 II

260156D0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
60
必修
牛田　好美

〔科目の教育目標（Course Description）〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深める。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究 II

260156E0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
60
必修
加藤　佐千子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深める。
(1) 研究の社会的意義の明確化

(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究 II

260156G0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
60
必修
酒井　久美子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深める。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
　研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究 II

260156H0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
60
必修
佐藤　純

〔科目の教育目標（Course Description）〕
　生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
　そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深める。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
　本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
　研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
　指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
　２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
　研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
　研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　精神保健福祉士として行政での勤務経験あり。

特別研究 II

260156I0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
60
必修
竹原　広実

〔科目の教育目標（Course Description）〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深める。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究 II

260156J0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
60
必修
中村　久美

〔科目の教育目標（Course Description）〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深める。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究 II

260156K0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
60
必修
萩原　暢子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深める。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total))〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　医師として病院等での診療経験あり。

特別研究 II

260156L0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
60
必修
畠山　寛

〔科目の教育目標（Course Description)〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深める。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total))〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究 II

260156M0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
60
必修
藤原　智子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深める。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究 II

260156N0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
60
必修
三好　明夫

〔科目の教育目標（Course Description）〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深める。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮

〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究 II

260156O0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
60
必修
矢島　雅子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深める。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究 II

260156P0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
60
必修
安川　涼子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深める。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究 III

260157A0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
60
必修
青木　加奈子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専

門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点を理解したうえで自己の研究に活かす
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference)〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究Ⅲ

260157B0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
60
必修
石井　浩子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点を理解したうえで自己の研究に活かす
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
　研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究III

260157C0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
60
必修
植田　恵理子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
　生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
　そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点を理解したうえで自己の研究に活かす
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
　本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
　研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
　指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
　２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
　研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
　研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫

特別研究Ⅲ

260157D0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
60
必修
牛田　好美

〔科目の教育目標（Course Description）〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点を理解したうえで自己の研究に活かす
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究Ⅲ

260157E0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
60
必修
加藤　佐千子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点を理解したうえで自己の研究に活かす
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference)〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究Ⅲ

260157G0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
60
必修
酒井　久美子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点を理解したうえで自己の研究に活かす
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
　研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究III

260157H0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
60
必修
佐藤　純

〔科目の教育目標（Course Description）〕
　生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
　そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点を理解したうえで自己の研究に活かす
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
　本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
　研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
　指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
　２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
　研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
　研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　精神保健福祉士として行政での勤務経験あり。

特別研究Ⅲ

260157I0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
60
必修
竹原　広実

〔科目の教育目標（Course Description）〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点を理解したうえで自己の研究に活かす
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究Ⅲ

260157J0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
60
必修
中村　久美

〔科目の教育目標（Course Description）〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点を理解したうえで自己の研究に活かす
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕

本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information)〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究Ⅲ

260157K0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
60
必修
萩原　暢子

〔科目の教育目標（Course Description)〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕

修士論文作成に向けて、以下の観点を理解したうえで自己の研究に活かす

(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference)〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　医師として病院等での診療経験あり。

特別研究Ⅲ

260157L0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
60
必修
畠山　寛

〔科目の教育目標（Course Description）〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点を理解したうえで自己の研究に活かす
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究III

260157M0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
60
必修
藤原　智子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
修士論文作成に向けて、以下の観点を理解したうえで自己の研究に活かす
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究III

260157N0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
60
必修
三好　明夫

〔科目の教育目標（Course Description)〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
修士論文作成に向けて、以下の観点を理解したうえで自己の研究に活かす
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方

(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究Ⅲ

260157O0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
60
必修
矢島　雅子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点を理解したうえで自己の研究に活かす
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあって

は、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
　研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
　研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究III

260157P0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
60
必修
安川　涼子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
　生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
　そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点を理解したうえで自己の研究に活かす
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
　本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
　研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
　指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
　２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
　研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
　研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレヴュー等をすすめること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究Ⅳ

260158A0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
60
必修
青木　加奈子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深め自己の研究に応用する。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究等のレヴューを行うこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究Ⅳ

260158B0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
60
必修
石井　浩子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深め自己の研究に応用する。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮

〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究等のレヴューを行うこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究Ⅳ

260158C0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
60
必修
植田　恵理子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深め自己の研究に応用する。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究等のレヴューを行うこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫

特別研究Ⅳ

260158D0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
60
必修
牛田　好美

〔科目の教育目標（Course Description）〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深め自己の研究に応用する。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究等のレヴューを行うこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究Ⅳ

260158E0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
60
必修
加藤　佐千子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深め自己の研究に応用する。

(1) 研究の社会的意義の明確化

(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方

(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方

(4) 研究における倫理的配慮

〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究等のレヴューを行うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

45

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究Ⅳ

260158G0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
60
必修
酒井　久美子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深め自己の研究に応用する。

(1) 研究の社会的意義の明確化

(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方

(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方

(4) 研究における倫理的配慮

〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
　研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究等のレヴューを行うこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究Ⅳ

260158H0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
60
必修
佐藤　純

〔科目の教育目標（Course Description）〕
　生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
　そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深め自己の研究に応用する。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
　本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
　研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
　指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
　２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
　研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
　研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究等のレヴューを行うこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　精神保健福祉士として行政での勤務経験あり。

特別研究Ⅳ

260158I0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
60
必修
竹原　広実

〔科目の教育目標（Course Description）〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深め自己の研究に応用する。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究等のレヴューを行うこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究Ⅳ

260158J0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
60
必修
中村　久美

〔科目の教育目標（Course Description）〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深め自己の研究に応用する。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕

本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究等のレヴューを行うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information)〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究Ⅳ

260158K0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
60
必修
萩原　暢子

〔科目の教育目標（Course Description)〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕

修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深め自己の研究に応用する。

(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究等のレヴューを行うこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference)〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　医師として病院等での診療経験あり。

特別研究Ⅳ

260158L0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
60
必修
畠山　寛

〔科目の教育目標（Course Description）〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深め自己の研究に応用する。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究等のレヴューを行うこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究Ⅳ

260158M0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
60
必修
藤原　智子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深め自己の研究に応用する。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究等のレヴューを行うこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究Ⅳ

260158N0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
60
必修
三好　明夫

〔科目の教育目標（Course Description)〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深め自己の研究に応用する。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方

(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究等のレヴューを行うこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究Ⅳ

260158O0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
60
必修
矢島　雅子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深め自己の研究に応用する。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあって

は、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
　研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
　研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究等のレヴューを行うこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究Ⅳ

260158P0J
大学
人間文化研究科 ＞ 生活福祉文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
60
必修
安川　涼子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
　生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。
　そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深め自己の研究に応用する。
(1) 研究の社会的意義の明確化
(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
(4) 研究における倫理的配慮
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
　本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。
　研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。
　指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。
　２年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。
　研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
　研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究等のレヴューを行うこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

文化学研究方法論

280014N0J
大学
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　前期
火曜 2限
ー
60
必修
鷲見　朗子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
本科目の目標は、大学院において修士論文を書くための明確な理念をたて、必要な心構えと作法を学び、しっかりとした方法論を構築することである。そのことにより、各自が論文の基本構想を組み立て、それに沿って大学院における研究成果としての修士論文を書き上げられるようにする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
1.問題提起
2.論文の内容・形式
3.先行研究の調査・整理の意義
4.方法論の選択と確立
5.結果・成果のまとめ
6.引用・参考文献の重要性
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
第 2 回　指導教員、指導教員との関係性
第 3 回　論文テーマの選び方、問題意識
第 4 回　先行研究の調査、検索、収集の重要性と実践
第 5 回　収集文献の整理
第 6 回　方法論1
第 7 回　方法論2（社会学　ゲスト・スピーカー）
第 8 回　方法論3（人文学　ゲスト・スピーカー）
第 9 回　論文の基本コンセプト発表・議論　第１段階
第 10 回　論文の形式
第 11 回　論文の表現
第 12 回　プレゼンテーションの方法
第 13 回　中間の研究経過報告に求められる内容
第 14 回　論文の基本コンセプト発表・議論　第２段階
第 15 回　論文の執筆計画とまとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
・講義
・論文読解
・オンライン検索
・資料収集
・発表
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
・文献読解
・読解したものの要約
・発表用のレジュメ作成
・発表用のパワーポイント資料作成
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
・レポート（50%）
・発表（30%）
・授業参加・課題（20%）
〔留意事項（Other Information）〕
研究分野別の視点から方法、先行研究、書誌情報、あるいは分野の特殊なアカデミックな姿勢などについての導入を行うため、ほかの教員がゲストスピーカーとして参加することもある。また、外部講師による授業やワークショップを行ったり、授業で学外フィールドワークへ出かけたりすることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
特定のテキストは使用しないが、授業で配布する資料などでそれに代える。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
特になし。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

文化学研究実践論

280015N0J
大学
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　後期
火曜 3限
ー
60
鎌田　均

〔科目の教育目標（Course Description）〕
この授業では、研究方法や研究発表の方法について学び、それをもとに自分でも研究発表をしてみることによって、研究を進めていく上での適切なプロセスを身につける。そして、M1の１月に実施される「構想発表会」を成功させることを目標とする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．自分の研究に適した研究方法を見つける。
２．他の人の研究発表から、適切な研究方法や効果的な研究発表の方法を学ぶ。
３．よりよい形での研究発表を実践する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　前期の「研究方法論」の授業内容の復習
第 2 回　論文テーマの発表（各自）とその研究方法に関する議論
第 3 回　研究テーマと研究発表方法の関連について整理（サンプル論文利用）
第 4 回　自分が選んだ文献の紹介(1)図書
第 5 回　自分が選んだ文献の紹介(2)論文
第 6 回　自分が研究発表する可能性のある「学会・研究会」の種類の調査と報告
第 7 回　自分の研究分野に関する「学会・研究会」の参加報告
第 8 回　授業内における模擬研究発表(1)導入
第 9 回　授業内における模擬研究発表(2)運用
第 10 回　授業内における模擬研究発表(3)応用
第 11 回　「学会・研究会」での研究発表(1)導入
第 12 回　「学会・研究会」での研究発表(2)応用
第 13 回　各自の修士論文に関する研究方法の決定と具体的な作業予定の確定
第 14 回　修士論文の構想発表会の実施
第 15 回　構想発表会の報告とこれからの見通しを発表（その内容は、この授業の最終レポートとして提出すること）
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
授業時の議論、研究発表を組み合わせて行う。発表に対するフィードバックは発表時の質疑応答において行い、レポートへのフィードバックは提出後学生に口頭で行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
毎回の授業の講義対象となるテキストのページを事前に伝えるので、その部分を熟読し、質問内容を考えた上で、授業に参加することを望む。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
40
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
評価は、構想発表を含む研究発表とレポート80％、授業時の議論への参加20％とする。
〔留意事項（Other Information）〕
特に第1回～3回は、前期における研究の導入とそれを今後の研究に発展させていく接続の意義を持つ内容である。院生一人ひとりが大学院の研究についての明確な意識をもって臨むことが求められる。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

聖書学特論

280029N0J
大学
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　前期
水曜 3限
ー
60
中里　郁子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
新約聖書のパウロ書簡『コリントの信徒への第二の手紙』の読解を通して、聖パウロの神学を理解することを目的とする。聖パウロは異邦人にキリストの福音を述べ伝えて、異邦人教会を設立した使徒である。聖パウロの創立したコリント教会についての理解を深め、コリントの信徒へのメッセージを理解し、その神学的意義を探究する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
1　コリントの町を知る
2　コリントの教会について理解する
3　『コリントの信徒への第二の手紙』の背景を学ぶ
4　『コリントの信徒への第二の手紙』の神学を理解する
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
第 2 回　『第二コリント書』概説
第 3 回　コリントの町
第 4 回　コリントの教会
第 5 回　パウロとコリントの信徒
第 6 回　フィールドワーク
第 7 回　挨拶と祝福
第 8 回　変更された訪問
第 9 回　真正な奉仕
第 10 回　奉仕の理論と実践
第 11 回　奉仕—古いものと新しいもの
第 12 回　奉仕と死
第 13 回　イエスの命と新しい創造
第 14 回　受講者による発表
第 15 回　まとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
1　『コリントの信徒への第二の手紙』と『Theology of the Second Letter to the Corinthians』を精読する。

２　割り当てられた箇所のメッセージについてディスカッションする。
３　受講生は一つのテーマを選んで参考文献を用いて研究し、学期の後半に発表してレポートにまとめる。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
受講生は毎回の授業で割り当てられる聖書と英文テキストを事前に読んで、要約をレジュメする。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
授業中の取り組み（５０％）及びレポート（５０％）を総合的に評価する。最後の授業中に、レポートについての講評を行う。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
『聖書　旧約聖書続編つき（共同訳）』//日本聖書協会/2009/9.784820212713E12/学内販売予定『Theology of the Second Letter to the Corinthians』/Jerome Murphy-O'Connor/Cambridge University Press/1991/521358981/学内販売予定
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業中に紹介する。
〔参考URL(URL for Reference)〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

日本近代文学特論

280030N0J
大学
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　前期
木曜 4限
ー
60
長沼　光彦

〔科目の教育目標（Course Description）〕
日本近代文学には、様々な作品とともに、その作品の根拠となる文学理念が存在する。作家は作品を創作するとともに、自己の文学理念を公にし、その根拠を世に問うたのである。これら文学理念を、実際の作品と照らし合わせながら、整理し検証する。
　文学研究は、作品の分析が基礎である。文学理念それ自体の理解を深めるとともに、それらが作品にどのように投影されているか検証し、分析力を深める。
　また、それぞれの文学理念は、同時期の思想や文化的文脈を背景に持っている。ひとつの文学理念を単独に理解するだけでなく、相互に関連づけながら考察したい。そのために、近代日本で行われた文学論争も取り上げ、論点を整理する。さらには、日本文学近代文学史における意義も見直してみたい。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
・日本近代文学の様々な文学理念に対する理解を深める。
・様々な文学理念を生み出した、日本近代文学の歴史的背景を理解する。
・文学理念の変遷を整理し、自身の研究に応用する。
・文学理念の作品に対する投影を検証しながら、作品分析力を鍛える。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　準備と方法について
第 2 回　文学理念と作品との関連①（私小説論争）
第 3 回　文学理念と作品との関連②（社会主義リアリズム論争）
第 4 回　文学理念と作品との関連③（芸術大衆化論争）
第 5 回　文学理念と時代背景との関連①（「宣言一つ」をめぐる論争）
第 6 回　文学理念と時代背景との関連②（目的意識論争）
第 7 回　文学理念と時代背景との関連③（日本浪漫派論争）
第 8 回　文学理念と海外文学との関連①（シェストフ論争）
第 9 回　文学理念と海外文学との関連②（思想と実生活論争）
第 10 回　文学理念と海外文学との関連③
第 11 回　文学理念と表現の関連①（「小説の筋」論争）
第 12 回　文学理念と表現の関連②（新感覚派論争）
第 13 回　文学理念と表現の関連③（散文芸術論争）
第 14 回　文学理念と日本文学史
第 15 回　研究成果についてフィードバック
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
レポートを実施する。
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
・テキストや資料を配付し解説も行うが、主として演習形式で進める。
・受講者が発表する場合は、自ら資料を収集し準備する必要がある。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
・図書館などを利用し、資料を検索する。
・資料の該当する箇所を読解し、資料の背景知識を調べる。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
評価は、授業参加度（30％）、ゼミでの質疑応答（20％）、ゼミ発表（20％）、学期末のレポート（30％）により行う。研究能力を養うためのゼミであるため、出席することを重視する。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。
〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
プリント配布
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
『現代日本文学論争史』/平野謙他/未来社/2006/9784624601041
〔参考URL(URL for Reference)〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

アラブ・イスラーム文化特論

280032N0J
大学
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　前期
火曜 4限
ー
60
鷲見　朗子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
アラブ文化とイスラーム文化についての知識と理解を深めることを目的とする。まず「アラブ」とは何か、「イスラーム」とは何かという定義付けの検証から行う。次にアラブとイスラームの人々の生活、宗教、歴史、芸術、文学にかかわる代表的な文化的要素（例：コーラン、アラビア書道、アルハンブラ宮殿）をとりあげて検討し、それらにまつわる歴史的背景や地域の独自性なども明らかにしていく。また、文献を読むことに加えて、映像や実物を目にすることで、その文化において人々が実際にどのような生活をしているのかをかいまみる。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
１．アラブ・イスラーム文化の共通性
２．アラブ・イスラーム文化の多様性
３．文献（日本語と英語）講読とそれに関する発表
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　アラブとイスラームの定義の検証
第 2 回　イスラームの興り
第 3 回　イスラームの発展
第 4 回　コーランとは
第 5 回　コーランの内容
第 6 回　アラブ文学（詩）
第 7 回　アラブ文学（散文）
第 8 回　アラビア書道
第 9 回　アルハンブラ宮殿
第 10 回　イスラーム女性信者のヴェール
第 11 回　アラブのメディア（新聞）
第 12 回　アラブのメディア（テレビ・ラジオ）
第 13 回　もてなしの心
第 14 回　結婚と離婚
第 15 回　最終発表とまとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
１．講義と受講生の発表によって授業をすすめる。
２．受講生は各授業で決められたテーマに関する日本語と英語の専門書や論文を事前に読み、発表を行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
１．文献読解
２．１．の要約および発表
３．発表のレジュメ作成
４．発表のパワーポイント資料作成
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
授業参加度（10％）、発表（30％）、学期末レポート（60％）により評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
ゲスト講師による授業を行うこともある。
また、授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
特に使用しない。
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
参考文献は適宜、授業で紹介する。
〔参考URL(URL for Reference)〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

日本語学特論

280034N0J
大学
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　前期
木曜 3限
ー
60
堀　勝博

〔科目の教育目標（Course Description)〕
古代和歌や近代短歌をいくつか選び、語学的な視点から分析し、各作品の解釈・鑑賞に取り組む。また、俳句歳時記から任意の作品を選び、同じく分析・研究を進める。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
1.古代和歌や近代短歌の語法・語彙について研究する
2.発句・俳句の語法・語彙について研究する
3.和歌・俳句に関する研究文献を読む
4.和歌・俳句に関する研究レポートを書く
5.受講生の関心分野を考慮し、その方面の文献講読を行う

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　導入授業
第 2 回　私家集を読む　-　平安時代
第 3 回　私家集を読む　-　鎌倉時代
第 4 回　私家集を読む　-　室町時代
第 5 回　私家集を読む　-　江戸時代
第 6 回　私撰和歌集を読む
第 7 回　明治時代の短歌を読む
第 8 回　江戸時代の発句を読む
第 9 回　大正・昭和初期の短歌を読む
第 10 回　俳句歳時記を読む　-　春・新年の部
第 11 回　俳句歳時記を読む　-　夏の部
第 12 回　俳句歳時記を読む　-　秋の部
第 13 回　俳句歳時記を読む　-　冬の部
第 14 回　狂歌・川柳を読む
第 15 回　まとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
受講生の講読発表を中心に進める。予習課題、授業内容に関する補足などを、manabaやGmailにより指示・公開する。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
事前に指示された調査課題や文献資料の講読課題に取り組む
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究・発表への姿勢４０％、総合評価試験の成績６０％で評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
受講生の専攻分野や関心領域を考慮し、授業予定は変更する場合がある
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
プリントを配布する
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
『新編国歌大観』//角川書店//
『合本俳句歳時記』//角川書店//
『日本国語大辞典』//小学館//
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

出版・情報文化特論

280046N0J
大学
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　前期
金曜 2限
ー
60
鎌田　均

〔科目の教育目標（Course Description）〕
文字による記録、出版を通して、また近年ではインターネットを中心とする新しいメディアによって発信される情報の性質と、それを読み、利用する人との関わりについて検討する。これについて、情報リテラシーと呼ばれる、識字、読解能力を基礎にした、文字情報などの情報を人が適切に理解し、利用できる能力を軸とし、歴史的変遷を踏まえて様々な側面から考察する。以下のテーマに焦点を絞り、テーマに関する基礎事項について講義し、先行研究を紹介、検討する。
１）文字情報を中心とした書籍、文書などの資料が持つ性質と、それを読解し、受容する人との関係。
２）情報の伝達と保存、それに関わるメディア、機関の文化と動向。
これらのテーマに関する研究動向、研究方法について理解を深めるとともに、国語科を中心とした学校教育、生涯学習における読解力育成、情報、メディアリテラシー教育における実践面も検討する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１）情報の持つ性質について理解する。
２）情報が発信されるメディアについて理解する。
３）情報、メディアを適切に理解して利用するための知識を習得する。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　「リテラシー」に関する諸理論と動向
第 2 回　「情報」に関する諸理論と動向
第 3 回　「メディア」に関する諸理論と動向
第 4 回　文字情報の歴史的変遷と人との関わり（書物と読書の歴史）
第 5 回　記録、文書の読解、利用における人の行動
第 6 回　出版メディアと出版物の読解
第 7 回　批判的思考力と情報の読解
第 8 回　情報リテラシー教育の理論と動向（図書館と情報リテラシー教育）
第 9 回　メディアリテラシー教育の理論と動向
第 10 回　国語科教育におけるメディアリテラシー教育の実践
第 11 回　文化情報資源

第 12 回　図書館とリテラシーの関係
第 13 回　情報、メディアと権利、倫理の問題（著作権など）
第 14 回　レポート課題について議論
第 15 回　まとめ及びレポートの講評
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
各テーマ毎に参考文献を提示し、それに基づいた発表、ディスカッションを行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
呈示された文献を読み、発表の準備をする。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
40
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
期末レポート（５０％)、授業中の発表（２５％)、授業中のディスカッションへの参加（２５％）
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

図書館情報文化特論（子どもとメディア）

280047N0J
大学
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　前期
火曜 1限
ー
60
岩崎　れい

〔科目の教育目標（Course Description)〕
　読書や学習や情報探索行動は、人間にとって生涯にわたり欠かせない文化活動の一部である。生涯学習社会において、子ども時代にその習慣や方法を身につけることは重要であり、その支援は図書館の大切な役割の一つである。本特論では、(1）子どもの読書能力・読書興味の発達段階、(2）児童書と子どもの発達、(3）子どもの読書支援のための理論、(4)現代のメディアが子どもに与える影響などに関する学術研究への理解を深めることで、理論的な土台を築き、それをもとに、子どもへのよりよい図書館サービスのありかたを探る。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
　１．子どもを取り巻くメディア環境を知る。
　２．児童書と子どもの発達との関係、読書支援に対する理解を深める。
　３．各自のテーマとの接点を見つける。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　序　子どもをとりまくメディアの現状
　１．子どもの読書とメディア
　１）子どもの読書の現状と図書館の果たす役割：講義
第 2 回　２）子どもの読書の現状と課題：文献解読と発表
第 3 回　３）子どもの読書の現状と課題：討論
第 4 回　２．児童書と子どもの発達
　１）児童書と子どもの発達に関する概説：講義
第 5 回　２）児童書と子どもの発達との関係：文献解読と発表
第 6 回　３）児童書と子どもの発達との関係：討論
第 7 回　３．子どもへの読書支援
　１）子どもへの読書支援の動向：講義
第 8 回　２）現代における読書支援の傾向と課題：調査と発表
第 9 回　３）現代における読書支援の傾向と課題：討論
第 10 回　４．子どもとメディアをめぐる諸問題：文献解読と討論
　１）テレビゲームをめぐる議論
第 11 回　２）ネット依存といじめ・犯罪
第 12 回　３）知的自由をめぐる議論
第 13 回　４）学校教育における情報技術の活用の現状と課題
第 14 回　５．まとめ
　１）内容の振り返りと発表
第 15 回　２）討論
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
　講義、発表と特定のテーマについての討論を組み合わせて実施する。
フィードバックは、口頭及び提出物へのコメント記入によって行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
１．指定された文献を読み、レジュメを作成する。
２．自分でも関心のある文献を探索し、読む。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
　授業中の取り組み（50％）及びレポート（50％）を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
授業に参加することを前提条件とする。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
プリントを配布
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
授業中に指示
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

国語教育特論

280049N0J
大学
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　後期
木曜 3限
ー
60
修了要件単位とならない
堀　勝博

〔科目の教育目標（Course Description)〕
古典教材の研究法や授業構成法について、具体的な実践研究にふれながら、考える。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
１．学習指導要領（中等教育）改訂の経緯について、理解・研究を深める
２．古典教育の系統的な進め方について、考える
３．古典教材の研究法について、具体例に即して考える
４．古典教材の原典にあたり、古注で読んでみる
５．さまざまな古典学習の実践例にふれ、古典教育の授業計画・学習指導計画を立案し、実践する
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　導入授業—改訂学習指導要領に即して
第 2 回　国語教育の動向
第 3 回　説話研究
第 4 回　歌物語研究
第 5 回　枕草子研究
第 6 回　日記文学研究
第 7 回　源氏物語研究
第 8 回　和歌・歌謡・俳諧研究
第 9 回　歴史物語・軍記物研究
第 10 回　その他の古文教材の研究
第 11 回　漢詩研究
第 12 回　史記研究
第 13 回　文章・随筆研究
第 14 回　諸子百家研究
第 15 回　学習指導案作成および研究授業実施
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
１．学習指導要領の歴史を振り返り、現行指導要領の方針に関する解説や研究論文を読む
２．古典の授業実践や教材研究に関する研究発表や論文に触れる
３．教科書掲載の教材をいくつか取りあげ、個々の教材の研究法について、具体的に考える
４．学習指導案を作成し、研究授業を実施する
５．予習課題、授業内容に関する補足の解答などを、manaba、Gメール等により指示・公開する
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
事前に指示された調査課題の準備、配布された文献の素読、学習指導案の作成と研究模擬授業の準備
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
科目に取り組む姿勢４０％、学習指導案作成および研究授業の成績６０％で評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
数研出版「改訂版 古典B　古文編」（古B 343）
数研出版「改訂版 古典B　漢文編」（古B 344）
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
数研出版「改訂版 古典B　古文編・漢文編」教師用指導書
〔参考URL(URL for Reference) 〕
https://www.chart.co.jp/goods/kyokasho/30kyokasho/kokugo/
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫

兵庫県内公立高校３校で専任教員（国語科担当）として勤務（1978年～1991年）。

インターンシップ

280061N0J
大学
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　集中
その他
ー
60
岩崎　れい　堀　勝博　吉田　朋子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
国際組織や国際ビジネスにおいて活躍を志す学生にとって、また文化機関や日本語教育施設での仕事に従事したいと考えている学生にとって、現場で一定期間を過ごしてみるこ

とは何にものにも換えがたい経験になる。このインターンシップは、それらの仕事の一部分を体験することで、その仕事の概容を知ること、また他の職種をふくめたさまざまなビジネスシーンや文化活動を理解するため、開講される。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
たとえば、多国籍企業や国際機関などに特有の文化に接し、国際組織での公用文書の作成の実態に触れたりすること。そうした仕事についての認識を確かなものとすること。
図書館や美術館といった文化機関の所蔵資料・文物を十全に理解すること。それら資料・文物を利用して、閲覧者や観覧者に対する資料提供や展観のための技術に触れてみること。
海外の日本語教育施設に赴き、日本語教育の現状を理解するとともに現地教員の補助や研究授業を体験すること。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
インターンシップの実施先としては、国連広報センター、大阪府立図書館、博物館・美術館などの文化機関や香港の日本語教育施設を予定している。
事前・事後指導にも必ず出席すること。実習内容等に関するフィードバックは事後指導において行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
１．基本的な知識・技術を身につけておく。
２．インターンシップ先の概要、業務内容等について、あらかじめ知っておく。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
インターシップ先の評価および体験したインターシップについてのレポートによって評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫

堀勝博：大阪外国語大学留学生別科（1985～1986年）、大阪産業大学教養部共通科目（1991～2006年）において、留学生に対する日本語教育を担当
吉田朋子：兵庫県立美術館で学芸員として勤務
岩崎れい：国立国会図書館で非常勤調査員として勤務

芸術史学演習

280110N0J
大学
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　後期
月曜 5限
ー
60
選択必修
吉田　朋子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
美術作品の研究のために、美術史学は様々なアプローチの方法を蓄積してきた。これから美術作品の研究に取り組むために、具体的な論文を通して方法論を学ぶ。あわせて、美術史研究に必要な外国語読解能力の向上も目指す。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
・美術史学の重要な論文のいくつか（欧文）を読み、そこで使われている方法論を考察する。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
第 2 回　文献講読　列伝
第 3 回　文献講読　アカデミー
第 4 回　文献講読　ラオコオン論争
第 5 回　文献講読　ヴィンケルマン
第 6 回　文献講読　ゲーテ
第 7 回　文献講読　ロマン主義
第 8 回　文献講読　ベルリン学派
第 9 回　文献講読　ブルクハルト
第 10 回　文献講読　ウィーン学派
第 11 回　文献講読　表現主義
第 12 回　文献講読　イコノロジー
第 13 回　文献講読　ゴンブリッチなど
第 14 回　文献講読　アラスなど
第 15 回　まとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
・毎回相当の分量を担当し、レジュメを作成してくることを前提に、議論を通して理解を深める。
・レジュメや準備について毎回講評してフィードバックとする。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
課題となっている論文を読み、担当者はレジュメを作成する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
授業参加度50％、発表の成績50％で評価を行う。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
プリント配布
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
『美術史学の歴史』/ウード・クルターマン著　勝　國興・髙阪一治訳/中央公論美術出版社/1996年/4.805502894E9
その他適宜紹介する
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

日本語学演習

280115N0J
大学
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　後期
月曜 3限
ー
60
選択必修
堀　勝博

〔科目の教育目標（Course Description）〕
さまざまな文献を読み、国語史の諸問題について、探求する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
1. 国語史を概観し、各時代ごとの問題点を整理する
2. テキストを読み、そこからさまざまな研究課題を見出す
3. 関連する資料や論文を読み、理解・研究を深める
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　導入
第 2 回　奈良時代の音韻
第 3 回　奈良時代の文字
第 4 回　奈良時代の語法
第 5 回　奈良時代の語彙
第 6 回　平安時代の文字
第 7 回　平安時代の音韻
第 8 回　平安時代の語法
第 9 回　平安時代の漢文訓読語
第 10 回　鎌倉・室町時代の音韻・文字
第 11 回　鎌倉・室町時代の語彙・語法
第 12 回　江戸時代前期の国語
第 13 回　江戸時代後期の国語
第 14 回　明治時代以降の国語
第 15 回　最終試験とまとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
１．文献を講読する
２．文献に記載されている出典や用例について、解釈を行う
３．受講生の専攻分野を考慮し、その方面の文献講読を行うこともある。
４．予習課題、授業内容に関する補足などを、manabaやGmailにより指示・連絡する
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
事前に指示された調査課題の準備、教科書の素読
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究に取り組む姿勢４０％、最終試験の成績６０％で評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
受講生の専攻分野や関心領域を考慮し、授業予定は変更する場合がある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
山口明穂他『日本語の歴史』（東京大学出版会）1997年
ISBN 4-13-082004-4
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業中にその都度指示する
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

読書支援プログラム演習

280117N0J
大学
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　後期
火曜 1限
ー
60
選択必修
岩崎　れい

〔科目の教育目標（Course Description）〕
　この演習では、子どもたちに対する読書支援として、どのようなプログラムが実施されているかを知り、その特徴や課題について考察することを目標とする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．日本・米国・英国を中心に、子どもへの読書支援のために現在実施されている国の施策や民間の取組について学ぶ。

２．図書館を中心に行われている子どもたちへの読書支援のプログラムについて学ぶ。
３．国語科教育と読書支援との関連性について学び、考察する。
４．子どもたちへの読書支援の取組が、現在抱えている課題について考察する。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　日本における読書支援プログラムの現状と課題（１）　行政施策
第 2 回　日本における読書支援プログラムの現状と課題（２）　学校での取り組み
第 3 回　日本における読書支援プログラムの現状と課題（３）　社会の取り組み
第 4 回　日本における読書支援プログラムの現状と課題（４）　発表・問題提起
第 5 回　米国における読書支援プログラムの現状と課題（１）　行政施策
第 6 回　米国における読書支援プログラムの現状と課題（２）　ファミリーリテラシープログラム
第 7 回　米国における読書支援プログラムの現状と課題（３）　法律との関わり
第 8 回　米国における読書支援プログラムの現状と課題（４）　発表・問題提起
第 9 回　英国における読書支援プログラムの現状と課題（１）　行政施策
第 10 回　英国における読書支援プログラムの現状と課題（２）　ブックスタート
第 11 回　英国における読書支援プログラムの現状と課題（３）　学力向上政策との関わり
第 12 回　英国における読書支援プログラムの現状と課題（４）　発表・問題提起
第 13 回　図書館における読書支援プログラムの現状と課題
第 14 回　国語科教育と読書支援の関連とその課題
第 15 回　まとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
１．基本的な事項や事例を文献等で学ぶ。
２．各自が関心を持った読書支援プログラムについて、法律・施策・取組事例及びその研究について調べ、その特徴と課題について考察する。
３．提出物に対するフィードバックは、口頭および提出物へのコメント記入によって行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
１．法律やニュース報道などに、日頃から関心を持つ。
２．文献をできるだけ多く読む。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
平常点及び授業中の課題発表50％、学期末レポート50％で評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
フィールドワークやゲスト講師による授業を行うこともある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
プリントを配布
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
授業中に紹介
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫
京都市、福知山市、大阪府などの自治体において、委員長または委員として、子ども読書活動推進計画の策定に携わっている。

アラブ・イスラーム文化史演習

280118N0J
大学
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　後期
水曜 3限
一
60
選択必修
鷲見　朗子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
今年度はイスラームの聖典コーランについての理解を深めることを目標とする。コーランは神が西暦７世紀にアラビア語で人類に下した啓示をそのまま書きとめたものであると信じられている。また、現在私たちの手元にあるコーランは、預言者ムハンマドが受けた啓示が人々によって記憶され、後に第3代カリフ、ウスマーンのときに集録されたものである。関連文献資料を参考にしながら、コーランの幾章かを日本語訳で読み解いていく。それらによって、ムスリムの生活と思考の根幹となっているコーラン的規範を探求する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
１．歴史的背景
２．コーランの構成
３．コーランの内容
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
第 2 回　時代背景
第 3 回　預言者ムハンマド
第 4 回　コーランの構成
第 5 回　神観念
第 6 回　神の唯一性
第 7 回　天地創造
第 8 回　アダムの創造と楽園追放
第 9 回　人類の歴史と神の支配
第 10 回　終末
第 11 回　天国と地獄
第 12 回　礼拝・断食
第 13 回　巡礼・タブー
第 14 回　婚姻・離婚
第 15 回　相続・売買
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
１．テクスト読解
２．文献読解（日本語・英語）
３．発表と討論
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
１．文献読解
２．読解した文献の要約
３．発表のレジュメ作成
４．発表のパワーポイント資料作成
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
授業参加度10％、発表30％、学期末レポート60％により評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
ゲスト講師による授業を行うこともある。
また、授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
授業で必要な資料を配布する。
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
参考文献は適宜、授業で提示する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

日中言語交流史演習

280119N0J
大学
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　後期
月曜 4限
ー
60
選択必修
朱　鳳

〔科目の教育目標（Course Description)〕
中国では宣教師たちの尽力によって、早くから辞書の編纂と聖書の翻訳が手がけられた。これらの成果は当然日本の英学及び西洋知識の学習に影響を与えた。この科目は幕末と明治初期の和英字典と翻訳書づくりにおける英華字典の影響について研究し、多文化理解における漢語と漢字の重要性を明らかにしたい。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
1.　和英字典と華英字典の語彙比較とお互いの影響に関する文献を講読する。
2. 和製漢語作りにおける日本人の漢語力とその役割を把握する。
3. 授業の最終回において、レポートを返却し、振り返り学習をする。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　日中言語交流における宣教師の役割
第 2 回　宣教師の翻訳と漢語の役割
第 3 回　ロバート・モリソン（Robert Morrison）と「華英・英華字典」(1815-1823)
第 4 回　モリソン「華英・英華字典」の日本への影響ー唐通事の場合
第 5 回　モリソン「華英・英華字典」の日本への影響ー蘭通詞の場合
第 6 回　ロブシャイト（W. Lobscheid）と『英華字典』（1866-1869）
第 7 回　発表ー日本の西書翻訳について
第 8 回　福沢諭吉の『増訂華英通話』（1860）
第 9 回　堀達之助と『英和対訳袖珍辞書』（1862）
第 10 回　中村敬宇と『英華和訳字典』（1879）
第 11 回　発表ー幕末明治期の日本人と洋学
第 12 回　英華字典、英和字典を通して、日中共通語彙について考察
第 13 回　英華字典、英和字典を通して、宣教師と日中共通語彙について考察
第 14 回　発表ー宣教師と洋学者の交流について、レポート提出
第 15 回　まとめ。レポート返却、振り返り学習

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
資料の講読を中心とするが、受講生の発表も重視する。 また、発表後に提出されたレポートに対する意見と評価は、最終回のまとめで行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
1. 日中近代語彙に関する文献と論文を丁寧に読む。
2. 関連する学会、研究会に参加する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
50
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
評価は、授業参加度（15％）、予習復習成果（発表を含む、15％）、レポートト（70％）に基づいて総合的に行う。
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
授業毎にプリントを配布する。
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
『近代日中学術用語の形成と伝播　地理学用語を中心に』/荒川清秀/白帝社/　1997年/
『近代日中新語の創出と交流』/朱京偉/白帝社/　2003年/
『モリソンの「華英・英華字典」と東西文化交流』/朱鳳/白帝社/2009年/
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

聖書学演習

280129N0J
大学
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　後期
水曜 1限
ー
60
選択必修
中里　郁子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
新約聖書の書簡の著者であるパウロの生涯と思想を知り、パウロの異邦人への宣教と初期キリスト教への理解を深める。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
１　パウロの生涯を知る
２　パウロの異邦人への宣教と初期の教会について学ぶ
３　パウロの思想を理解する
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
第 2 回　聖パウロについて
第 3 回　パウロ書簡について
第 4 回　パウロの回心
第 5 回　パウロの受難
第 6 回　パウロの変容
第 7 回　教会の神秘
第 8 回　教会共同体への愛
第 9 回　フィールドワーク
第 10 回　苦難と慰め
第 11 回　不法の神秘
第 12 回　十字架の言葉
第 13 回　和解の奉仕職
第 14 回　受講者による発表
第 15 回　まとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
1　テキストに関連する「パウロ書簡」を読解する
2 「パウロ書簡」の中から一つの書簡を選び、その書簡の書かれた背景とパウロの思想をレポートにまとめて発表する
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
受講者は、テキスト『パウロの福音』を事前に読み、要約をレジュメにまとめて授業に参加する
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
授業中の取り組み（５０％）及びレポート（５０％）を総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
『パウロの福音』/カルロ　マリア　マルティーニ/女子パウロ会/2009/ISBN9784789606714/学内販売予定
『聖書　旧約聖書続編つき　（共同訳）』//日本聖書協会/2009/ISBN9784820212713/学内販売予定
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
授業中に紹介する
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

出版・情報文化演習

280146N0J
大学
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　後期
金曜 2限
ー
60
選択必修
鎌田　均

〔科目の教育目標（Course Description）〕
識字、読解能力を基礎にした、文字情報などの情報を人が適切に理解し、利用できるリテラシー能力にみる、文字情報を中心とした様々な書籍、文書、記録などの情報源とそれを読解し、利用する人との関わりについての研究法を学ぶ。「出版・情報文化特論」で検討したテーマの内容、研究動向をもとにして、個別の研究課題を見つけ、小論文を完成させ発表することで、文字・活字情報とそれについてのリテラシーに関わる諸分野における研究方法を学ぶ。関連事項として、国語科を中心とした学校教育、生涯学習における読解力育成、情報リテラシー教育における実践方法も検討する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
情報と人との関わり、メディア、情報リテラシーに関係する分野についての研究動向を理解し、研究方法について実践する。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　授業内容と授業の進め方についての説明
第 2 回　文字表現と文化：文献講読とディスカッション
第 3 回　インターネットにおける情報とその理解：文献講読とディスカッション
第 4 回　出版、活字メディアとその読解：文献講読とディスカッション
第 5 回　メディア、情報リテラシー教育の実践と研究（国語科教育への導入）：文献講読とディスカッション
第 6 回　情報、メディアと現代社会：文献講読とディスカッション
第 7 回　研究テーマの探求
第 8 回　研究課題の設定
第 9 回　研究方法
第 10 回　データ、資料収集法
第 11 回　データ、資料の分析と議論の展開
第 12 回　引用、参考文献の確認
第 13 回　個別発表とディスカッション
第 14 回　フィードバックの小論文への反映
第 15 回　まとめ：小論文の最終講評
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
文献講読、ディスカッションをもとに個別のテーマを同定し、研究課題を設定し、研究方法について実践的に学ぶ。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
指定された文献を講読するとともに各自のテーマに関連する文献を検索し、講読、発表の準備をする。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
40
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
小論文（６０％）、授業への参加（４０％）
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

漢文学特論

280151N0J
大学
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　前期
月曜 4限
ー
60
朱　鳳

〔科目の教育目標（Course Description）〕
1. 漢文の基本的な読み方を把握する。
2. 句読及び訓点法の基本を把握する。
3. 漢文の内容及びその歴史背景を理解する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
1. 授業ごとに短い漢文数編を読む。
2. 漢文の文法を理解した上で、日本語における独特な読み下し法もマスターする。
3. 授業の最終回において、提出された課題を返却し、振り返り学習をする。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
第 2 回　漢文とは何か
第 3 回　漢文文法概説
第 4 回　『論語』の数編を読む　漢文の助詞について
第 5 回　『説苑』の数編を読む　漢文の否定形について

第 6 回 『説苑』の数編を読む　漢文の仮定形について
第 7 回 『論語』の数編を読む　漢文の疑問形について
第 8 回 発表
第 9 回 『荘子』の数編を読む　漢文の反語形について
第 10 回 『荘子』の数編を読む　漢文の許可表現について
第 11 回 『孟子』の数編を読む　漢文の使役形について
第 12 回 『孟子』の数編を読む　漢文の比較について
第 13 回 『史記』の数編を読む　漢文の受身形について
第 14 回 １.『史記』の数編を読む　漢文の命令形について
２． 課題提出
第 15 回 まとめ。提出された課題を返却、振り返り学習。
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
漢文を読むことが基本である。漢文を熟読した上、文法や、日本語における読み方などを学習していく。漢文の内容を深く解読でき、訓点の付け方をマスターすることを最終目標とする。また、提出された課題に対する意見と評価は、最終回のまとめで行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
1. 指示に従って予習復習する。
2. 授業の内容と関連する論文を数編読む。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
50
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
評価は、授業参加度（15%）、予習復習成果（発表を含む、15%）、レポート（70%）に基づいて総合的に行う。
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
授業毎にプリントを配布する。
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
『漢文入門』/小川環樹,西田太一郎著/岩波書店/1957/
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

西洋美術特論

280152N0J
大学
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　前期
金曜 4限
ー
60
吉田　朋子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
美術史という研究分野を支える図版について、英語文献を読みながら考察する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
・美術史に関する英語文献を精読する
・作品の複製という問題について考察を深める
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回 イントロダクション
第 2 回 文献講読と議論（１） １章１節
第 3 回 文献講読と議論（２） １章２節
第 4 回 文献講読と議論（３） １章３節
第 5 回 文献講読と議論（４） ２章１節
第 6 回 文献講読と議論（５） ２章２節
第 7 回 文献講読と議論（６） ２章３節
第 8 回 文献講読と議論（７） ２章４節
第 9 回 文献講読と議論（８） ３章１節
第 10 回 文献講読と議論（９） ３章２節
第 11 回 文献講読と議論（１０） ３章３節
第 12 回 文献講読と議論（１１） ３章４節
第 13 回 受講者による発表（各自の研究における図版の位置づけについて）
第 14 回 受講者による発表（現代の複製図版について）
第 15 回 まとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
・文献をあらかじめ読み、担当者の作成したレジュメをもとに議論する。
・レジュメと準備の内容、または発表内容について、毎回講評してフィードバックとする。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
課題箇所を読み、担当者はレジュメを作成する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
授業参加度50%・課題の成果50%とする。

〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
『Picturing Art History』/Ingrid R. Vermeulen/Amsterdam University Press/2010/9789089640314/学内販売予定
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
適宜紹介する
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ｽﾋﾟｰﾁ･ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ演習

280153N0J
大学
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　後期
木曜 1限
ー
60
選択必修
平野　美保

〔科目の教育目標（Course Description）〕
日本語の話しことば教育・学習に関する内容と研究方法について把握する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
話しことばに関する教育・学習について把握するとともに、研究方法について理解し、研究の方向性を固める。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
第 2 回　話しことば教育の現状と課題
　　現状の把握
第 3 回　話しことば教育の現状と課題
　　課題の検討
第 4 回　話しことば教育・学習に関する文献の検討
　　資料収集
第 5 回　話しことば教育・学習に関する文献の検討
　　分類
第 6 回　話しことば教育・学習に関する文献の検討
　　資料作成
第 7 回　話しことば教育・学習に関する文献の検討
　　発表と討議
第 8 回　話しことば教育に関する研究方法
　　教育工学における方法論
第 9 回　話しことば教育に関する研究方法
　　教育工学における研究方法
第 10 回　話しことば教育に関する研究方法
　　質的研究
第 11 回　話しことば教育に関する研究方法
　　質的調査法
第 12 回　話しことば教育に関する研究方法
　　質的データの取得方法
第 13 回　話しことば教育に関する研究方法
　　教育実践研究の特徴
第 14 回　話しことば教育に関する研究方法
　　教育実践論文のまとめ方
第 15 回　まとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
・前半は、話しことば教育・学習に関する内容についてまとめ、問題点を検討する。
・後半は、話しことば教育に関する研究に参考になる教育工学の研究方法について把握する。
＊提出された課題に対してフィードバックを行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
・毎回の課題を準備する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
50
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
評価は、授業参加度（50%）、発表（50%）に基づき、総合的に行う。
〔留意事項（Other Information）〕
フィールドワークに行く場合がある。その場合、交通費などが必要である。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
『教育工学研究の方法』/清水康敬他編著教育工学会監修/ミネルヴァ書房/2012/4623063631
『プロセス・エジュケーション』/津村俊充/金子書房/2012/4760832548
『現代日本のコミュニケーション研究』/日本コミュニケーション学会/三修社/2011/4384056591
『教育実践論文としての教育工学研究のまとめ方』/吉崎静夫・村川雅弘編著/ミネルヴァ書房/2016/9784623074402
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ｽﾋﾟｰﾁ･ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ特論

280154N0J
大学
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　前期
火曜 4限
ー
60
平野　美保

〔科目の教育目標（Course Description）〕
コミュニケーションに関する内容を理解し、コミュニケーション教育・学習の在り方を考察する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
・コミュニケーションに関する文献を読み、問題点を把握する。
・コミュニケーション教育・学習の在り方を考察する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
　　話しことばの基礎
第 2 回　社会生活とコミュニケーション
　　家庭内コミュニケーション
第 3 回　社会生活とコミュニケーション
　　日本人の傾向
第 4 回　社会生活とコミュニケーション
　　誤解とコミュニケーション
第 5 回　社会生活とコミュニケーション
　　いじめとコミュニケーション
第 6 回　ジェンダーとコミュニケーション
　　西欧
第 7 回　ジェンダーとコミュニケーション
　　日本
第 8 回　大衆文化とコミュニケーション
第 9 回　ビジネス・コミュニケーション
　　分類
第 10 回　ビジネスコミュニケーション
　　特色
第 11 回　コミュニケーション教育
　　日本語、国語教育
第 12 回　コミュニケーション教育
　　ディベート
第 13 回　オーラル・インタープリテーション
第 14 回　フィールドワーク（実施回未定）
第 15 回　まとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
・文献を読み、受講者作成のレジュメをもとに議論する。
・提出された課題に対してフィードバックを行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
・毎回の課題を準備する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
50
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
評価は、授業参加度（50%）、発表（50%）に基づき、総合的に行う。
〔留意事項（Other Information)〕
フィールドワークに行く場合がある。その場合、交通費などが必要である。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
日本コミュニケーション学会（2000）日本社会とコミュニケーション　三省堂　ISBN-13: 978-4385359601　学内販売無
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
『現代日本のコミュニケーション研究』/日本コミュニケーション学会編/三修社/2011/9.784384056594E12
『非言語行動の心理学』/V.P.リッチモンド・J.C.マクロスキー/北大路書房/2006/4.762824909E9
『音声言語指導大事典』/高橋俊三（編）/明治図書出版/1990/ 4184788041
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究 I

280161A0J
大学
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　前期
水曜 1限
ー
60
必修
岩崎　れい

〔科目の教育目標（Course Description)〕
修士論文作成のために必要な基本的事項を理解し、研究課題・計画を早期に策定する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
１．修士論文の意義について理解する
２．修士論文のテーマを決定する
３．研究方法を決定する
４．研究倫理について理解する
５．研究計画を策定する
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　研究事始め：大学院における研究とは
第 2 回　修士論文の意義：卒業論文の発展形として
第 3 回　修士論文の意義：大学院での研究の収斂として
第 4 回　修士論文における論文テーマの設定
第 5 回　修士論文における論文テーマの修正と設定
第 6 回　研究の方法について（文献調査法）
第 7 回　研究の方法について（アンケート調査法）
第 8 回　文献調査・情報収集の方法（図書館の利用）
第 9 回　文献調査・情報収集の方法（文献目録の作成）
第 10 回　文献調査・情報収集の方法（ノートの記載）
第 11 回　先行研究を知ることの意義

第 12 回　先行研究と論文テーマとの関連を知る
第 13 回　先行研究の論文のモチーフへの応用について
第 14 回　よい論文のための適切な引用のあり方
第 15 回　研究倫理について－剽窃のことなど
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
各指導教員から個別に指導を受ける。フィードバックは個別指導によって行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
１．文献読解
２．読解した文献の整理
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
４月末に提出する研究計画書とその達成状況により、評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究 I

280161B0J
大学
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　前期
金曜 1限
ー
60
必修
鎌田　均

〔科目の教育目標（Course Description)〕
修士論文作成のために必要な基本的事項を理解し、研究課題・計画を早期に策定する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
１．修士論文の意義について理解する
２．修士論文のテーマを決定する
３．研究方法を決定する
４．研究倫理について理解する
５．研究計画を策定する
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　研究事始め：大学院における研究とは
第 2 回　修士論文の意義：卒業論文の発展形として
第 3 回　修士論文の意義：大学院での研究の収斂として
第 4 回　修士論文における論文テーマの設定
第 5 回　修士論文における論文テーマの修正と設定
第 6 回　研究の方法について（文献調査法）
第 7 回　研究の方法について（アンケート調査法）
第 8 回　文献調査・情報収集の方法（図書館の利用）
第 9 回　文献調査・情報収集の方法（文献目録の作成）
第 10 回　文献調査・情報収集の方法（ノートの記載）
第 11 回　先行研究を知ることの意義
第 12 回　先行研究と論文テーマとの関連を知る
第 13 回　先行研究の論文のモチーフへの応用について
第 14 回　よい論文のための適切な引用のあり方
第 15 回　研究倫理について－剽窃のことなど
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
１．文献読解
２．読解した文献の整理
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
４月末に提出する研究計画書とその達成状況により、評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究Ⅰ

280161C0J
大学
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　前期
月曜 1限
ー
60
必修
朱　鳳

〔科目の教育目標（Course Description）〕
修士論文作成のために必要な基本的事項を理解し、研究課題・計画を早期に策定する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．修士論文の意義について理解する
２．修士論文のテーマを決定する
３．研究方法を決定する
４．研究倫理について理解する
５．研究計画を策定する
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　研究事始め：大学院における研究とは
第 2 回　修士論文の意義：卒業論文の発展形として
第 3 回　修士論文の意義：大学院での研究の収斂として
第 4 回　修士論文における論文テーマの設定
第 5 回　修士論文における論文テーマの修正と設定
第 6 回　研究の方法について（文献調査法）
第 7 回　研究の方法について（アンケート調査法）
第 8 回　文献調査・情報収集の方法（図書館の利用）
第 9 回　文献調査・情報収集の方法（文献目録の作成）
第 10 回　文献調査・情報収集の方法（ノートの記載）
第 11 回　先行研究を知ることの意義
第 12 回　先行研究と論文テーマとの関連を知る
第 13 回　先行研究の論文のモチーフへの応用について
第 14 回　よい論文のための適切な引用のあり方
第 15 回　研究倫理について－剽窃のことなど
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
１．文献読解
２．読解した文献の整理
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
４月末に提出する研究計画書とその達成状況により、評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究Ⅰ

280161D0J
大学
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　前期
木曜 3限
ー
60
必修
鷲見　朗子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
修士論文作成のために必要な基本的事項を理解し、研究課題・計画を早期に策定する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．修士論文の意義について理解する
２．修士論文のテーマを決定する
３．研究方法を決定する
４．研究倫理について理解する
５．研究計画を策定する
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　研究事始め：大学院における研究とは
第 2 回　修士論文の意義：卒業論文の発展形として
第 3 回　修士論文の意義：大学院での研究の収斂として
第 4 回　修士論文における論文テーマの設定
第 5 回　修士論文における論文テーマの修正と設定
第 6 回　研究の方法について（文献調査法）
第 7 回　研究の方法について（アンケート調査法）
第 8 回　文献調査・情報収集の方法（図書館の利用）
第 9 回　文献調査・情報収集の方法（文献目録の作成）
第 10 回　文献調査・情報収集の方法（ノートの記載）
第 11 回　先行研究を知ることの意義
第 12 回　先行研究と論文テーマとの関連を知る
第 13 回　先行研究の論文のモチーフへの応用について

第 14 回　よい論文のための適切な引用のあり方
第 15 回　研究倫理について－剽窃のことなど
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
１．文献読解
２．読解した文献の整理
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
４月末に提出する研究計画書とその達成状況により、評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究 I

280161F0J
大学
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　前期
水曜 1限
ー
60
必修
長沼　光彦

〔科目の教育目標（Course Description）〕
修士論文作成のために必要な基本的事項を理解し、研究課題・計画を早期に策定する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．修士論文の意義について理解する
２．修士論文のテーマを決定する
３．研究方法を決定する
４．研究倫理について理解する
５．研究計画を策定する
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　研究事始め：大学院における研究とは
第 2 回　修士論文の意義：卒業論文の発展形として
第 3 回　修士論文の意義：大学院での研究の収斂として
第 4 回　修士論文における論文テーマの設定
第 5 回　修士論文における論文テーマの修正と設定
第 6 回　研究の方法について（文献調査法）
第 7 回　研究の方法について（アンケート調査法）
第 8 回　文献調査・情報収集の方法（図書館の利用）
第 9 回　文献調査・情報収集の方法（文献目録の作成）
第 10 回　文献調査・情報収集の方法（ノートの記載）
第 11 回　先行研究を知ることの意義
第 12 回　先行研究と論文テーマとの関連を知る
第 13 回　先行研究の論文のモチーフへの応用について
第 14 回　よい論文のための適切な引用のあり方
第 15 回　研究倫理について－剽窃のことなど
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
１．文献読解
２．読解した文献の整理
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
４月末に提出する研究計画書とその達成状況により、評価する。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。
〔留意事項（Other Information）〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究Ⅰ

280161G0J
大学
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　前期
水曜 1限
ー
60
必修
中里　郁子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
修士論文作成のために必要な基本的事項を理解し、研究課題・計画を早期に策定する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．修士論文の意義について理解する
２．修士論文のテーマを決定する
３．研究方法を決定する
４．研究倫理について理解する
５．研究計画を策定する
〔授業計画〕
第 1 回　研究事始め：大学院における研究とは
第 2 回　修士論文の意義：卒業論文の発展形として
第 3 回　修士論文の意義：大学院での研究の収斂として
第 4 回　修士論文における論文テーマの設定
第 5 回　修士論文における論文テーマの修正と設定
第 6 回　研究の方法について（文献調査法）
第 7 回　研究の方法について（アンケート調査法）
第 8 回　文献調査・情報収集の方法（図書館の利用）
第 9 回　文献調査・情報収集の方法（文献目録の作成）
第 10 回　文献調査・情報収集の方法（ノートの記載）
第 11 回　先行研究を知ることの意義
第 12 回　先行研究と論文テーマとの関連を知る
第 13 回　先行研究の論文のモチーフへの応用について
第 14 回　よい論文のための適切な引用のあり方
第 15 回　研究倫理について－剽窃のことなど
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
１．文献読解
２．読解した文献の整理
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
４月末に提出する研究計画書とその達成状況により、評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究Ⅰ

280161H0J
大学
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　前期
金曜 3限
ー
60
必修
堀　勝博

〔科目の教育目標（Course Description）〕
修士論文作成のために必要な基本的事項を理解し、研究課題・計画を早期に策定する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．修士論文の意義について理解する
２．修士論文のテーマを決定する
３．研究方法を決定する
４．研究倫理について理解する
５．研究計画を策定する
〔授業計画〕
第 1 回　研究事始め：大学院における研究とは
第 2 回　修士論文の意義：卒業論文の発展形として
第 3 回　修士論文の意義：大学院での研究の収斂として
第 4 回　修士論文における論文テーマの設定
第 5 回　修士論文における論文テーマの修正と設定
第 6 回　研究の方法について（文献調査法）
第 7 回　研究の方法について（アンケート調査法）
第 8 回　文献調査・情報収集の方法（図書館の利用）
第 9 回　文献調査・情報収集の方法（文献目録の作成）
第 10 回　文献調査・情報収集の方法（ノートの記載）
第 11 回　先行研究を知ることの意義
第 12 回　先行研究と論文テーマとの関連を知る
第 13 回　先行研究の論文のモチーフへの応用について
第 14 回　よい論文のための適切な引用のあり方
第 15 回　研究倫理について－剽窃のことなど
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
１．文献読解
２．読解した文献の整理

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
４月末に提出する研究計画書とその達成状況により、評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究Ⅰ

280161I0J
大学
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　前期
月曜 4限
ー
60
必修
平野　美保

〔科目の教育目標（Course Description）〕
修士論文作成のために必要な基本的事項を理解し、研究課題・計画を早期に策定する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．修士論文の意義について理解する
２．修士論文のテーマを決定する
３．研究方法を決定する
４．研究倫理について理解する
５．研究計画を策定する
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　研究事始め：大学院における研究とは
第 2 回　修士論文の意義：卒業論文の発展形として
第 3 回　修士論文の意義：大学院での研究の収斂として
第 4 回　修士論文における論文テーマの設定
第 5 回　修士論文における論文テーマの修正と設定
第 6 回　研究の方法について（文献調査法）
第 7 回　研究の方法について（アンケート調査法）
第 8 回　文献調査・情報収集の方法（図書館の利用）
第 9 回　文献調査・情報収集の方法（文献目録の作成）
第 10 回　文献調査・情報収集の方法（ノートの記載）
第 11 回　先行研究を知ることの意義
第 12 回　先行研究と論文テーマとの関連を知る
第 13 回　先行研究の論文のモチーフへの応用について
第 14 回　よい論文のための適切な引用のあり方
第 15 回　研究倫理について－剽窃のことなど
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
１．文献読解
２．読解した文献の整理
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
４月末に提出する研究計画書とその達成状況により、評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究Ⅰ

280161J0J
大学
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　前期
水曜 3限
ー
60
辻　敦子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
修士論文作成のために必要な基本的事項を理解し、研究課題・計画を早期に策定する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．修士論文の意義について理解する
２．修士論文のテーマを決定する
３．研究方法を決定する
４．研究倫理について理解する
５．研究計画を策定する
〔授業計画〕
第 1 回　研究事始め：大学院における研究とは
第 2 回　修士論文の意義：卒業論文の発展形として
第 3 回　修士論文の意義：大学院での研究の収斂として

第 4 回　修士論文における論文テーマの設定
第 5 回　修士論文における論文テーマの修正と設定
第 6 回　研究の方法について（文献調査法）
第 7 回　研究の方法について（アンケート調査法）
第 8 回　文献調査・情報収集の方法（図書館の利用）
第 9 回　文献調査・情報収集の方法（文献目録の作成）
第 10 回　文献調査・情報収集の方法（ノートの記載）
第 11 回　先行研究を知ることの意義
第 12 回　先行研究と論文テーマとの関連を知る
第 13 回　先行研究の論文のモチーフへの応用について
第 14 回　よい論文のための適切な引用のあり方
第 15 回　研究倫理について－剽窃のことなど
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
１．文献読解
２．読解した文献の整理
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
４月末に提出する研究計画書とその達成状況により、評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究 I

280161L0J
大学
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　前期
月曜 5限
ー
60
必修
吉田　朋子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
修士論文作成のために必要な基本的事項を理解し、研究課題・計画を早期に策定する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
１．修士論文の意義について理解する
２．修士論文のテーマを決定する
３．研究方法を決定する
４．研究倫理について理解する
５．研究計画を策定する
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　研究事始め：大学院における研究とは
第 2 回　修士論文の意義：卒業論文の発展形として
第 3 回　修士論文の意義：大学院での研究の収斂として
第 4 回　修士論文における論文テーマの設定
第 5 回　修士論文における論文テーマの修正と設定
第 6 回　研究の方法について（文献調査法）
第 7 回　研究の方法について（アンケート調査法）
第 8 回　文献調査・情報収集の方法（図書館の利用）
第 9 回　文献調査・情報収集の方法（文献目録の作成）
第 10 回　文献調査・情報収集の方法（ノートの記載）
第 11 回　先行研究を知ることの意義
第 12 回　先行研究と論文テーマとの関連を知る
第 13 回　先行研究の論文のモチーフへの応用について
第 14 回　よい論文のための適切な引用のあり方
第 15 回　研究倫理について－剽窃のことなど
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
１．文献読解
２．読解した文献の整理
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
４月末に提出する研究計画書とその達成状況により、評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究 II

280162A0J
大学
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　後期
木曜 1限
ー
60
必修
岩崎　れい

〔科目の教育目標（Course Description）〕
研究計画に従って先行研究にあたり、設定したテーマに関する研究の到達水準を把握し、自身の研究が担うべき課題を明らかにする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．先行研究についてまとめる
２．データや情報を収集する
３．論文の構想を決定する
４．論文のフォーマットについて把握する
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　論文テーマと論文作成の手順について
第 2 回　論文の構成
第 3 回　序論の役割
第 4 回　論文の体裁
第 5 回　先行研究についてまとめる
第 6 回　先行研究について発表する
第 7 回　先行研究について批評する
第 8 回　論文の文章（文体と表記）
第 9 回　論文の文章（表記と用語）
第 10 回　論述方法
第 11 回　論述の学術性
第 12 回　論文の注（注記の原則）
第 13 回　論文の注（注の形式）
第 14 回　論文の注（欧文・和文の注）
第 15 回　修士論文作成に向けた論文構成法のまとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
各指導教員から個別に指導を受ける。フィードバックは、口頭または提出物へのコメント記入によって行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
１．文献読解
２．読解した文献の整理
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究計画の達成状況および学期末に提出する研究経過報告書（Ａ４、９００字×５枚）によって評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究 II

280162B0J
大学
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　後期
金曜 1限
ー
60
必修
鎌田　均

〔科目の教育目標（Course Description）〕
研究計画に従って先行研究にあたり、設定したテーマに関する研究の到達水準を把握し、自身の研究が担うべき課題を明らかにする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．先行研究についてまとめる
２．データや情報を収集する
３．論文の構想を決定する
４．論文のフォーマットについて把握する
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　論文テーマと論文作成の手順について
第 2 回　論文の構成
第 3 回　序論の役割
第 4 回　論文の体裁
第 5 回　先行研究についてまとめる
第 6 回　先行研究について発表する
第 7 回　先行研究について批評する
第 8 回　論文の文章（文体と表記）
第 9 回　論文の文章（表記と用語）
第 10 回　論述方法
第 11 回　論述の学術性
第 12 回　論文の注（注記の原則）
第 13 回　論文の注（注の形式）

第 14 回　論文の注（欧文・和文の注）
第 15 回　修士論文作成に向けた論文構成法のまとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
１．文献読解
２．読解した文献の整理
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究計画の達成状況および学期末に提出する研究経過報告書（Ａ４、９００字×５枚）によって評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究 II

280162C0J
大学
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　後期
月曜 1限
ー
60
必修
朱　鳳

〔科目の教育目標（Course Description）〕
研究計画に従って先行研究にあたり、設定したテーマに関する研究の到達水準を把握し、自身の研究が担うべき課題を明らかにする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．先行研究についてまとめる
２．データや情報を収集する
３．論文の構想を決定する
４．論文のフォーマットについて把握する
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　論文テーマと論文作成の手順について
第 2 回　論文の構成
第 3 回　序論の役割
第 4 回　論文の体裁
第 5 回　先行研究についてまとめる
第 6 回　先行研究について発表する
第 7 回　先行研究について批評する
第 8 回　論文の文章（文体と表記）
第 9 回　論文の文章（表記と用語）
第 10 回　論述方法
第 11 回　論述の学術性
第 12 回　論文の注（注記の原則）
第 13 回　論文の注（注の形式）
第 14 回　論文の注（欧文・和文の注）
第 15 回　修士論文作成に向けた論文構成法のまとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
１．文献読解
２．読解した文献の整理
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究計画の達成状況および学期末に提出する研究経過報告書（Ａ４、９００字×５枚）によって評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究 II

280162D0J
大学
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　後期
木曜 3限
ー
60
必修
鷲見　朗子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
研究計画に従って先行研究にあたり、設定したテーマに関する研究の到達水準を把握し、自身の研究が担うべき課題を明らかにする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．先行研究についてまとめる
２．データや情報を収集する
３．論文の構想を決定する
４．論文のフォーマットについて把握する
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　論文テーマと論文作成の手順について
第 2 回　論文の構成
第 3 回　序論の役割
第 4 回　論文の体裁
第 5 回　先行研究についてまとめる
第 6 回　先行研究について発表する
第 7 回　先行研究について批評する
第 8 回　論文の文章（文体と表記）
第 9 回　論文の文章（表記と用語）
第 10 回　論述方法
第 11 回　論述の学術性
第 12 回　論文の注（注記の原則）
第 13 回　論文の注（注の形式）
第 14 回　論文の注（欧文・和文の注）
第 15 回　修士論文作成に向けた論文構成法のまとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
１．文献読解
２．読解した文献の整理
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究計画の達成状況および学期末に提出する研究経過報告書（Ａ４、９００字×５枚）によって評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究 II

280162F0J
大学
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　後期
木曜 1限
ー
60
必修
長沼　光彦

〔科目の教育目標（Course Description）〕
研究計画に従って先行研究にあたり、設定したテーマに関する研究の到達水準を把握し、自身の研究が担うべき課題を明らかにする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．先行研究についてまとめる
２．データや情報を収集する
３．論文の構想を決定する
４．論文のフォーマットについて把握する
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　論文テーマと論文作成の手順について
第 2 回　論文の構成
第 3 回　序論の役割
第 4 回　論文の体裁
第 5 回　先行研究についてまとめる
第 6 回　先行研究について発表する
第 7 回　先行研究について批評する
第 8 回　論文の文章（文体と表記）
第 9 回　論文の文章（表記と用語）
第 10 回　論述方法
第 11 回　論述の学術性
第 12 回　論文の注（注記の原則）
第 13 回　論文の注（注の形式）

第 14 回　論文の注（欧文・和文の注）
第 15 回　修士論文作成に向けた論文構成法のまとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
１．文献読解
２．読解した文献の整理
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究計画の達成状況および学期末に提出する研究経過報告書（Ａ４、９００字x５枚）によって評価する。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。
〔留意事項（Other Information）〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究 II

280162G0J
大学
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
60
必修
中里　郁子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
研究計画に従って先行研究にあたり、設定したテーマに関する研究の到達水準を把握し、自身の研究が担うべき課題を明らかにする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．先行研究についてまとめる
２．データや情報を収集する
３．論文の構想を決定する
４．論文のフォーマットについて把握する
〔授業計画〕
第 1 回　論文テーマと論文作成の手順について
第 2 回　論文の構成
第 3 回　序論の役割
第 4 回　論文の体裁
第 5 回　先行研究についてまとめる
第 6 回　先行研究について発表する
第 7 回　先行研究について批評する
第 8 回　論文の文章（文体と表記）
第 9 回　論文の文章（表記と用語）
第 10 回　論述方法
第 11 回　論述の学術性
第 12 回　論文の注（注記の原則）
第 13 回　論文の注（注の形式）
第 14 回　論文の注（欧文・和文の注）
第 15 回　修士論文作成に向けた論文構成法のまとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
１．文献読解
２．読解した文献の整理
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究計画の達成状況および学期末に提出する研究経過報告書（Ａ４、９００字x５枚）によって評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究 II

280162H0J
大学
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　後期
金曜 3限
ー
60
必修
堀　勝博

〔科目の教育目標（Course Description）〕
研究計画に従って先行研究にあたり、設定したテーマに関する研究の到達水準を把握し、自身の研究が担うべき課題を明らかにする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
１．先行研究についてまとめる
２．データや情報を収集する
３．論文の構想を決定する
４．論文のフォーマットについて把握する
〔授業計画〕
第 1 回　論文テーマと論文作成の手順について
第 2 回　論文の構成
第 3 回　序論の役割
第 4 回　論文の体裁
第 5 回　先行研究についてまとめる
第 6 回　先行研究について発表する
第 7 回　先行研究について批評する
第 8 回　論文の文章（文体と表記）
第 9 回　論文の文章（表記と用語）
第 10 回　論述方法
第 11 回　論述の学術性
第 12 回　論文の注（注記の原則）
第 13 回　論文の注（注の形式）
第 14 回　論文の注（欧文・和文の注）
第 15 回　修士論文作成に向けた論文構成法のまとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
１．文献読解
２．読解した文献の整理
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
研究計画の達成状況および学期末に提出する研究経過報告書（Ａ４、９００字×５枚）によって評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究 II

280162I0J
大学
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　後期
金曜 4限
ー
60
必修
平野　美保

〔科目の教育目標（Course Description)〕
研究計画に従って先行研究にあたり、設定したテーマに関する研究の到達水準を把握し、自身の研究が担うべき課題を明らかにする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
１．先行研究についてまとめる
２．データや情報を収集する
３．論文の構想を決定する
４．論文のフォーマットについて把握する
〔授業計画〕
第 1 回　論文テーマと論文作成の手順について
第 2 回　論文の構成
第 3 回　序論の役割
第 4 回　論文の体裁
第 5 回　先行研究についてまとめる
第 6 回　先行研究について発表する
第 7 回　先行研究について批評する
第 8 回　論文の文章（文体と表記）
第 9 回　論文の文章（表記と用語）
第 10 回　論述方法
第 11 回　論述の学術性
第 12 回　論文の注（注記の原則）
第 13 回　論文の注（注の形式）
第 14 回　論文の注（欧文・和文の注）
第 15 回　修士論文作成に向けた論文構成法のまとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
１．文献読解
２．読解した文献の整理
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
研究計画の達成状況および学期末に提出する研究経過報告書（Ａ４、９００字×５枚）によって評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究 II

280162L0J
大学
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　後期
火曜 2限
ー
60
必修
吉田　朋子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
研究計画に従って先行研究にあたり、設定したテーマに関する研究の到達水準を把握し、自身の研究が担うべき課題を明らかにする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
１．先行研究についてまとめる
２．データや情報を収集する
３．論文の構想を決定する
４．論文のフォーマットについて把握する
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　論文テーマと論文作成の手順について
第 2 回　論文の構成
第 3 回　序論の役割
第 4 回　論文の体裁
第 5 回　先行研究についてまとめる
第 6 回　先行研究について発表する
第 7 回　先行研究について批評する
第 8 回　論文の文章（文体と表記）
第 9 回　論文の文章（表記と用語）
第 10 回　論述方法
第 11 回　論述の学術性
第 12 回　論文の注（注記の原則）
第 13 回　論文の注（注の形式）
第 14 回　論文の注（欧文・和文の注）
第 15 回　修士論文作成に向けた論文構成法のまとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
１．文献読解
２．読解した文献の整理
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
研究計画の達成状況および学期末に提出する研究経過報告書（Ａ４、９００字×５枚）によって評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究 III

280163A0J
大学
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　前期
火曜 4限
ー
60
必修
岩崎　れい

〔科目の教育目標（Course Description)〕
修士論文の執筆を進め、必要な情報やデータをまとめて、中間発表を行う。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
１．論文の章段構成を決定し、執筆を開始する
２．文献引用、フィールドワーク、インタビュー調査などについて計画する
３．中間発表を行い、残された期間の研究計画について再確認する
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　修士論文作成事始め：「特別研究I～II」の学習内容を振り返る
第 2 回　論文テーマの明確な設定
第 3 回　論文作成の手順の確認
第 4 回　論文構成の確認

第 5 回　先行研究の文献資料収集
第 6 回　先行研究の文献資料収集 : 先行研究と論文テーマの関連の確認
第 7 回　書誌情報の分析
第 8 回　書誌情報の整理
第 9 回　論文テーマに適合した論述方法とは : 客観的論述を考える
第 10 回　論証の方法としての客観的論述（論文の目的の明確化）
第 11 回　論証の方法としての客観的論述（概念と定義の重要性）
第 12 回　論証の方法としての客観的論述（概念化の重要性）
第 13 回　論証の方法としての客観的論述（定義づけ）
第 14 回　論証の方法としての客観的論述（まとめ）
第 15 回　自己の修士論文の客観的論証方法を振り返る
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
各指導教員から個別に指導を受ける。フィードバックは、口頭または提出物へのコメント記入によって行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
論文執筆に必要な文献の収集と読解を行い、客観的論述の技術を学習する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
研究計画の達成状況および学期末に実施する中間発表（３０分...口頭発表２５分＋質疑 ５分）の成績によって評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究III

280163B0J
大学
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
60
必修
鎌田　均

〔科目の教育目標（Course Description)〕
修士論文の執筆を進め、必要な情報やデータをまとめて、中間発表を行う。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
１．論文の章段構成を決定し、執筆を開始する
２．文献引用、フィールドワーク、インタビュー調査などについて計画する
３．中間発表を行い、残された期間の研究計画について再確認する
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　修士論文作成事始め :「特別研究I～II」の学習内容を振り返る
第 2 回　論文テーマの明確な設定
第 3 回　論文作成の手順の確認
第 4 回　論文構成の確認
第 5 回　先行研究の文献資料収集
第 6 回　先行研究の文献資料収集 : 先行研究と論文テーマの関連の確認
第 7 回　書誌情報の分析
第 8 回　書誌情報の整理
第 9 回　論文テーマに適合した論述方法とは : 客観的論述を考える
第 10 回　論証の方法としての客観的論述（論文の目的の明確化）
第 11 回　論証の方法としての客観的論述（概念と定義の重要性）
第 12 回　論証の方法としての客観的論述（概念化の重要性）
第 13 回　論証の方法としての客観的論述（定義づけ）
第 14 回　論証の方法としての客観的論述（まとめ）
第 15 回　自己の修士論文の客観的論証方法を振り返る
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
各指導教員から個別に指導を受ける。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
論文執筆に必要な文献の収集と読解を行い、客観的論述の技術を学習する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究計画の達成状況および学期末に実施する中間発表（３０分…口頭発表２５分＋質疑 ５分）の成績によって評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究III

280163C0J
大学
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　前期
水曜 3限
ー
60
必修
朱　鳳

〔科目の教育目標（Course Description）〕
修士論文の執筆を進め、必要な情報やデータをまとめて、中間発表を行う。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．論文の章段構成を決定し、執筆を開始する
２．文献引用、フィールドワーク、インタビュー調査などについて計画する
３．中間発表を行い、残された期間の研究計画について再確認する
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　修士論文作成事始め：「特別研究I～II」の学習内容を振り返る
第 2 回　論文テーマの明確な設定
第 3 回　論文作成の手順の確認
第 4 回　論文構成の確認
第 5 回　先行研究の文献資料収集
第 6 回　先行研究の文献資料収集：先行研究と論文テーマの関連の確認
第 7 回　書誌情報の分析
第 8 回　書誌情報の整理
第 9 回　論文テーマに適合した論述方法とは：客観的論述を考える
第 10 回　論証の方法としての客観的論述（論文の目的の明確化）
第 11 回　論証の方法としての客観的論述（概念と定義の重要性）
第 12 回　論証の方法としての客観的論述（概念化の重要性）
第 13 回　論証の方法としての客観的論述（定義づけ）
第 14 回　論証の方法としての客観的論述（まとめ）
第 15 回　自己の修士論文の客観的論証方法を振り返る
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
論文執筆に必要な文献の収集と読解を行い、客観的論述の技術を学習する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究計画の達成状況および学期末に実施する中間発表（３０分…口頭発表２５分＋質疑 ５分）の成績によって評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究III

280163D0J
大学
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　前期
月曜 1限
ー
60
必修
鷲見　朗子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
修士論文の執筆を進め、必要な情報やデータをまとめて、中間発表を行う。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．論文の章段構成を決定し、執筆を開始する
２．文献引用、フィールドワーク、インタビュー調査などについて計画する
３．中間発表を行い、残された期間の研究計画について再確認する
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　修士論文作成事始め：「特別研究I～II」の学習内容を振り返る
第 2 回　論文テーマの明確な設定
第 3 回　論文作成の手順の確認
第 4 回　論文構成の確認
第 5 回　先行研究の文献資料収集
第 6 回　先行研究の文献資料収集：先行研究と論文テーマの関連の確認
第 7 回　書誌情報の分析
第 8 回　書誌情報の整理
第 9 回　論文テーマに適合した論述方法とは：客観的論述を考える
第 10 回　論証の方法としての客観的論述（論文の目的の明確化）
第 11 回　論証の方法としての客観的論述（概念と定義の重要性）
第 12 回　論証の方法としての客観的論述（概念化の重要性）
第 13 回　論証の方法としての客観的論述（定義づけ）
第 14 回　論証の方法としての客観的論述（まとめ）
第 15 回　自己の修士論文の客観的論証方法を振り返る
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
論文執筆に必要な文献の収集と読解を行い、客観的論述の技術を学習する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究計画の達成状況および学期末に実施する中間発表（３０分…口頭発表２５分＋質疑 ５分）の成績によって評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究III

280163F0J
大学
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
60
必修
長沼　光彦

〔科目の教育目標（Course Description）〕
修士論文の執筆を進め、必要な情報やデータをまとめて、中間発表を行う。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．論文の章段構成を決定し、執筆を開始する
２．文献引用、フィールドワーク、インタビュー調査などについて計画する
３．中間発表を行い、残された期間の研究計画について再確認する
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　修士論文作成事始め：「特別研究I～II」の学習内容を振り返る
第 2 回　論文テーマの明確な設定
第 3 回　論文作成の手順の確認
第 4 回　論文構成の確認
第 5 回　先行研究の文献資料収集

第 6 回　先行研究の文献資料収集 : 先行研究と論文テーマの関連の確認
第 7 回　書誌情報の分析
第 8 回　書誌情報の整理
第 9 回　論文テーマに適合した論述方法とは : 客観的論述を考える
第 10 回　論証の方法としての客観的論述（論文の目的の明確化）
第 11 回　論証の方法としての客観的論述（概念と定義の重要性）
第 12 回　論証の方法としての客観的論述（概念化の重要性）
第 13 回　論証の方法としての客観的論述（定義づけ）
第 14 回　論証の方法としての客観的論述（まとめ）
第 15 回　自己の修士論文の客観的論証方法を振り返る
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
論文執筆に必要な文献の収集と読解を行い、客観的論述の技術を学習する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
研究計画の達成状況および学期末に実施する中間発表（３０分…口頭発表２５分＋質疑 ５分）の成績によって評価する。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。
〔留意事項（Other Information)〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究III

280163G0J
大学
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
60
必修
中里　郁子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
修士論文の執筆を進め、必要な情報やデータをまとめて、中間発表を行う。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
１．論文の章段構成を決定し、執筆を開始する
２．文献引用、フィールドワーク、インタビュー調査などについて計画する
３．中間発表を行い、残された期間の研究計画について再確認する
〔授業計画〕
第 1 回　修士論文作成事始め :「特別研究I～II」の学習内容を振り返る
第 2 回　論文テーマの明確な設定
第 3 回　論文作成の手順の確認
第 4 回　論文構成の確認
第 5 回　先行研究の文献資料収集
第 6 回　先行研究の文献資料収集 : 先行研究と論文テーマの関連の確認
第 7 回　書誌情報の分析
第 8 回　書誌情報の整理
第 9 回　論文テーマに適合した論述方法とは : 客観的論述を考える
第 10 回　論証の方法としての客観的論述（論文の目的の明確化）
第 11 回　論証の方法としての客観的論述（概念と定義の重要性）
第 12 回　論証の方法としての客観的論述（概念化の重要性）
第 13 回　論証の方法としての客観的論述（定義づけ）
第 14 回　論証の方法としての客観的論述（まとめ）
第 15 回　自己の修士論文の客観的論証方法を振り返る
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
論文執筆に必要な文献の収集と読解を行い、客観的論述の技術を学習する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究計画の達成状況および学期末に実施する中間発表（３０分…口頭発表２５分＋質疑 ５分）の成績によって評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究III

280163H0J
大学
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
60
必修
堀　勝博

〔科目の教育目標（Course Description）〕
修士論文の執筆を進め、必要な情報やデータをまとめて、中間発表を行う。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．論文の章段構成を決定し、執筆を開始する
２．文献引用、フィールドワーク、インタビュー調査などについて計画する
３．中間発表を行い、残された期間の研究計画について再確認する
〔授業計画〕
第 1 回　修士論文作成事始め：「特別研究I～II」の学習内容を振り返る
第 2 回　論文テーマの明確な設定
第 3 回　論文作成の手順の確認
第 4 回　論文構成の確認
第 5 回　先行研究の文献資料収集
第 6 回　先行研究の文献資料収集：先行研究と論文テーマの関連の確認
第 7 回　書誌情報の分析
第 8 回　書誌情報の整理
第 9 回　論文テーマに適合した論述方法とは：客観的論述を考える
第 10 回　論証の方法としての客観的論述（論文の目的の明確化）
第 11 回　論証の方法としての客観的論述（概念と定義の重要性）
第 12 回　論証の方法としての客観的論述（概念化の重要性）
第 13 回　論証の方法としての客観的論述（定義づけ）
第 14 回　論証の方法としての客観的論述（まとめ）
第 15 回　自己の修士論文の客観的論証方法を振り返る
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
論文執筆に必要な文献の収集と読解を行い、客観的論述の技術を学習する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究計画の達成状況および学期末に実施する中間発表（３０分…口頭発表２５分＋質疑 ５分）の成績によって評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究III

280163I0J
大学
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
60
必修
平野　美保

〔科目の教育目標（Course Description）〕
修士論文の執筆を進め、必要な情報やデータをまとめて、中間発表を行う。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．論文の章段構成を決定し、執筆を開始する
２．文献引用、フィールドワーク、インタビュー調査などについて計画する
３．中間発表を行い、残された期間の研究計画について再確認する
〔授業計画〕
第 1 回

修士論文作成事始め：「特別研究I～II」の学習内容を振り返る
第 2 回　論文テーマの明確な設定
第 3 回　論文作成の手順の確認
第 4 回　論文構成の確認
第 5 回　先行研究の文献資料収集
第 6 回　先行研究の文献資料収集：先行研究と論文テーマの関連の確認
第 7 回　書誌情報の分析
第 8 回　書誌情報の整理
第 9 回　論文テーマに適合した論述方法とは：客観的論述を考える
第 10 回　論証の方法としての客観的論述（論文の目的の明確化）
第 11 回　論証の方法としての客観的論述（概念と定義の重要性）
第 12 回　論証の方法としての客観的論述（概念化の重要性）
第 13 回　論証の方法としての客観的論述（定義づけ）
第 14 回　論証の方法としての客観的論述（まとめ）
第 15 回　自己の修士論文の客観的論証方法を振り返る
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
論文執筆に必要な文献の収集と読解を行い、客観的論述の技術を学習する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究計画の達成状況および学期末に実施する中間発表（３０分…口頭発表２５分＋質疑 ５分）の成績によって評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究III

280163L0J
大学
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　前期集中
その他
ー
60
必修
吉田　朋子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
修士論文の執筆を進め、必要な情報やデータをまとめて、中間発表を行う。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．論文の章段構成を決定し、執筆を開始する
２．文献引用、フィールドワーク、インタビュー調査などについて計画する
３．中間発表を行い、残された期間の研究計画について再確認する
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　修士論文作成事始め：「特別研究I～II」の学習内容を振り返る
第 2 回　論文テーマの明確な設定
第 3 回　論文作成の手順の確認
第 4 回　論文構成の確認
第 5 回　先行研究の文献資料収集
第 6 回　先行研究の文献資料収集：先行研究と論文テーマの関連の確認
第 7 回　書誌情報の分析
第 8 回　書誌情報の整理
第 9 回　論文テーマに適合した論述方法とは：客観的論述を考える
第 10 回　論証の方法としての客観的論述（論文の目的の明確化）
第 11 回　論証の方法としての客観的論述（概念と定義の重要性）
第 12 回　論証の方法としての客観的論述（概念化の重要性）
第 13 回　論証の方法としての客観的論述（定義づけ）
第 14 回　論証の方法としての客観的論述（まとめ）
第 15 回　自己の修士論文の客観的論証方法を振り返る
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
各指導教員から個別に指導を受ける。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
論文執筆に必要な文献の収集と読解を行い、客観的論述の技術を学習する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
研究計画の達成状況および学期末に実施する中間発表（３０分…口頭発表２５分＋質疑 ５分）の成績によって評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究Ⅳ

280164A0J
大学
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　後期
火曜 4限
ー
60
必修
岩崎　れい

〔科目の教育目標（Course Description）〕
修士論文を完成し、成果発表を行う。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．フォーマット、字句、章段構成、引用方法、書誌情報、図表・数値のデータ等、形式面の遺漏がないか留意する
２．剽窃等、研究倫理上の問題がないか確認する
３．修士論文を完成し、成果発表を行う
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕
第 1 回　修士論文作成に向けて「特別研究I～III」の学習内容を振り返る
第 2 回　論文テーマとこれまでの論術内容の確認
第 3 回　先行研究と論文テーマとの関連の再確認
第 4 回　論文の論述と内容の確認（論文全体の構成）
第 5 回　論文の論述と内容の確認（章・節の構成）
第 6 回　論文の論述と内容の確認（起承転結）
第 7 回　論文の論述と内容の確認（引用の表示）
第 8 回　論文の論述と内容の確認（注の表示）
第 9 回　論文の論述と内容の確認（引用文献と参考文献）
第 10 回　論文の論述と内容の確認（図表の表示）
第 11 回　論文の論述と内容の確認（剽窃等の有無）
第 12 回　論文の論述と内容の確認（本論）
第 13 回　論文の論述と内容の確認（序論・結論）
第 14 回　書誌情報の整理と論文フォーマットの適正化
第 15 回　論文を完成する
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
各指導教員から個別に指導を受ける。フィードバックは、口頭または提出物へのコメント記入によって行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
論文執筆に必要な文献の収集と読解、およびその整理を行い、客観的論述の技術を学習し、論文の構成を含め、全体を点検する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
提出された論文に対し、主査および副査の計３名による口頭試問を実施し、その判定をもとに、専攻会議にて最終評価を行なう。
〔留意事項（Other Information）〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究Ⅳ

280164B0J
大学
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
60
必修
鎌田　均

〔科目の教育目標（Course Description）〕
修士論文を完成し、成果発表を行う。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．フォーマット、字句、章段構成、引用方法、書誌情報、図表・数値のデータ等、形式面の遺漏がないか留意する
２．剽窃等、研究倫理上の問題がないか確認する
３．修士論文を完成し、成果発表を行う
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　修士論文作成に向けて「特別研究I～III」の学習内容を振り返る
第 2 回　論文テーマとこれまでの論術内容の確認
第 3 回　先行研究と論文テーマとの関連の再確認
第 4 回　論文の論述と内容の確認（論文全体の構成）
第 5 回　論文の論述と内容の確認（章・節の構成）
第 6 回　論文の論述と内容の確認（起承転結）
第 7 回　論文の論述と内容の確認（引用の表示）
第 8 回　論文の論述と内容の確認（注の表示）
第 9 回　論文の論述と内容の確認（引用文献と参考文献）
第 10 回　論文の論述と内容の確認（図表の表示）
第 11 回　論文の論述と内容の確認（剽窃等の有無）
第 12 回　論文の論述と内容の確認（本論）
第 13 回　論文の論述と内容の確認（序論・結論）
第 14 回　書誌情報の整理と論文フォーマットの適正化
第 15 回　論文を完成する
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
論文執筆に必要な文献の収集と読解、およびその整理を行い、客観的論述の技術を学習し、論文の構成を含め、全体を点検する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
提出された論文に対し、主査および副査の計３名による口頭試問を実施し、その判定をもとに、専攻会議にて最終評価を行なう。
〔留意事項（Other Information）〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究Ⅳ

280164C0J
大学
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　後期
水曜 3限
ー
60
必修
朱　鳳

〔科目の教育目標（Course Description）〕
修士論文を完成し、成果発表を行う。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．フォーマット、字句、章段構成、引用方法、書誌情報、図表・数値のデータ等、形式面の遺漏がないか留意する
２．剽窃等、研究倫理上の問題がないか確認する
３．修士論文を完成し、成果発表を行う
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　修士論文作成に向けて「特別研究I～III」の学習内容を振り返る
第 2 回　論文テーマとこれまでの論術内容の確認
第 3 回　先行研究と論文テーマとの関連の再確認
第 4 回　論文の論述と内容の確認（論文全体の構成）
第 5 回　論文の論述と内容の確認（章・節の構成）
第 6 回　論文の論述と内容の確認（起承転結）
第 7 回　論文の論述と内容の確認（引用の表示）
第 8 回　論文の論述と内容の確認（注の表示）
第 9 回　論文の論述と内容の確認（引用文献と参考文献）
第 10 回　論文の論述と内容の確認（図表の表示）
第 11 回　論文の論述と内容の確認（剽窃等の有無）
第 12 回　論文の論述と内容の確認（本論）
第 13 回　論文の論述と内容の確認（序論・結論）

第 14 回　書誌情報の整理と論文フォーマットの適正化
第 15 回　論文を完成する
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
論文執筆に必要な文献の収集と読解、およびその整理を行い、客観的論述の技術を学習し、論文の構成を含め、全体を点検する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
提出された論文に対し、主査および副査の計３名による口頭試問を実施し、その判定をもとに、専攻会議にて最終評価を行なう。
〔留意事項（Other Information）〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究Ⅳ

280164D0J
大学
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　後期
月曜 1限
ー
60
必修
鷲見　朗子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
修士論文を完成し、成果発表を行う。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．フォーマット、字句、章段構成、引用方法、書誌情報、図表・数値のデータ等、形式面の遺漏がないか留意する
２．剽窃等、研究倫理上の問題がないか確認する
３．修士論文を完成し、成果発表を行う
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　修士論文作成に向けて「特別研究I～III」の学習内容を振り返る
第 2 回　論文テーマとこれまでの論術内容の確認
第 3 回　先行研究と論文テーマとの関連の再確認
第 4 回　論文の論述と内容の確認（論文全体の構成）
第 5 回　論文の論述と内容の確認（章・節の構成）
第 6 回　論文の論述と内容の確認（起承転結）
第 7 回　論文の論述と内容の確認（引用の表示）
第 8 回　論文の論述と内容の確認（注の表示）
第 9 回　論文の論述と内容の確認（引用文献と参考文献）
第 10 回　論文の論述と内容の確認（図表の表示）
第 11 回　論文の論述と内容の確認（剽窃等の有無）
第 12 回　論文の論述と内容の確認（本論）
第 13 回　論文の論述と内容の確認（序論・結論）
第 14 回　書誌情報の整理と論文フォーマットの適正化
第 15 回　論文を完成する
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
論文執筆に必要な文献の収集と読解、およびその整理を行い、客観的論述の技術を学習し、論文の構成を含め、全体を点検する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
提出された論文に対し、主査および副査の計３名による口頭試問を実施し、その判定をもとに、専攻会議にて最終評価を行なう。
〔留意事項（Other Information）〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究Ⅳ

280164F0J
大学
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
60
必修
長沼　光彦

〔科目の教育目標（Course Description）〕
修士論文を完成し、成果発表を行う。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．フォーマット、字句、章段構成、引用方法、書誌情報、図表・数値のデータ等、形式面の遺漏がないか留意する
２．剽窃等、研究倫理上の問題がないか確認する
３．修士論文を完成し、成果発表を行う
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　修士論文作成に向けて「特別研究I～III」の学習内容を振り返る
第 2 回　論文テーマとこれまでの論術内容の確認
第 3 回　先行研究と論文テーマとの関連の再確認
第 4 回　論文の論述と内容の確認（論文全体の構成）
第 5 回　論文の論述と内容の確認（章・節の構成）
第 6 回　論文の論述と内容の確認（起承転結）
第 7 回　論文の論述と内容の確認（引用の表示）
第 8 回　論文の論述と内容の確認（注の表示）
第 9 回　論文の論述と内容の確認（引用文献と参考文献）
第 10 回　論文の論述と内容の確認（図表の表示）
第 11 回　論文の論述と内容の確認（剽窃等の有無）
第 12 回　論文の論述と内容の確認（本論）
第 13 回　論文の論述と内容の確認（序論・結論）
第 14 回　書誌情報の整理と論文フォーマットの適正化
第 15 回　論文を完成する
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
論文執筆に必要な文献の収集と読解、およびその整理を行い、客観的論述の技術を学習し、論文の構成を含め、全体を点検する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
提出された論文に対し、主査および副査の計３名による口頭試問を実施し、その判定をもとに、専攻会議にて最終評価を行なう。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。
〔留意事項（Other Information）〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究Ⅳ

280164G0J
大学
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
60
必修
中里　郁子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
修士論文を完成し、成果発表を行う。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．フォーマット、字句、章段構成、引用方法、書誌情報、図表・数値のデータ等、形式面の遺漏がないか留意する
２．剽窃等、研究倫理上の問題がないか確認する
３．修士論文を完成し、成果発表を行う
〔授業計画〕
第 1 回　修士論文作成に向けて「特別研究I～III」の学習内容を振り返る
第 2 回　論文テーマとこれまでの論術内容の確認
第 3 回　先行研究と論文テーマとの関連の再確認
第 4 回　論文の論述と内容の確認（論文全体の構成）
第 5 回　論文の論述と内容の確認（章・節の構成）
第 6 回　論文の論述と内容の確認（起承転結）
第 7 回　論文の論述と内容の確認（引用の表示）
第 8 回　論文の論述と内容の確認（注の表示）
第 9 回　論文の論述と内容の確認（引用文献と参考文献）
第 10 回　論文の論述と内容の確認（図表の表示）
第 11 回　論文の論述と内容の確認（剽窃等の有無）
第 12 回　論文の論述と内容の確認（本論）
第 13 回　論文の論述と内容の確認（序論・結論）
第 14 回　書誌情報の整理と論文フォーマットの適正化
第 15 回　論文を完成する

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
論文執筆に必要な文献の収集と読解、およびその整理を行い、客観的論述の技術を学習し、論文の構成を含め、全体を点検する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
提出された論文に対し、主査および副査の計３名による口頭試問を実施し、その判定をもとに、専攻会議にて最終評価を行なう。
〔留意事項（Other Information)〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究Ⅳ

280164H0J
大学
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
60
必修
堀　勝博

〔科目の教育目標（Course Description)〕
修士論文を完成し、成果発表を行う。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
１．フォーマット、字句、章段構成、引用方法、書誌情報、図表・数値のデータ等、形式面の遺漏がないか留意する
２．剽窃等、研究倫理上の問題がないか確認する
３．修士論文を完成し、成果発表を行う
〔授業計画〕
第 1 回　修士論文作成に向けて「特別研究I～III」の学習内容を振り返る
第 2 回　論文テーマとこれまでの論術内容の確認
第 3 回　先行研究と論文テーマとの関連の再確認
第 4 回　論文の論述と内容の確認（論文全体の構成）
第 5 回　論文の論述と内容の確認（章・節の構成）
第 6 回　論文の論述と内容の確認（起承転結）
第 7 回　論文の論述と内容の確認（引用の表示）
第 8 回　論文の論述と内容の確認（注の表示）
第 9 回　論文の論述と内容の確認（引用文献と参考文献）
第 10 回　論文の論述と内容の確認（図表の表示）
第 11 回　論文の論述と内容の確認（剽窃等の有無）
第 12 回　論文の論述と内容の確認（本論）
第 13 回　論文の論述と内容の確認（序論・結論）
第 14 回　書誌情報の整理と論文フォーマットの適正化
第 15 回　論文を完成する
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
論文執筆に必要な文献の収集と読解、およびその整理を行い、客観的論述の技術を学習し、論文の構成を含め、全体を点検する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
提出された論文に対し、主査および副査の計３名による口頭試問を実施し、その判定をもとに、専攻会議にて最終評価を行なう。
〔留意事項（Other Information)〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究Ⅳ

280164I0J
大学
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
60
必修
平野　美保

〔科目の教育目標（Course Description)〕
修士論文を完成し、成果発表を行う。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
１．フォーマット、字句、章段構成、引用方法、書誌情報、図表・数値のデータ等、形式面の遺漏がないか留意する

２．剽窃等、研究倫理上の問題がないか確認する
３．修士論文を完成し、成果発表を行う
〔授業計画〕
第 1 回　修士論文作成に向けて「特別研究I～III」の学習内容を振り返る
第 2 回　論文テーマとこれまでの論術内容の確認
第 3 回　先行研究と論文テーマとの関連の再確認
第 4 回　論文の論述と内容の確認（論文全体の構成）
第 5 回　論文の論述と内容の確認（章・節の構成）
第 6 回　論文の論述と内容の確認（起承転結）
第 7 回　論文の論述と内容の確認（引用の表示）
第 8 回　論文の論述と内容の確認（注の表示）
第 9 回　論文の論述と内容の確認（引用文献と参考文献）
第 10 回　論文の論述と内容の確認（図表の表示）
第 11 回　論文の論述と内容の確認（剽窃等の有無）
第 12 回　論文の論述と内容の確認（本論）
第 13 回　論文の論述と内容の確認（序論・結論）
第 14 回　書誌情報の整理と論文フォーマットの適正化
第 15 回　論文を完成する
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
論文執筆に必要な文献の収集と読解、およびその整理を行い、客観的論述の技術を学習し、論文の構成を含め、全体を点検する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
提出された論文に対し、主査および副査の計３名による口頭試問を実施し、その判定をもとに、専攻会議にて最終評価を行なう。
〔留意事項（Other Information)〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究Ⅳ

280164L0J
大学
人間文化研究科 ＞ 人間文化専攻
2単位　後期集中
その他
ー
60
必修
吉田　朋子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
修士論文を完成し、成果発表を行う。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
１．フォーマット、字句、章段構成、引用方法、書誌情報、図表・数値のデータ等、形式面の遺漏がないか留意する
２．剽窃等、研究倫理上の問題がないか確認する
３．修士論文を完成し、成果発表を行う
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　修士論文作成に向けて「特別研究I～III」の学習内容を振り返る
第 2 回　論文テーマとこれまでの論術内容の確認
第 3 回　先行研究と論文テーマとの関連の再確認
第 4 回　論文の論述と内容の確認（論文全体の構成）
第 5 回　論文の論述と内容の確認（章・節の構成）
第 6 回　論文の論述と内容の確認（起承転結）
第 7 回　論文の論述と内容の確認（引用の表示）
第 8 回　論文の論述と内容の確認（注の表示）
第 9 回　論文の論述と内容の確認（引用文献と参考文献）
第 10 回　論文の論述と内容の確認（図表の表示）
第 11 回　論文の論述と内容の確認（剽窃等の有無）
第 12 回　論文の論述と内容の確認（本論）
第 13 回　論文の論述と内容の確認（序論・結論）
第 14 回　書誌情報の整理と論文フォーマットの適正化
第 15 回　論文を完成する
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
各指導教員から個別に指導を受ける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
論文執筆に必要な文献の収集と読解、およびその整理を行い、客観的論述の技術を学習し、論文の構成を含め、全体を点検する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
提出された論文に対し、主査および副査の計３名による口頭試問を実施し、その判定をもとに、専攻会議にて最終評価を行なう。
〔留意事項（Other Information）〕
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
担当の教員の指示による。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業の中で随時紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

行動科学特論

270011N0J
大学
心理学研究科
2単位　前期
月曜 3限
ー
60
廣瀬　直哉

〔科目の教育目標（Course Description）〕
行動科学とは、人間や動物の行動を科学的に分析し、行動の諸現象を理解し、行動の諸問題を解決することを目指した科学である。したがって、行動科学は、心理学のみならず、社会学、文化人類学、人間工学、生物学など幅広い学問を含む学際的な領域である。本特論では、主に心理学以外の領域における行動の研究について理解を深め、人間の行動を幅広く総合的に捉える視点を培いたい。本年度は、特に行動経済学と行動神経科学の文献を読む予定である。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
1. 行動の研究方法の理解
2. 行動の測定および解析法の理解
3. 行動のモデルの理解
4. 行動についての理論の理解
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
第 2 回　経済と行動
第 3 回　動機づけとインセンティブ
第 4 回　時間選好
第 5 回　ヒューリスティクス
第 6 回　リスク選好
第 7 回　プロスペクト理論
第 8 回　行動の神経基盤
第 9 回　薬物と依存
第 10 回　動機づけと感情
第 11 回　視覚と聴覚
第 12 回　身体感覚と運動
第 13 回　言語と知能
第 14 回　睡眠と意識
第 15 回　まとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
主として演習形式で授業を進める。受講生にあらかじめ決められたテーマに関する英語文献を読んでもらい、議論行う。課題等のフィードバックは授業時に行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
予習用の文献を指定するので、それを授業前に読んでおくことが求められる。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
テストは実施せず、授業への参加度・発表(100％)により評価を行う。
〔留意事項（Other Information）〕
英語の書籍、論文を読み進めるので、英文読解が得意でない学生は予習にかなりの時間がかかることを覚悟した上で受講すること。
なお、受講生の人数や関心により、授業内容や課題を変更することがある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
Behavioural Economics: A Very Short Introduction/Michelle Baddeley/Oxford Univ Pr/2017/9780198754992
Brain & Behavior: An Introduction to Behavioral Neuroscience/Bob Garrett, Gerald Hough/SAGE Publications/2017/9781506349206
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理統計学特論（多変量解析）

270013N0J
大学
心理学研究科
2単位　後期
水曜 3限
ー
60
藤島　寛

〔科目の教育目標（Course Description）〕
心理学における研究対象の中から、多様で多くの変量（変数）を含むデータの統計的解析法である多変量解析について、その技法の基本的理論と応用的実践的技法を理解、習得する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
本特論では、多変量解析の基本としてデータ構造とその表現について習得するとともに、主要な変数を抽出する為の方法として主成分分析、因子分析、項目分析、及び変数間の因果関係を検討する為の方法として重回帰分析、共分散構造分析を習得する。また、これらの分析を用いた論文内容の理解が深まることを目的とする。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

知識・理解力	多変量解析の知識がなく、その分析方法も知らない	多変量解析の方法が理解できる	多変量解析を用いた研究の理解ができる	多変量解析による研究の問題点を批判的に検討できる
思考・解決力	多変量解析を用いて研究する意味がわからない	多変量解析の方法が研究に用いられる利点がわかる	多変量解析を用いた研究の意義を考えることができる	多変量解析を用いた研究計画を立てることができる

〔授業計画〕

第 1 回　量的研究
　　質的研究と量的研究、臨床研究における量的研究の困難さ、及び質問紙を用いて評価することの問題点

第 2 回　分類と因果関係
　　多変量解析概説ー分類と因果関係の推測

第 3 回　分類の方法
　　分類の方法ー分類の方法（直交と斜交）、回転

第 4 回　主成分分析
　　クラスター分析、主成分分析

第 5 回　因子分析
　　因子分析の基本

第 6 回　因子分析の実際
　　直交回転と斜交回転、主因子法と最尤法

第 7 回　質問紙検討
　　質問紙を用いた研究論文による質問紙作成の問題点を考える

第 8 回　質問紙の信頼性と妥当性
　　研究に用いられた質問紙の批判的検討

第 9 回　質問紙の選択
　　研究内容に応じた質問紙を的確に選ぶために注意すべきこと

第 10 回　分類の信頼性
　　分類結果の信頼性について

第 11 回　因果関係
　　相関と共分散による因果関係の検討

第 12 回　因果関係検討の方法
　　重回帰分析とパス解析

第 13 回　パス解析の問題点
　　パス解析を用いた研究論文による共分散分析の特徴と限界

第 14 回　パス解析の実際
　　パス解析を用いた研究論文の批判的検討

第 15 回　パス解析の使用
　　研究にパス解析を用いるときに注意すべきこと

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

多変量解析の基本的理論に関する講義とともに、質問紙を用いた研究、及び変数間の因果関係の分析をパス解析を用いて行った研究の批判的検討を行う。使用ソフトは、主にSPSS、AMOSを使用する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

講義開始前に準備することは課題提出時以外はありません。前回の講義で行ったことを復習してから次の講義に出席すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

　講義時の発表による講義の理解内容に基づいた平常点（100%）により評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

講義には、行列式などの数学的知識やSPSSなどの統計ソフトの使用方法を前もって理解しておく必要はありません。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕

『多変量データ解析法』/足立浩平/ナカニシヤ出版/2006/4.779500522E9

『共分散構造分析[Amos編]』/豊田秀樹/東京図書/2007/4.489020087E9

『因子分析法第２版』/芝祐順/東京大学出版会/1995/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

独立行政法人自動車事故対策機構の適性診断委員
法定講習交通安全運転管理者等講習（京都府、滋賀県）の交通統計に基づくテキスト執筆と講習講師。

心理統計学特論（少数例統計）

270014N0J
大学
心理学研究科
2単位　後期
金曜 5限
ー
60
森下　正修

〔科目の教育目標（Course Description）〕

　現代の多くの心理学研究は数量的研究です。研究テーマに沿った実験や調査をおこない、得られたデータを分析して、自説を検討するための材料を得ます。したがって、研究者は自分のデータにふさわしい統計手法を選び、使うことができなければなりません。これは、心理学の研究者だけでなく、実証データをカウンセリングに生かそうという臨床家や、生徒のデータなどから適切な教育評価をしようという教育者にとっても欠かせないスキルといえます。

　本講義では、こうした統計手法の理論的背景を学ぶとともに、心理・教育分野のデータに対して実際にコンピュータで分析をおこないます。こうした実習を通じて、分析の手順や留意点に関して体験的に理解することをめざします。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
　教育や臨床などあらゆる心理学分野で必要とされる記述統計全般と、無相関検定、t検定、分散分析、カイ二乗検定といった推測統計について、理論的枠組を理解しコンピュータ上で実施する際の手順を身につけること。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　ガイダンス、イントロダクション
本講義の進め方、評価方法と、全体の内容について説明します
第 2 回　統計前の処理
実験、調査データを得て統計に入る前に必要なデータ整理の基礎について説明します
第 3 回　SPSSの基本操作
本講義で使用するSPSSの操作や機能全般について説明します
第 4 回　記述統計①　度数分布、代表値、散布度
基礎的な記述統計について、概念も踏まえつつ統計の方法を実習します
第 5 回　記述統計③　データの変換、標準化
やや発展的な記述統計について、概念も踏まえつつ統計の方法を実習します
第 6 回　相関分析①　散布図、ピアソンの積率相関係数、無相関検定
相関分析の基礎について、概念と分析手順をあわせて説明します
第 7 回　相関分析②　偏相関、順位相関係数
やや発展的な相関分析について、概念と分析手順をあわせて説明します
第 8 回　①　t検定（対応のある場合）
データの対応の有無について説明し、対応のある場合のt検定を実習します
第 9 回　t検定②　t検定（対応のない場合）、1サンプルのt検定
対応のない場合のt検定と、1サンプルのt検定を実習します
第 10 回　分散分析①　１要因分散分析（対応のある場合、ない場合）
１要因の分散分析の流れを説明し、対応のある場合とない場合の実施手順を実習します
第 11 回　分散分析②　２要因分散分析（分析の流れ）
２要因分散分析の考え方、分析の流れに関して、詳しく説明します
第 12 回　分散分析③　２要因分散分析（実施手順）
２要因分散分析の実施手順を実習します
第 13 回　分散分析④　３要因分散分析
３要因分散分析の分析の流れと実施手順について説明します
第 14 回　名義尺度データの分析　カイ二乗検定、コクランのQ検定
名義尺度データの分析のうち、基本となるカイ二乗検定とコクランのQ検定について説明します
第 15 回　効果量分析
統計における効果量の考え方とその算出について説明します
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
　独自に作成した講義プリントを配布します。また、サンプルデータを配布し、その分析手順を実演するとともに、受講生にも自分でコンピュータ上での分析を実習してもらいます。

・レポートに対するフィードバック：メール提出されたレポートに対し、個別にコメントを返しますので、今後の参考にして下さい
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
　自分が普段から読んでいる論文でどのような分析手法が使われているかを意識し、自分がその理論や手法をどの程度知っているかを確認しておいてください。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
15
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
　講義内容を踏まえ、自分の研究計画に基づくデータについての統計処理を実施した期末レポートを提出してもらいます。評価は授業参加度（30%）、レポート（70%）の比率とします。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学研究法特論

270015N0J
大学
心理学研究科
2単位　前期
金曜 5限
ー
60
森下　正修

〔科目の教育目標（Course Description）〕
　現在、心理学の研究法には、実験、調査、検査や面接などがあります。手法は様々ですが、多くの研究に共通しているのは、科学的な態度です。すなわち、実証性や客観性をできる限りそなえ、過去の知見を整合的に説明し、なおかつ新しい成果を得ようとすることが、現代の心理学研究

には必須です。

そうした研究を自分で行うためには、事前計画の段階で、自説の論理構成を検討することと、データの収集方法を最適化することが大事になります。たとえば実験室実験において、妨害となる要素を可能な限り排除し、適切な実験方法を考えるにはどうすればよいか。学校・教育現場において子どもたちを対象とした調査を行う場合、研究者や教師の主観的な評価のみによらず、妥当性と信頼性のあるデータをどのように集めればよいか。臨床場面においてクライエントを対象とした研究を行う際に、研究計画や倫理の面でどのようなことに気をつけなければいけないか。事前計画の段階でいろいろなことに気を配らねばなりません。

さらに、データを得た後では、自説と照らし合わせて検証を行い、論文等にまとめることも必要です。論理的で説得的な実証研究論文を執筆するには、どういった点に留意すべきでしょうか。

本講義では、これらの問題に共通する理論的、実践的なポイントについて、子どもから成人まで幅広いサンプルを対象とした研究例をもとに解説してゆきます。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

心理学研究における実験・調査に必要な基礎的知識とスキルを身につけ、実験室での実験や、学校・教育現場、臨床場面での調査において活用できる研究計画を立てられるようになること。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

第 1 回　ガイダンス、イントロダクション
本講義の進め方、評価方法と、全体の内容について説明します

第 2 回　心理学研究における科学性と倫理
心理学研究が科学研究としておこなわれるために必要とされる要素、および研究上の倫理を説明します

第 3 回　研究計画の基礎①　独立変数と従属変数
研究計画上の根幹をなす２つの変数について解説します

第 4 回　研究計画の基礎②　参加者間計画と参加者内計画
研究計画における参加者間計画と参加者内計画の違いを解説します

第 5 回　研究計画の基礎③　統制
参加者間、参加者内計画の場合に必要となる剰余変数の統制について説明します

第 6 回　研究・統計の批判的検討①　欠陥・不備の指摘
先行研究の欠陥や不備について検討しながら、自分の研究計画を考えるやり方について説明します

第 7 回　研究・統計の批判的検討②　構成要素の置換、新規要素の追加
先行研究をもとにその構成要素の置換や追加について検討しながら、自分の研究計画を考えるやり方について説明します

第 8 回　クリティカル・リーディング
これまでに説明した批判的検討の姿勢をもとに、実際の論文を読む練習をします

第 9 回　研究論文の執筆法①　「問題」の構成
研究論文の執筆に関し、まず「問題」をどのように構成していくのか、実例をもとにしながら解説します

第 10 回　研究論文の執筆法②　「方法」～「考察」の構成
研究論文の執筆に関し、「方法」「結果」「考察」「引用文献」の項で必要となる要素について解説します

第 11 回　研究実践①　実験法
実験研究を実施する際に具体的に留意すべき点について解説します。

第 12 回　研究実践②　質問紙調査法
質問紙による調査研究を実施する際に具体的に留意すべき点について解説します。

第 13 回　研究実践③　質的研究法
面接や観察による質的研究を実施する際に具体的に留意すべき点について解説します。

第 14 回　レポート発表①　先行研究に対する批判的検討の報告
出席者が自分の研究のベースとなる先行研究を批判的に検討した結果を発表してもらい、討議します

第 15 回　レポート発表②　先行研究に対する批判的検討についての評価
出席者が自分の研究のベースとなる先行研究を批判的に検討した結果を発表してもらい、討議します

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

第14回、第15回にレポート発表があります

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

独自に作成した講義プリントを配布します。実際の論文の読み方・まとめ方を指導するクリティカル・リーディングなどの実習も行います。

受講生の皆さんと対話しながら授業を進めていきます。

・レポート発表に対するフィードバック：その場で教員も含めて討論をしますので、今後の研究の参考にして下さい。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

自分自身の研究テーマに関し、どのような先行研究があるのか、わかっていないことは何か、どういう方法でそれを解明すればよいか、代表的な研究論文はどのような構成で書かれているかなどを普段から意識して学ぶようにしてください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

20

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
講義内容を踏まえ、先行研究に対して批判的検討を加えたレポート発表を行ってもらいます。評価の比率は、授業参加度（30%）、レポート発表（70%）です。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

発達心理学特論

270032N0J
大学
心理学研究科
2単位　後期
金曜 4限
ー
60
発達・学校心理学専攻は必修
高井　直美

〔科目の教育目標（Course Description）〕
ピアジェ、ヴィゴツキーなどの発達の基本的理論、および昨今の重要な研究について理解する。さらに、発達に問題が生じている子ども、障害を持っている子どもの発達過程や個人差について理解し、教育現場等でどのような支援を行うことができるか、さまざまな観点から考察する。なお、本科目は臨床発達心理士指定科目の「臨床発達心理学の基礎に関する科目」の1、2、3、12を含む。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
以下に示す個別課題をふまえて授業を進める。
・健常の幼児・児童の発達を支援する教員の役割
・発達に問題がある幼児・児童に対しての、教員による支援的関わり
・発達の理論を教職場面に適用する意義等
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　生涯発達と臨床発達心理学－発達心理学の歴史と個体と環境の相互作用など—
第 2 回　発達のとらえ方—発達段階と発達の連続・非連続など—
第 3 回　発達の生物学的基礎について
第 4 回　発達の基礎理論①—精神分析理論とアタッチメント理論など—
第 5 回　発達の基礎理論②—ピアジェの発生的認識論—
第 6 回　発達の基礎理論③—心理社会的発達段階論、ヴィゴツキーの理論—
第 7 回　臨床発達心理学における発達的視点とは
第 8 回　実践研究・事例研究の検討①—最新の研究例から—
第 9 回　実践研究・事例研究の検討②—事例研究の方法—
第 10 回　実践研究・事例研究の検討③—アクションリサーチの例—
第 11 回　実践研究まとめと研究上の倫理的配慮について
第 12 回　発達の基礎理論④—行動理論と応用行動分析—
第 13 回　発達障害のとらえ方と支援—発達アセスメントについて—
第 14 回　発達支援の具体的方法
第 15 回　まとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
発達心理学の基本的理論、およびいくつかの重要な研究について、文献講読も行いながら、詳細に理解する。発達に問題が生じている子ども、さらに障害を持っている子どもの発達について学び、問題や障害の支援の仕方について、事例を通して具体的に学ぶ。さらには、臨床発達の現場、教育現場等で行われている支援のさまざまな実践について理解する。
課題レポートについてのフィードバックは、提出後に個別にフィードバックを行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
大学院に入学する前に学んだ基礎的な発達理論について、復習をしておくこと。学部時代の学びが不十分であると感じた場合は、参考文献を紹介するので、その旨申し出てほしい。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
授業中の文献発表を30％、レポートを70％として、総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
順番は変わることがある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業中に指示する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

青年心理学特論

270034N0J
大学
心理学研究科
2単位　後期
火曜 3限
ー
60
松島　るみ

〔科目の教育目標（Course Description)〕
　青年期は、子どもから大人への移行期である。第二の誕生の時期ともいわれ、心身の両面において重要な変容を遂げる。
　本科目では、青年期における心身の発達の諸相、発達課題、自己の形成と確立、対人関係（友人関係・恋愛関係)、適応・不適応、進路選択・進路意識などについて論じる。青年期は、自己が質的に変化し再構成される時期であり、自分自身が一つの課題となる時期であるので、自己に関わる諸問題についても考察する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
１．青年期の発達の諸相について理解を深める。
２．青年期に生じる諸問題を考察する。
３．現代青年における諸問題に関して理解を深める。
４．青年期に関する各自の問題意識を啓発する。
５．青年を対象とした研究法について理解を深める。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　青年期と現代青年における課題
第 2 回　青年期における身体と心およびジェンダー、セクシュアリティ
第 3 回　論文講読発表と討論（青年期における身体と心およびジェンダー、セクシュアリティに関して）
第 4 回　青年期における自己形成（自我の発達・アイデンティティ）
第 5 回　論文講読発表と討論（青年期における自己形成に関して）
第 6 回　青年期における対人関係①（友人関係）
第 7 回　青年期における対人関係②（恋愛関係）
第 8 回　論文講読発表と討論（対人関係に関して）
第 9 回　青年期とメディアの関わり
第 10 回　論文講読発表と討論（メディアとの関わりに関して）
第 11 回　青年期における適応・不適応
第 12 回　論文講読発表と討論（青年期における適応・不適応に関して）
第 13 回　青年期における進路・キャリア選択
第 14 回　論文講読発表と討論（進路・キャリア選択に関して）
第 15 回　まとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
１．講義形式と演習形式（論文講読）を並行して授業を進める。
２．講義では、教科書は使用せず、必要に応じてレジュメを配布する。
３．演習（論文講読）では、受講者各自が専門論文を講読し、概要と考察を発表して討論を行う。
４．ただ知識を得るだけでなく、自分なりに問題意識をもって考察を深め、研究を発展させる態度が望まれる。
５．授業中の発問に対する受講生の回答に対して、適宜口頭でフィードバックする。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
１．前回までの授業内容を十分に復習しておくこと。
２．次の授業内容について概要を把握しておくこと。
３．発表に際しては、論文を精読し、発表用スライド（レジュメ）を作成すること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
　レポート（40%)、発表と討論参加（60%）を総合して評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

学校心理学特論Ⅰ（学習心理）

270051N0J
大学
心理学研究科
2単位　後期
月曜 4限
ー
60
発達・学校心理学専攻は必修
廣瀬　直哉

〔科目の教育目標（Course Description)〕
学習は、心理学において古くから取り上げられてきた古典的なテーマの一つである。また、近年の学習科学などの新たな領域においても、学習は中心的な概念として取り上げられている。心理学における学習の研究は、知覚=運動学習、概念学習、社会的学習など幅広い分野で行われているが、本特論では、主に学校教育における学習の過程に焦点を当てる。そして、学習に関する心理学分野での最近の文

献をもとにして、学習を支援する学校教育の役割について考察を深めて行きたい。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
1. 学習に対する心理学的アプローチの理解
2. 様々な知識の獲得過程についての理解
3. 学習における協調と学習環境についての理解
4. 学習における動機づけと学習指導についての理解
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
第 2 回　学習科学の基礎
第 3 回　記憶と知識獲得
第 4 回　言語的知識の獲得
第 5 回　数学的知識の獲得
第 6 回　科学的知識の獲得
第 7 回　問題解決と理解
第 8 回　内発的動機づけ
第 9 回　達成目標理論
第 10 回　個人差と学習
第 11 回　メタ認知
第 12 回　自己調整学習
第 13 回　認知的徒弟制
第 14 回　学習環境のデザイン
第 15 回　まとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
主として演習形式で授業を進める。受講生にあらかじめ決められたテーマに関する文献を読んでもらい、議論行う。課題等のフィードバックは授業時に行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
予習用の文献を指定するので、それを授業前に読んでおくことが求められる。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
定期テストは実施せず、授業参加度(100％)により評価を行う。
〔留意事項（Other Information）〕
受講生の人数や関心により、授業や課題の内容・順序を変更することがある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
The Cambridge Handbook of the Learning Sciences /R. Keith Sawyer/Cambridge University Press/2014/9781107626577
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

学校心理学特論 II （教育理論）

270052N0J
大学
心理学研究科
2単位　前期
火曜 2限
ー
60
神月　紀輔

〔科目の教育目標（Course Description）〕
教育および学校心理学の基礎理論を学び，スクールカウンセラーの役割を知る
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
スクールカウンセラーの実情を知る。
教育理論の実践的展開の方法を知る
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション
第 2 回　教育とは，学校心理学とは
第 3 回　学校心理学の基礎理論
第 4 回　初等中等教育現場で起こっている問題(1) 不登校，ひきこもりの問題
第 5 回　初等中等教育現場で起こっている問題(2) 学習障害など障害の問題
第 6 回　初等中等教育現場で起こっている問題(3) いじめ，非行等の問題
第 7 回　学校心理士の活動(1) アセスメント
第 8 回　学校心理士の活動(2) コンサルテーション
第 9 回　学校心理士の活動(3) カウンセリング
第 10 回　教師保護者と学校心理士の連携(1) 教職員との連携
第 11 回　教師保護者と学校心理士の連携(2) 保護者との連携
第 12 回　教師保護者と学校心理士の連携(3) 地域・関係機関との連携
第 13 回　学校心理士の倫理(1) 人権の尊重と責任の保持
第 14 回　学校心理士の倫理(2) 秘密保持と援助サービスへの介入
第 15 回　まとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
毎回，輪番による発表を行う。ディスカッションを中心に据え，各自の研究テーマと課題との接点を探る。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
テキストの指定された範囲を読んでおくこと。
新しい情報は，Webやニュースなどからできる限り広く情報収集しておくこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
40
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
レポート(50%)：期間中に3回程度
発表，および授業に参加する態度（50%）：発表の内容，および授業時の参加意欲を自己評価し点数化する。
〔留意事項（Other Information）〕
基本的に出席を重視します。
個々の研究課題における学校心理学や教育理論に関する論文等の文献は積極的に持ち寄ってください。
上記，授業計画は，受講生の状況によって柔軟に対応する予定です。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
『学校心理学ガイドブック 第3版』/学校心理士資格認定委員会/風間書房/2012/9.784759919172E12/学内販売予定
『状況に埋め込まれた学習—正統的周辺参加』/Jean Lave・Etienne Wenger 著，佐伯 胖 訳/産業図書/1993/4.782800843E9/学内販売予定
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
『学校心理士の実践:幼稚園・小学校編 (講座「学校心理士—理論と実践」)』/「学校心理士」認定運営機構/北大路書房/2004/9.78476282377E12
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

教育方法学特論

270053N0J
大学
心理学研究科
2単位　後期
火曜 4限
ー
60
神月　紀輔

〔科目の教育目標（Course Description）〕
言語活動と各教科の教育方法の関係について理解を進め，思考力と表現力と対話力の育成を考えた教育の方法について理解する。情報機器の活用を含めた，主体的な学習の方法について，学習者の立場から研究する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
・教育方法学についてその研究の方法と意義を理解する。
・各教科における言語活動の位置を整理する。
・コミュニケーションの方法について理解をすすめる。
・情報の活用について，その学習効果を心理統計を交えながら研究する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　各教科における言語活動
第 3 回　各教科に共通に役立つ言語活動
第 4 回　アイスブレイクの方法
第 5 回　チームビルディングの方法
第 6 回　ワールド・カフェの方法
第 7 回　アクション・ラーニングの方法
第 8 回　ファシリテーション・グラフィックの方法
第 9 回　タブレットＰＣ・ミーティングの方法
第 10 回　ポスターセッションの方法
第 11 回　ワークショップ・デザインの方法
第 12 回　ワークショップ・デザインの実践
第 13 回　効果の測定について
第 14 回　情報を活用した教育方法に関する文献の講読
第 15 回　自己評価
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
さまざまな教育方法を実際に行う。
さまざまな教育方法を含めた，ワークショップをデザインし，実践し，その効果を検討する。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
企業研修で行われる教育方法も含めた多くの教育方法を積極的に体験する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
40
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
ワークショップ・デザインに有効な方法をどの程度学習できたかを，自己評価する。また、自分なりのワークショップをデザインし，その有効性について相互評価と自己評価をする。
〔留意事項（Other Information）〕
フィールドワークを数回行う。そのための交通費・参加費等が実費でかかる可能性がある。参考文献は，その都度紹介する。文献等は自分で検索し，積極的に教員に質問するなど，自ら学ぶ姿勢が必要である。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
『教育の方法』/井上智義他/樹村房/2007/9784883671373
『ファシリテーション・グラフィック』/堀公俊他/日本経済新聞/2006/4532312884
〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　教員として学校に勤務経験あり

教育・心理検査特論

270054N0J
大学
心理学研究科
2単位　前期集中
その他
ー
60
松島　るみ

〔科目の教育目標（Course Description）〕
本科目では、臨床発達心理学的、心理・教育的アセスメントについて理解を深め、多様なアセスメントの方法を学ぶのと同時に、心理検査についての実施や採点、解釈や支援の方法について学ぶことを目的とする。また、発達的視点にもとづく支援について、フォーマルアセスメント（面接、行動観察、検査、成績など）および家庭環境や家族関係、人間関係などに見られるインフォーマルアセスメントを理解し、検査結果の支援への活用について学ぶ。心理検査は、人間の心的諸側面の個人差を測定するために作成された心理学的手法を用いた測定手段である。検査者は、心理検査を活用する明確な目的を持ち、使用する検査の実施方法や理論的な背景等を習得することが必要である。心理検査の中には、幼児・児童・生徒の発達に対する理解や学級づくり、教育相談等、教育活動を効果的に行うことを目的に開発されたものもある。この科目においては、心理検査や教育評価の理解を深めるとともに、臨床発達や学校教育場面で使用される心理検査の理解と基本的な技術の習得を目指す。なお、本科目は、臨床発達心理士指定科目の「臨床発達心理学の基礎に関する科目」の６、７、９を含む。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
・臨床発達心理学的、心理・教育的アセスメントの目的や方法、アセスメントから支援の方法について理解すること。
・教育・心理検査や教育評価に関する基礎的な知識を習得すること。
・教育・心理検査の基本的な技術を習得すること。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　臨床発達支援の基本的視点と心理・教育的アセスメント
第 2 回　臨床発達心理学的および心理・教育的アセスメントの方法
第 3 回　心理検査の活用
第 4 回　学級・学校アセスメント
第 5 回　教育評価
第 6 回　個別知能検査(ウェクスラー式知能検査：WISC-Ⅳを中心に）の概要／フォーマルアセスメントとインフォーマルアセスメント
第 7 回　VCI検査の実施方法
第 8 回　PRI検査実施の実施方法
第 9 回　WMI検査の実施方法
第 10 回　PSI検査の実施方法
第 11 回　WISC-Ⅳ結果の処理（基礎）および心理検査の統計基礎知識
第 12 回　WISC-Ⅳ結果の処理（応用）
第 13 回　支援活動の展開（検査結果による指導計画への発展）
第 14 回　その他の個別知能検査（K-ABCⅡ等）の実施
第 15 回　その他の個別知能検査（K-ABCⅡ等）の解釈
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
受講生による発表とディスカッション、心理検査の実習を中心に授業を進める。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
・発表に関して事前に関連文献に目を通したり、心理検査の背景や方法について調べておくこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
発表やディスカッションへの参加状況から総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

教育社会心理学特論

270055N0J
大学
心理学研究科
2単位　後期
金曜 3限
ー
60
尾崎　仁美

〔科目の教育目標（Course Description）〕
本科目では、青年期における自己やアイデンティティ形成の問題、および教育現場のなかでそれらをどう支援していくかという問題を扱う。
個人の自己やアイデンティティの形成には他者との相互作用が重要な役割を果たしている。これまでの研究知見を通

して、多様な人間関係の中で、青年の自己やアイデンティティがどのように形成されていくかという問題について理解を深めるとともに、キャリア発達の理論やキャリア教育の実践なども参考にしながら、青年の自己形成を支援するような教育実践のあり方について考える。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
1.自己やアイデンティティに関する理論や研究について理解を深める。
2.キャリア発達・キャリア教育に関する理論や実践について理解を深める。
3.自己形成に関わる理論や研究の検討を通して、青年の自己形成を支援する教育実践について考える。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　青年期における自己形成
第 2 回　自己形成に関わる諸概念（１）自尊感情
第 3 回　自尊感情研究の実際
第 4 回　自己形成に関わる諸概念（２）自己効力
第 5 回　自己効力研究の実際
第 6 回　自己形成に関わる諸概念（３）動機づけ
第 7 回　動機づけ研究の実際
第 8 回　自己形成に関わる諸概念（４）達成目標
第 9 回　達成目標研究の実際
第 10 回　自己形成に関わる諸概念（５）レジリエンス
第 11 回　レジリエンス研究の実際
第 12 回　自己形成に関わる諸概念（６）アイデンティティ
第 13 回　アイデンティティ研究の実際
第 14 回　キャリア発達の理論
第 15 回　キャリア教育の実践紹介
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
文献は、授業中に指示する。
受講生による発表とディスカッションを中心に進める。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
詳細は授業中に指示するが、関連分野の文献や研究論文に目を通しておくこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
40
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
ディスカッションへの参加状況、発表、レポートから総合的に評価する。
受講生の発表や質問に対しては、適宜口頭でフィードバックする。レポートに対しては、個別にコメントして返却する。
〔留意事項（Other Information）〕
上記の内容・順序は、受講生の興味・関心に応じて変更する場合がある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

学校臨床心理学実習

270057N0J
大学
心理学研究科
1単位　後期
火曜 5限
ー
15
薦田　未央

〔科目の教育目標（Course Description）〕
子どもの心身の発達過程を理解し、それに基づき特に児童・生徒で発達支援を必要とする対象者のライフステージに合わせた問題の理解を深める。
また、児童・生徒への直接的支援方法であるカウンセリングやグループカウンセリングの理論や技術を習得する。加えて、問題を抱える子どもに関わる保護者や教師へのコンサルテーションやコーディネートについての知識と技術も実践的に習得することを目標とする。なお、本科目は臨床発達心理士科目の「臨床発達支援の専門性に関する科目」の3，6，8を含む。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
1.子どものライフステージに合わせた心身発達の過程を理解する。
2.子どもへの直接的支援方法（グループ支援、個別支援）を実践的に理解する。
3.カウンセリング等、支援技法の習得
4.保護者、教師等の心理状態を理解し、組織との関係性について理解を深める
5.保護者、教師等へのコンサルテーション、コーディネートを実践的に理解する。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　学校における支援ニーズと相談支援のあり方
第 2 回　幼児・児童・生徒における心理的問題の把握
第 3 回　クラスにおける人間関係形成に関する実習（技法の理解と実際）
第 4 回　クラスにおける人間関係形成に関する実習（評価）
第 5 回　子どもへの直接支援実習（カウンセリングにおける態度と技法）
第 6 回　子どもへの直接支援実習（RP:子どもの立場）

第 7 回　子どもへの直接支援実習（RP：支援者の立場）
第 8 回　子どもへの直接支援実習（RPの総合評価）
第 9 回　育児支援の実際と支援実習（RP：保護者の立場）
第 10 回　育児支援の実際と支援実習（RPの評価）
第 11 回　学校における支援（教師へのコンサルテーションについての実習）
第 12 回　教師へのコンサルテーションについての実習（事例検討）
第 13 回　校内連携に関するグループ実習（模擬カンファレンス）
第 14 回　校内連携に関するグループ実習（評価）
第 15 回　支援における倫理・まとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない。

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
児童・生徒の心理、保護者、教師の心理についての理解と支援技法の理論を基礎として、仮想事例の見立てや面接のロールプレイを中心とした実習により実践的に発達および教育的支援方法を習得する。上記課題において求められるレポート、所見については、コメントをその都度、あるいは授業後個別に返却する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
授業課題で指定されたテーマや文献に関して、事前の下調べや通読をしておくこと。授業後には、理解不十分であった箇所を振り返り、次回の授業での質問等の準備をしておくこと。また、実施する心理検査等についても、あらかじめテキストやマニュアルに目を通して予習をして実習に備えておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
15

〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
授業参加度・実習への取り組み態度（45%）、ディスカッション（30%）、課題作成（25%）を評価対象とする。

〔留意事項（Other Information)〕
実習授業という性質上、実際に授業で取り組む課題から実践的、体験的に理論や方法を学ぶことが重要であり、それらが評価対象となることを認識しておくこと。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
授業中に配布する資料の他は、適宜指示する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
『実践グループカウンセリングー子どもが育ちあう学級集団づくりー』/田上不二夫（編著）/金子書房/2010/
『学童期の支援ー特別支援教育をふまえてー』/長崎勤・藤野博（編著）/ミネルヴァ書房/2011/
『発達障害のある子の自立に向けた支援』/萩原拓/金子書房/2015/

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　臨床心理士として学校現場、医療・保健機関等での支援業務経験あり。

特別支援アセスメント実習

270058N0J
大学
心理学研究科
1単位　前期
木曜 4限
ー
15
薦田　未央

〔科目の教育目標（Course Description)〕
乳幼児および就学後の児童・生徒で発達支援を必要とする対象者理解と支援技術を習得する。特に、療育、保育、教育（特別支援教育）の現場で必要とされる臨床発達心理学および教育心理学の専門知識や発達支援、教育支援に関する理論やアセスメント方法など専門的技術の習得を目標とする。
なお、本科目は「DP科目」の「臨床発達心理学の基礎に関する科目」5,8,11を含む。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
1.就学前後における、気になる子どもの困りや障害特性、実態を理解する。
2.特別支援教育における理念と意義を理解し、現代社会における発達支援への理解を深める。
3.子どもの状態を把握するアセスメント方法（発達検査、知能検査等）の習得。
4.アセスメント結果の解釈と個別の支援計画の作成を行う。
5.アセスメントに基づく発達支援の基本的技法に関する知識を習得。
6.教育機関、発達支援機関との協働・連携についての理解と方法を学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　現代社会における発達支援
第 2 回　発達支援における医学的情報に関する知識とその利用
第 3 回　発達支援における心理士の高度専門性
第 4 回　発達支援の流れと基本的技法（インテークから具体的支援までの概説）
第 5 回　保育支援の実際（保育所・幼稚園・療育機関等でのアセスメントの概説）
第 6 回　乳幼児アセスメント実習（発達検査の実施）
第 7 回　乳幼児アセスメント実習（発達検査結果の解釈と所見のまとめ方）
第 8 回　乳幼児に関する指導・支援計画の作成

第 9 回　学童期・中・高校生における支援（学校・教育相談機関等でのアセスメントの概説）
第 10 回　児童・生徒アセスメント実習（知能検査の実施）
第 11 回　児童・生徒アセスメント実習（知能検査結果の解釈と所見のまとめ方）
第 12 回　児童生徒に関する個別の指導計画・教育支援方針の作成
第 13 回　療育、就学、教育相談等における保護者支援、コンサルテーション、（アセスメント結果の活用）
第 14 回　仮想事例によるケースワーク（支援プログラム・支援方法の検討）
第 15 回　療育、保育、教育現場における支援体制と連携について

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
理論の理解を基礎として、ロールプレイや提示事例の解釈等を実習し、実践的に心理検査に関する技術や発達および教育的支援方法を習得する。
上記課題において求められるレポート、所見については、コメントをその都度、あるいは授業後個別に返却する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
授業で実施する発達検査、知能検査に関する理論、および実施方法についてはテキストやマニュアルに事前に目を通しておくこと。また、検査実習後のデータの整理、所見の書き方についても復習のうえ、各自で作成し、次の授業までに準備をしておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
授業参加度・実習への取り組み態度（30％）、課題作成（40％）、ディスカッション（30％）を評価対象とする。

〔留意事項（Other Information）〕
実習授業という性質上、実際に授業で取り組む課題から実践的、体験的に理論や方法を学ぶことが重要であり、それらが評価対象となることを認識しておくこと。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
適宜、参考資料を配布する。また、使用する検査用具・マニュアル等も貸出とする。

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
『WISC－Ⅳの臨床的利用と解釈』/プリフィテラ,A.,サクロフスキー,D.H.,ワイス,L.G.（編）／上野一彦・（監訳）/日本文化科学社/2012/
『新版Ｋ式発達検査にもとづく発達研究の方法』/中瀬惇/ナカニシヤ出版/2005/
『学童期の支援ー特別支援教育をふまえてー』/長崎勤・藤野博編著/ミネルヴァ書房/2011/
『発達障害の療育』/尾崎康子・三宅篤子【編著】/ミネルヴァ書房/2016/
その他は授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　臨床発達心理士として医療・保健機関、学校現場等での支援業務経験あり。

人格心理学特論

270071N0J
大学
心理学研究科
2単位　前期
金曜 3限
ー
60
村松　朋子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
パーソナリティの理解は、心理臨床の実践や研究を進める上で重要である。
心理臨床において効果的な援助を行うためには、面接・観察・心理検査を通して、経過と現状・生育歴・環境や対人関係・人格など多角的な視点から背景にある心の仕組み（パーソナリティ）を見立てること（心理アセスメント）が必須である。
本講義では、パーソナリティの理解を深め、実践と結び付けることができるように考えていきたい。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
心理臨床においてパーソナリティを理解するとはどのような意味があるのか、またパーソナリティを理解するための理論に基づきそれらを実践に結びつける力を養成する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション　本講義の目的と進め方について
第 2 回　パーソナリティ研究の歴史
第 3 回　精神分析的アプローチ1　分離固体化研究
第 4 回　精神分析的アプローチ2　クライン理論
第 5 回　精神分析的アプローチ3　錯覚と脱錯覚
第 6 回　特性によるアプローチ
第 7 回　行動的アプローチ
第 8 回　人間性アプローチ
第 9 回　パーソナリティの病理1　パーソナリティとアタッチメント・スタイルとの関連
第 10 回　パーソナリティの病理2　関係性の障害
第 11 回　パーソナリティの病理3　パーソナリティ障害
第 12 回　パーソナリティ研究法
第 13 回　パーソナリティ・アセスメント1　投映法について
第 14 回

パーソナリティ・アセスメント2　多角的アセスメント
第 15 回　まとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない。
担当となったテーマでのレポートの提出を課す。
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
講義と、受講生による発表・ディスカッションを連動させながら進める。講義から得た問題意識や自らの関心に沿って、受講生が特定のテーマについて発表し、これをもとにディスカッションを行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
受講者は1人1テーマを担当し、レジュメを用いて発表を行う。その後、討論を通して理解を深める。必要に応じて参考資料を配布する。各受講者が毎回の該当箇所を事前に精読し、討論への積極的に参加できるよう準備学習が必須である。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
＜授業参加度・発表内容・ディスカッションへの参加（60%）＞、＜レポート（40%）＞により評価する。
理論と実践が結びつくよう、レポートの内容に対してコメントを返す。
〔留意事項（Other Information)〕
講義内容は受講生の知識や理解度および講義の進捗状況、受講人数に応じて、変更される場合がある。開講時に課題文献リストを配布するので、講義と並行して各自で読み進めること。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
改訳 遊ぶことと現実　ウィニコット 岩崎学術出版社
乳幼児の心理的誕生—母子共生と個体化 (精神医学選書) マーラー 黎明書房
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫
医療機関、教育機関で臨床心理士としての勤務経験あり。

臨床心理学特論 I

270072N0J
大学
心理学研究科
2単位　前期
月曜 4限
ー
60
伊藤　一美

〔科目の教育目標（Course Description)〕
本科目は、臨床心理学的な人間理解について、パラダイムという観点から整理しつつ、心理学全般や対人援助における心理臨床の位置づけについて学ぶことを目的とする。それに加えて、臨床心理学的な研究方法と倫理についても学ぶ。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
（１）こころの問題における〝異常”とは何かについて理解と想像力を習得する。
（２）臨床心理学的なアセスメントについて、さまざまな立場や視点を学ぶ。
（３）臨床心理学的介入について、数多い心理療法の技法を「パラダイム」という観点からまとめ直し、その共通点や相違点を理解する。
（４）臨床心理学的な研究方法とそれに伴う倫理的問題について学ぶ。
（５）自身の臨床心理に関する実習体験と本科目で学んだ理論や知見との関連を実感をもって学ぶ。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　異常とはなにか
第 3 回　臨床心理学的アセスメントの考え方
第 4 回　臨床心理学的介入（１）人間学・実存主義パラダイム
第 5 回　臨床心理学的介入（２）精神分析的パラダイム
第 6 回　臨床心理学的介入（３）学習理論パラダイム
第 7 回　臨床心理学的介入（４）認知理論パラダイム
第 8 回　臨床心理学的介入（５）生物学パラダイム
第 9 回　臨床心理学的介入（６）集団への介入
第 10 回　臨床心理学的介入（７）コミュニティ心理学
第 11 回　臨床心理学的介入（８）統合的アプローチ
第 12 回　臨床心理学における研究方法
第 13 回　臨床心理学研究における倫理の問題
第 14 回　各自の心理臨床実践から考える
第 15 回　まとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
期末レポート課題を実施する。

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
上記参考文献や授業中に指定するテキストを用いての講義と、受講生が分担しての発表によって構成する。
講義・発表いずれにおいても、できるだけ討論を重視する。授業中の発表やディスカッションについては、適宜口頭でフィードバックを行う。期末レポート課題については、後日コメントおよび適宜口頭でフィードバックを行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
指定テキストのみならず、心理療法の各種理論について、日ごろから文献で学び、加えて「臨床心理基礎実習Ｉ」での事例検討会での内容と照らし合わせての省察を常に怠らないこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total))〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
分担発表や討論を含む授業参加度（80％)、期末レポート課題（20％）から総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
『テキスト臨床心理学１「理論と方法」』/デビソンG.C.ほか/誠信書房/2007/4414413419
『テキスト臨床心理学２「研究と倫理」』/デビソンG.C.ほか/誠信書房/2007/4414413427
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫／　臨床心理士として医療機関・教育機関での勤務経験あり。

心理療法特論

270073N0J
大学
心理学研究科
2単位　集中
その他
ー
60
杉原　保史

〔科目の教育目標（Course Description)〕
心理療法の入門書は、主要な学派の概要のバラバラで並列的な記述であるか、いずれか１つの学派についての体系的な記述であるか、そのいずれかであることが多い。そこでは入門者はいずれか１つの学派を選択し、もっぱら排他的にその学派を学んでいくことが暗黙の前提となっている。この講義は、この前提に挑戦するものである。受講学生が、異なる様々の学派間の隠れた共通性や両立可能性についての認識を深めること、ならびに、実践の中で複数の学派の知恵を調和的に活用できるための準備性を整えること、を目標とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
心理療法が多くの学派によって成り立っていることを理解し考察する／学派というものが持つ機能や性質について検討する／学派についての自らの姿勢を振り返る／学派を超えて共通する治療要因について学ぶ／統合的なアプローチについて理論的に学ぶ／ロールプレイなどの実習を行い体験的に学ぶ
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　統合的アプローチとは
統合的アプローチの大枠について学ぶ。
第 2 回　学派とは何か
統合的アプローチとは学派の統合を推し進める立場である。統合の基礎にある学派とは何なのかを理解する。
第 3 回　学派を超えて共通する治療要因
どのような学派に基づく実践を行うセラピストでも、有能なセラピストが面接で行うことには共通するところがある。共通要因と呼ばれるそうした治療要素について学ぶ。
第 4 回　カウンセラーの話の聴き方について
どのような学派のセラピストも、クライエントの話を共感的に受容的に傾聴するスキルは必要である。学派を超えて共通の治療スキルとしての傾聴スキルについて学ぶ。
第 5 回　カウンセリングのデモンストレーション
傾聴スキルについて、単に知的に学ぶだけでなく、教員のデモンストレーション（実演）を見ることによって、モデル学習を推進する。
第 6 回　循環的心理力動論（概論）
ポール・ワクテルの循環的心理力動論について概説する。
第 7 回　エクスポージャーについて
ポール・ワクテルの循環的心理力動論で重視されているエクスポージャーの原理について学ぶ。
第 8 回　トゥー・パーソンの視点
ポールワクテルの循環的心理力動論で重視されているトゥー・パーソンの視点について学ぶ
第 9 回　ロールプレイ実習（実技）
ロールプレイを通して体験的に学びを深める。
第 10 回　ロールプレイ実習（振り返り）
ロールプレイを振り返り、多面的に討議することを通して、実践的な学びを深める。
第 11 回　加速化体験力動療法
統合的な心理療法の１つとして、加速化体験力動療法を取り上げ、概説する。
第 12 回　加速化体験力動療法（ポートレイアル）
加速化体験力動療法において、クライエントの体験を深めるための技法としてしばしば用いられるポートレイアルについて学ぶ。

第 13 回　カウンセラーの言葉の技術（概説）
どのような学派の実践をするにせよ、言葉を治療的に用いるスキルは必須である。言葉の技術の必要性と治療的意義について概説する。
第 14 回　カウンセラーの言葉の技術（さまざまな工夫）
カウンセラーがクライエントに効果的に治療的メッセージを届けるための言葉の工夫について例を挙げながら紹介する。
第 15 回　カウンセラーの言葉の技術（集団的討議）
臨床場面のいくつかの例を取り上げ、そこでどのようにクライエントに言葉をかけるかについて、グループ討議によって検討し、言葉の技術についての実践的な理解を深める。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
講義、論文やテキストの講読、質疑、討議、実習。レポート課題に対するフィードバックは、採点後、電子メール等により行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
テキストの購読、配布資料の精読。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
10

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
評価は、質疑や討議や実習への参加の様子を５０％、レポートを５０％として行う。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
『技芸としてのカウンセリング入門』/杉原保史/創元社/2012/4422115464/学内販売予定

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
『心理療法の統合を求めて』/ワクテルＰ/金剛出版/2002/477240726X
『心理療法家の言葉の技術』/ワクテルＰ/金剛出版/2004/4772408290
『説得と治療』/フランクとフランク/金剛出版/2007/4772409912
『統合的アプローチによる心理援助』/杉原保史/金剛出版/2009/4772410694

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫
臨床心理士として、大学での心理的支援（学生相談）の勤務経験あり。その他にも、精神病院での臨床心理士としての（嘱託）勤務経験あり。

臨床心理面接特論Ⅱ

270075N0J
大学
心理学研究科
2単位　後期
金曜 2限
ー
60
空間　美智子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
心理臨床実践は理論のみでは成り立たず、体験を通して実際的な関わりの姿勢を身につけることが求められる。これらを身につける過程では、自分自身のもののとらえ方、感じ方、反応の仕方等について理解すること、そして、それぞれに異なる特性を備えた個々が、自らの実感をさぐり、それと慎重に照らし合わせながら、自らに適した「いまここ」における関わりのあり方を模索することが大切である。「臨床心理面接特論Ⅱ」では、「臨床心理面接特論Ⅰ」に引き続き、文献の講読やディスカッションを通して、臨床心理面接における基本姿勢について理解する。クライエントと治療者の関係性構築のあり方について、実習を通して体験的理解を深める。また、臨床心理面接で用いられる具体的な技法について、体験的に学ぶ。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
（１）事例論文や面接技法について述べた文献を講読し、それに関するディスカッションを通して、臨床心理面接における基本姿勢について理解する。
（２）傾聴や共感的理解といった臨床心理面接における基本姿勢や、クライエントと治療者の関係性構築のあり方について、体験的理解を深める。
（３）臨床心理面接で用いられる具体的な技法について、体験的に学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　面接に関わる文献講読（面接技法の歴史と理論）
第 3 回　ロールプレイと振り返り（面接技法の歴史と理論）
第 4 回　面接に関わる文献講読（面接の基本姿勢）
第 5 回　ロールプレイと振り返り（面接の基本姿勢）
第 6 回　面接に関わる文献講読（傾聴、関係性構築）
第 7 回　ロールプレイと振り返り（傾聴、関係性構築）
第 8 回　面接に関わる文献講読（アセスメントとフィードバック）
第 9 回　ロールプレイと振り返り（アセスメントとフィードバック）
第 10 回　技法の実習（機能的アセスメント）
第 11 回　技法の実習（セルフモニタリング）

第 12 回　技法の実習（動機づけ面接）
第 13 回　技法の実習（アサーション）
第 14 回　技法の実習（社会的スキル訓練）
第 15 回　まとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
（１）事例論文や文献の講読については、各自指定の文献を事前に熟読の上、ディスカッションを行う（使用する文献については、授業時間中に指示する)。
（２）体験実習では、体験の後にディスカッションを行い、各自振り返りのレポートを作成する。
（３）授業中の発問に対して適宜口頭でフィードバックする。
（４）レポートには個別にコメントして返却し、その講評や解説を授業中に行う。さらに、解答例や解説をmanabaで公開する。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
（１）事例論文や文献の講読については、各自指定の文献を事前に熟読し、ディスカッションしたい点を明確にしておく。
（２）臨床心理面接で用いられる技法の基盤となる、心理学の各領域の理論を説明できるよう、これまでに習得した専門的知識を復習しておく。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
体験実習や発表、ディスカッションにおける準備や取り組みの姿勢(70％)、レポートの内容（30％）から、総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫（臨床心理士として教育、医療機関での勤務経験あり)。

児童精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開ｂ)

270103N0J
大学
心理学研究科
2単位　後期
木曜 6限
ー
60
久保田　泰考

〔科目の教育目標（Course Description)〕
　児童精神医学領域の主要な精神疾患について学び、思春期の精神病理についても広く学習する。精神科医としての経験をもとに臨床的な観点を解説するほか、さらに神経科学の知識も必要に応じて講義し、神経科学と精神分析の双方向的視野に立脚するニューロサイコアナリシスの観点から、精神・神経発達障害の実像を理解することを目標とする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
古典的な精神病理学：神経症・精神病概念の整理
子どもの神経症・不安障害：精神分析理論と社会・情動発達モデルの関連
脳の発達と精神障害：OCD、AD/HD、トゥレット障害などの神経学的基盤
子どもの精神疾患：うつ病、統合失調症、双極性障害
自閉スペクトラム症：自閉症、アスペルガー症候群、特定不能型
子どもの精神療法：精神分析モデル、トラウマ論、無意識の概念化
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション：児童精神医学とはどんな学問か
第 2 回　神経症１：古典的な神経症論、精神病圏との病態水準の違い、今日の診断基準について
第 3 回　神経症２：愛着理論から神経症概念を見直す、社会・情動アセスメントの考え方と実際
第 4 回　精神病論：統合失調症の精神病理、自閉症との関係
第 5 回　症例検討１：面接法による思春期・青年期の危機のアセスメント
第 6 回　自閉スペクトラム症：自閉症の概念、自閉スペクトラム症（ASD）について
第 7 回　症例検討２：ASDの社会・情動発達の支援、ケース報告とフィードバックのすすめ方
第 8 回　感情障害：うつ病、躁うつ病、児童における特性
第 9 回　PTSD：トラウマへの対応、社会・情動発達の観点からの具体的支援のすすめ方
第 10 回　強迫性障害：強迫性障害、トゥレット症候群、その他児童における関連障害について
第 11 回　境界型パーソナリティー障害：ボーダーラインの概念、治療について
第 12 回　臨床精神薬理：児童精神医学における薬物療法の理論・実際
第 13 回　臨床心理学（４）学校における児童生徒の問題
第 14 回　臨床心理学（５）心理臨床などの専門家と専門機関
第 15 回　症例検討３：関係の障害、情動の失調への介入の考え方、特に古典症例から学ぶ（関係性の病理と支援）
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施する。

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
講義形式中心で毎回資料を配布。学生側からのフィードバックや復習内容、要望に応じて、講義内容を柔軟に調整・変更する。症例検討や映像資料の供覧も必要に応じて行う。課題レポートに対するフィードバックは、授業中に解説する他、個別にWebシステムを通じて行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
日常生活から生まれる人間の精神活動についての素朴な疑問、あるいは実習などの活動から生じた臨床的な問題意識を折に触れて整理しておくことが求められる。特に専門的な知識の予習は全く必要ない。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
15
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
　授業への参加度、特に積極的な質問や問題提起（30％)、レポート2回（70％）に基づいて総合的に行う。
〔留意事項（Other Information)〕
映画や小説、マンガなどで精神障害を扱った作品を各自積極的に鑑賞しておくことが求められます。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
『ニューロサイコアナリシスへの招待』/岸本寛史編/誠信書房/2015/9784414400984
『ニューロラカン: 脳とフロイト的無意識のリアル』/久保田泰考/誠信書房/2017/9784414416305
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　精神科医師および臨床心理士として医療機関、専門相談施設での勤務経験あり。

発達臨床特論

270104N0J
大学
心理学研究科
2単位　前期集中
その他
ー
60
礒部　美也子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
言語発達過程、言語獲得を可能とする認知機能、ことばの発達の遅れた子どもの評価、援助方法について学ぶ。言語機能の発達は、社会性の発達と認知・思考の発達と相互に関係する重要な研究領域であり、初期発達を支援する療育現場でも、コミュニケーション・言語発達指導が非常に重要である。そこで、言語獲得を可能にするヒトの認識の特異性や言語発達に関する重要な理論や言語発達過程を紹介し、最近の研究成果について解説する。言語の発達と障害についての知識を得た後、対象児・者を理解するために必要な検査・評価・診断の方法、指導方法等を学び、受講生が臨床発達心理士として活動できる基礎的素養を身につけられるよう援助していきたい。なおこの科目は、「DP科目」の「言語発達とその支援に関する科目」（以下「言語」と略す）の1-1～1-7を含む。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
講義を聞くだけでなく、論文の講読を課し、レジメを作成して、より深く言語発達とその障害について理解する。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　言語発達と言語発達支援
第 2 回　言語発達の生物学的・神経学的基礎
第 3 回　言語発達の社会的基礎
第 4 回　言語発達の認知的基礎
第 5 回　言語発達の概観①；前言語期から初語期のコミュニケーション発達
第 6 回　言語発達の概観②；語彙・文法の発達
第 7 回　言語発達の概観③；音韻の発達
第 8 回　言語発達の概観④；語用、読み・書きの発達
第 9 回　言語発達の教育的側面、社会・文化的側面
第 10 回　言語発達の障害
第 11 回　言語・コミュニケーション発達の相談で用いる言語検査、必要情報について
第 12 回　言語・コミュニケーション発達の評価、アセスメントについて
第 13 回　具体的支援について、 言語治療の実際、 マカトン法について
第 14 回　課題発表と参加者による意見交換
第 15 回　確認テスト、まとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
定期試験は実施しないが、それに替わるレポート発表と確認テストを実施予定。
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
DVDやPPによる視覚教材をとりいれ、教科書を使用するほか、資料を配布する。
課題は、今回のテーマにかかわる最新の論文を読んで要旨をまとめて発表すること。
小レポート等とあわせて、授業内でフィードバックする。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
発達心理学に関する教科書で、乳幼児期の発達について学習しておく。
定型言語発達、前言語期のコミュニケーション、言語障害についてできるだけ文献にあたること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
「授業以外に必要な標準学修時間」合計12時間程度
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
授業参加度２０％、課題発表など３０％、小テスト・レポート５０％の総合評価とする。

〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
『よくわかる言語発達』/岩立・小椋編著/ミネルヴァ書房/2005//学内販売予定
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
『言語発達とその支援』/岩立・小椋編著/ミネルヴァ書房/2001/
『ことばの発達と障害１「ことばの発達入門」』/秦野悦子/大修館書店/2001/
『　〃　２「ことばの障害入門」』/西村辨作/大修館書店/2001/
『　〃　３「ことばの障害の評価と指導」』/大石敬子/大修館書店/2001/
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　児童相談所で心理判定員、および言語指導担当として勤務経験あり。また、養護学校や療育教室で発達相談員、言語聴覚士として勤務したり、特別支援教育巡回相談員の勤務経験有り。

臨床心理学特論 II

270108N0J
大学
心理学研究科
2単位　後期
火曜 2限
ー
60
田中　誉樹

〔科目の教育目標（Course Description）〕
　この講義は、臨床心理学の諸理論について、できるだけ幅広く、偏りなく概観することによって、基本的な知識を習得し、尚且つ、心理臨床家として他者を理解し、援助するための基本的な態度、方法、倫理などについても学ぶことを目的としている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
① 心理療法を行うために必要とされる臨床心理学的な知識、態度を文献や議論を通して身につけていく。
② クライエントとセラピストの関係性（治療関係、転移、逆転移など）の問題について、文献や事例などを通して、様々な角度から検討、考察していく。
③ 発達障がい、リストカットやオーバードーズ、摂食障害、ボーダーライン、発達障害など、現代の青年に多く見られる心理的問題について、適宜、臨床心理学的観点から考察する。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　なし
　　オリエンテーション（臨床心理学とは、どういう学問か）
第 2 回　なし
　　精神分析（フロイト）
第 3 回　なし
　　分析心理学（ユング）
第 4 回　なし
　　自我心理学（A.フロイトを中心に）
第 5 回　なし
　　対象関係論
第 6 回　なし
　　家族療法（システム理論など）
第 7 回　なし
　　来談者中心療法（ロジャーズ）
第 8 回　なし
　　プレイセラピー
第 9 回　なし
　　実存的心理療法（フランクルを中心に）
第 10 回　なし
　　認知行動療法
第 11 回　なし
　　臨床心理学と産業労働
第 12 回　なし
　　臨床心理学と医療
第 13 回　なし
　　臨床心理学と福祉
第 14 回　なし
　　臨床心理学と教育
第 15 回　なし
　　臨床心理学と倫理
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
学生による発表と討論、教員による解説を基本とする。受講生へのフィードバックは、manaba上での講評という形で行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
授業は、学生による発表形式で行う（発表内容を評価の対象とする）ので、発表担当者は勿論、他の学生も次の授業で扱う範囲を、自分で文献を選んで大筋を理解しておくこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
40
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
　発表内容と質、受講態度を含めた総合評価による。発表内容と質＝50％、受講に対する積極性50％として総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information）〕
学生には、積極的な授業参加（自発的な発言、文献資料への取り組み）が求められる。参考文献は授業中に適宜指示する。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
授業中に指示する。
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
授業中に指示する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫
臨床倫理学特論Ⅱなどの科目について
　　実務経験等：臨床心理士として精神科クリニックでの勤務経験あり。

学校臨床心理学特論

270111N0J
大学
心理学研究科
2単位　前期
金曜 2限
ー
60
佐藤　睦子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
　学校臨床心理学は、現在、急速にその守備範囲を拡げてきている。学校現場では、児童生徒自身の問題はもとより、学校の抱える問題、家庭（保護者）の問題、社会・地域の問題などが互いに関連して表面化する。いじめ、学級崩壊、校内暴力、不登校、家庭内暴力、ひきこもり、児童虐待も大きな問題である。また、特別支援教育として、発達障害の児童生徒への対応も注目されている。本講義においては、学校臨床に必要な種々の技法の実習を行い、その習得を目指す。また、受講生の事例発表なども通して、学校臨床心理学のあり方についての理解を深めていきたい。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
・学校臨床心理学とは何かを学ぶ
・学校におけるスクールカウンセラーの実践例について検討する
・学校臨床において使用できる芸術療法に関して、実習を通じて学ぶ
・受講生の学校臨床実践事例を発表し、討論する
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　学校臨床心理学とは何か
第 2 回　学校臨床のこれまでの流れをつかむ
第 3 回　小学校におけるスクールカウンセラー実践例を通じて学校臨床におけるカウンセリングについて考える
第 4 回　小学校におけるスクールカウンセラー実践例を通じて学校臨床における連携について考える
第 5 回　中学校におけるスクールカウンセラー実践例を通じて学校臨床におけるカウンセリングについて考える
第 6 回　中学校におけるスクールカウンセラー実践例を通じて学校臨床における連携について考える
第 7 回　学校臨床における連携について臨床心理的側面から考える
第 8 回　学校臨床における連携について社会福祉的側面から考える
第 9 回　地域援助とは何かを学ぶ
第 10 回　フィールドワーク（適応指導教室）
第 11 回　フィールドワーク（学校内適応指導教室）
第 12 回　学校に適用できる芸術療法の実習を行なう（箱庭療法）
第 13 回　学校に適用できる芸術療法の実習を行なう（コラージュ療法）
第 14 回　学校に適用できる芸術療法の実習を行なう（描画療法）
第 15 回　まとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
　学校とは、独特な雰囲気をもつ場である。スクールカウンセラーは、学校で出会うクライエントを理解する前に学校を理解する必要がある。そのため、本講義では、実習・フィールドワークも併用しながら、学校におけるスクールカウンセラーのあり方を探索していきたい。
　事例検討・実習・フィールドワークを行なうごとにレポートの提出を求める。また、授業中の発問と学生の解答に対しては、適宜口頭でフィードバックする。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
スクールカウンセラーとは何かについて、文献検索・熟読の後、講義に臨むこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
講義への参加度30％・授業中の態度や発言40％・課されたレポートの内容を30％として総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
フィールドワークについては、先方の事情により多少時期が前後する場合がある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　臨床心理士として医療機関・教育機関での勤務経験あり。

臨床発達心理学実習Ⅰ

270115N0J
大学
心理学研究科
4単位　通年
木曜 1限 木曜 2限
ー
120
高井　直美　薦田　未央

〔科目の教育目標（Course Description）〕
子どもの精神発達の援助、および親への育児支援に関して、学内で実施する子育て支援プログラムの場で実習する。
なおこの科目の内容は、臨床発達心理士の受験資格条件となる「臨床実習」（合計200時間）の一部に充てられるものとして選定される予定である。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
通年で、特定かつ複数の子どもと関わることを通して、乳幼児期の精神発達の過程を理解し、発達を支える方法や対人関係のありかたを探っていく。また教員の指導のもとで、子育て支援プログラムの立案や、親への援助活動も行っていく。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　臨床発達心理学の基礎　担当教員：高井・薦田
第 2 回　臨床発達心理士に必要な倫理　担当教員：高井・薦田
第 3 回　子育て支援プログラム「こがもクラブ」の準備　担当教員：高井・薦田
第 4 回　子育て支援プログラム（前期）の実施（支援計画の検討）　担当教員：高井・薦田
第 5 回　子育て支援プログラム（前期）の実施　担当教員：高井・薦田
第 6 回　子育て支援プログラム（前期）の実施　担当教員：高井・薦田
第 7 回　ケース検討会；前期①（日程は変わることもある）　担当教員：高井・薦田
第 8 回　子育て支援プログラム（前期）の実施（支援の実施）　担当教員：高井・薦田
第 9 回　子育て支援プログラム（前期）の実施　担当教員：高井・薦田
第 10 回　子育て支援プログラム（前期）の実施　担当教員：高井・薦田
第 11 回　ケース検討会；前期②（日程は変わることもある）　担当教員：高井・薦田
第 12 回　子育て支援プログラム（前期）の実施（必要に応じて支援計画の見直しを図る）　担当教員：高井・薦田
第 13 回　子育て支援プログラム（前期）の実施　担当教員：高井・薦田
第 14 回　子育て支援プログラム（前期）の実施　担当教員：高井・薦田
第 15 回　前期の支援の振り返り　担当教員：高井・薦田
第 16 回　後期の支援の計画　担当教員：高井・薦田
第 17 回　子育て支援プログラム（後期）の実施（支援の実施）　担当教員：高井・薦田
第 18 回　子育て支援プログラム（後期）の実施　担当教員：高井・薦田
第 19 回　子育て支援プログラム（後期）の実施　担当教員：高井・薦田
第 20 回　ケース検討会；後期①（日程は変わることもある）　担当教員：高井・薦田
第 21 回　子育て支援プログラム（後期）の実施（必要に応じて支援計画の見直しを図る）　担当教員：高井・薦田
第 22 回　子育て支援プログラム（後期）の実施　担当教員：高井・薦田
第 23 回　子育て支援プログラム（後期）の実施　担当教員：高井・薦田
第 24 回　ケース検討会；後期②（日程は変わることもある）　担当教員：高井・薦田
第 25 回　子育て支援プログラム（後期）の実施　担当教員：高井・薦田
第 26 回　子育て支援プログラム（後期）の実施　担当教員：高井・薦田
第 27 回　子育て支援プログラム（後期）の実施　担当教員：高井・薦田
第 28 回　ケース検討会；後期③（日程は変わることもある）　担当教員：高井・薦田
第 29 回　子育て支援プログラム（後期）の実施　担当教員：高井・薦田
第 30 回　１年間の支援のまとめ　担当教員：高井・薦田
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
子育て支援プログラムでは、院生はスタッフの１人として、主に遊びを通して子どもと関わりながら、遊びのプログラムの立案にも関わる。そして、ケースカンファレンス（プログラム直後に行う報告会）やケース検討会（子育て支援プログラムが休みの日に行う）で、自分が関わっている個別事例や子ども同士の関わりについて経過報告を行いながら、自らの関わりを振り返り、よりよい支援のありかたを探っていく。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
最近の子育て事情について、新聞記事などで情報を収集しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
子育て支援プログラムにおける諸活動（プログラムの進行への関与のあり方、担当の子どもとの関わり、個別事例の報告など）を評価する。 授業参加態度についても、評価の参考とする。
〔留意事項（Other Information）〕
ここで行う子育て支援プログラムは、学外から対象者が来訪する対外的なプログラムである。したがって、臨床発達の専門家を目指すものとしての自覚と責任感を持ち、倫理的配慮を行うことが必要とされる。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
用いない。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
『授業中に紹介する。』
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
臨床発達心理士として、保健医療、福祉、教育分野において実務経験あり。

臨床発達心理学実習 II

270116N0J
大学
心理学研究科
4単位　集中
その他
ー
120
高井　直美　薦田　未央

〔科目の教育目標（Course Description）〕
臨床発達心理学実習Ｉで学んだ子どもの発達援助および親の育児支援に関して、さらに実践を積んで学ぶことを通して、臨床発達の専門性を身につけていくことを目指す。なおこの科目の内容は、臨床発達心理士の資格条件となる「臨床実習」（合計200時間）の一部に充てられるものとして選定される予定である。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
受講生の目指す進路やその資質に応じて、①外部実習を行うか、②学内実習を行うか、そのどちらかに分けられる。
いずれにおいても、臨床発達の専門家としてふさわしい力量がつくように、複数のケースの観察による発達アセスメントおよび発達援助方法について、継続的に学んでいく。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　前期実習のガイダンス　担当教員：高井・薦田
第 2 回　臨床発達に関する実習①　担当教員：高井・薦田
第 3 回　臨床発達に関する実習②　担当教員：高井・薦田
第 4 回　臨床発達に関する実習③　担当教員：高井・薦田
第 5 回　ケースカンファレンス①　担当教員：高井・薦田
第 6 回　臨床発達に関する実習④　担当教員：高井・薦田
第 7 回　臨床発達に関する実習⑤　担当教員：高井・薦田
第 8 回　臨床発達に関する実習⑥　担当教員：高井・薦田
第 9 回　臨床発達に関する実習⑦　担当教員：高井・薦田
第 10 回　ケースカンファレンス②　担当教員：高井・薦田
第 11 回　臨床発達に関する実習⑧　担当教員：高井・薦田
第 12 回　臨床発達に関する実習⑨　担当教員：高井・薦田
第 13 回　臨床発達に関する実習⑩　担当教員：高井・薦田
第 14 回　ケースカンファレンス③　担当教員：高井・薦田
第 15 回　前期のまとめ　担当教員：高井・薦田
第 16 回　後期実習のガイダンス　担当教員：高井・薦田
第 17 回　臨床発達に関する実習⑪　担当教員：高井・薦田
第 18 回　臨床発達に関する実習⑫　担当教員：高井・薦田
第 19 回　臨床発達に関する実習⑬　担当教員：高井・薦田
第 20 回　ケースカンファレンス④　担当教員：高井・薦田
第 21 回　臨床発達に関する実習⑭　担当教員：高井・薦田
第 22 回　臨床発達に関する実習⑮　担当教員：高井・薦田
第 23 回　臨床発達に関する実習⑯　担当教員：高井・薦田
第 24 回　臨床発達に関する実習⑰　担当教員：高井・薦田
第 25 回　ケースカンファレンス⑤　担当教員：高井・薦田
第 26 回　臨床発達に関する実習⑱　担当教員：高井・薦田
第 27 回　臨床発達に関する実習⑲　担当教員：高井・薦田
第 28 回　臨床発達に関する実習⑳　担当教員：高井・薦田

第 29 回　ケースカンファレンス⑥　　担当教員：高井・薦田
第 30 回　1年のまとめ　　担当教員：高井・薦田
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
　①外部実習の場合；発達支援の専門機関に実習生として参加し、発達上の問題や障がいを持つ子どもとその親を支援する現場を体験する。スタッフの一人として子どもと関わること、およびケースカンファレンスでケースの報告を行うことを通して、発達の問題・障がいを理解し、必要な発達援助について、考えていく。
　②内部実習の場合；1年次に引き続き、学内での子育て支援のプログラムのスタッフの一人として活動する。特定の担当ケースへの関わりだけでなく、集団全体の力学的変化にも着目し、支援プログラム全体の立案や構成についても、主体的に関わることが要求される。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
　臨床発達心理学実習Ⅰで学んだことを実習Ⅱに応用できるように、しっかりと復習しておくこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
　実習を通して、臨床発達心理士として必要な力量を獲得しているかが、評価のポイントになる。具体的には、対象児の観察によるアセスメントのしかた、対象児との関わり、ケース報告の文書、ケースカンファレンスでの発表などが総合的に評価される。
〔留意事項（Other Information）〕
　外部での実習は、その機関の年間予定に合わせて行われるため、長期休暇中にも行われる。また外部実習先に応じて、実習に関する費用が徴収される。
　30回の内容は、実習先によって変化する可能性がある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference)〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
臨床発達心理士として、保健、福祉、教育分野において実務経験あり。

臨床心理査定演習Ⅱ

270120N0J
大学
心理学研究科
2単位　後期
木曜 2限
ー
60
村松　朋子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
治療的なアセスメントの方法論の理解を目指し、そのために必要な心理アセスメントツールを正確に使用できるスキルを習得する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
1）パーソナリティ・アセスメントに関する理論と研究について充分な知識を有すること。
２）包括システムによるロールシャッハ法の施行法、コーディング、スコアリングを習得すること。
３）アセスメント・レポートを作成できること。
４）共感、傾聴、適切な境界の維持などの基本的な臨床スキルを体得すること。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション、ロールシャッハの歴史と展開
第 2 回　ロールシャッハ・テスト（包括システム）の施行法
第 3 回　ロールシャッハ・テスト（包括システム）のコーディング：反応領域と発達水準、組織化活動
第 4 回　ロールシャッハ・テスト（包括システム）のコーディング：決定因子、形態水準
第 5 回　ロールシャッハ・テスト（包括システム）のコーディング：特殊スコア
第 6 回　ロールシャッハ・テスト（包括システム）構造一覧表の作成
第 7 回　ロールシャッハ・テスト（包括システム）の解釈のためのガイドライン
第 8 回　ロールシャッハ・テスト（包括システム）の解釈：コントロール
第 9 回　ロールシャッハ・テスト（包括システム）の解釈：感情
第 10 回　ロールシャッハ・テスト（包括システム）の解釈：認知の3側面
第 11 回　ロールシャッハ・テスト（包括システム）の解釈：自己知覚と対人知覚
第 12 回　ロールシャッハ・テスト（包括システム）の解釈：まとめ
第 13 回

ロールシャッハ・テスト（包括システム）を用いた事例検討
第 14 回　複数のアセスメント・データを用いた治療的アセスメントの事例検討
第 15 回　まとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施する
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
授業は、講義形式で行います。
みなさんが事前学習をしてきたことを前提に解説やディスカッションを行います。こちらから質問や意見を頻繁に聞いていきますので、積極的に発言して下さい。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
講義内容はかなりのボリュームがあるので、自主的な学習が必須となります。
宿題や必要な事前学習は、こちらからその都度、具体的に提示します。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
授業中の積極性（30％）、定期試験（70％）
定期試験終了後、解説を行う。
〔留意事項（Other Information）〕
進行上の都合により、内容が変更される可能性がある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
『ロールシャッハ・テスト包括システムの基礎と解釈の原理』/エクスナー/金剛出版/2009/9.784772410823E12
必要に応じて提示します。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫
医療機関、教育機関で臨床心理士としての勤務経験あり。

臨床心理基礎実習Ⅰ

270133N0J
大学
心理学研究科
1単位　前期
木曜 3限 木曜 4限
ー
15
（週4時間＋外部実習）
佐藤　睦子　田中　誉樹　空間　美智子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
心理臨床の場で来談者に接する際、状態像を把握してその病態水準を推測し、その上で予後を見通し、どのような援助が可能であるか検討することが必要である。受講生は、本学付設の心理臨床センター心理相談室において教員が行うインテーク面接に陪席して記録を担当し、初回面接のあり方について学ぶ。また、本実習内で行われるケースカンファレンスに参加することによって、情報の検討方法や相談方針の確立など、事例を扱っていく上での基本的な事柄について学んでいく。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
(1)インテーク面接の陪席とその記録を担当することを通して、初回面接のあり方や見立て・面接方針の立て方について学ぶ。
(2)ケース検討会と小グループでの討論、小レポート作成などの実習を通して、情報の検討や相談方針の確立、面接技法の理解など、事例を扱っていく上での基本的な事柄について学ぶ。
(3)本学付設の心理臨床センター心理相談室において、さまざまな臨床経験を積み、実践的な感覚を養う。
(4)期末におけるまとめの試験において、自分の学んだことをまとめる力を培う。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　担当事例のカンファレンス・ディスカッション（１）
第 3 回　担当事例のカンファレンス・ディスカッション（２）
第 4 回　担当事例のカンファレンス・ディスカッション（３）
第 5 回　担当事例のカンファレンス・ディスカッション（４）
第 6 回　担当事例のカンファレンス・ディスカッション（５）
第 7 回　担当事例のカンファレンス・ディスカッション（６）
第 8 回　中間報告・これまでのまとめ
第 9 回　担当事例のカンファレンス・ディスカッション（７）
第 10 回　担当事例のカンファレンス・ディスカッション（８）
第 11 回　担当事例のカンファレンス・ディスカッション（９）
第 12 回　担当事例のカンファレンス・ディスカッション（１０）
第 13 回　担当事例のカンファレンス・ディスカッション（１１）
第 14 回　担当事例のカンファレンス・ディスカッション（１２）
第 15 回　期末試験と振り返り
第１回目を含む各回の担当者：佐藤・空間・田中

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施する
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
本学付設の心理臨床センター心理相談室における担当事例を発表し、それに基づきカンファレンス・ディスカッションを行い、内容についての報告・検討を行う。
なお、ケースカンファレンスにおいては、臨床心理学専攻の教員および心理相談室スタッフ全員が参加して行う。
フィードバックは、発表時のコメント、グループディスカッション、個別指導の中で適宜口頭によりなされる。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
心理相談室のシステムについて慣れ、自身もその運営に関わる中で、どのように事例が抱えられているのかを理解すること。そのうえで、周辺の知識を習得し、またよりわかりやすく簡潔なプレゼンテーションとなるように準備をすること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
15
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
概ね、ケース検討会への出席40％・発表30％・討論10％・小レポート作成10％、期末に行われる記述式の試験10％を目安に評価を行う。
〔留意事項（Other Information)〕
本学付設の心理臨床センター心理相談室における実習とケースカンファレンスは授業期間に限らず、心理相談室の開室期間内であれば長期休暇中にも適宜行われる。受講者は各自、心理専門職を目指すものとしての自覚と責任をもって臨むこと。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　臨床心理士として医療機関・教育機関での勤務経験あり

臨床心理基礎実習 II

270134N0J
大学
心理学研究科
1単位　後期
木曜 3限 木曜 4限
ー
15
（週4時間＋外部実習）
空間　美智子　佐藤　睦子　田中　誉樹

〔科目の教育目標（Course Description)〕
心理臨床の場で来談者に接する際、状態像を把握してその病態水準を推測し、その上で予後を見通し、どのような援助が可能であるか検討することが必要である。受講生は、本学付設の心理臨床センター心理相談室において教員が行うインテーク面接に陪席して記録を担当し、初回面接のあり方について学ぶ。また、ケースカンファレンスに参加することによって、情報の検討方法や相談方針の確立など、事例を扱っていく上での基本的な事柄について学んでいく。これらの体験学習を積んだうえで、本学付設の心理臨床センター心理相談室において電話受付を行ったり、実際の事例を担当してゆくことになる。また、臨床心理士資格のみを目指す学生は、この科目において学外施設での実習を通じて実際の現場において実践的な心理臨床的関わりや援助について経験的に学ぶ。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
(1)インテーク面接の陪席とその記録を担当することを通して、初回面接のあり方や見立て・面接方針の立て方について学ぶ。
(2)ケース検討会と小グループでの討論、小レポート作成などの実習を通して、情報の検討や相談方針の確立、面接技法の理解など、事例を扱っていく上での基本的な事柄について学ぶ。
(3)本学付設の心理臨床センター心理相談室,
学外の実習先においてにおいて、さまざまな臨床経験を積み、実践的な感覚を養う。
(4)期末におけるまとめの試験において、自分の学んだことをまとめる力を培う。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　担当事例のカンファレンス・ディスカッション（１）
第 3 回　担当事例のカンファレンス・ディスカッション（２）
第 4 回　担当事例のカンファレンス・ディスカッション（３）
第 5 回　担当事例のカンファレンス・ディスカッション（４）
第 6 回　担当事例のカンファレンス・ディスカッション（５）
第 7 回　担当事例のカンファレンス・ディスカッション（６）
第 8 回　中間報告・これまでのまとめ
第 9 回　担当事例のカンファレンス・ディスカッション（７）
第 10 回　担当事例のカンファレンス・ディスカッション（８）
第 11 回　担当事例のカンファレンス・ディスカッション（９）
第 12 回　担当事例のカンファレンス・ディスカッション（１０）

第 13 回　担当事例のカンファレンス・ディスカッション（１１）
第 14 回　担当事例のカンファレンス・ディスカッション（１２）
第 15 回　期末試験と振り返り
第１回目を含む各回の担当者：佐藤・空間・田中

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施する

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
学内実習では、本学付設の心理臨床センター心理相談室において、インテーク面接の陪席とその記録を行ったり、実際の事例を担当してその経過をまとめ、ケースカンファレンスで発表する。電話受付などの相談室の周辺業務についても学ぶ。週4時間の授業時間には、これらインテークケース、継続ケースについてのカンファレンスを行い、内容について報告・検討を行う。
臨床心理士資格のみを目指す学生については、学外での実習が教育機関・医療機関等で行われ、それぞれの機関における対象者への関わりを通じて、心理臨床的援助の意義や他職種との連携について学ぶ。また、毎回、実習記録を作成することによって実習内容の検討を行う。
なお、ケースカンファレンスにおいては、臨床心理学専攻の教員および心理相談室スタッフ全員が参加して行う。
フィードバックは、発表時のコメント、グループディスカッション、個別指導の中で適宜口頭によりなされる。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
心理相談室のシステムについて慣れ、自身もその運営に関わる中で、どのように事例が抱えられているのかを理解すること。そのうえで、周辺の知識を習得し、またよりわかりやすく簡潔なプレゼンテーションとなるように準備をすること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
概ね、ケース検討会への出席40％・発表30％・討論10％・小レポート作成10％、期末に行われる記述式の試験10％を目安に評価を行う。

〔留意事項（Other Information）〕
本学付設の心理臨床センター心理相談室における実習とケースカンファレンスは授業期間に限らず、心理相談室の開室期間内であれば長期休暇中にも適宜行われる。受講者は各自、心理専門職を目指すものとしての自覚と責任をもって臨むこと。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　臨床心理士として医療機関・教育機関での勤務経験あり

臨床心理実習Ⅰ

270135N0J
大学
心理学研究科
1単位　前期
月曜 1限 月曜 2限
ー
15
（週4時間＋外部実習）「臨床心理基礎実習I」を修得済みであること。

村松　朋子　伊藤　一美　向山　泰代　三好　智子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
本科目は、「臨床心理基礎実習I・II」（１年次配当）での体験学習の上に成り立っている。学内実習では、本学心理臨床センター心理相談室でケースを担当し、カウンセリング、心理療法、心理検査、心理臨床家としての基本的態度や倫理などについて体験的に学び、ケース検討会で指導を受ける。また本科目では、一年次後期に引き続き学外実習を実施する。学外実習では、心理臨床に関わるさまざまな専門機関で実習を行い、心理臨床家としての基本的な視点について、現場での体験を通して学ぶ。また、現場での自分自身の体験を記述し実習記録としてまとめ、その記録に基づいて実習担当者から個別に指導を受ける。さらに、各相談機関の運営、業務内容等についても、現場で体験を通して学ぶ。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
（1）学内実習においては、本学心理臨床センター心理相談室でケースを担当することによって、臨床家としての責任ある関わり方、態度、倫理について体験的に学ぶ。
（2）センターにおいて、電話受付等、相談室の周辺業務についても学ぶ。
（3）学内実習では、心理療法の技法について学ぶ。
（4）学内実習では、心理検査の施行や解釈について体験的に学ぶ。
（5）事例検討会を通して、自分や他の実習者のケースの流れの見方、治療関係の見方などについて学ぶ。
（6）学外実習では、医療、教育、福祉の専門機関が持つ機能と、その中での臨床心理士の視点、役割等について学ぶ。
（7）学外実習では、各機関において、他の専門職との連携、協調、臨床心理士の専門性の特徴などについて考えていく。
（8）実習記録の書き方について学ぶ。
（9）実習で困ったこと、悩んだことなどについて個別に学内の担当教員とともに考える時間を持ち、指導を受けることで実習での経験を意味のあるものにする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第１回　オリエンテーション
第２回　学外実習 学内実習または事例検討会①
第３回　学外実習 学内実習または事例検討会②

第４回　学外実習 学内実習または事例検討会③
第５回　学外実習 学内実習または事例検討会④
第６回　学外実習 学内実習または事例検討会⑤
第７回　学外実習 学内実習または事例検討会⑥
第８回　学外実習 学内実習または事例検討会⑦
第９回　学外実習 学内実習または事例検討会⑧
第10回　学外実習 学内実習または事例検討会⑨
第11回　学外実習 学内実習または事例検討会⑩
第12回　学外実習 学内実習または事例検討会⑪
第13回　学外実習 学内実習または事例検討会⑫
第14回　学外実習報告会
第15回　期末試験
第1回目を含む各回の担当者：村松・三好・向山・伊藤
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施する
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
学内実習では、本学付設の心理臨床センター心理相談室において、実際の事例を担当する。電話受付などの相談室の周辺業務についても学ぶ。担当ケースについてのカンファレンスを週2講時分行い、内容について報告・検討を行う。
学外実習は、教育機関・医療機関・福祉機関等で行われるが、それぞれの機関における対象者への関わりを通じて、心理臨床的援助の意義や他業種との連携について学ぶ。また、毎回、実習記録を作成することによって実習内容の検討を行うほか、各機関での実習内容について全体での報告会を行う。
なお、ケースカンファレンスにおいては、臨床心理学専攻の教員および心理相談室スタッフ全員が参加して行う。
フィードバックは、発表時のコメント、グループディスカッション、個別指導の中で、適宜口頭によりなされる。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
心理相談室の運営に主体的に関わる中で、それぞれの事例について幅広い視点から理解する。インテーク陪席や事例検討会等の資料作成においては、事例に関連する文献を参照することで専門的知識を深めながら、担当する事例を振り返り、分りやすい報告となるよう準備すること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
15
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
学内実習については、ケース検討会への発表、討論などへの参加、担当事例の報告、電話受付などによって評価（40％）される。学外実習については、実習への参加状況、参加態度、実習記録の内容などによって評価（40％）される。さらに学期末に試験（20％）を行い、それらをもって総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
学内実習におけるケース担当（およびカンファレンス）は、基本的に長期休暇にかかわらず継続して行われる。ケースを担当するということについての、臨床家として自覚が求められる。学外実習は、週1日実施されるが、実習先の状況に応じて長期休暇中も行われることがある。そのため実習生は、外部機関に身を置いて勉強していることを自覚して、社会人として、また実習生として責任ある行動をとることが求められる。

※心理実践実習Ⅲa、心理実践実習Ⅲb、心理実践実習ⅤBもしくはⅥB、心理実践実習Ⅷの４科目を履修している場合は、本科目を加えて履修する必要はない。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫
臨床心理士として医療機関・教育機関での勤務経験あり。

臨床心理実習 II

270136N0J
大学
心理学研究科
1単位　後期
月曜 5限 月曜 6限
ー
15
（週4時間＋外部実習）「臨床心理基礎実習II」を修得済みであること。
村松　朋子　伊藤　一美　向山　泰代　三好　智子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
本科目は、「臨床心理基礎実習Ⅰ・Ⅱ」ならびに「臨床心理実習Ⅰ」での体験学習の上に成り立っており、大学院での専門的学習のまとめの意味も持つ。
臨床心理学の専門家としては、実践力だけでなく、科学的な素養も必要である。心理臨床家としての営みを他職種にもわかりやすく明確に説明する力を身につけることを目標とする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
(1)臨床心理学的な諸現象を論理的かつ合理的に説明できること。
(2)心理面接における技法を習得しつつ、ケース検討や小グループでの討論などの実習を通じて、問題点を振り返りながら、積極的に討論に参加し、臨床的視点を養う。
(3)臨床心理の専門家としての職業倫理を修得、理解する。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
（村松）
第 2 回　事例紀要論文オリエンテーション（１）
事例論文の考え方（三好・向山）
第 3 回　事例紀要論文オリエンテーション（２）

事例論文の書き方（伊藤・三好）
第 4 回　事例論文の講読（１）
医療機関との連携を含む事例（伊藤・向山）
第 5 回　事例論文の講読（２）
地域援助を含む事例（三好・村松）
第 6 回　事例論文の講読（３）
多職種連携や家族支援を含む事例（伊藤・三好）
第 7 回　事例論文の購読（４）
グループを対象とした事例（向山・伊藤）
第 8 回　グループ・スーパーヴィジョン（１）
医療機関との連携を含む事例（伊藤・村松）
第 9 回　グループ・スーパーヴィジョン（２）
地域援助を含む事例（伊藤・三好）
第 10 回　グループ・スーパーヴィジョン（３）
家族支援を含む事例（向山・村松）
第 11 回　多角的アセスメントの実際（１）
知能検査、質問紙法、投映法、作業検査法等、多角的な心理検査を施行した事例検討（向山・伊藤）
第 12 回　多角的アセスメントの実際（２）
フィードバック・セッションを含めた事例検討
誰のためのフィードバックか？（三好・村松）
第 13 回　多角的アセスメントの実際（３）
治療的アセスメントと支援計画報告書の作成１
（クライエント宛）（向山）
第 14 回　多角的アセスメントの実際（４）
治療的アセスメントと支援計画報告書の作成２
（家族宛、医療従事者宛）（村松）
第 15 回　総括
（村松）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
事例論文や事例報告から、クライエントに関する
１）コミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援などの知識及び技能
２）支援ニーズの把握と支援計画の作成
について、2年次前期までの通常のカンファレンスや個別指導に加え、より高度な心理臨床的支援を目指して多様なスーパーヴィジョンの形態において学ぶ。
なお、通常のケースカンファレンスにも参加する。また、そのカンファレンスには、臨床心理学専攻の教員および心理相談室スタッフ全員が参加して行う。
フィードバックは、発表時のコメント、グループディスカッション、個別指導の中で、適宜口頭によりなされる。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
さまざまな事例について幅広い視点から理解するために、関連する分野について心理臨床学研究などの学術論文を読んでおくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
カンファレンスでの発表・討論などを含む参加態度、さらには本科目の特色である多様なスーパーヴィジョンにおける発表や討論（20%）を通して、事例検討の理解度（80%）によって評価する。

〔留意事項（Other Information）〕
進行状況を見ながら、授業日程については別途調整する可能性がある。なお、長期休暇期間や土曜日等に実施される場合がある。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
事例研究の考え方と戦略：心理臨床実践の省察的アプローチ　　山本力 著 創元社
初心者のための臨床心理学研究実践マニュアル　津川律子・遠藤裕乃 著　金剛出版

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫
臨床心理士として医療機関・教育機関での勤務経験あり。

社会調査演習

270137N0J
大学
心理学研究科
2単位　後期
金曜 3限
ー
60
松島　るみ

〔科目の教育目標（Course Description）〕
あるテーマに沿って、調査の企画、仮説の設定、調査書の作成、調査実施、集計・統計的分析を行うための実践的な知識と方法を経験することが目的である。また、最終的には、報告書の執筆を行い、国内外での学会発表を自ら行える力を身につけることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
・調査の企画・設計、調査用紙の作成、調査の実施、データ分析、報告書作成の全過程を行う知識と方法を身につける。

・調査結果を発信する力（報告書作成、国内外での学会発表）を身につける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　イントロダクション：社会調査とは
第 2 回　社会調査の方法

第 3 回　調査テーマの決定
第 4 回　調査テーマに沿った文献発表
第 5 回　調査内容及び項目の決定
第 6 回　調査用紙の作成
第 7 回　データの入力及びデータの整理
第 8 回　調査結果のデータ分析（１）記述統計等（調査内容により異なる場合がある）
第 9 回　調査結果のデータ分析（２）因子分析等（調査内容により異なる場合がある）
第 10 回　調査結果のデータ分析（３）相関係数・分散分析等（調査内容により異なる場合がある）
第 11 回　調査結果に関する考察
第 12 回　報告書作成（１）問題・目的・方法の執筆
第 13 回　報告書作成（２）結果・考察の執筆
第 14 回　調査結果の発表方法を学ぶ（国内での学会発表を想定して）
第 15 回　調査結果の発表方法を学ぶ（国外での学会発表を想定して）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
社会調査の実習及び報告書の作成を中心に進める。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
毎回、次回の授業で行うキーワードを提示するので、予め自分なりの考えをまとめた上で授業に臨むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
授業への参加状況（70%）、報告書執筆（30%）から総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

算数教育特論

270139N0J
大学
心理学研究科
2単位　前期
木曜 5限
ー
60
修了要件単位とならない
神月　紀輔

〔科目の教育目標（Course Description）〕
・　算数数学の基本理念を理解し教材開発に生かす態度を育成する。
・　算数教育の意義，目的，歴史を理解し，幼稚園・小学校の実情を踏まえた教材の開発ができるようにする。
・　教育心理学から，学習理論を応用し，適用できるようにする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
最初に，小学校学習指導要領および幼稚園教育要領から，現在の算数教育について確認をし，その意義，目的を共有した後，算数教育の歴史を概観し，各自で教材開発を行う。数学の基本領域である代数学・幾何学・応用数学・統計学についても概観する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　教育心理学における学習理論および発達と認知
第 3 回　算数教育と教育心理学
第 4 回　学習指導要領と算数教育
第 5 回　現在の学校園における算数教育の現状と課題
第 6 回　代数学と幾何学
第 7 回　応用数学と統計学
第 8 回　最新の数学事情
第 9 回　諸外国における算数科指導の実態
第 10 回　興味を持たせる導入および学習者の状況に応じた教具の使用
第 11 回　目的を学習者と指導者が共有する
第 12 回　教具の利用とICT活用
第 13 回　主体的に学習に取り組むための算数の学習評価
第 14 回　この講義における学習の相互評価
第 15 回　算数科の教材開発についてのまとめと省察

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
開発された教材は学習者間で実践による相互評価を行い，さらにその教材の精度を高める。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
教材研究をすること。前時の復習を確実に行うこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
40
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
出席し議論に参加すること（40%），教材開発に積極的に挑むこと（40%），教材，および学習の相互評価・自己評価（20%）
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
『小学校学習指導要領解説　算数編』/文部科学省/東洋館出版社/2008/9.784491023731E12/学内販売予定
『数学教育の基礎』/黒田恭史/ミネルヴァ書房/2011/9.784623059959E12/学内販売予定
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
『初等算数科教育法』/黒田恭史/ミネルヴァ書房/2010/9.784623057634E12
授業にて紹介する
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　教員として学校に勤務経験あり

体育教育特論

270142N0J
大学
心理学研究科
2単位　前期
金曜 4限
一
60
修了要件単位とならない
住本　純

〔科目の教育目標（Course Description）〕
体育科教育学の主要なトピックをレビューし、今後の体育科の在り方や方向性を探ることができる。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
・主要な先行研究を検討し、現在の体育科教育学の主要なトピックについて理解することができる。
・体育授業実践について考察することができる。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　学習指導要領の変遷
第 3 回　体育科教育学における目標論
第 4 回　体育科教育学における評価論
第 5 回　体育科教育学における内容論
第 6 回　体育科教育学における「よい体育授業」
第 7 回　体育授業とICTの活用
第 8 回　インクルーシブ教育と体育授業
第 9 回　オリンピック・パラリンピック教育と体育授業
第 10 回　子どもの体力
第 11 回　スポーツ基本法とスポーツ基本計画
第 12 回　教育改革と体育
第 13 回　体育における「主体的・対話的で深い学び」の捉え方
第 14 回　今後の体育の在り方と意義
第 15 回　まとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
なし
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
・関連する文献の講読とディスカッションを主とする。
・次時で捉えるテーマについての課題を与えるので、その課題についてレポートにまとめてくる。
・レポート課題については、次回授業で全体に対してフィードバックを行う。
・最終授業で全体に対するフィードバックを行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
・次時のテーマにおける関連文献を読む。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
レポート（80%）、授業参加度（20%）により、総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
学習者人数、実態に応じて計画を変更する場合がある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
『体育授業を観察・評価する』/高橋建夫編著/明和出版//
『新版　体育科教育学入門』/高橋建夫ほか編著/大修館書店//
『小学校学習指導要領解説 体育編』/文部科学省/東洋館出版社//
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫（小学校教員として、体育授業研究に取り組んだ経験あり）

教科教育演習（算数）

270146N0J
大学
心理学研究科
2単位　後期
木曜 4限
ー
60
神月　紀輔

〔科目の教育目標（Course Description）〕
算数教育における，授業研究を目的とする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
心理学による学習理論や発達心理学をベースにした算数教育が実践できることを到達目標とする。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション，授業研究の方法
第 2 回　授業研究Ⅰ（教材開発とその実践計画）
第 3 回　授業研究Ⅰ（実践計画に基づく指導案の作成）
第 4 回　授業研究Ⅰ（模擬授業）
第 5 回　授業研究Ⅰ（自己評価と相互評価ディスカッション）
第 6 回　授業研究Ⅱ（教材開発とその実践計画）
第 7 回　授業研究Ⅱ（実践計画に基づく指導案の作成）
第 8 回　授業研究Ⅱ（模擬授業）
第 9 回　授業研究Ⅱ（自己評価と相互評価ディスカッション）
第 10 回　授業研究Ⅲ（教材開発とその実践計画）
第 11 回　授業研究Ⅲ（実践計画に基づく指導案の作成）
第 12 回　授業研究Ⅲ（模擬授業）
第 13 回　授業研究Ⅲ（自己評価と相互評価ディスカッション）
第 14 回　現職教諭からの指導助言（協力教員）
第 15 回　算数科の授業研究についてのまとめと省察
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
算数特論で既習の内容について，授業形式での実践を行う。授業研究Ⅰ，Ⅱ，およびⅢでは，現状にあったトピックに応じて授業計画を模擬授業において実践指導を行う。また，現職小学校および幼稚園教諭からの助言を適宜うける。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
授業準備をし，実際に算数授業ができるようにする。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
45
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
出席し議論に参加すること（40%），授業研究に積極的に挑むこと（40%），授業内容，および学習の相互評価・自己評価（20%）
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
『初等算数科教育法』/黒田恭史/ミネルヴァ書房/2010/9.784623057634E12/学内販売予定
『小学校学習指導要領解説算数編』/文部科学省/東洋館出版社/2008/9.784491023731E12/学内販売予定
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
『数学教育の基礎』/黒田恭史/ミネルヴァ書房/2011/9.784623059959E12
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　教員として学校に勤務経験あり

教科教育演習（体育）

270149N0J
大学
心理学研究科
2単位　後期
金曜 2限
ー
60
住本　純

〔科目の教育目標（Course Description）〕
体育授業の実践プロセスを通して、実践的指導力を養う。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
・小学校学習指導要領体育で示されている内容について理解し、教材の工夫ができる。
・指導方略について理解し、実践できる。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　優れた体育授業の分析（低学年）
第 3 回　優れた体育授業の分析（中学年）
第 4 回　優れた体育授業の分析（高学年）
第 5 回　教材開発Ⅰ（運動領域から選択）
第 6 回　教材開発Ⅱ（保健領域）
第 7 回　指導と評価
第 8 回　学習指導案の作成
第 9 回　模擬授業（運動領域）
第 10 回　省察（運動領域）
第 11 回　模擬授業（保健領域）
第 12 回　省察（保健領域）

第 13 回　協力校における体育授業の共同研究（教材検討会）
第 14 回　協力校における体育授業の共同研究（実践）
第 15 回　協力校における体育授業の共同研究（事後検討会）
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
なし
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
演習を中心に行う。
体育授業を観察、またはDVDを視聴し、授業分析を行う。
協力校にて、開発した教材を実践し、省察する。
レポート課題については、次回授業でフィ ードバックを行う。
最終授業で全体に対するフィードバックを行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
各回で学習した内容について小レポートを求める。
また実際の小学校にて調査を行う場合がある。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
40
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
開発した教材（50%）、小レポート（20%）、教材の実践と省察（30%）
〔留意事項（Other Information）〕
学外活動の関係で日程を変更する場合がある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
『新版　体育科教育学入門』/高橋健夫ほか/大修館書店//
『小学校学習指導要領解説　体育編』/文部科学省/東洋館出版社//
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫（小学校教員として、体育授業研究の経験あり）

特別研究

270153A0J
大学
心理学研究科
4単位　集中
その他
ー
120
必修
伊藤　一美

〔科目の教育目標（Course Description）〕
　修士論文作成のための指導科目である。「専門演習」との対応を図りつつ、指導教員の個別指導を中心とする。指導担当者は、院生の研究テーマに応じて定められる。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
　修士論文は以下の観点を中心とした指導を行っていく。
　① 研究の枠組みの妥当性：目的と方法の対応、仮説の適否
　② 文献収集の実績：新しい文献や最新の議論を把握していること
　③ データ処理の適否
　④ 解釈と構成：データの意味の解釈の適否、表現の適否
　⑤ 独創性：独創的なアイデアや指摘が含まれていること
〔授業計画〕
　授業の進行および指導方法は、個々の研究内容にしたがって、指導教員によって示される。
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
　実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
　院生の研究テーマに基づき、主指導教員 1 名と副指導教員による個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、「専門演習」において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
　先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
120
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
　修士論文への取り組み方、修士論文発表会での発表、および完成された修士論文をもとに、総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
　具体的な内容と進行および指導方法については、指導教員によって示される。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究

270153C0J
大学
心理学研究科
4単位　集中
その他
ー
120
必修
尾崎　仁美

〔科目の教育目標（Course Description）〕
修士論文作成のための指導科目である。「専門演習」との対応を図りつつ、指導教員の個別指導を中心とする。指導担当者は、院生の研究テーマに応じて定められる。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文は以下の観点を中心とした指導を行っていく。
① 研究の枠組みの妥当性：目的と方法の対応、仮説の適否
② 文献収集の実績：新しい文献や最新の議論を把握していること
③ データ処理の適否
④ 解釈と構成：データの意味の解釈の適否、表現の適否
⑤ 独創性：独創的なアイデアや指摘が含まれていること
〔授業計画〕
授業の進行および指導方法は、個々の研究内容にしたがって、指導教員によって示される。
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
院生の研究テーマに基づき、主指導教員１名と副指導教員による個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、「専門演習」において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
120
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
修士論文への取り組み方、修士論文発表会での発表、および完成された修士論文をもとに、総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
具体的な内容と進行および指導方法については、指導教員によって示される。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究

270153D0J
大学
心理学研究科
4単位　集中
その他
ー
120
必修
河瀬　雅紀

〔科目の教育目標（Course Description）〕
修士論文作成のための指導科目である。「専門演習」との対応を図りつつ、指導教員の個別指導を中心とする。指導担当者は、院生の研究テーマに応じて定められる。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文は以下の観点を中心とした指導を行っていく。
① 研究の枠組みの妥当性：目的と方法の対応、仮説の適否
② 文献収集の実績：新しい文献や最新の議論を把握していること
③ データ処理の適否
④ 解釈と構成：データの意味の解釈の適否、表現の適否
⑤ 独創性：独創的なアイデアや指摘が含まれていること
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
授業の進行および指導方法は、個々の研究内容にしたがって、指導教員によって示される。
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
院生の研究テーマに基づき、主指導教員１名と副指導教員による個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、「専門演習」において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。すなわち、授業中に重要事項について発問し、学生の解答に対して適宜口頭や文面等でフィードバックする。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
120
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
修士論文への取り組み方、修士論文発表会での発表、および完成された修士論文をもとに、総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information）〕
　具体的な内容と進行および指導方法については、指導教員によって示される。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究

270153F0J
大学
心理学研究科
4単位　集中
その他
ー
120
必修
神月　紀輔

〔科目の教育目標（Course Description）〕
　修士論文作成のための指導科目である。「専門演習」との対応を図りつつ、指導教員の個別指導を中心とする。指導担当者は、院生の研究テーマに応じて定められる。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
　修士論文は以下の観点を中心とした指導を行っていく。
　① 研究の枠組みの妥当性：目的と方法の対応、仮説の適否
　② 文献収集の実績：新しい文献や最新の議論を把握していること
　③ データ処理の適否
　④ 解釈と構成：データの意味の解釈の適否、表現の適否
　⑤ 独創性：独創的なアイデアや指摘が含まれていること
〔授業計画〕
　授業の進行および指導方法は、個々の研究内容にしたがって、指導教員によって示される。
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
　実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
　院生の研究テーマに基づき、主指導教員１名と副指導教員による個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、「専門演習」において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
　先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
120
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
　修士論文への取り組み方、修士論文発表会での発表、および完成された修士論文をもとに、総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
　具体的な内容と進行および指導方法については、指導教員によって示される。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　教員として学校に勤務経験あり

特別研究

270153G0J
大学
心理学研究科
4単位　集中
その他
ー
120
必修
薦田　未央

〔科目の教育目標（Course Description）〕
　修士論文作成のための指導科目である。「専門演習」との対応を図りつつ、指導教員の個別指導を中心とする。指導担当者は、院生の研究テーマに応じて定められる。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
　修士論文は以下の観点を中心とした指導を行っていく。
　① 研究の枠組みの妥当性：目的と方法の対応、仮説の適否
　② 文献収集の実績：新しい文献や最新の議論を把握していること
　③ データ処理の適否
　④ 解釈と構成：データの意味の解釈の適否、表現の適否
　⑤ 独創性：独創的なアイデアや指摘が含まれていること
〔授業計画〕
　授業の進行および指導方法は、個々の研究内容にしたがって、指導教員によって示される。
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
　実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
　院生の研究テーマに基づき、主指導教員１名と副指導教員による個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、「専門演習」において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
　先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
120
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
修士論文への取り組み方、修士論文発表会での発表、および完成された修士論文をもとに、総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
具体的な内容と進行および指導方法については、指導教員によって示される。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究

270153H0J
大学
心理学研究科
4単位　集中
その他
ー
120
必修
佐藤　睦子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
修士論文作成のための指導科目である。「専門演習」との対応を図りつつ、指導教員の個別指導を中心とする。指導担当者は、院生の研究テーマに応じて定められる。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文は以下の観点を中心とした指導を行っていく。
① 研究の枠組みの妥当性：目的と方法の対応、仮説の適否
② 文献収集の実績：新しい文献や最新の議論を把握していること
③ データ処理の適否
④ 解釈と構成：データの意味の解釈の適否、表現の適否
⑤ 独創性：独創的なアイデアや指摘が含まれていること
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
授業の進行および指導方法は、個々の研究内容にしたがって、指導教員によって示される。
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
院生の研究テーマに基づき、主指導教員１名と副指導教員による個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、「専門演習」において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
120
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
修士論文への取り組み方、修士論文発表会での発表、および完成された修士論文をもとに、総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
具体的な内容と進行および指導方法については、指導教員によって示される。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究

270153I0J
大学
心理学研究科
4単位　集中
その他
ー
120
必修
空間　美智子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
修士論文作成のための指導科目である。「専門演習」との対応を図りつつ、指導教員の個別指導を中心とする。指導担当者は、院生の研究テーマに応じて定められる。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文は以下の観点を中心とした指導を行っていく。
① 研究の枠組みの妥当性：目的と方法の対応、仮説の適否
② 文献収集の実績：新しい文献や最新の議論を把握していること
③ データ処理の適否
④ 解釈と構成：データの意味の解釈の適否、表現の適否
⑤ 独創性：独創的なアイデアや指摘が含まれていること
〔授業計画〕
授業の進行および指導方法は、個々の研究内容にしたがって、指導教員によって示される。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
院生の研究テーマに基づき、主指導教員１名と副指導教員による個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、「専門演習」において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total))〕
120
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
修士論文への取り組み方、修士論文発表会での発表、および完成された修士論文をもとに、総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
具体的な内容と進行および指導方法については、指導教員によって示される。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究

270153J0J
大学
心理学研究科
4単位　集中
その他
ー
120
必修
高井　直美

〔科目の教育目標（Course Description)〕
修士論文作成のための指導科目である。「専門演習」との対応を図りつつ、指導教員の個別指導を中心とする。指導担当者は、院生の研究テーマに応じて定められる。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
修士論文は以下の観点を中心とした指導を行っていく。
① 研究の枠組みの妥当性：目的と方法の対応、仮説の適否
② 文献収集の実績：新しい文献や最新の議論を把握していること
③ データ処理の適否
④ 解釈と構成：データの意味の解釈の適否、表現の適否
⑤ 独創性：独創的なアイデアや指摘が含まれていること
〔授業計画〕
授業の進行および指導方法は、個々の研究内容にしたがって、指導教員によって示される。
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
院生の研究テーマに基づき、主指導教員１名と副指導教員による個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、「専門演習」において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total))〕
120
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
修士論文への取り組み方、修士論文発表会での発表、および完成された修士論文をもとに、総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
具体的な内容と進行および指導方法については、指導教員によって示される。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究

270153K0J
大学
心理学研究科
4単位　集中
その他
ー
150
田中　誉樹

〔科目の教育目標（Course Description)〕
修士論文作成のための指導科目である。「専門演習」との対応を図りつつ、指導教員の個別指導を中心とする。指導担当者は、院生の研究テーマに応じて定められる。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
修士論文は以下の観点を中心とした指導を行っていく。
① 研究の枠組みの妥当性：目的と方法の対応、仮説の適否
② 文献収集の実績：新しい文献や最新の議論を把握していること
③ データ処理の適否
④ 解釈と構成：データの意味の解釈の適否、表現の適否

⑤ 独創性：独創的なアイデアや指摘が含まれていること

〔授業計画〕

授業の進行および指導方法は、個々の研究内容にしたがって、指導教員によって示される。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

院生の研究テーマに基づき、主指導教員１名と副指導教員による個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、「専門演習」において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

120

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

修士論文への取り組み方、修士論文発表会での発表、および完成された修士論文をもとに、総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

具体的な内容と進行および指導方法については、指導教員によって示される。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究

270153L0J
大学
心理学研究科
4単位　集中
その他
ー
120
必修
廣瀬　直哉

〔科目の教育目標（Course Description）〕

修士論文作成のための指導科目である。「専門演習」との対応を図りつつ、指導教員の個別指導を中心とする。指導担当者は、院生の研究テーマに応じて定められる。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

修士論文は以下の観点を中心とした指導を行っていく。

① 研究の枠組みの妥当性：目的と方法の対応、仮説の適否

② 文献収集の実績：新しい文献や最新の議論を把握していること

③ データ処理の適否

④ 解釈と構成：データの意味の解釈の適否、表現の適否

⑤ 独創性：独創的なアイデアや指摘が含まれていること

〔授業計画〕

授業の進行および指導方法は、個々の研究内容にしたがって、指導教員によって示される。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

院生の研究テーマに基づき、主指導教員１名と副指導教員による個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、「専門演習」において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

120

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

修士論文への取り組み方、修士論文発表会での発表、および完成された修士論文をもとに、総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

具体的な内容と進行および指導方法については、指導教員によって示される。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究

270153M0J
大学
心理学研究科
4単位　集中
その他
ー
120
必修
松島　るみ

〔科目の教育目標（Course Description）〕

修士論文作成のための指導科目である。「専門演習」との対応を図りつつ、指導教員の個別指導を中心とする。指導担当者は、院生の研究テーマに応じて定められる。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

修士論文は以下の観点を中心とした指導を行っていく。

① 研究の枠組みの妥当性：目的と方法の対応、仮説の適否

② 文献収集の実績：新しい文献や最新の議論を把握し

ていること
③ データ処理の適否
④ 解釈と構成：データの意味の解釈の適否、表現の適否
⑤ 独創性：独創的なアイデアや指摘が含まれていること
〔授業計画〕
授業の進行および指導方法は、個々の研究内容にしたがって、指導教員によって示される。
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
院生の研究テーマに基づき、主指導教員１名と副指導教員による個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、「専門演習」において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
120
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
修士論文への取り組み方、修士論文発表会での発表、および完成された修士論文をもとに、総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
具体的な内容と進行および指導方法については、指導教員によって示される。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究

270153O0J
大学
心理学研究科
4単位　集中
その他
ー
120
必修
三好　智子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
修士論文作成のための指導科目である。「専門演習」との対応を図りつつ、指導教員の個別指導を中心とする。指導担当者は、院生の研究テーマに応じて定められる。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文は以下の観点を中心とした指導を行っていく。
① 研究の枠組みの妥当性：目的と方法の対応、仮説の適否
② 文献収集の実績：新しい文献や最新の議論を把握していること
③ データ処理の適否
④ 解釈と構成：データの意味の解釈の適否、表現の適否
⑤ 独創性：独創的なアイデアや指摘が含まれていること
〔授業計画〕
授業の進行および指導方法は、個々の研究内容にしたがって、指導教員によって示される。
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
院生の研究テーマに基づき、主指導教員１名と副指導教員による個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、「専門演習」において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
120
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
修士論文への取り組み方、修士論文発表会での発表、および完成された修士論文をもとに、総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
具体的な内容と進行および指導方法については、指導教員によって示される。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究

270153P0J
大学
心理学研究科
4単位　集中
その他
ー
120
必修
向山　泰代

〔科目の教育目標（Course Description）〕
修士論文作成のための指導科目である。「専門演習」との対応を図りつつ、指導教員の個別指導を中心とする。指導担当者は、院生の研究テーマに応じて定められる。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文は以下の観点を中心とした指導を行っていく。
① 研究の枠組みの妥当性：目的と方法の対応、仮説の適否
② 文献収集の実績：新しい文献や最新の議論を把握していること
③ データ処理の適否
④ 解釈と構成：データの意味の解釈の適否、表現の適否
⑤ 独創性：独創的なアイデアや指摘が含まれていること
〔授業計画〕
授業の進行および指導方法は、個々の研究内容にしたがって、指導教員によって示される。
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
院生の研究テーマに基づき、主指導教員１名と副指導教員による個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、「専門演習」において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
120
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
修士論文への取り組み方、修士論文発表会での発表、および完成された修士論文をもとに、総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
具体的な内容と進行および指導方法については、指導教員によって示される。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究

270153Q0J
大学
心理学研究科
4単位　集中
その他
ー
120
必修
村松　朋子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
修士論文作成のための指導科目である。「専門演習」との対応を図りつつ、指導教員の個別指導を中心とする。指導担当者は、院生の研究テーマに応じて定められる。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
修士論文は以下の観点を中心とした指導を行っていく。
① 研究の枠組みの妥当性：目的と方法の対応、仮説の適否
② 文献収集の実績：新しい文献や最新の議論を把握していること
③ データ処理の適否
④ 解釈と構成：データの意味の解釈の適否、表現の適否
⑤ 独創性：独創的なアイデアや指摘が含まれていること
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
授業の進行および指導方法は、個々の研究内容にしたがって、指導教員によって示される。
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
院生の研究テーマに基づき、主指導教員１名と副指導教員による個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、「専門演習」において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
120
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
修士論文への取り組み方、修士論文発表会での発表、および完成された修士論文をもとに、総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
具体的な内容と進行および指導方法については、指導教員によって示される。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

臨床心理事例研究法演習 I

270200N0J
大学
心理学研究科
2単位　前期集中
その他
ー
60
伊藤　一美

〔科目の教育目標（Course Description)〕
臨床心理士を目指す受講者は、学内実習施設である心理臨床センター心理相談室での事例担当と並行して、スーパービジョンを受ける。事例担当者は心理相談や心理検査等を実習するにあたって、来談者の抱える問題を把握することをはじめ、来談者と担当者との間に信頼関係ができているか、どのように面接を展開するとよいか等を心理相談の経過に沿って全体的に捉える必要がある。毎回の面接についてまとめたり、振り返ったりする作業を通じて治療過程についての理解とこれを表現する力を養う。さらにスーパービジョンを受けることにより、事例についての一層の理解と面接や検査等に関する知識や技能を高める。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
（１）実習事例を丁寧にまとめ、スーパービジョンを担当する教員に詳しく報告する。
（２）教員への報告を通じて自分自身の面接を冷静に振り返る。
（３）個別スーパービジョンあるいは少人数での集団スーパービジョンを経験し、事例の理解と面接技能を高め、実践力を養う。
（４）スーパービジョンでの経験をケース検討会での発表、事例研究論文執筆に活かし、来談者への心理臨床実践に還元する。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
事例の担当状況に応じて、進めていく。
日程、授業計画は、授業中に指示する。

第1回目を含む各回の担当者：伊藤
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない。
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
本科目では、定期的に事例の経過をスーパービジョン担当教員に報告し、事例の理解や心理相談の進め方などに関して指導を受ける。
フィードバックは、個別指導の中で、口頭および文章指導などの形で、適宜実施される。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
担当事例の逐語録の作成のほか、適宜、担当教員より指示する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total))〕
40
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
スーパービジョンで の報告内容（50%）、事例運営における意欲（50%）が評価の対象となる。
〔留意事項（Other Information)〕
定期的かつ事例の実情に応じて、随時、事例運営についてのスーパービジョンを受ける。
学内心理臨床センター心理相談室での実習は長期休暇中にも行われるため、それに応じてスーパービジョンも適宜行われる。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　臨床心理士として医療機関・教育機関での勤務経験あり。

臨床心理事例研究法演習 II

270201N0J
大学
心理学研究科
2単位　後期集中
その他
ー
60
伊藤　一美

〔科目の教育目標（Course Description)〕
受講者は、学内実習施設である心理臨床センター心理相談室での事例担当と並行して、スーパービジョンを受ける。事例担当者は心理相談や心理検査等を実習するにあたって、来談者の抱える問題を把握することをはじめ、来談者と担当者との間に信頼関係ができているか、どのように面接を展開するとよいか等を心理相談の経過に沿って全体的に捉える必要がある。毎回の面接についてまとめたり、振り返ったりする作業を通じて治療過程についての理解とこれを表現する力を養う。さらにスーパービジョンを受けることにより、事例についての一層の理解と面接や検査等に関する知識や技能を高める。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
（１）実習事例を丁寧にまとめ、スーパービジョンを担当する教員に詳しく報告する。
（２）教員への報告を通じて自分自身の面接を冷静に振り返る。
（３）個別スーパービジョンあるいは少人数での集団スーパービジョンを経験し、事例の理解と面接技能を高め、実践力を養う。
（４）スーパービジョンでの経験をケース検討会での発表、事例研究論文執筆に活かし、来談者への心理臨床実践に還元する。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
事例の担当状況に応じて、進めていく。
日程、授業計画は、授業中に指示する。

第1回目を含む各回の担当者：伊藤
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない。
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
本科目では、定期的に事例の経過をスーパービジョン担当教員に報告し、事例の理解や心理相談の進め方などに関して指導を受ける。
学期末には、全担当事例についてブリーフレポートを作成する。
さらに、心理相談に関する先行文献も参照しながら、担当事例に関する事例論文執筆に取り組む。
フィードバックは、個別指導の中で、口頭および文章指導などの形で、適宜実施される。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
担当事例の逐語録の作成のほか、適宜、担当教員より指示する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
40
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
スーパービジョンでの報告内容（30％）、事例運営の意欲（30％）、全担当事例についてのブリーフレポート作成（20％）、担当事例に関する事例論文等（20％）が評価の対象となる。
〔留意事項（Other Information）〕
定期的かつ事例の実情に応じて、随時、事例運営について のスーパービジョンを受ける。学内心理臨床センター心 理相談室での実習は長期休暇中にも行われるため、それに 応じてスーパービジョンも適宜行われる。
担当事例についてのブリーフレポートは継続、終結、中断等の全ての担当事例について提出を求める。事例研究論文はスーパービジョン担当教員の指導のもとで作成し、臨床心理学専攻専任教員による倫理面でのチェックを受けたのち、提出する。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　臨床心理士として医療機関・教育機関での勤務経験あり。

発達・学校心理学専門演習Ⅰ

270231A0J
大学
心理学研究科
2単位　前期
水曜 2限
ー
60
発達・学校心理学専攻必修
松島　るみ　高井　直美　尾崎　仁美　薦田　未央　廣瀬　直哉　神月　紀輔　後藤　伸彦

〔科目の教育目標（Course Description）〕
博士前期課程の間に、発達・学校心理学に関する様々な重要テーマを扱った研究を院生が自分で精力的に行っていくことができるように指導する。
そのために、専攻に属する教員全員で、すべての院生の発表をしっかりと見守りながら、教員各自の専門性を生かして総合的に指導していく。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．自分の研究テーマを見つけるため、内外の多くの文献を精読する。
２．文献を整理しながら、オリジナリティのある研究テーマを考えて研究計画を組み立てていく。
３．他者の研究計画および研究経過発表を聞いて学習したことを、自身の研究計画立案に役立てる。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション（全員）
第 2 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 3 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 4 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 5 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 6 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 7 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 8 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 9 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 10 回　研究計画および研究経過発表（全員）

第 11 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 12 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 13 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 14 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 15 回　研究計画および研究経過発表（全員）
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
専攻に属する院生と専攻の教員が参加し、研究会方式で進める。院生は各自の研究テーマや研究計画、データ処理、結果と考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問や情報を提供する。報告担当の院生は、事前に口頭発表とそのための資料プリントの用意をする。授業中のディスカッションでは、適宜口頭でフィードバックする。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
関心のある研究領域、テーマについて文献検索を行い、その中から必要な先行研究についてまとめて研究計画を整理する。それらに基づき、授業の発表資料を作成する。また、発表後には、質疑の内容を振り返り、理解を深めて研究計画および研究内容に反映できるように整理をしておくこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
　発表のしかた、資料の作り方、質疑応答（他者が発表している時の質問等も含む)、レポート課題（夏季休暇などに課せられるもの）などを総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
授業の順番は入れ替わることがある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

発達・学校心理学専門演習 I

270231B0J
大学
心理学研究科
2単位　前期
火曜 5限
ー
60
発達・学校心理学専攻必修
松島　るみ　高井　直美　尾崎　仁美　薦田　未央　廣瀬　直哉　神月　紀輔　後藤　伸彦

〔科目の教育目標（Course Description)〕
　博士前期課程の間に、発達・学校心理学に関する様々な重要テーマを扱った研究を院生が自分で精力的に行っていくことができるように指導する。
　そのために、専攻に属する教員全員で、すべての院生の発表をしっかりと見守りながら、教員各自の専門性を生かして総合的に指導していく。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
１．自分の研究テーマを見つけるため、内外の多くの文献を精読する。
２．文献を整理しながら、オリジナリティのある研究テーマを考えて研究計画を組み立てていく。
３．他者の研究計画および研究経過発表を聞いて学習したことを、自身の研究計画立案に役立てる。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　研究計画および研究経過発表
第 3 回　研究計画および研究経過発表
第 4 回　研究計画および研究経過発表
第 5 回　研究計画および研究経過発表
第 6 回　研究計画および研究経過発表
第 7 回　研究計画および研究経過発表
第 8 回　研究計画および研究経過発表
第 9 回　研究計画および研究経過発表
第 10 回　研究計画および研究経過発表
第 11 回　研究計画および研究経過発表
第 12 回　研究計画および研究経過発表
第 13 回　研究計画および研究経過発表
第 14 回　研究計画および研究経過発表
第 15 回　研究計画および研究経過発表
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
専攻に属する院生と専攻の教員が参加し、研究会方式で進める。院生は各自の研究テーマや研究計画、データ処理、結果と考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問や情報を提供する。報告担当の院生は、事前に口頭発表とそのための資料プリントの用意をする。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
関心のある研究領域、テーマについて文献検索を行い、その中から必要な先行研究についてまとめて研究計画を整理する。それらに基づき、授業の発表資料を作成する。また、発表後には、質疑の内容を振り返り、理解を深めて研究計画および研究内容に反映できるように整理をしておくこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
　発表のしかた、資料の作り方、質疑応答（他者が発表している時の質問等も含む)、レポート課題（夏季休暇などに課せられるもの）などを総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
授業の順番は入れ替わることがある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

発達・学校心理学専門演習 II

270232A0J
大学
心理学研究科
2単位　後期
水曜 2限
ー
60
発達・学校心理学専攻必修
松島　るみ　高井　直美　尾崎　仁美　薦田　未央　廣瀬　直哉　神月　紀輔　後藤　伸彦

〔科目の教育目標（Course Description）〕
博士前期課程の間に、発達・学校心理学に関する様々な重要テーマを扱った研究を院生が自分で精力的に行っていくことができるように指導する。
そのために、専攻に属する教員全員で、すべての院生の発表をしっかりと見守りながら、教員各自の専門性を生かして総合的に指導していく。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．自分の研究テーマを見つけるため、内外の多くの文献を精読する。
２．文献を整理しながら、オリジナリティのある研究テーマを考えて研究計画を組み立てていく。
３．他者の研究計画および研究経過発表を聞いて学習したことを、自身の研究計画立案に役立てる。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 2 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 3 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 4 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 5 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 6 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 7 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 8 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 9 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 10 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 11 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 12 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 13 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 14 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 15 回　研究計画および研究経過発表（全員）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
専攻に属する院生と専攻の教員が参加し、研究会方式で進める。院生は各自の研究テーマや研究計画、データ処理、結果と考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問や情報を提供する。報告担当の院生は、事前に口頭発表とそのための資料プリントの用意をする。授業中のディスカッションでは、適宜口頭でフィードバックする。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
研究計画や研究経過発表について、その背景となる文献等にも十分目を通して参加すること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
発表のしかた、資料の作り方、質疑応答（他者が発表している時の質問等も含む）、レポート課題（夏季休暇などに課せられるもの）などを総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

発達・学校心理学専門演習 II

270232B0J
大学
心理学研究科
2単位　後期
火曜 5限
ー
60
発達・学校心理学専攻必修
松島　るみ　高井　直美　尾崎　仁美　薦田　未央　廣瀬　直哉　神月　紀輔　後藤　伸彦

〔科目の教育目標（Course Description）〕
博士前期課程の間に、発達・学校心理学に関する様々な重要テーマを扱った研究を院生が自分で精力的に行っていくことができるように指導する。
そのために、専攻に属する教員全員で、すべての院生の発表をしっかりと見守りながら、教員各自の専門性を生かして総合的に指導していく。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．自分の研究テーマを見つけるため、内外の多くの文献を精読する。
２．文献を整理しながら、オリジナリティのある研究テーマを考えて研究計画を組み立てていく。

３．他者の研究計画および研究経過発表を聞いて学習したことを、自身の研究計画立案に役立てる。
〔授業計画〕
第 1 回　研究計画および研究経過発表
第 2 回　研究計画および研究経過発表
第 3 回　研究計画および研究経過発表
第 4 回　研究計画および研究経過発表
第 5 回　研究計画および研究経過発表
第 6 回　研究計画および研究経過発表
第 7 回　研究計画および研究経過発表
第 8 回　研究計画および研究経過発表
第 9 回　研究計画および研究経過発表
第 10 回　研究計画および研究経過発表
第 11 回　研究計画および研究経過発表
第 12 回　合同演習（Ｍ２修士論文発表会）
第 13 回　合同演習（Ｍ２修士論文発表会）
第 14 回　合同演習（Ｍ２修士論文発表会）
第 15 回　合同演習（Ｍ２修士論文発表会）
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
専攻に属する院生と専攻の教員が参加し、研究会方式で進める。院生は各自の研究テーマや研究計画、データ処理、結果と考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問や情報を提供する。報告担当の院生は、事前に口頭発表とそのための資料プリントの用意をする。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
研究計画や研究経過発表について､その背景となる文献等にも十分目を通して参加すること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
　発表のしかた、資料の作り方、質疑応答（他者が発表している時の質問等も含む)、レポート課題（夏季休暇などに課せられるもの）などを総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

発達・学校心理学専門演習Ⅲ

270233A0J
大学
心理学研究科
2単位　前期
水曜 2限
ー
60
発達・学校心理学専攻必修
松島　るみ　高井　直美　尾崎　仁美　薦田　未央　廣瀬　直哉　神月　紀輔　後藤　伸彦

〔科目の教育目標（Course Description)〕
　院生が自らの研究内容と経過を発表することを通して、研究の問題点を明らかにし、より良い研究論文を作成できるように指導する。
　そのために、専攻に属する教員全員で、すべての院生の発表をしっかりと見守りながら、教員各自の専門性を生かして総合的に指導していく。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
１．実験・観察・調査を具体的に進めていく中で、生じてくる問題点を整理し、意味のある研究論文に仕上げていく過程を発表する。
２．他者の研究計画および研究経過発表を聞いて学習したことを、自身の研究論文作成に役立てる。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション（全員）
第 2 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 3 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 4 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 5 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 6 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 7 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 8 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 9 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 10 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 11 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 12 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 13 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 14 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 15 回　研究計画および研究経過発表（全員）
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
専攻に属する院生と専攻の教員が参加し、研究会方式で進める。院生は各自の研究テーマや研究計画、データ処理、結果と考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問や情報を提供する。報告担当の院生は、事前

に口頭発表とそのための資料プリントの用意をする。授業中のディスカッションでは、適宜口頭でフィードバックする。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
関心のある研究領域、テーマについて文献検索を行い、その中から必要な先行研究についてまとめて研究計画を整理する。それらに基づき、授業の発表資料を作成する。また、発表後には、質疑の内容を振り返り、理解を深めて研究計画および研究内容に反映できるように整理をしておくこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
　発表のしかた、資料の作り方、質疑応答（他者が発表している時の質問等も含む）、レポート課題などを総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
授業の順番は入れ替わることがある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

発達・学校心理学専門演習III

270233B0J
大学
心理学研究科
2単位　前期
火曜 5限
ー
60
発達・学校心理学専攻必修
松島　るみ　高井　直美　尾崎　仁美　薦田　未央　廣瀬　直哉　神月　紀輔　後藤　伸彦

〔科目の教育目標（Course Description）〕
　院生が自らの研究内容と経過を発表することを通して、研究の問題点を明らかにし、より良い研究論文を作成できるように指導する。
　そのために、専攻に属する教員全員で、すべての院生の発表をしっかりと見守りながら、教員各自の専門性を生かして総合的に指導していく。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．実験・観察・調査を具体的に進めていく中で、生じてくる問題点を整理し、意味のある研究論文に仕上げていく過程を発表する。
２．他者の研究計画および研究経過発表を聞いて学習したことを、自身の研究論文作成に役立てる。
〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　研究計画および研究経過発表
第 3 回　研究計画および研究経過発表
第 4 回　研究計画および研究経過発表
第 5 回　研究計画および研究経過発表
第 6 回　研究計画および研究経過発表
第 7 回　研究計画および研究経過発表
第 8 回　研究計画および研究経過発表
第 9 回　研究計画および研究経過発表
第 10 回　研究計画および研究経過発表
第 11 回　研究計画および研究経過発表
第 12 回　研究計画および研究経過発表
第 13 回　研究計画および研究経過発表
第 14 回　研究計画および研究経過発表
第 15 回　研究計画および研究経過発表
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
専攻に属する院生と専攻の教員が参加し、研究会方式で進める。院生は各自の研究テーマや研究計画、データ処理、結果と考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問や情報を提供する。報告担当の院生は、事前に口頭発表とそのための資料プリントの用意をする。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
関心のある研究領域、テーマについて文献検索を行い、その中から必要な先行研究についてまとめて研究計画を整理する。それらに基づき、授業の発表資料を作成する。また、発表後には、質疑の内容を振り返り、理解を深めて研究計画および研究内容に反映できるように整理をしておくこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
　発表のしかた、資料の作り方、質疑応答（他者が発表している時の質問等も含む）、レポート課題などを総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
授業の順番は入れ替わることがある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

発達・学校心理学専門演習Ⅳ

270234A0J
大学
心理学研究科
2単位　後期
水曜 2限
ー
60
発達・学校心理学専攻必修
松島　るみ　高井　直美　尾崎　仁美　薦田　未央　廣瀬　直哉　神月　紀輔　後藤　伸彦

〔科目の教育目標（Course Description）〕
院生が自らの研究内容と経過を発表することを通して、研究の問題点を明らかにし、より良い研究論文を作成できるように指導する。
そのために、専攻に属する教員全員で、すべての院生の発表をしっかりと見守りながら、教員各自の専門性を生かして総合的に指導していく。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．実験・観察・調査を具体的に進めていく中で、生じてくる問題点を整理し、意味のある研究論文に仕上げていく過程を発表する。
２．他者の研究計画および研究経過発表を聞いて学習したことを、自身の研究論文作成に役立てる。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 2 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 3 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 4 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 5 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 6 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 7 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 8 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 9 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 10 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 11 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 12 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 13 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 14 回　研究計画および研究経過発表（全員）
第 15 回　研究計画および研究経過発表（全員）
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
専攻に属する院生と専攻の教員が参加し、研究会方式で進める。院生は各自の研究テーマや研究計画、データ処理、結果と考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問や情報を提供する。報告担当の院生は、事前に口頭発表とそのための資料プリントの用意をする。授業中のディスカッションでは、適宜口頭でフィードバックする。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
研究計画や研究経過発表について、その背景となる文献等にも十分目を通して参加すること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
発表のしかた、資料の作り方、質疑応答（他者が発表している時の質問等も含む）、レポート課題などを総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

発達・学校心理学専門演習Ⅳ

270234B0J
大学
心理学研究科
2単位　後期
火曜 5限
ー
60
発達・学校心理学専攻必修
松島　るみ　高井　直美　尾崎　仁美　薦田　未央　廣瀬　直哉　神月　紀輔　後藤　伸彦

〔科目の教育目標（Course Description）〕
院生が自らの研究内容と経過を発表することを通して、研究の問題点を明らかにし、より良い研究論文を作成できるように指導する。
そのために、専攻に属する教員全員で、すべての院生の発表をしっかりと見守りながら、教員各自の専門性を生かして総合的に指導していく。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１．実験・観察・調査を具体的に進めていく中で、生じてくる問題点を整理し、意味のある研究論文に仕上げていく過程を発表する。
２．他者の研究計画および研究経過発表を聞いて学習したことを、自身の研究論文作成に役立てる。
〔授業計画〕
第 1 回　研究計画および研究経過発表
第 2 回　研究計画および研究経過発表
第 3 回　研究計画および研究経過発表
第 4 回　研究計画および研究経過発表
第 5 回　研究計画および研究経過発表
第 6 回　研究計画および研究経過発表

第 7 回　研究計画および研究経過発表
第 8 回　研究計画および研究経過発表
第 9 回　研究計画および研究経過発表
第 10 回　研究計画および研究経過発表
第 11 回　研究計画および研究経過発表
第 12 回　合同演習（Ｍ２修士論文発表会）
第 13 回　合同演習（Ｍ２修士論文発表会）
第 14 回　合同演習（Ｍ２修士論文発表会）
第 15 回　合同演習（Ｍ２修士論文発表会）
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
専攻に属する院生と専攻の教員が参加し、研究会方式で進める。院生は各自の研究テーマや研究計画、データ処理、結果と考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問や情報を提供する。報告担当の院生は、事前に口頭発表とそのための資料プリントの用意をする。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
研究計画や研究経過発表について､その背景となる文献等にも十分目を通して参加すること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
　発表のしかた、資料の作り方、質疑応答（他者が発表している時の質問等も含む)、レポート課題などを総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

臨床心理学専門演習Ⅰ

270235A0J
大学
心理学研究科
2単位　前期
水曜 2限
ー
60
臨床心理学専攻必修
田中　誉樹　伊藤　一美　向山　泰代　河瀬　雅紀　三好　智子　佐藤　睦子　空間　美智子　村松　朋子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
　この授業は、学生が研究計画や研究経過を発表・報告し、教員や他の学生と討議することを通して研究内容やプレゼンテーションの方法等についての学びを深め、自らの研究の意義や課題を明確にし、独創性・有用性のある研究論文を作成する力を身につけることを目標とする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
1.各自の問題意識に沿って先行研究を探索・精読し、臨床心理学的な視点と方法に基づいた研究論文の作成過程や方法、結果の表現法などを学ぶ。 2.各自の研究の目的・方法・仮説・データ処理の過程・研究成果などについて論理的にまとめ、分かりやすく表現する。3.発表や討議から学んだことを、研究論文の作成に活かす。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　なし
　　オリエンテーション(担当教員全員）
第 2 回　なし
　　研究計画および研究経過発表(担当教員全員）
第 3 回　なし
　　修士論文経過発表(担当教員全員）
第 4 回　なし
　　修士論文経過発表(担当教員全員）
第 5 回　なし
　　修士論文経過発表(担当教員全員）
第 6 回　なし
　　研究計画発表(担当教員全員）
第 7 回　なし
　　研究計画発表(担当教員全員）
第 8 回　なし
　　研究計画発表(担当教員全員）
第 9 回　なし
　　研究計画発表(担当教員全員）
第 10 回　なし
　　合同演習(担当教員全員）
第 11 回　なし
　　合同演習(担当教員全員）
第 12 回　なし
　　合同演習(担当教員全員）
第 13 回　なし
　　修士論文発経過表(担当教員全員）
第 14 回　なし
　　修士論文発経過表(担当教員全員）
第 15 回　なし
　　修士論文発経過表(担当教員全員）
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
専攻に所属する学生と教員が全員参加し、研究会方式で進める。学生は各自の研究について、テーマや研究計画、データ処理法、結果、考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問をしたり、情報を提供したりする。 発表や質疑応答、討議を通じて、互いの研究への理解

を深め、課題や問題意識等を明確にしてゆく。報告担当の学生は、口頭発表と発表に関する資料を事前に準備する。他専攻との交流を行う。
評価についてのフィードバックは、ディスカッションや個別指導の中で口頭により、あるいはmanabaに提出された発表資料に対するコメントによって、適宜行われる。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
各学生は、発表のための準備として文献を検索・熟読した後、パワーポイントでの発表を行う。プレゼンテーションの練習も行うこと。発表時間は厳守である。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
授業参加度、発表の内容、事前資料の作り方、発表（プレゼンテーション）の仕方、発表時の質疑応答、授業態度などによって総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫
臨床心理士、精神科医として医療機関、教育機関等での勤務経験あり。

臨床心理学専門演習Ⅰ

270235B0J
大学
心理学研究科
2単位　前期
金曜 6限
ー
60
臨床心理学専攻必修
田中　誉樹　伊藤　一美　向山　泰代　河瀬　雅紀　三好　智子　佐藤　睦子　空間　美智子　村松　朋子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
　この授業は、学生が研究計画や研究経過を発表・報告し、教員や他の学生と討議することを通して研究内容やプレゼンテーションの方法等についての学びを深め、自らの研究の意義や課題を明確にし、独創性・有用性のある研究論文を作成する力を身につけることを目標とする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
1.各自の問題意識に沿って先行研究を探索・精読し、臨床心理学的な視点と方法に基づいた研究論文の作成過程や方法、結果の表現法などを学ぶ。 2.各自の研究の目的・方法・仮説・データ処理の過程・研究成果などについて論理的にまとめ、分かりやすく表現する。3.発表や討議から学んだことを、研究論文の作成に活かす。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　なし
　　オリエンテーション(担当教員全員）
第 2 回　なし
　　研究計画および研究経過発表(担当教員全員）
第 3 回　なし
　　修士論文経過発表(担当教員全員）
第 4 回　なし
　　修士論文経過発表(担当教員全員）
第 5 回　なし
　　修士論文経過発表(担当教員全員）
第 6 回　なし
　　研究計画発表(担当教員全員）
第 7 回　なし
　　研究計画発表(担当教員全員）
第 8 回　なし
　　研究計画発表(担当教員全員）
第 9 回　なし
　　研究計画発表(担当教員全員）
第 10 回　なし
　　合同演習(担当教員全員）
第 11 回　なし
　　合同演習(担当教員全員）
第 12 回　なし
　　合同演習(担当教員全員）
第 13 回　なし
　　合同演習(担当教員全員）
第 14 回　なし
　　合同演習(担当教員全員）
第 15 回　なし
　　合同演習(専攻担当教員全員）
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
専攻に所属する学生と教員が全員参加し、研究会方式で進める。学生は各自の研究について、テーマや研究計画、データ処理法、結果、考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問をしたり、情報を提供したりする。 発表や質疑応答、討議を通じて、互いの研究への理解を深め、課題や問題意識等を明確にしてゆく。報告担当の学生は、口頭発表と発表に関する資料を事前に準備する。他専攻との交流を行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
各学生は、発表のための準備として文献を検索・熟読した後、パワーポイントでの発表を行う。プレゼンテーションの練習も行うこと。発表時間は厳守である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
授業参加度、発表の内容、事前資料の作り方、発表（プレゼンテーション）の仕方、発表時の質疑応答、授業態度などによって総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

臨床心理学専門演習 II

270236A0J
大学
心理学研究科
2単位　後期
水曜 2限
ー
60
臨床心理学専攻必修
田中　誉樹　伊藤　一美　向山　泰代　河瀬　雅紀　三好　智子　佐藤　睦子　空間　美智子　村松　朋子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
この授業は、学生が研究計画や研究経過を発表・報告し、教員や他の学生と討議することを通して研究内容やプレゼンテーションの方法等についての学びを深め、自らの研究の意義や課題を明確にし、独創性・有用性のある研究論文を作成する力を身につけることを目標とする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
1.各自の問題意識に沿って先行研究を探索・精読し、臨床心理学的な視点と方法に基づいた研究論文の作成過程や方法、結果の表現法などを学ぶ。 2.各自の研究の目的・方法・仮説・データ処理の過程・研究成果などについて論理的にまとめ、分かりやすく表現する。3.発表や討議から学んだことを、研究計画の作成に活かす。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　なし
研究計画および研究経過発表(担当教員全員）
第 2 回　なし
研究計画および研究経過発表(担当教員全員）
第 3 回　なし
研究計画および研究経過発表(担当教員全員）
第 4 回　なし
研究経過発表(担当教員全員）
第 5 回　なし
研究経過発表(担当教員全員）
第 6 回　なし
研究経過発表(担当教員全員）
第 7 回　なし
合同演習(担当教員全員）
第 8 回　なし
合同演習(担当教員全員）
第 9 回　なし
合同演習(担当教員全員）
第 10 回　なし
合同演習(担当教員全員）
第 11 回　なし
修士論文経過発表(担当教員全員）
第 12 回　なし
修士論文経過発表(担当教員全員）
第 13 回　なし
合同演習（Ｍ２修士論文発表会）(担当教員全員）
第 14 回　なし
合同演習（Ｍ２修士論文発表会）(担当教員全員）
第 15 回　なし
合同演習（Ｍ２修士論文発表会）(担当教員全員）
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
専攻に所属する学生と教員が全員参加し、研究会方式で進める。学生は各自の研究について、テーマや研究計画、データ処理法、結果、考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問をしたり、情報を提供したりする。 発表や質疑応答、討議を通じて、互いの研究への理解を深め、課題や問題意識等を明確にしてゆく。報告担当の学生は、口頭発表と発表に関する資料プリントを事前に準備する。他専攻との交流を行う。評価についてのフィードバックは、ディスカッションや個別指導の中で口頭により、あるいはmanabaに提出された発表資料に対するコメントによって、適宜行われる。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
各学生は、発表のための準備として文献を検索・熟読した後、パワーポイントでの発表を行う。プレゼンテーションの練習も行うこと。発表時間は厳守である。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
授業参加度、発表の内容、事前資料の作り方、発表（プレゼンテーション）の仕方、発表時の質疑応答、授業態度などによって総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫

臨床心理士、精神科医として医療機関、教育機関等での勤務経験あり。

臨床心理学専門演習 II

270236B0J
大学
心理学研究科
2単位　後期
金曜 6限
ー
60
臨床心理学専攻必修
田中　誉樹　伊藤　一美　向山　泰代　河瀬　雅紀　三好　智子　佐藤　睦子　空間　美智子　村松　朋子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
　この授業は、学生が研究計画や研究経過を発表・報告し、教員や他の学生と討議することを通して研究内容やプレゼンテーションの方法等についての学びを深め、自らの研究の意義や課題を明確にし、独創性・有用性のある研究論文を作成する力を身につけることを目標とする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
1.各自の問題意識に沿って先行研究を探索・精読し、臨床心理学的な視点と方法に基づいた研究論文の作成過程や方法、結果の表現法などを学ぶ。 2.各自の研究の目的・方法・仮説・データ処理の過程・研究成果などについて論理的にまとめ、分かりやすく表現する。3.発表や討議から学んだことを、研究計画の作成に活かす。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　なし
　研究計画および研究経過発表(担当教員全員）
第 2 回　なし
　研究計画および研究経過発表(担当教員全員）
第 3 回　なし
　研究計画および研究経過発表(担当教員全員）
第 4 回　なし
　研究経過発表(担当教員全員）
第 5 回　なし
　研究経過発表(担当教員全員）
第 6 回　なし
　研究経過発表(担当教員全員）
第 7 回　なし
　合同演習(担当教員全員）
第 8 回　なし
　合同演習(担当教員全員）
第 9 回　なし
　合同演習(担当教員全員）
第 10 回　なし
　合同演習(担当教員全員）
第 11 回　なし
　修士論文経過発表(担当教員全員）
第 12 回　なし
　修士論文経過発表(担当教員全員）
第 13 回　なし
　合同演習（M２修士論文発表会）(担当教員全員）
第 14 回　なし
　合同演習（M２修士論文発表会）(担当教員全員）
第 15 回　なし
　合同演習（M２修士論文発表会）(担当教員全員）
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
専攻に所属する学生と教員が全員参加し、研究会方式で進める。学生は各自の研究について、テーマや研究計画、データ処理法、結果、考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問をしたり、情報を提供したりする。 発表や質疑応答、討議を通じて、互いの研究への理解を深め、課題や問題意識等を明確にしてゆく。報告担当の学生は、口頭発表と発表に関する資料プリントを事前に準備する。他専攻との交流を行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
各学生は、発表のための準備として文献を検索・熟読した後、パワーポイントでの発表を行う。プレゼンテーションの練習も行うこと。発表時間は厳守である。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
授業参加度、発表の内容、事前資料の作り方、発表（プレゼンテーション）の仕方、発表時の質疑応答、授業態度などによって総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

臨床心理学専門演習III

270237A0J
大学
心理学研究科
2単位　前期
水曜 2限
ー
60
臨床心理学専攻必修

田中　誉樹　伊藤　一美　向山　泰代　河瀬　雅紀　三好　智子　佐藤　睦子　空間　美智子　村松　朋子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
この授業は、学生が研究計画や研究経過を発表・報告し、教員や他の学生と討議することを通して研究内容やプレゼンテーションの方法等についての学びを深め、自らの研究の意義や課題を明確にし、独創性・有用性のある研究論文を作成する力を身につけることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
1.各自の研究の目的・方法・仮説・データ処理の過程・研究成果などについて論理的にまとめ、分かりやすく表現する。2.自分の研究上の課題や問題点を明確にする。3.発表や討議から学んだことを、研究論文作成に活かす。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　なし
　　オリエンテーション
第 2 回　なし
　　研究計画および研究経過発表(担当教員全員）
第 3 回　なし
　　修士論文経過発表(担当教員全員）
第 4 回　なし
　　修士論文経過発表(担当教員全員）
第 5 回　なし
　　修士論文経過発表(担当教員全員）
第 6 回　なし
　　研究計画発表(担当教員全員）
第 7 回　なし
　　研究計画発表(担当教員全員）
第 8 回　なし
　　研究計画発表(担当教員全員）
第 9 回　なし
　　研究計画発表(担当教員全員）
第 10 回　なし
　　合同演習(担当教員全員）
第 11 回　なし
　　合同演習(担当教員全員）
第 12 回　なし
　　合同演習(担当教員全員）
第 13 回　なし
　　修士論文経過発表(担当教員全員）
第 14 回　なし
　　修士論文経過発表(担当教員全員）
第 15 回　なし
　　修士論文経過発表(担当教員全員）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
専攻に所属する学生と教員が全員参加し、研究会方式で進める。学生は各自の研究について、テーマや研究計画、データ処理法、結果、考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問をしたり、情報を提供したりする。 発表や質疑応答、討議を通じて、互いの研究への理解を深め、課題や問題意識等を明確にしてゆく。報告担当の学生は、口頭発表と発表に関する資料プリントを事前に準備する。他専攻との交流を行う。評価についてのフィードバックは、ディスカッションや個別指導の中で口頭により、あるいはmanabaに提出された発表資料に対するコメントによって、適宜行われる。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
各学生は、発表のための準備として文献を検索・熟読した後、パワーポイントでの発表を行う。プレゼンテーションの練習も行うこと。発表時間は厳守である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
60

〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
授業参加度、発表の内容、事前資料の作り方、発表（プレゼンテーション）の仕方、発表時の質疑応答、授業態度などによって総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information)〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫
臨床心理士、精神科医として医療機関、教育機関等での勤務経験あり。

臨床心理学専門演習Ⅲ

270237B0J
大学
心理学研究科
2単位　前期
金曜 6限
ー
60
臨床心理学専攻必修
田中　誉樹　伊藤　一美　向山　泰代　河瀬　雅紀　三好　智子　佐藤　睦子　空間　美智子　村松　朋子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
この授業は、学生が研究計画や研究経過を発表・報告し、教員や他の学生と討議することを通して研究内容やプレゼンテーションの方法等についての学びを深め、自らの研究の意義や課題を明確にし、独創性・有用性のある研究論文を作成する力を身につけることを目標とする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
1.各自の研究の目的・方法・仮説・データ処理の過程・研究成果などについて論理的にまとめ、分かりやすく表現する。2.自分の研究上の課題や問題点を明確にする。3.発表や討議から学んだことを、研究論文作成に活かす。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　なし
オリエンテーション(担当教員全員）
第 2 回　なし
研究計画および研究経過発表(担当教員全員）
第 3 回　なし
修士論文経過発表(担当教員全員）
第 4 回　なし
修士論文経過発表(担当教員全員）
第 5 回　なし
修士論文経過発表(担当教員全員）
第 6 回　なし
研究計画発表(担当教員全員）
第 7 回　なし
研究計画発表(担当教員全員）
第 8 回　なし
研究計画発表(担当教員全員）
第 9 回　なし
研究計画発表(担当教員全員）
第 10 回　なし
合同演習(担当教員全員）
第 11 回　なし
合同演習(担当教員全員）
第 12 回　なし
合同演習(担当教員全員）
第 13 回　なし
修士論文経過発表(担当教員全員）
第 14 回　なし
修士論文経過発表(担当教員全員）
第 15 回　なし
修士論文経過発表(担当教員全員）
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
専攻に所属する学生と教員が全員参加し、研究会方式で進める。学生は各自の研究について、テーマや研究計画、データ処理法、結果、考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問をしたり、情報を提供したりする。 発表や質疑応答、討議を通じて、互いの研究への理解を深め、課題や問題意識等を明確にしてゆく。報告担当の学生は、口頭発表と発表に関する資料プリントを事前に準備する。他専攻との交流を行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
各学生は、発表のための準備として文献を検索・熟読した後、パワーポイントでの発表を行う。プレゼンテーションの練習も行うこと。発表時間は厳守である。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
授業参加度、発表の内容、事前資料の作り方、発表（プレゼンテーション）の仕方、発表時の質疑応答、授業態度などによって総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

臨床心理学専門演習Ⅳ

270238A0J
大学
心理学研究科
2単位　後期
水曜 2限
ー
60
臨床心理学専攻必修
田中　誉樹　伊藤　一美　向山　泰代　河瀬　雅紀　三好　智子　佐藤　睦子　空間　美智子　村松　朋子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
この授業は、学生が研究計画や研究経過を発表・報告し、教員や他の学生と討議することを通して研究内容やプレゼンテーションの方法等についての学びを深め、自らの研究

の意義や課題を明確にし、独創性・有用性のある研究論文を作成する力を身につけることを目標とする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
1.各自の研究の目的・方法・仮説・データ処理の過程・研究成果などについて論理的にまとめ、分かりやすく表現する。2.自分の研究上の課題や問題点を明確にする。3.発表や討議から学んだことを、研究論文作成に生かす。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　なし
　　研究計画および研究経過発表(担当教員全員）
第 2 回　なし
　　研究計画および研究経過発表(担当教員全員）
第 3 回　なし
　　研究計画および研究経過発表(担当教員全員）
第 4 回　なし
　　研究経過発表(担当教員全員）
第 5 回　なし
　　研究経過発表(担当教員全員）
第 6 回　なし
　　研究経過発表(担当教員全員）
第 7 回　なし
　　合同演習(担当教員全員）
第 8 回　なし
　　合同演習(担当教員全員）
第 9 回　なし
　　合同演習(担当教員全員）
第 10 回　なし
　　合同演習(担当教員全員）
第 11 回　なし
　　修士論文経過発表(担当教員全員）
第 12 回　なし
　　修士論文経過発表(担当教員全員）
第 13 回　なし
　　合同演習(M2修士論文発表会）（担当教員全員）
第 14 回　なし
　　合同演習(M2修士論文発表会）((担当教員全員）
第 15 回　なし
　　合同演習(M2修士論文発表会）(担当教員全員）
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
専攻に所属する学生と教員が全員参加し、研究会方式で進める。学生は各自の研究について、テーマや研究計画、データ処理法、結果、考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問をしたり、情報を提供したりする。 発表や質疑応答、討議を通じて、互いの研究への理解を深め、課題や問題意識等を明確にしてゆく。報告担当の学生は、口頭発表と発表に関する資料プリントを事前に準備する。他専攻との交流を行う。評価についてのフィードバックは、ディスカッションや個別指導の中で口頭により、あるいはmanabaに提出された発表資料に対するコメントによって、適宜行われる。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
各学生は、発表のための準備として文献を検索・熟読した後、パワーポイントでの発表を行う。プレゼンテーションの練習も行うこと。発表時間は厳守である。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
授業参加度、発表の内容、事前資料の作り方、発表（プレゼンテーション）の仕方、発表時の質疑応答、授業態度などによって総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫
臨床心理士、精神科医として医療機関、教育機関等での勤務経験あり。

臨床心理学専門演習Ⅳ

270238B0J
大学
心理学研究科
2単位　後期
金曜 6限
ー
60
臨床心理学専攻必修
田中　誉樹　伊藤　一美　向山　泰代　河瀬　雅紀　三好　智子　佐藤　睦子　空間　美智子　村松　朋子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
　この授業は、学生が研究計画や研究経過を発表・報告し、教員や他の学生と討議することを通して研究内容やプレゼンテーションの方法等についての学びを深め、自らの研究の意義や課題を明確にし、独創性・有用性のある研究論文を作成する力を身につけることを目標とする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
1.各自の研究の目的・方法・仮説・データ処理の過程・研究成果などについて論理的にまとめ、分かりやすく表現する。2.自分の研究上の課題や問題点を明確にする。3.発表や討議から学んだことを、研究論文作成に生かす。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　なし
　　研究計画および研究経過発表(担当教員全員)
第 2 回　なし
　　研究計画および研究経過発表(担当教員全員)
第 3 回　なし
　　研究計画および研究経過発表(担当教員全員)
第 4 回　なし
　　研究経過発表(担当教員全員)
第 5 回　なし
　　研究経過発表(担当教員全員)
第 6 回　なし
　　研究経過発表(担当教員全員)
第 7 回　なし
　　合同演習(担当教員全員)
第 8 回　なし
　　合同演習(担当教員全員)
第 9 回　なし
　　合同演習(担当教員全員)
第 10 回　なし
　　合同演習(担当教員全員)
第 11 回　なし
　　修士論文経過発表(担当教員全員)
第 12 回　なし
　　修士論文経過発表(担当教員全員)
第 13 回　なし
　　合同演習（Ｍ２修士論文発表会）(担当教員全員)
第 14 回　なし
　　合同演習（Ｍ２修士論文発表会）(担当教員全員)
第 15 回　なし
　　合同演習（Ｍ２修士論文発表会）(担当教員全員)
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
専攻に所属する学生と教員が全員参加し、研究会方式で進める。学生は各自の研究について、テーマや研究計画、データ処理法、結果、考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問をしたり、情報を提供したりする。 発表や質疑応答、討議を通じて、互いの研究への理解を深め、課題や問題意識等を明確にしてゆく。報告担当の学生は、口頭発表と発表に関する資料プリントを事前に準備する。他専攻との交流を行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
各学生は、発表のための準備として文献を検索・熟読した後、パワーポイントでの発表を行う。プレゼンテーションの練習も行うこと。発表時間は厳守である。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
授業参加度、発表の内容、事前資料の作り方、発表（プレゼンテーション）の仕方、発表時の質疑応答、授業態度などによって総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）

270402N0J
大学
心理学研究科
2単位　前期
木曜 2限
一
60
三好　智子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
本科目では、力動論、行動論・認知論、その他に基づく心理療法の理論と方法、これら理論や方法の心理に関する相談、助言、指導等への実践的応用、心理に関する支援を要する人の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整について学ぶ。本科目の教育目標は以下のとおりである。①力動論、行動論・認知論、その他に基づく心理療法の理論と方法について理解し、概要を説明することができる。②①で学んだ理論や方法の心理に関する相談、助言、指導等への応用について、事例の検討やロールプレイ等の体験を通して学び、実践に役立つスキルを身につける。③心理に関する支援を要する人の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整について、事例の検討やロールプレイ等の体験を通して学び、実践に役立つスキルを身につける。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
(1)各種文献の購読や教材の視聴を通して、各種心理療法の理論と方法を学ぶ。
(2)(1)を踏まえて全体もしくは小グループでディスカッションを行う。
(3)事例の検討やロールプレイ等の実践練習を通して、心理に関する相談、助言、指導等や、適切な支援方法の選択・調整に関する実践的なスキルを身につける。
(3)各テーマに関してレポートを作成し、さらに理解を深める。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第1回 オリエンテーション
第2回 心理支援における基礎（様々な業務）
第3回 心理支援における基礎（インテーク面接）
第4回 心理支援における基礎（見立て）
第5回　　力動論に基づく心理療法の理論と方法（文献の購読・教材の視聴）
第6回 力動論に基づく心理療法の理論と方法（事例の検討）
第7回 行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法（文献の購読・教材の視聴）
第8回 行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法（事例の検討）
第9回 その他に基づく心理療法の理論と方法（文献の購読・教材の視聴）
第10回 その他に基づく心理療法の理論と方法（事例の検討）
第11回 ロールプレイとディスカッション（実践への応用）（グループ1）
第12回 ロールプレイとディスカッション（実践への応用）（グループ2）
第13回 ロールプレイとディスカッション（実践への応用）（グループ3）
第14回 ロールプレイとディスカッション（実践への応用）（グループ4）
第15回 心理支援における倫理
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
(1)各文献の購読、教材の視聴と、それらを踏まえたディスカッション。
(2)事例の検討。
(3)ロールプレイ等による実践練習。
(4)各テーマに関するレポート作成。
課題に対するフィードバックの方法としては、授業中の発問に対し適宜口頭でフィードバックするとともに、レポートにコメントして返却する。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
・文献等の資料には必ず目を通してくること。
・ロールプレイ等の実践練習については、適宜指示された準備を必ず行うこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
評価は、授業時の課題（30%）、ロールプレイ・ディスカッションへの参加態度（40%）、レポート（30%）から、総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
・受講状況によって、適宜、授業予定を変更する可能性がある。
・実践体験や受講者同士のロールプレイや模擬実習には、他の受講生や自らの体験を丁寧に扱う心構えで臨んでいただきたい。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
授業中に適宜、指示する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　心理専門職として施設での勤務経験あり。

老年心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開ｂ）

270406N0J
大学
心理学研究科
2単位　後期
水曜 1限
ー
60
隔年開講1
伊藤　一美

〔科目の教育目標（Course Description)〕
生涯発達の後半部にあたる中年期から高齢期について、身体機能面の変化、認知・学習・記憶といった精神機能面の変化、パーソナリティや対人関係などの心理社会的変化をとらえる。そのうえで、人生の統合期にある主体的存在としての高齢者について、老いへの適応と人生の再構築について学ぶ。さらに、認知症をはじめとした精神疾患について、アセスメントや心理的支援の方法について、事例を通して実践的に学ぶ。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
1.中年期から高齢期にかけての心理的変化に関して、諸研究の知見を踏まえながら外観を捉える。
2.高齢期の心理アセスメントについて、知能検査や認知症に関連する神経心理学的検査、パーソナリティ検査などを学び、支援計画に結びつける方法について学ぶ。
3.高齢期における地域参加や多世代との交流など社会関係や社会活動について、心理社会的適応との関連で学ぶ。
4.老いや人生の終末期について実践的体験的に学ぶことで、若年層も含めた心理教育について学ぶ。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　生涯発達における中年期・高齢期
第 3 回　高齢期における身体的変化
第 4 回　高齢期における認知的変化（１）感覚レベルでの変化
第 5 回　高齢期における認知的変化（２）記憶を中心に
第 6 回　高齢期における心理アセスメント（１）認知症テストを中心に

第 7 回　高齢期における心理アセスメント（２）パーソナリティ検査など
第 8 回　高齢期における心理療法とアクティビティ（１）回想法を中心に
第 9 回　高齢期における心理療法とアクティビティ（２）さまざまなアクティビティ
第 10 回　高齢期におけるアイデンティティ再構築—老いへの適応について—
第 11 回　人生の終末期の迎え方
第 12 回　高齢期の心理的支援の計画—個人アセスメントに基づく支援計画—
第 13 回　高齢期の心理的支援の計画—家族やコミュニティを含めた支援計画—
第 14 回　老いと死の心理教育について—人生の語りを受け止める—
第 15 回　まとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
期末レポートを実施する。

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
1.生涯発達的観点からの中年期・高齢期に関する文献を取り上げ、代表的な知見に触れる。
2.個人心理面接だけでなく、グループでの回想法、学習療法、アクティビティも含めての心理的支援の方法について実習形式で学び、現場での心理的支援の方法につなげる。
3.個人レベルでの横断的アセスメントだけでなく、家族や地域といった背景要因、また長い人生という縦断的な視点も含めての包括的なアセスメントについて学ぶ。
3.体験的な学習を通じて、自身のライフパースペクティブについて考察する。

授業中の発問やディスカッションに対しては、適宜口頭でフィードバックする。提出されたワークシートやレポートについては、記述コメントおよび適宜口頭てフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
・日ごろから、超高齢化社会における社会問題や個人レベルでの高齢者の営みについて、アンテナを張るように努力する。
・基本的な知見について文献を読んだり、外国語も含めた最新の知見に触れるようにする。
・福祉施設や医療機関における高齢者の暮らしや、死の迎え方について、直接あるいは間接的に触れるようにする。
・高齢者を取り巻く法令や制度、社会状況にも目を向けるようにする。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
60

〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
授業参加態度（20％）、授業中の発表および実習ワーク等（50％）、期末レポート（30％）に基づき、総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information)〕
本科目は、公認心理師受験資格取得のための指定科目のひとつでもある。
具体的事例も取り上げながらの授業となるため、職業倫理を守り、心理的支援の専門家を目指すものとしての自覚を持ち、受講してほしい。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
『成人発達とエイジング』/シャイエ／ウィリス/ブレーン出版/2006/4892528345
『高齢期の心理と臨床心理学』/下仲順子/培風館/2007/4563057061
『神経心理学的アセスメント・ハンドブック』/小海宏之/金剛出版/2015/ 4772414207
『認知症の心理アセスメント はじめの一歩』/ 黒川由紀子・扇澤史子（編）/医学書院/2018/4260032623

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　臨床心理士として医療機関・教育機関での勤務経験あり。

社会心理学特論(産業･労働分野に関する理論と支援の展開)

270408N0J
大学
心理学研究科
2単位　前期
水曜 3限
ー
60
後藤　伸彦

〔科目の教育目標（Course Description)〕
　職場における自己（self）の影響について学び、議論する。自己効力感、自尊心感情、自己制御、アイデンティティの問題などについて、産業組織心理学、組織行動、社会心理学の観点からの最新の研究成果について知識を獲得する。また社会心理学の知識をこれらの分野に応用することの限界について理解を目指す。それらを通じて産業・労働分野に関わる公認心理師として、科学的な証拠に基づいた実践を行うための、基盤となる知識を身につける。産業・労働分野における問題と、各自の研究との接点を見出し、発展に繋げられるよう目指す。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
・自己概念の基礎的な理論、知識を理解する。
・職場における様々な問題・課題について基礎値的な知識を得る。
・社会心理学の知見が職場の問題解決にいかに応用・活用されてきたかを学び、その限界についても理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　職場における自己について
第 2 回　自己効力感
第 3 回　自尊心感情
第 4 回　職場における自己同一視
第 5 回　自己高揚動機
第 6 回　自己制御
第 7 回　自己決定動機
第 8 回　職場における罪悪感の役割
第 9 回　職場内の社会的地位の影響
第 10 回　文化の研究と産業組織の研究の相互作用
第 11 回　印象操作
第 12 回　自己評価とアルコールの影響
第 13 回　フィードバックの影響
第 14 回　産業・労働分野に関わる心理士の実践
第 15 回　まとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
社会心理学の新たな動向に関連する教科書を教材とし、各自が担当部分をまとめて報告し、そこに含まれる問題をディスカッションする形で授業を進める。必要に応じて、研究手法や分析手法について講義する。。授業中わからない点があれば積極的に質問をし、またオフィスアワー等を利用して解決できるようにすること。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
授業時間に次回以降の課題を指示する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
15
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
授業時間中の発表と質疑への取り組み（40％）、レポート（60％）を基に総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
受講生の人数、予備知識に応じて、授業内容、講義形式は柔軟に変更する。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
『The Self at Work: Fundamental Theory and Research』/D. L. Ferris, R. E. Johnson, and C. Sedikides/Taylor & Francis Group/2017/9781138648234/学内販売をしない予定
授業内で教材を配布する。
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
授業内で適宜、紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開ａ）

270410N0J
大学
心理学研究科
2単位　前期
火曜 3限
ー
60
河瀬　雅紀

〔科目の教育目標（Course Description）〕
精神医療の現場では、患者が示すさまざまな心と行動の問題に直面することになる。そこで本科目では、
①精神医学的な診断の枠組みを事例の見立てに応用することができる
②精神症状を呈する事例を読み取り、精神医学的診断及び治療と関連づけて支援の具体的プランを立てることができる
③種々の臨床心理学的介入法から事例に適したものを選択し、精神医学的診断及び治療と関連づけて具体的な支援計画を立てることができる
④リエゾン精神医学について説明することができる
⑤他職種との連携、社会資源の活用のあり方を説明することができる
⑥精神科薬物療法の基本的な事項について説明できる
ことを目標とする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
（１）不安・抑うつなど主な病態について、事例に適した心理学的介入法を選択し、精神医学的診断及び治療と関連づけて具体的な支援計画を立てることができる
（２）抗精神病薬・抗うつ薬・抗不安薬などの作用機序・副作用などについて説明できる
（３）身体科治療中に生じる精神医学的問題（症状性精神障害、適応障害など）について説明できる
（４）リエゾン精神医学の概念・アプローチについて説明できる
（５）緩和医療・グリーフケアについて説明できる
（６）思春期・青年期の特徴的な事例について、発達的課題や家族機能にも留意し、精神医学的診断及び治療と関連づけて説明できる
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回
事例に対する精神医学的アセスメントの基本的事項について（概論）
第 2 回
事例に対する心理学的アセスメントの基本的事項（精神医学的視点から）
第 3 回
うつ理解の原則について

第 4 回
精神医療と心理学的介入との関連について（うつ症状を呈する事例を通して）
第 5 回
精神科薬物療法の基礎（抗精神病薬）
第 6 回
精神科薬物療法の基礎（抗うつ薬・抗不安薬など）
第 7 回
精神医療の現場で必要となる症状評価を学ぶ（実習までに身につけること）
第 8 回
総合病院におけるリエゾン精神医学（移植医療など）
第 9 回
総合病院におけるリエゾン精神医学（せん妄など）
第 10 回
リエゾン精神医学からみたチーム医療と心理学的介入
第 11 回
喪失・悲嘆と精神医学（基礎的事項）
第 12 回
喪失・悲嘆と精神医学（事例による議論）
第 13 回
精神医療と法律
第 14 回
精神医療における社会資源について
第 15 回
まとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
プリント資料、スライド、視聴覚教材などを用いて、質疑・討論を行い、理解を深める。
すなわち、授業中には重要事項について発問し、学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックすることにより理解を深める
事例を用いての討論を多く取り入れる。
毎回の講義後、配布資料および参考文献などにより復習をすること。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
精神医学の教科書（精神医学 (MINOR TEXTBOOK) , 金芳堂など）から、統合失調症、気分障害、不安障害、ストレス関連障害、発達障害の項目を読んでおくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
40

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
質疑・討議の参加状況を40％、課題の提出・発表を60%として、総合的に評価を行う。

〔留意事項（Other Information）〕
学部で学習した精神医学の基礎を身につけていることを前提に講義は進められる。そのため、受講にあたっては精神医学の基礎知識の再確認をしておくこと。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
『うつ病　知る・治す・防ぐ』/福居顯二/金芳堂//
『DSM-Ⅴ　精神疾患の診断・統計マニュアル』/高橋三郎他（訳）/医学書院//
『精神医学 (MINOR TEXTBOOK)第12版』/加藤伸勝/金芳堂/2013/
『僕のこころを病名で呼ばないで』/青木省三/ちくま文庫//
『若者の「うつ」』/傳田健三/ちくまプリマー新書//

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　精神科医として医療機関等での勤務経験あり。

臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）

270418N0J
大学
心理学研究科
2単位　前期前半
火曜 4限 火曜 5限
ー
60
2 コマ連続
向山　泰代

〔科目の教育目標（Course Description）〕
本演習では、心理臨床の現場で活用されている代表的な心理検査について、アセスメント理論と方法を学ぶ。授業では個別式の知能検査等の実習を通じて、主として人の認知的側面のアセスメントについて学ぶが、情意的側面のアセスメントも実習の一部に加える。また、テスト・バッテリーの組み方、検査実施にあたっての倫理的配慮、結果の有効な活用等に関する学習を通して、公認心理師等の心理専門職が実践する心理的アセスメントの意義について理解する。さらに、アセスメントに関するこれらの知識や技能を、どのように心理に関する相談、助言、指導等に活用していくかについて考える。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
(1) 心理アセスメントの理論と方法を実践的に学ぶ。 (2) 各種の心理検査の有効性と限界について知る。 (3) 検査者としての基本的態度と倫理を学ぶ。(4) 公認心理師等の心理専門職による心理相談、助言、指導等の実践活動において意義あるアセスメントについて考える。 (5) 検査結果をいかに個人の統合的理解に結びつけてゆくかを考える。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　心理アセスメント概説
第 2 回　性格検査（１）: 特性論にもとづく検査
第 3 回　性格検査（２）: 連想にもとづく検査
第 4 回　知能検査（１）: WAISの解説と実習（検査１～３）
第 5 回　知能検査（２）: WAISの実習（検査４～６）
第 6 回　知能検査（３）: WAISの実習（検査７～１５）
第 7 回　知能検査（４）: WAISのスコアリングと結果の解釈
第 8 回　知能検査（５）: WISCの解説と実習
第 9 回　発達検査（１）: 発達検査概説
第 10 回　発達検査（２）: 発達検査の実習
第 11 回　神経心理学的検査（１）: 神経心理学的検査概説
第 12 回　神経心理学的検査（２）: 遂行機能のアセスメント
第 13 回　神経心理学的検査（３）: 記憶のアセスメント
第 14 回　アセスメントにおける倫理
第 15 回　アセスメント結果の心理相談等への活用
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
受講生が互いに検査者と被検者となって心理検査を体験したり、心理検査の実施例のスコアリングや結果についての検討を行う。これら実習と並行して、受講生は各検査が開発された背景や依拠する理論、特徴や実施方法等についてまとめ、発表する。個々の心理検査についての理解を深めた後には、複数のテストによりバッテリーを組み、検査結果の所見を報告書の形でまとめる。期末レポートとして提出された所見の報告書には、講評等を記載して受講生に返却する。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
受講生はオリエンテーション時に配布されるスケジュールを確認し、各自が事前に学習・準備した上で演習に臨むこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
40
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
(1) 心理検査に関する理論や特徴についてのまとめと発表。(2) テスト・バッテリーを組み、所見を報告書としてまとめる期末リポート。(3) 授業参加度、課題への取り組み等の学習態度。以上の3点から総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
受講生の知識や理解度に応じて、実習の順序を調整することがある。本演習で取り上げる心理検査以外にも、多くの検査が開発されている。様々な心理検査について、受講生による自主的な学習が期待される。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
授業内容や進行状況に応じて、文献等を適宜紹介する。
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　臨床心理士として教育機関等の相談室での勤務経験あり。

犯罪心理学特論（司法･犯罪分野に関する理論と支援の展開）

270420N0J
大学
心理学研究科
2単位　前期
火曜 2限
ー
60
藤川　洋子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
犯罪を扱う司法機関は、それぞれの機関の役割が法律によって厳密に規定されている。法制度の概要とその理念を理解することにより人権感覚を養っておくことは、公認心理師や臨床心理士にとって不可欠なことと言える。一方、加害者・被害者の司法臨床場面において、臨床心理学や発達心理学の視点の必要性は増すばかりである。特に精神鑑定、心理鑑定においては、治療機関とは異なる面接方法（司法面接）が用いられ、事実をどう分析するか、が大きな課題となる。公認心理師、臨床心理士の資格取得を視野に、法制度の理解とともにアセスメントや司法面接テクニックの修得をめざす。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
司法領域で経験しうるテーマにつき、学生が自ら掘り下げてまとめ、発表する。また、司法機関を見学し、現役の職員から犯罪心理学がどのように生かされているかを学ぶ。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　司法領域における犯罪心理学の役割と課題
第 2 回　司法機関について—少年事件の流れと処遇機関の役割
第 3 回　司法機関について—成人事件の流れと処遇機関の役割
第 4 回　法律の目的と犯罪心理学—少年法　児童福祉法　児童虐待防止法
第 5 回　法律の目的と犯罪心理学—少年鑑別所法、少年院法
第 6 回　法律の目的と犯罪心理学—刑法、刑事訴訟法
第 7 回　法律の目的と犯罪心理学—心神喪失者等医療観察法　発達障害者支援法など
第 8 回　法律の目的と犯罪心理学—いじめ防止対策推進法　ストーカー規制法　DV防止法など

第 9 回　精神鑑定･心理鑑定に期待されるもの—犯罪をどう分析するか
第 10 回　過去の鑑定例から、犯罪理解の変遷を知る（わが国において）
第 11 回　過去の鑑定例から、犯罪理解の変遷を知る（先進諸外国において）
第 12 回　司法面接のテクニックと演習
第 13 回　司法機関もしくは福祉機関の見学 : 家庭裁判所もしくは児童自立支援施設
第 14 回　見学についてのまとめと意見交換
第 15 回　全体のまとめと意見交換
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施する
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
担当領域の発表と確認小テストの実施により知識の定着をはかる
司法関係の施設での実習を通じ、犯罪心理の専門家のあり方を学ぶ
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
宿題としての課題から、自らテーマを見つけ、掘り下げて報告する
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
平常点50％　プレゼンテーションや実習の能力50％
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
『子どもの面接ガイドブック』/藤川洋子監訳/日本評論社/2003/4-535-56203-2/学内販売予定
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
『触法発達障害者への複合的支援』/藤川洋子・井出浩編著/福村出版/2011/978-4-571-42040-5
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫
家庭裁判所調査官として、5000件に及ぶ少年事件について調査実務に携わったほか、精神障害や発達障害が疑われる刑事事件について、精神鑑定に従事した。

家族関係･集団･地域社会における心理支援に関する理論と実践

270422N0J
大学
心理学研究科
2単位　前期集中
その他
ー
60
佐藤　純　河瀬　雅紀　村松　朋子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
本科目は、集団に焦点をあてた心理学的支援に関する理論とそれに基づく心理実践の実際について学ぶ。すなわち、家族や集団内力動および地域援助などへの理論的理解を深め、心理学的支援の方法を習得する。
そこで本科目では、以下のことを目標とする。
①家族関係等集団の関係性に焦点を当てた心理支援の理論と方法と実践について説明できる
②地域社会や集団・組織に働きかける心理学的援助に関する理論と方法について説明できる
③心理に関する相談、助言、指導等へ、上記①及び②を応用することができる
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
①家族の心理的支援における理論と方法について説明できる。
②家族関係などの集団の関係性と地域社会や集団・組織に働きかける心理的援助に関する理論と方法について説明できる。
③家族関係、地域社会に焦点を当てた心理的支援に関する相談・援助・指導などについて学び、包括的に理解し、説明することができる。
④地域社会における自殺対策と心理的支援について説明できる
⑤地域社会におけるひきこもり対策と心理的支援について説明できる
⑥がん患者のピアグループと心理的支援について説明できる
⑦精神障害者の地域生活支援について説明できる
⑧精神障害者の家族支援について説明できる
⑨精神障害者の訪問家族支援について説明できる
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　家族システムと心理的支援（村松）
第 2 回　家族を理解するための概念と家族療法（村松）
第 3 回　家族への臨床的アプローチ（１）思春期・青年期の問題と家族への心理的支援（村松）
第 4 回　家族への臨床的アプローチ（２）夫婦の問題と心理的支援 （村松）
第 5 回　個人へのエンパワメントと集団（家族）・コミュニティへのエンパワメント（村松）

第 6 回　地域社会における自殺対策（概要）（河瀬）
第 7 回　地域社会における自殺対策（事例による議論）（河瀬）
第 8 回　ひきこもりをモデルにした地域社会での支援のありかた（概要）（河瀬）
第 9 回　ひきこもりをモデルにした地域社会での支援のありかた（事例による議論）（河瀬）
第 10 回　がん患者をモデルにした地域社会での支援のありかた（ピアグループを中心に）（河瀬）
第 11 回　精神障害者の地域生活支援（アウトリーチとは何か）（佐藤純）
第 12 回　精神障害者の地域生活支援（アウトリーチの実際）（佐藤純）
第 13 回　精神障害者の家族支援（家族心理教育とは何か）講義（佐藤純）
第 14 回　精神障害者の家族支援（家族心理教育の実際）（佐藤純）
第 15 回　精神障害者の訪問家族支援（行動療法的家族支援）（佐藤純）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
講義と討論で授業を進める。講義では問題解決に向けた思考力を養い、討論では実践的方法を主体的に考察する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
家族関係・集団・地域社会さまざま問題や葛藤に関心を持ち、関連する文献を参照して講義でのディスカッションに参加できるよう準備すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
40

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
授業参加度100点で評価する

〔留意事項（Other Information）〕
講義の日程および講義の予定（順序）は決まり次第公表する

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
特になし

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
『家族心理学：家族システムの発達と臨床的援助』中釜洋子・野末武義・布柴靖枝・無藤清子（著）有斐閣ブックス
『臨床心理地域援助研究セミナー』/野島一彦編/至文堂 //
『コミュニティ心理学』/山本和郎/東京大学出版会//
『がん患者　グループ療法の実際』/河瀬雅紀/金芳堂//

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫河瀬雅紀　実務経験あり：精神科医として医療機関等での勤務経験あり
村松朋子　実務経験あり：臨床心理士として医療機関・教育機関での勤務経験あり
佐藤純　実務経験あり：精神保健福祉士として行政での実務経験あり

健康心理学特論（心の健康教育に関する理論と実践）

270424N0J
大学
心理学研究科
2単位　後期
金曜 3限
ー
60
鶴田　薫

〔科目の教育目標（Course Description）〕
健康心理学は、心理学がいかに人々の健康で幸福な生活に貢献できるか、その可能性を究める実践的な学問である。そしてそれは、心理職の国家資格である公認心理師に期待される、大きな役割の一つであるとも言える。
そのような時代の社会的なニーズを背景に、本講義では心の健康教育についての理論を学び、その技法について体験実習を通して習得する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
・心の健康とは何かについて学ぶ
・心の健康に影響を与えるストレス、パーソナリティ、行動（認知や行動を含む）についての理論を学ぶ
・心の健康教育とは何か、その理論と目的について学ぶ
・心の健康教育の技法について、体験実習を通して学ぶ

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション
　　健康心理学とは何か
第 2 回　健康とストレス
第 3 回　健康とパーソナリティ
第 4 回　健康と行動
第 5 回　健康心理アセスメント
第 6 回　健康教育の理論（モデル）
第 7 回　心の健康教育の目的
第 8 回　心の健康教育の場とライフステージ
第 9 回　心の健康教育の実践①
　　ストレスマネジメント
第 10 回　心の健康教育の実践②
　　アンガーマネジメント
第 11 回　心の健康教育の実践③
　　アサーション
第 12 回　心の健康教育の実践④
　　自己理解・他者理解
第 13 回　心の健康教育の実践⑤
　　人間関係トレーニング
第 14 回　心の健康教育の実践⑥

リワークプログラム
第 15 回　まとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
心の健康および心の健康教育の理論の学習は講義形式で行い、心の健康教育の技法の学習は体験実習で行う

授業中の学生の発問に対して、適宜口頭でフィードバックを行う
また授業全体に対しては、最終回で授業内容をふりかえり、フィードバックを行う
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
心の健康に影響を与えるストレス・パーソナリティ・行動について、文献を検索し、熟読して講義に臨むこと
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
評価は、授業態度(50%)、課されたレポートの内容(50%)に基づいて総合的に行う
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
特定のテキストは使用しない。授業内で資料を配布する
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
『健康心理学概論』/日本健康心理学会/実務教育出版/2002/9784788960916
『ベーシック健康心理学』/山蔦圭輔/ナカニシヤ出版/2015/9784779509186
『ライフコースの健康心理学』/森和代・石川利江・松田与理子/晃洋書房/2017/9784771028876
『健康心理学』/太田信夫・竹中晃二/北大路書房/2017/9784762829956
『よくわかる健康心理学』/森和代・石川利江・茂木俊彦/ミネルヴァ書房/2012/9784623061570
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫臨床心理士として教育機関や医療機関などで実務経験あり。

心理実践実習Ⅰ（学内実習）

270427N0J
大学
心理学研究科
1単位　前期集中
その他
ー
15
三好　智子　伊藤　一美　向山　泰代

〔科目の教育目標（Course Description)〕
本科目は、「心理相談の基本」と題し、心理的支援を実践するために必要な知識と技能の修得を目的とする。その中でも、個人面接を軸とした心理相談を実施している学内実習施設「心理臨床センター心理相談室」での業務を行う上での基本的事項を学ぶことを目的とする 。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
１）心理相談における基本的マナーやふるまいなどコミュニケーション技術を習得する。
２）心理アセスメントの実施・運用に関する基本的知識を習得する。
３）心理相談面接における基本的な応答技法を習得する。
４）心理相談への来談者のニーズを知り、アセスメントやケース運営について学ぶ。
５）地域支援を視野に、心理相談室の社会的位置づけを理解し、多職種連携および地域連携を視野にいれた社会的資源等に関する知識を習得する。
６）心理相談を開始するための、受付・受理からインテーク面接、治療契約から面接開始までの一連の流れについて理解する。
７）心理相談の運営を成り立たせるための治療構造の理解とその運用について理解する。
８）心理的支援における公認心理師の職業倫理及び法的義務について学習・理解する。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
授業中に指示する。
第1回目を含む各回の担当者：三好・向山・伊藤
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない。
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
大学に附設されている「心理臨床センター心理相談室」におけるケース担当のための基本的事項を学ぶため、30時間の実習を行う。受付業務などの相談室運営業務を実践し、担当ケースに関わる実習を行うとともに、仮想事例等について、ワークやグループディスカッションを用いながらの検討等を行う。また、本科目での学びについては、「実習記録ノート」に記載し、実習指導教員や実習指導者（心理臨

床センター専門相談員を含む）の指導を受ける。課題に対するフィードバックの方法としては、実習中の発問に対し適宜口頭でフィードバックするとともに、「実習記録ノート」に個別にコメントして返却する。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
社会常識的な知識やふるまいについて、教員・指導者や他の受講生とのディスカッションを通じて、自己省察し自身の課題を整理しておく。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
10
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
実習課題の遂行（ディスカッションやワークへの参加度など）（70点）、その他提出物・実習ノートなど（30点）によって、総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
本科目での取り組み状況から、心理実践実習Ⅱa・Ⅱb、心理実践実習Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ以降の取り組み方について個別に相談し、学習計画の見直しを行うことがある。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　臨床心理士として医療機関・教育機関等での勤務経験あり。

心理実践実習Ⅱａ（学内実習）

270428N0J
大学
心理学研究科
1単位　後期集中
その他
ー
15
三好　智子　伊藤　一美　向山　泰代

〔科目の教育目標（Course Description）〕
本科目は、「心理相談の基本」と題し、心理的支援を実践するために必要な知識と技能の修得を目的とする。その中でも、個人面接を軸とした心理相談を実施している学内実習施設「心理臨床センター心理相談室」での業務を行う上での基本的事項を学ぶことを目的とする 。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
１）心理相談における基本的マナーやふるまいなどコミュニケーション技術を習得する。
２）心理アセスメントの実施・運用に関する基本的知識を習得する。
３）心理相談面接における基本的な応答技法を習得する。
４）心理相談への来談者のニーズを知り、アセスメントやケース運営について学ぶ。
５）地域支援を視野に、心理相談室の社会的位置づけを理解し、多職種連携および地域連携を視野にいれた社会的資源等に関する知識を習得する。
６）心理相談を開始するための、受付・受理からインテーク面接、治療契約から面接開始までの一連の流れについて理解する。
７）心理相談の運営を成り立たせるための治療構造の理解とその運用について理解する。
８）心理的支援における公認心理師の職業倫理及び法的義務について学習・理解する。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
授業中に指示する。
第1回目を含む各回の担当者：三好・向山・伊藤
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない。
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
大学に附設されている「心理臨床センター心理相談室」におけるケース担当のための基本的事項を学ぶため、30時間の実習を行う。受付業務などの相談室運営業務を実践し、「心理実践実習Ⅱｂ」におけるケース担当の実例や仮想事例等について、ワークやグループディスカッションを用いながらの検討等を行う。また、本科目での学びについては、「実習記録ノート」に記載し、実習指導教員や実習指導者（心理臨床センター専門相談員を含む）の指導を受ける。課題に対するフィードバックの方法としては、実習中の発問に対し適宜口頭でフィードバックするとともに、「実習記録ノート」に個別にコメントして返却する。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
「心理実践実習Ⅱｂ」においてケース担当する中で、社会常識的な知識やふるまいについて、教員・指導者や他の受講生とのディスカッションを通じて、自己省察し自身の課題を整理しておく。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
10
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
実習課題の遂行（ディスカッションやワークへの参加度など）（70点）、その他提出物・実習ノートなど（30点）によって、総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　臨床心理士として医療機関・教育機関等での勤務経験あり。

心理実践実習Ⅱｂ（学内実習）

270429N0J
大学
心理学研究科
2単位　集中
その他
ー
10

伊藤　一美　向山　泰代　河瀬　雅紀　三好　智子　田中　誉樹　空間　美智子　村松　朋子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
本科目は、「心理相談の実践」と題し、心理的支援を実践するために必要な知識と技能の修得を目的とする。その中で、本学附設の心理臨床センターの来談者に対し、受講者自身が心理相談や心理検査等の実践を行う。また、心理相談室の運営（受付対応、インテーク面接への陪席、相談室やプレイルーム設えの整備など）に携わり、心理相談を行う上での基本的な事項を踏まえてそれらを実践することを目的とする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
本学附設の心理相談室の特徴および特殊性と関連づけて、以下を課題とする。
１．心理に関する支援を要する者等に関する「コミュニケーション」「心理検査」「心理面接」「地域支援」等の知識及び技能の修得
２．心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
３．心理に関する支援を要する者へのチームアプローチの理解と実践
４．多職種連携および地域連携の理解と実践
５．公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
　授業中に指示する。

第1回目を含む各回の担当者：伊藤・三好・向山・佐藤・空間・田中・村松
（ケース担当については各実習生にスーパーバイザーを配置し、そのほか実習課題に応じて指導担当を調整する）
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない。
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
本学附設の心理相談室において、担当ケースに関わる実習として、80時間以上の実習を行う。具体的内容は以下のとおり。
１．インテーク面接に関する陪席・報告
２．ケース（心理相談）担当とそれに伴う準備・事後対応（記録など）
３．ケース担当に伴うスーパービジョンとそれに伴う準備・事後対応（所見作成など）
４．心理検査担当（フィードバック面接を含む）とそれに伴う準備・事後対応
５．心理相談室カンファレンス等での発表
６．担当ケースに関する関係機関とのカンファレンス等への陪席
実践内容は「実習記録ノート」に記載、担当ケースについては心理相談室のカルテ管理ルールに則り、記録作成および保管を行う。それら実習ノートおよび記録に基づき、実習指導者および実習担当教員の指導を受けること。
フィードバックは、担当ケース運営の指導の中で、個別あるいはディスカッションの形式で、適宜口頭や記述コメントにより行われる。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
「心理実践実習Ⅱａ」での学びと連動し、ケース運営に関する継続的な経験を通じて、社会常識的な知識やふるまい等について自分自身を振り返ったり、他の受講生の言動を見聞きしたりして、心理的支援の実践に必要な知識や態度について考えること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
10
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
実習課題の遂行（70点）、その他提出物・実習ノート・など（30点）によって、総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
心理臨床センターでの実習計画は、それまでの個々の実習状況を 見ながら、実習指導者および実習担当教員と相談して個別に示される。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　臨床心理士として医療機関・教育機関等での勤務経験あり。

心理実践実習Ⅲａ（学内実習）

270430N0J
大学
心理学研究科
2単位　前期集中
その他
ー
22.5
村松　朋子　伊藤　一美　向山　泰代　河瀬　雅紀　三好　智子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
本科目は、「心理相談の展開」と題し、「心理実践実習Ⅱａ・Ⅱｂ」、「心理実践実習ⅤAあるいはⅥA」、「心理実践実習Ⅶ」での体験学習の上に成り立っている。ケース検討会で、カウンセリング、心理療法、心理検査、心理臨床家としての基本的態度や倫理などについて指導を受ける。また、センターにおいて、センターの運営、業務内容などについても現場で体験を通して学ぶ。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
（1）センターにおいて、電話受付等、相談室の周辺業務について学ぶ。
（2）事例検討会を通して、自分や他の実習者のケースの流れの見方、治療関係の見方などについて学ぶ。
（3）事例報告の書き方について学ぶ。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
授業中に指示する。
第1回目を含む各回の担当者：村松・河瀬・三好・向山・伊藤
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施する。
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
大学に附設の「心理臨床センター心理相談室」でのケース担当に必要な事項を学ぶため、67.5時間の実習を行う。受付業務などの相談室運営業務を実践し、「心理実践実習Ⅳｂ」におけるケース担当の実例や仮想事例等について、ワークやグループディスカッションを用いながらの検討等を行う。また、本科目での学びについては、「実習記録ノート」に記載し、実習指導教員や実習指導者（心理臨床センター専門相談員を含む）の指導を受ける。
フィードバックは、グループディスカッションや個別指導の中で、適宜口頭によりなされる。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
「心理実践実習Ⅲｂ」のケース担当に関連して、心理的支援を実践するために必要な社会常識的な知識やふるまいについて自己省察し、相談室のさまざまなケースに触れて教員・指導者や他の受講生とのディスカッションを行う中で、自身の課題を整理しておく。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
22
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
実習課題の遂行（ディスカッション、心理相談室運営に関わるワークへの参加、記述課題など）（70点）、その他提出物・実習ノートなど（30点）によって、総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
センター業務は、基本的に長期休暇にかかわらず継続して行われる。
社会人として、また実習生として責任ある行動をとることが求められる。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫
臨床心理士・精神科医として医療機関・教育機関での勤務経験あり。

心理実践実習Ⅲｂ（学内実習）

270431N0J
大学
心理学研究科
2単位　前期集中
その他
ー
16
伊藤　一美　向山　泰代　河瀬　雅紀　三好　智子　佐藤　睦子　田中　誉樹　村松　朋子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
本科目は、「心理相談の実践」と題し、心理的支援を実践するために必要な知識と技能の修得を目的とする。その中で、本学附設の心理臨床センターの来談者に対し、受講者自身が心理相談や心理検査等の実践を行う。また、心理相談室の運営（受付対応、インテーク面接への陪席、相談室やプレイルーム設えの整備など）に携わり、心理相談を行う上での基本的な事項を踏まえてそれらを実践することを目的とする。
さらには、それまでの実践を踏まえ、自身が担当するケースについて、個々のクライエントへのより深い理解、また関係機関や他スタッフとの連携も視野に入れて支援計画を練り実践していくことを目指す。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
本学附設の心理相談室の特徴および特殊性と関連づけて、以下を課題とする。
１．心理に関する支援を要する者等に関する「コミュニケーション」「心理検査」「心理面接」「地域支援」等の知識及

び技能の修得
２．心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
３．心理に関する支援を要する者へのチームアプローチの理解と実践
４．多職種連携および地域連携の理解と実践
５．公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
授業中に指示する。

第1回目を含む各回の担当者：伊藤・三好・向山・佐藤・空間・田中・村松
（ケース担当については各実習生にスーパーバイザーを配置し、そのほか実習課題に応じて指導担当を調整する）
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない。
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
本学附設の心理相談室において、担当ケースに関わる実習として、74時間以上の実習を行う。具体的内容は以下のとおり。
１．インテーク面接に関する陪席・報告
２．ケース（心理相談）担当とそれに伴う準備・事後対応（記録など）
３．ケース担当に伴うスーパービジョンとそれに伴う準備・事後対応（所見作成など）
４．心理検査担当（フィードバック面接を含む）とそれに伴う準備・事後対応
５．心理相談室カンファレンス等での発表
６．担当ケースに関する関係機関とのカンファレンス等への陪席
実践内容は「実習記録ノート」に記載、担当ケースについては心理相談室のカルテ管理ルールに則り、記録作成および保管を行う。それら実習ノートおよび記録に基づき、実習指導者および実習担当教員の指導を受けること。
フィードバックは、担当ケース運営の指導の中で、個別あるいはディスカッションの形式で、適宜口頭や記述コメントにより行われる。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
M1段階での実習や「心理実践実習Ⅲａ」での学びと連動し、ケース運営に関する継続的な経験を通じて、社会常識的な知識やふるまい等について自分自身を振り返ったり、他の受講生の言動を見聞きしたりして、心理的支援の実践に必要な知識や態度について考えること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
10
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
実習課題の遂行（70点）、その他提出物・実習ノート・など（30点）によって、総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
心理臨床センターでの実習計画は、それまでの個々の実習状況を見ながら、実習指導者および実習担当教員と相談して個別に示される。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　臨床心理士として医療機関・教育機関等での勤務経験あり。

心理実践実習Ⅳａ（学内実習）

270432N0J
大学
心理学研究科
2単位　後期集中
その他
ー
22.5
河瀬　雅紀　伊藤　一美　向山　泰代　三好　智子　村松　朋子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
本科目は、「心理相談の展開」と題し、「心理実践実習Ⅱa～Ⅲa、Ⅱｂ～Ⅲｂ・Ⅴ～Ⅷ」での体験学習の上に成り立っている。ケース検討会で、カウンセリング、心理療法、心理検査、心理臨床家としての基本的態度や倫理などについて指導を受ける。また、学内実習施設「心理臨床センター」において、心理的支援を実践するために必要なセンターの運営、業務内容などについても現場で体験を通して学ぶ。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
（1）心理臨床センターにおいて、電話受付等、相談室の周辺業務について学ぶ。
（2）ケース検討会を通して、自分や他の実習者のケースの流れの見方、治療関係の見方などについて学ぶ。
（3）ケース報告の書き方について学ぶ。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
授業中に指示する。
第1回目を含む各回の担当者：河瀬・村松・三好・向山・伊藤
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない。

〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
大学に附設の「心理臨床センター心理相談室」でのケース担当に必要な事項を学ぶため、67.5時間の実習を行う。受付業務などの相談室運営業務を実践し、「心理実践実習Ⅳｂ」におけるケース担当の実例や仮想事例等について、ワークやグループディスカッションを用いながらの検討等を行う。また、本科目での学びについては、「実習記録ノート」に記載し、実習指導教員や実習指導者（心理臨床センター専門相談員を含む）の指導を受ける。
フィードバックは、グループディスカッションや個別指導の中で、適宜口頭によりなされる。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
「心理実践実習Ⅳｂ」のケース担当に関連して、心理的支援を実践するために必要な社会常識的な知識やふるまいについて自己省察し、相談室のさまざまなケースに触れて教員・指導者や他の受講生とのディスカッションを行う中で、自身の課題を整理しておく。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
15
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
実習課題の遂行（ディスカッションや心理相談室運営に関わるワークへの参加、記述課題など）（70点）、その他提出物・実習ノートなど（30点）によって、総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
ケース検討会は履修生全員が一堂に会しての実施を含む。心理臨床センターでの実習計画は個別に示される。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　臨床心理士・精神科医として医療機関・教育機関等での勤務経験あり。

心理実践実習Ⅳｂ（学内実習）

270433N0J
大学
心理学研究科
1単位　後期集中
その他
ー
15
伊藤　一美　向山　泰代　三好　智子　佐藤　睦子　田中　誉樹　空間　美智子　村松　朋子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
本科目は、「心理相談の実践」と題し、心理的支援を実践するために必要な知識と技能の修得を目的とする。その中で、本学附設の心理臨床センターの来談者に対し、受講者自身が心理相談や心理検査等の実践を行う。また、心理相談室の運営（受付対応、インテーク面接への陪席、相談室やプレイルーム設えの整備など）に携わり、心理相談を行う上での基本的な事項を踏まえてそれらを実践することを目的とする。
さらには、それまでの実践を踏まえ、自身が担当するケースについて、個々のクライエントへのより深い理解、また関係機関や他スタッフとの連携も視野に入れて支援計画を練り実践していくことを目指す。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
本学附設の心理相談室の特徴および特殊性と関連づけて、以下を課題とする。
１．心理に関する支援を要する者等に関する「コミュニケーション」「心理検査」「心理面接」「地域支援」等の知識及び技能の修得
２．心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
３．心理に関する支援を要する者へのチームアプローチの理解と実践
４．多職種連携および地域連携の理解と実践
５．公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
授業中に指示する。

第1回目を含む各回の担当者：伊藤・三好・向山・佐藤・空間・田中・村松
（ケース担当については各実習生にスーパーバイザーを配置し、そのほか実習課題に応じて指導担当を調整する）
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない。
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
本学附設の心理相談室において、担当ケースに関わる実習として、30時間以上の実習を行う。具体的内容は以下のとおり。
１．ケース（心理相談）担当とそれに伴う準備・事後対応（記録など）
２．ケース担当に伴うスーパービジョンとそれに伴う準備・事後対応（所見作成など）
そのほか、担当ケースの状況に応じて、心理検査担当、心理相談室カンファレンス等での発表、担当ケースに関する関係機関とのカンファレンス等への陪席などを行う場合もある。

実践内容は「実習記録ノート」に記載、担当ケースについては心理相談室のカルテ管理ルールに則り、記録作成および保管を行う。それら実習ノートおよび記録に基づき、実習指導者および実習担当教員の指導を受けること。
フィードバックは、担当ケース運営の指導の中で、個別あるいはディスカッションの形式で、適宜口頭や記述コメントにより行われる。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
M2前期までの心理実践実習を踏まえ、「心理実践実習Ⅳa」での学びと連動し、ケース運営に関する継続的な経験を通じて、社会常識的な知識やふるまい等について自分自身を振り返ったり、他の受講生の言動を見聞きしたりして、心理的支援の実践に必要な知識や態度について考えること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
10
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
実習課題の遂行（70点）、その他提出物・実習ノート・など（30点）によって、総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
心理臨床センターでの実習計画は、それまでの個々の実習状況を見ながら、実習指導者および実習担当教員と相談して個別に示される。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　臨床心理士として医療機関・教育機関等での勤務経験あり。

心理実践実習Ⅴ（学外実習）Ａ

270434A0J
大学
心理学研究科
2単位　後期集中
その他
ー
34
空間　美智子　高井　直美　薦田　未央

〔科目の教育目標（Course Description）〕
本科目は、心理的支援を実践するために必要な知識と技能の修得を目的とする。その中でも、心理に関する支援を要する者等に対して実践的な関わりが行われている福祉分野等の学外実習施設において、心理的支援に必要な知識や技能、連携のあり方等を学ぶことを目的とする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
福祉分野等の特徴および特殊性と関連づけて、以下を課題とする。
1.心理に関する支援を要する者等に関する「コミュニケーション」「心理検査」「心理面接」「地域支援」等の知識及び技能の修得
2.心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
3.心理に関する支援を要する者へのチームアプローチの理解と実践
4.多職種連携および地域連携の理解と実践
5.公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
具体的な内容と進行については、個々の施設別に、実習担当教員により示される。
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない。
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
1.指定された福祉分野等に関する学外実習施設において56時間以上（原則毎週1日、8時間以上、但し実習施設により変更あり）、実習担当教員による大学等での指導4時間以上の実習を行う。
2.心理に関する支援を要する者等への支援の実際を見学するとともに、担当ケース等については実習指導者又は実習担当教員による指導の下で支援を実践する。
3.担当ケース等について、実習指導者又は実習担当教員と協議し、支援計画を作成する。
4.担当ケース等の実践を通して、心理支援者としての職業倫理を理解する。
5.実習施設に関連した実習中のリスク管理等について実習指導者、実習担当教員と協議、確認する。
6.実習中は、実習担当教員や実習指導者による個別指導を受け、また実習記録により振り返りを行う。
7.実習課題に対しては、実習担当教員や実習指導者が、実習記録へのコメントや適宜口頭によってフィードバックする。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
配属先の実習施設に関する情報（歴史、理念、概要、利用者等）について、HPおよび事前訪問等で理解を深めておく。また本実習の前に履修している学内実習において学んでいる、基本的な支援態度、知識、技術について振り返り、さらに自己理解を深めておく。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
20
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
実習施設での実習課題の遂行（60点）、実習施設（実習指導者）による評価（15点）、実習担当教員による評価（15点）、その他提出物・実習ノートなど（10点）で総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　臨床心理士・臨床発達心理士として、福祉機関・医療機関・教育機関等での勤務経験あり。

心理実践実習Ⅴ（学外実習）Ｂ

270434B0J
大学
心理学研究科
2単位　前期集中
その他
ー
34
空間　美智子　高井　直美　薦田　未央

〔科目の教育目標（Course Description）〕
本科目は、心理的支援を実践するために必要な知識と技能の修得を目的とする。その中でも、心理に関する支援を要する者等に対して実践的な関わりが行われている福祉分野等の学外実習施設において、心理的支援に必要な知識や技能、連携のあり方等を学ぶことを目的とする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
福祉分野等の特徴および特殊性と関連づけて、以下を課題とする。
1.心理に関する支援を要する者等に関する「コミュニケーション」「心理検査」「心理面接」「地域支援」等の知識及び技能の修得
2.心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
3.心理に関する支援を要する者へのチームアプローチの理解と実践
4.多職種連携および地域連携の理解と実践
5.公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
具体的な内容と進行については、個々の施設別に、実習担当教員により示される。
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない。
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
1.指定された福祉分野等に関する学外実習施設において56時間以上（原則毎週1日、8時間以上、但し実習施設により変更あり）、実習担当教員による大学等での指導4時間以上の実習を行う。
2.心理に関する支援を要する者等への支援の実際を見学するとともに、担当ケース等については実習指導者又は実習担当教員による指導の下で支援を実践する。
3.担当ケース等について、実習指導者又は実習担当教員と協議し、支援計画を作成する。
4.担当ケース等の実践を通して、心理支援者としての職業倫理を理解する。
5.実習施設に関連した実習中のリスク管理等について実習指導者、実習担当教員と協議、確認する。
6.実習中は、実習担当教員や実習指導者による個別指導を受け、また実習記録により振り返りを行う。
7.実習課題に対しては、実習担当教員や実習指導者が、実習記録へのコメントや適宜口頭によってフィードバックする。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
配属先の実習施設に関する情報（歴史、理念、概要、利用者等）について、HPおよび事前訪問等で理解を深めておく。また本実習の前に履修している学内実習において学んでいる、基本的な支援態度、知識、技術について振り返り、さらに自己理解を深めておく。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
20
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
実習施設での実習課題の遂行（60点）、実習施設（実習指導者）による評価（15点）、実習担当教員による評価（15点）、その他提出物・実習ノートなど（10点）で総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　臨床心理士・臨床発達心理士として、福祉機関・医療機関・教育機関等での勤務経験あり。

心理実践実習Ⅵ（学外実習）Ａ

270435A0J
大学
心理学研究科
2単位　後期集中
その他
ー
34
向山　泰代　三好　智子　佐藤　睦子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
本科目は、心理的支援を実践するために必要な知識と技能の修得を目的とする。その中でも、心理に関する支援を要する者等に対して実践的な関わりが行われている教育分野等の学外実習施設において、心理的支援に必要な知識や技能、連携のあり方等を学ぶことを目的とする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
教育分野等の特徴および特殊性と関連づけて、以下を課題とする。
１．心理に関する支援を要する者等に関する「コミュニケーション」「心理検査」「心理面接」「地域支援」等の知識及び技能の修得
２．心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
３．心理に関する支援を要する者へのチームアプローチの

理解と実践
４．多職種連携および地域連携の理解と実践
５．公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
具体的な内容と進行については、個々の施設別に、実習担当教員により示される。
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない。
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
１．指定された教育分野等に関する学外実習施設において56時間以上（原則毎週1日、8時間以上、但し実習施設により変更あり）、実習担当教員による大学等での指導4時間以上の実習を行う。
２．心理に関する支援を要する者等への支援の実際を見学するとともに、担当ケース等については実習指導者又は実習担当教員による指導の下で支援を実践する。
３．担当ケース等について、実習指導者又は実習担当教員と協議し、支援計画を作成する。
４．担当ケース等の実践を通して、心理支援者としての職業倫理を理解する。
５．実習施設に関連した実習中のリスク管理等について実習指導者、実習担当教員と協議、確認する。
６．実習中は、実習担当教員や実習指導者による個別指導を受け、また実習記録により振り返りを行う。
７．実習課題に対しては、実習担当教員や実習指導者が、実習記録へのコメントや適宜口頭によってフィードバックする。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
配属先の実習施設に関する情報（沿革、理念、概要、利用者等）について、HPおよび事前訪問等で理解を深めておく。また本実習の前に履修している学内実習において学んでいる、基本的な支援態度、知識、技術について振り返り、さらに自己理解を深めておく。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
20
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
実習施設での実習課題の遂行（60点)、実習施設（実習指導者）による評価（15点)、実習担当教員による評価（15点)、その他提出物・実習ノートなど（１0点）で総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫

心理実践実習Ⅵ（学外実習）Ｂ

270435B0J
大学
心理学研究科
2単位　前期集中
その他
ー
34
向山　泰代　三好　智子　佐藤　睦子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
本科目は、心理的支援を実践するために必要な知識と技能の修得を目的とする。その中でも、心理に関する支援を要する者等に対して実践的な関わりが行われている教育分野等の学外実習施設において、心理的支援に必要な知識や技能、連携のあり方等を学ぶことを目的とする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
教育分野等の特徴および特殊性と関連づけて、以下を課題とする。
１．心理に関する支援を要する者等に関する「コミュニケーション」「心理検査」「心理面接」「地域支援」等の知識及び技能の修得
２．心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
３．心理に関する支援を要する者へのチームアプローチの理解と実践
４．多職種連携および地域連携の理解と実践
５．公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
具体的な内容と進行については、個々の施設別に、実習担当教員により示される。
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない。
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
１．指定された教育分野等に関する学外実習施設において56時間以上（原則毎週1日、8時間以上、但し実習施設により変更あり）、実習担当教員による大学等での指導4時間以上の実習を行う。
２．心理に関する支援を要する者等への支援の実際を見学するとともに、担当ケース等については実習指導者又は実習担当教員による指導の下で支援を実践する。
３．担当ケース等について、実習指導者又は実習担当教員と協議し、支援計画を作成する。
４．担当ケース等の実践を通して、心理支援者としての職業倫理を理解する。

５．実習施設に関連した実習中のリスク管理等について実習指導者、実習担当教員と協議、確認する。
６．実習中は、実習担当教員や実習指導者による個別指導を受け、また実習記録により振り返りを行う。
７．実習課題に対しては、実習担当教員や実習指導者が、実習記録へのコメントや適宜口頭によってフィードバックする。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
配属先の実習施設に関する情報（沿革、理念、概要、利用者等）について、HPおよび事前訪問等で理解を深めておく。また本実習の前に履修している学内実習において学んでいる、基本的な支援態度、知識、技術について振り返り、さらに自己理解を深めておく。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
20
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
実習施設での実習課題の遂行（60点）、実習施設（実習指導者）による評価（15点）、実習担当教員による評価（15点）、その他提出物・実習ノートなど（10点）で総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫

心理実践実習Ⅶ（学外実習）

270436N0J
大学
心理学研究科
2単位　後期集中
その他
ー
34
河瀬　雅紀　伊藤　一美　田中　誉樹　村松　朋子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
本科目は、心理的支援を実践するために必要な知識と技能の修得を目的とする。その中でも、心理に関する支援を要する者等に対して実践的な関わりが行われている保健医療分野等に関する学外実習施設において、心理的支援に必要な知識や技能、連携のあり方等を学ぶことを目的とする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
保健医療分野等の特徴および特殊性と関連付けて、以下を課題とする。
１．心理に関する支援を要する者等に関する「コミュニケーション」「心理検査」「心理面接」「地域支援」等の知識及び技能の修得
２．心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
３．心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ
４．多職種連携および地域連携
５．公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
具体的な内容と進行については、個々の施設別に、実習担当教員により示される。
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない。
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
１．指定された保健医療等に関する学外実習施設において56時間以上（原則毎週1日･8時間以上、但し実習施設により変更あり）、実習担当教員による大学等での指導4時間以上の実習を行う。
２．心理に関する支援を要する者等への支援の実際を見学するとともに、担当ケースについては実習指導者又は実習担当教員による指導の下で支援を実践する。
３．担当ケース等について、実習指導者又は実習担当教員と協議し、支援計画を作成する。
４．担当ケースの実践を通して、心理支援者としての職業倫理を理解する。
５．実習施設に関連した実習中のリスク管理等について実習指導者、実習担当教員と協議、確認する。
６．実習中は、実習担当教員や実習指導者による個別指導を受け、また実習記録により振り返りを行う。
７．実習課題に対しては、実習担当教員や実習指導者が、実習記録へのコメントや適宜口頭によってフィードバックする。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
配属先の実習施設に関する情報（沿革、理念、概要、利用者等）について、HPおよび事前訪問等で理解を深めておく。また本実習の前に履修している学内実習において学んでいる、基本的な支援態度、知識、技術について振り返り、さらに自己理解を深めておく。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
20
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
実習施設での実習課題の遂行（60点）、実習施設（実習指導者）による評価（15点）、実習担当教員による評価（15点）、その他提出物・実習ノートなど（10点）で総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　臨床心理士・精神科医として医療機関・教育機関等での勤務経験あり。

心理実践実習Ⅷ（学外実習）

270437N0J
大学
心理学研究科
2単位　前期集中
その他
ー
34
河瀬　雅紀　伊藤　一美　田中　誉樹　村松　朋子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
本科目は、心理的支援を実践するために必要な知識と技能の修得を目的とする。その中でも、心理に関する支援を要する者等に対して実践的な関わりが行われている保健医療分野等に関する学外実習施設において、心理的支援に必要な知識や技能、連携のあり方等を学ぶことを目的とする。なお、本科目は「心理実践実習ⅤorⅥ」「心理実践実習Ⅶ」での体験学習の上に成り立っている。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
保健医療分野等の特徴および特殊性と関連付けて、以下を課題とする。
１．心理に関する支援を要する者等に関する「コミュニケーション」「心理検査」「心理面接」「地域支援」等の知識及び技能の修得
２．心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
３．心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ
４．多職種連携および地域連携
５．公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
具体的な内容と進行については、個々の施設別に、実習担当教員により示される。
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない。
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
１．指定された保健医療等に関する学外実習施設において56時間以上（原則毎週1日･8時間以上、但し実習施設により変更あり）、実習担当教員による大学等での指導4時間以上の実習を行う。
２．心理に関する支援を要する者等への支援の実際を見学するとともに、担当ケースについては実習指導者又は実習担当教員による指導の下で支援を実践する。
３．担当ケース等について、実習指導者又は実習担当教員と協議し、支援計画を作成する。
４．担当ケースの実践を通して、心理支援者としての職業倫理を理解する。
５．実習施設に関連した実習中のリスク管理等について実習指導者、実習担当教員と協議、確認する。
６．実習中は、実習担当教員や実習指導者による個別指導を受け、また実習記録により振り返りを行う。
７．実習課題に対しては、実習担当教員や実習指導者が、実習記録へのコメントや適宜口頭によってフィードバックする。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
配属先の実習施設に関する情報（沿革、理念、概要、利用者等）について、HPおよび事前訪問等で理解を深めておく。また本実習の前に履修している学内実習において学んでいる、基本的な支援態度、知識、技術について振り返り、さらに自己理解を深めておく。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
20
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
実習施設での実習課題の遂行（60点)、実習施設（実習指導者）による評価（15点)、実習担当教員による評価（15点)、その他提出物・実習ノートなど（10点）で総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫　臨床心理士・精神科医として医療機関・教育機関等での勤務経験あり。

心理学特殊研究Ａ（認知機構）

270801N0J
大学
心理学研究科
2単位　前期
火曜 3限
ー
60
廣瀬　直哉

〔科目の教育目標（Course Description)〕
ヒト以外の動物を含めて生物の行動を研究する場合の基本的な方法論を概観し，それぞれの方法論に特化された研究法を学習することで大学院生が何を対象にして研究をおこなうのかについて具体的な計画を立案する手順を理解する．
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
『認知』という研究領域はかなり包括的な概念としてイメージされていることが多いが実際には嘗て『知覚』『感覚』『記憶』『発達』『認識』等に代表される個別の領域で研究・蓄

積された知識が基礎になっており，それらの研究領域に特有な実験手技が背景にあったし現在もある．それらの実験手法を研究目的に応じて使い分けるための基礎的な訓練を通して研究とは何かについて個々の事例に則して深く理解し習熟することをもっぱらの課題とする．

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

第 1 回　生物科学が受け持つ領域（１）認知
第 2 回　生物科学が受け持つ領域（２）行動
第 3 回　生物科学の中における動物実験の意味
第 4 回　動物実験と分子生物学の接点
第 5 回　動物実験とヒトを対象にした研究の接点
第 6 回　ヒトを対象にした行動科学研究のレパートリー（１）知覚と行為
第 7 回　ヒトを対象にした行動科学研究のレパートリー（２）カップリング
第 8 回　行動科学で用いる研究法（１）実験
第 9 回　行動科学で用いる研究法（２）観察
第 10 回　行動科学で用いる研究法（３）調査
第 11 回　認識と行動を決定する生物科学的要件（１）遺伝
第 12 回　認識と行動を決定する生物科学的要件（２）成熟
第 13 回　研究法の実際（１） 量的研究の例
第 14 回　研究法の実際（２） 質的研究の例
第 15 回　まとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

複数の代表的な実験研究を紹介し，それらの研究が隣接諸科学とどのように関連しているかを理解することでサイエンスとしての心理学が科学全体のなかで置かれた立場を理解しなければならないが，その為にいくつかの研究例を紹介し，更に具体的な実験手法に触れることをおこなう．このように実習や演習を部分的に導入することで研究の実際が多様な技術の習得と修練の累積が必要であることを理解するような教育の方法を実施する．

課題等のフィードバックは授業時に行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

予習用の文献を指定するので，それを授業前に読みこんでおくことが求められる．

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

提出するレポートの総合的な評価によって成績を決定する．

〔留意事項（Other Information）〕

頻繁に報告書の作成を課す．

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学特殊研究Ｃ（学校心理学）

270803N0J
大学
心理学研究科
2単位　後期
月曜 3限
ー
60
松島　るみ

〔科目の教育目標（Course Description）〕

学校教育に関わる諸問題について考察することを通して、学校および学校教育のあり方を探究する問題意識を養う。

本科目では、特に、学習、パーソナリティ、人間関係に関する様々な知見を取り上げて論じる。具体的には、教授・学習法、学習の動機づけ、学習と自己効力感、パーソナリティの形成と発達、自己形成、進路選択・進路意識、自己と他者との諸問題など、学校における人間の営みを様々な角度から捉えて考察する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

１．学校心理学の諸相について理解を深める。
２．学校教育に関わる諸問題を考察する。
３．学校心理学に関する各自の問題意識を追究する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　学習に関する問題（教授・学習法）
第 3 回　学習に関する問題（動機づけ）
第 4 回　学習に関する問題（自己効力感）
第 5 回　パーソナリティに関する問題（パーソナリティ理論）
第 6 回　パーソナリティに関する問題（パーソナリティ形成）
第 7 回　パーソナリティに関する問題（自己認知）
第 8 回　人間関係に関する問題（親子関係）
第 9 回　人間関係に関する問題（友人関係）
第 10 回　人間関係に関する問題（対人行動）
第 11 回　受講者の研究テーマに関連する問題（学習）
第 12 回　受講者の研究テーマに関連する問題（パーソナリティ）
第 13 回　受講者の研究テーマに関連する問題（人間関係）
第 14 回　受講者の研究テーマに関連する問題（学校教育）
第 15 回　まとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
受講者各自の問題意識に基づいて専門論文を講読し、概要と考察を発表して討論を行う。
授業中のディスカッションでは、適宜口頭でフィードバックする。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
　発表に際しては、論文を精読し、レジュメを作成して、周到に準備すること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
40
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
　発表と討論参加（50％）、レポート（30％）、授業態度（20％）を総合して評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学特殊研究Ｅ（心理療法）

270805N0J
大学
心理学研究科
2単位　後期
木曜 2限
ー
60
伊藤　一美　田中　誉樹

〔科目の教育目標（Course Description)〕
本科目では、個人の内面の力動や変容に焦点を置く来談者中心療法や精神分析、個人の行動の変容に力点を置く行動療法や認知行動療法、集団のダイナミクスから治療を考えるシステム論的アプローチや家族療法など、臨床心理学における代表的な治療理論を取り上げ、それぞれが目的とする心的・行動的変容のメカニズムについて研究し、さらに、諸理論の特徴を有効に生かしつつ統合的に心理療法を活用していく方法を研究していく。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
（１）各種の心理療法について、歴史的背景も含めて理論を学ぶ。
（２）心理療法の実際について、具体的事例を踏まえながら、技法とその実際の適用方法とを学ぶ。
（３）受講者が自身の心理療法スタイルを探索・熟考し、心理臨床の専門家としての資質と実践力を高める。
（４）いずれの心理療法にも共通する倫理的姿勢や社会的責任について学び、身につける。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　心理療法のひろがり
第 2 回　来談者中心療法的アプローチ
第 3 回　精神分析的アプローチ
第 4 回　認知・行動療法的アプローチ
第 5 回　システムや集団を対象としたアプローチ
第 6 回　実存的アプローチ
第 7 回　統合的心理療法
第 8 回　事例検討と事例研究の違いを理解する
第 9 回　理論と事例から学ぶ　－来談者中心療法を用いた事例から－
第 10 回　理論と事例から学ぶ　－精神分析的・実存的心理療法を用いた事例から－
第 11 回　理論と事例から学ぶ　－認知行動療法を用いた事例から－
第 12 回　理論と事例から学ぶ　－遊戯療法を用いた事例から－
第 13 回　理論と事例から学ぶ　－家族療法を用いた事例から－
第 14 回　理論と事例から学ぶ　－統合的アプローチを用いた事例から－
第 15 回　心理療法の実践における倫理と社会的責任
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
期末レポートを実施する。
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
心理療法に関するさまざまな文献について、創始者の原著やそれらの技法を適用した事例論文などを講読する。それらについての、受講者による発表と討論を中心とする。時に、実際の事例（ただし、プライバシーの保護などの倫理的配慮を十分加えた上で）と関連付けながら、実践に還元できるように授業を進めていく。
授業中のディスカッションや提出された課題については、適宜口頭でフィードバックを行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
担当事例についての振り返りと、学会や研究会での事例発表やその聴講、事例研究の文献に触れ、自身の担当するクライエントについてのアセスメントとそれに基づく治療方針についての省察を怠らないこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
40
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
受講者自身の自発的な学びと討論とを中心とするため、発表と討論（70％）、適宜実施されるレポート等（30％）によって、総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
取り上げる内容として、時に具体的事例を扱う場合もあるため、受講者のケースに対する倫理的配慮については厳格

さと真摯な姿勢を求める。
また、受講者自身の問題意識に沿って特定の理論や技法についてより深めていくなど、受講者の積極的関与を希望する。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫／　臨床心理士として医療機関・教育機関での勤務経験あり。

心理学特殊演習Ⅰ

270831N0J
大学
心理学研究科
1単位　前期
木曜 6限
ー
30
高井　直美　伊藤　一美　向山　泰代　尾崎　仁美　松島　るみ　河瀬　雅紀　廣瀬　直哉　田中　誉樹　村松　朋子

〔科目の教育目標（Course Description)〕
　心理学特殊演習Iは、教育・研究テーマが共通あるいは近い関係にある複数の院生と教員によって行われる研究会方式の演習である。
　院生が、自らの研究の途中経過や研究成果を演習で発表し、さらには他の院生の発表に対して客観的な見方で意見を述べることなどを通して、自立した研究者になるにふさわしい研究能力や発表のしかたを身につけていくことを目標にする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives)〕
　演習では、科学的心理学の基盤に立つ議論を行うよう努め、研究の信頼性・妥当性の吟味も十分行っていく。そして院生が自らの研究テーマを追求し、具体的な研究の形にしていくように、複数の教員で指導する。
　院生は自身の研究テーマを追求するため、内外の研究論文を熟読して発表し、複数の教員・院生と共に、綿密な討論を行うことを通して、自らの研究を展開していく。そして、博士論文作成の準備を行っていく。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　オリエンテーション（各主指導・副指導教員）
第 2 回　演習（課題の設定）（１）（各主指導・副指導教員）
第 3 回　演習（課題の設定）（２）（各主指導・副指導教員）
第 4 回　演習（課題の設定）（３）（各主指導・副指導教員）
第 5 回　演習（課題の設定）（４）（各主指導・副指導教員）
第 6 回　演習（課題の設定）（５）（各主指導・副指導教員）
第 7 回　演習（課題の設定）（６）（各主指導・副指導教員）
第 8 回　演習（課題の設定）（７）（各主指導・副指導教員）
第 9 回　演習（課題の設定）（８）（各主指導・副指導教員）
第 10 回　合同演習（１）（担当教員全員）
第 11 回　合同演習（２）（担当教員全員）
第 12 回　合同演習（３）（担当教員全員）
第 13 回　経過発表（１）（各主指導・副指導教員）
第 14 回　経過発表（２）（各主指導・副指導教員）
第 15 回　経過発表（３）（各主指導・副指導教員）
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods)〕
　各自の研究テーマに沿った発表を行っていく。
　通常は、専門の近い院生・教員によって演習を行うが、年に数度、心理学研究科３専攻による合同演習で、幅広い専門性を有する教員や院生と共に発表や討論を行っていく。
　すなわち、授業中に重要事項について発問し、学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation)〕
研究計画や研究経過発表について、その背景となる文献等にも十分目を通して参加すること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation)〕
　演習での発表および発表資料の作り方、演習での議論への参加などを総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information)〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学特殊演習 II

270832N0J
大学
心理学研究科
1単位　後期
木曜 6限
ー
30

高井　直美　伊藤　一美　向山　泰代　尾崎　仁美　松島　るみ　河瀬　雅紀　廣瀬　直哉　田中　誉樹　村松　朋子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
心理学特殊演習IIは、教育・研究テーマが共通あるいは近い関係にある複数の院生と教員によって行われる研究会方式の演習である。
院生が、自らの研究の途中経過や研究成果を演習で発表し、さらには他の院生の発表に対して客観的な見方で意見を述べることなどを通して、自立した研究者になるにふさわしい研究能力や発表のしかたを身につけていくことを目標にする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
演習では、科学的心理学の基盤に立つ議論を行うよう努め、研究の信頼性・妥当性の吟味も十分行っていく。そして院生が自らの研究テーマを追求し、具体的な研究の形にしていくように、複数の教員で指導する。
院生は自身の研究テーマを追求するため、内外の研究論文を熟読して発表し、複数の教員・院生と共に、綿密な討論を行うことを通して、自らの研究を展開していく。そして、博士論文作成の準備を行っていく。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
第 1 回　経過発表（1）（各主指導・副指導教員）
第 2 回　経過発表（2）（各主指導・副指導教員）
第 3 回　経過発表（3）（各主指導・副指導教員）
第 4 回　経過発表（4）（各主指導・副指導教員）
第 5 回　経過発表（5）（各主指導・副指導教員）
第 6 回　経過発表（6）（各主指導・副指導教員）
第 7 回　合同演習（1）（担当教員全員）
第 8 回　合同演習（2）（担当教員全員）
第 9 回　合同演習（3）（担当教員全員）
第 10 回　合同演習（4）（担当教員全員）
第 11 回　経過発表（7）（各主指導・副指導教員）
第 12 回　経過発表（8）（各主指導・副指導教員）
第 13 回　合同演習（5）（担当教員全員）
第 14 回　合同演習（6）（担当教員全員）
第 15 回　合同演習（7）（担当教員全員）
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
各自の研究テーマに沿った発表を行っていく。
通常は、専門の近い院生・教員によって演習を行うが、年に数度、心理学研究科３専攻による合同演習で、幅広い専門性を有する教員や院生と共に発表や討論を行っていく。
すなわち、授業中に重要事項について発問し、学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
研究計画や研究経過発表について、その背景となる文献等にも十分目を通して参加すること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
演習での発表および発表資料の作り方、演習での議論への参加などを総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学特殊演習 III

270833N0J
大学
心理学研究科
1単位　前期
木曜 6限
ー
30

高井　直美　伊藤　一美　向山　泰代　尾崎　仁美　松島　るみ　河瀬　雅紀　廣瀬　直哉　田中　誉樹　村松　朋子

〔科目の教育目標（Course Description）〕
心理学特殊演習Ⅲは、教育・研究テーマが共通あるいは近い関係にある複数の院生と教員によって行われる研究会方式の演習である。
院生が、自らの研究の途中経過や研究成果を演習で発表し、さらには他の院生の発表に対して客観的な見方で意見を述べることなどを通して、自立した研究者になるにふさわしい研究能力や発表のしかたを身につけていくことを目標にする。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
演習では、科学的心理学の基盤に立つ議論を行うよう努め、研究の信頼性・妥当性の吟味も十分行っていく。そして院生が自らの研究テーマを追求し、具体的な研究の形にしていくように、複数の教員で指導する。
院生は自身の研究テーマを追求するため、内外の研究論文を熟読して発表し、複数の教員・院生と共に、綿密な討論を行うことを通して、自らの研究を展開していく。そし

て、博士論文作成の準備を行っていく。すなわち、査読つき論文２編以上の投稿を目指す。また、国内外において学術的な交流が可能になるよう、十分な英語能力の習得を目指す。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

第 1 回　オリエンテーション（各主指導・副指導教員）
第 2 回　演習（課題の設定）（１）（各主指導・副指導教員）
第 3 回　演習（課題の設定）（２）（各主指導・副指導教員）
第 4 回　演習（課題の設定）（３）（各主指導・副指導教員）
第 5 回　演習（課題の設定）（４）（各主指導・副指導教員）
第 6 回　演習（課題の設定）（５）（各主指導・副指導教員）
第 7 回　演習（課題の設定）（６）（各主指導・副指導教員）
第 8 回　演習（課題の設定）（７）（各主指導・副指導教員）
第 9 回　演習（課題の設定）（８）（各主指導・副指導教員）
第 10 回　合同演習（１）（担当教員全員）
第 11 回　合同演習（２）（担当教員全員）
第 12 回　合同演習（３）（担当教員全員）
第 13 回　経過発表（１）（各主指導・副指導教員）
第 14 回　経過発表（２）（各主指導・副指導教員）
第 15 回　経過発表（３）（各主指導・副指導教員）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

各自の研究テーマに沿った発表を行っていく。

通常は、専門の近い院生・教員によって演習を行うが、年に数度、心理学研究科３専攻による合同演習で、幅広い専門性を有する教員や院生と共に発表や討論を行っていく。

すなわち、授業中に重要事項について発問し、学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

研究計画や研究経過発表について､その背景となる文献等にも十分目を通して参加すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

演習での発表および発表資料の作り方、演習での議論への参加などを総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学特殊演習Ⅳ

270834N0J
大学
心理学研究科
1単位　後期
木曜 6限
ー
30

高井　直美　伊藤　一美　向山　泰代　尾崎　仁美　松島　るみ　河瀬　雅紀　廣瀬　直哉　田中　誉樹　村松　朋子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

心理学特殊演習Ⅳは、教育・研究テーマが共通あるいは近い関係にある複数の院生と教員によって行われる研究会方式の演習である。

院生が、自らの研究の途中経過や研究成果を演習で発表し、さらには他の院生の発表に対して客観的な見方で意見を述べることなどを通して、自立した研究者になるにふさわしい研究能力や発表のしかたを身につけていくことを目標にする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

演習では、科学的心理学の基盤に立つ議論を行うよう努め、研究の信頼性・妥当性の吟味も十分行っていく。そして院生が自らの研究テーマを追求し、具体的な研究の形にしていくように、複数の教員で指導する。

院生は自身の研究テーマを追求するため、内外の研究論文を熟読して発表し、複数の教員・院生と共に、綿密な討論を行うことを通して、自らの研究を展開していく。そして、博士論文作成の準備を行っていく。すなわち、査読つき論文２編以上の投稿を目指す。また、国内外において学術的な交流が可能になるよう、十分な英語能力の習得を目指す。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

第 1 回　経過発表（１）（各主指導・副指導教員）
第 2 回　経過発表（２）（各主指導・副指導教員）
第 3 回　経過発表（３）（各主指導・副指導教員）
第 4 回　経過発表（４）（各主指導・副指導教員）
第 5 回　経過発表（５）（各主指導・副指導教員）
第 6 回　経過発表（６）（各主指導・副指導教員）
第 7 回　合同演習（１）（担当教員全員）

第 8 回　　合同演習（２）（担当教員全員）
第 9 回　　合同演習（３）（担当教員全員）
第 10 回　　合同演習（４）（担当教員全員）
第 11 回　　経過発表（７）（各主指導・副指導教員）
第 12 回　　経過発表（８）（各主指導・副指導教員）
第 13 回　　合同演習（５）（担当教員全員）
第 14 回　　合同演習（６）（担当教員全員）
第 15 回　　合同演習（７）（担当教員全員）
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
各自の研究テーマに沿った発表を行っていく。
通常は、専門の近い院生・教員によって演習を行うが、年に数度、心理学研究科３専攻による合同演習で、幅広い専門性を有する教員や院生と共に発表や討論を行っていく。
すなわち、授業中に重要事項について発問し、学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
研究計画や研究経過発表について､その背景となる文献等にも十分目を通して参加すること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
演習での発表および発表資料の作り方、演習での議論への参加などを総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

後期特別研究Ⅰ

270835N0J
大学
心理学研究科
2単位　集中
その他
ー
60
河瀬　雅紀

〔科目の教育目標（Course Description）〕
博士論文作成にかかわる研究指導を行う。さまざまな専門分野で研究している教員から指導を受けられる機会を提供し、博士論文作成に必要な幅広い知識と柔軟な思考、そして独創性を育成する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
・研究テーマと研究計画の立案
・文献による先行研究の検討
・方法論の確立
・データの分析
・論文の執筆
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
授業の進行は、個々の研究内容にしたがって計画される
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
院生の研究テーマに基づいて、主指導教員１名と副指導教員２名以上を決めて、個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、心理学特殊演習において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。すなわち、授業中に重要事項について発問し、学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
文献等の関連する先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
質疑・討議の参加状況、研究内容から総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
後期特別研究Ⅰでは、主論文（博士論文）についての研究テーマと研究計画の立案を目指し、院生には数多くの文献にあたらせて、客観的な理解を促す。すなわち、心理学研究としてどのような意義をもつ研究であるかについて、深く省察するように指導する。加えて、副論文および参考論文の作成指導も行う。授業の進行は、個々の研究内容にしたがって計画される。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

後期特別研究Ⅱ

270836N0J
大学
心理学研究科
2単位　集中
その他
ー
60
河瀬　雅紀

〔科目の教育目標（Course Description）〕
博士論文作成にかかわる研究指導を行う。さまざまな専門分野で研究している教員から指導を受けられる機会を提供し、博士論文作成に必要な幅広い知識と柔軟な思考、そして独創性を育成する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
・研究テーマと研究計画の立案
・文献による先行研究の検討
・方法論の確立
・データの分析
・論文の執筆
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
授業の進行は、個々の研究内容にしたがって計画される
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
院生の研究テーマに基づいて、主指導教員１名と副指導教員２名以上を決めて、個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、心理学特殊演習において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。すなわち、授業中に重要事項について発問し、学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
文献等の関連する先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
60
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
質疑・討議の参加状況、研究内容から総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
後期特別研究Ⅱでは、主論文（博士論文）についての研究テーマと研究計画の立案そして方法論の確立を目指し、院生には数多くの文献にあたらせて、客観的な理解を促す。すなわち、心理学研究としてどのような意義をもつ研究であるかについて、深く省察するように指導する。加えて、副論文および参考論文の作成指導も行う。授業の進行は、個々の研究内容にしたがって計画される。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

後期特別研究Ⅲ

270837N0J
大学
心理学研究科
2単位　集中
その他
ー
60
河瀬　雅紀

〔科目の教育目標（Course Description）〕
博士論文作成にかかわる研究指導を行う。さまざまな専門分野で研究している教員から指導を受けられる機会を提供し、博士論文作成に必要な幅広い知識と柔軟な思考、そして独創性を育成する。
〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕
・研究テーマと研究計画の立案
・文献による先行研究の検討
・方法論の確立
・データの分析
・論文の執筆
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕
授業の進行は、個々の研究内容にしたがって計画される
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
院生の研究テーマに基づいて、主指導教員１名と副指導教員２名以上を決めて、個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、心理学特殊演習において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。すなわち、授業中に重要事項について発問し、学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
文献等の関連する先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
　質疑・討議の参加状況、研究内容から総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
　後期特別研究Ⅲでは、主論文（博士論文）についてのデータの分析と論文の執筆を目指し、院生には数多くの文献にあたらせて、客観的な理解を促す。すなわち、心理学研究としてどのような意義をもつ研究であるかを理解し、研究目的に沿ってデータの分析を進め、論文執筆を指導する。加えて、副論文および参考論文の作成指導も行う。授業の進行は、個々の研究内容にしたがって計画される。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕